愛知県立芸術大学ＦＤ活動報告書

平成２８年度

愛 知 県 立 芸 術 大 学
芸術教育・学生支援センター

目　　次

第１章　FD 活動報告書

１－１　美術学部／美術研究科 FD 活動報告書 …… 2

日本画　／　日本画
油画　／　油画・版画
彫刻　／　彫刻
芸術学　／　芸術学
デザイン　／　デザイン
陶磁　／　陶磁

１－２　音楽学部／音楽研究科 FD 活動報告書 …… 5

作曲（作曲）　／　作曲
作曲（音楽学）　／　音楽学
声楽　／　声楽
器楽（ピアノ）　／　鍵盤楽器
器楽（弦楽器）　／　弦楽器
器楽（管打楽器）　／　管楽器、打楽器

第２章　授業評価アンケート報告

概要 …… 10
実施授業一覧 …… 11

第３章　新任教員研修 …… 336

第１章　FD 活動報告書

美 術 学 部・美 術 研 究 科

		تي	إ لح جـ ڤ لأ مه حص ڈ طص مه لح ڤ مه	خ	ه ب
		غ	ۆ إ ب إ نج فه إ ب مه		ة
		تي	تي	تي	ب تي
		غ	فه مه ث ـ مه تج ب ـ	ث مم	ى مم مه
		طص	مه ث مه غ جـ طص طص سجد	خ تج مه ئو مه إ	ث خ ۆ طص ى مم ب لآ ث لح
		غ غ ص	تج غ ڤ ـ طص غ ص	فه كا ص ى لحي تج	غ سمج ى لحي فه ى جـ لأ ص غ ص إ يخ ص تج
		تي	مه مه ڤ		
		غ			ۆ لحي سمج
			جـ	لم	طص غ سجد ث يى
		نج	لأ ئو مم نج ڈ فص	ث لأ فه	نج ڈ مم حص طص ث مم ث يى

音 楽 学 部・音 楽 研 究 科

音楽					
専攻コース		項目	概要	目的	結果
作曲	1	授業評価アンケートの実施	6月のソルフェージュの授業で行う「移動ド唱法」の項目で、受講者アンケートを実施する。	かつて日本で行われていたソルミゼーション「移動ド唱法」の意義について確認するため。	移動ド音感の学生がいることを確認した。その学生自身のコンプレックス、また移動ド唱法に対する無理解や偏見があいも変わらず残っている現状補確認し、今後是正する必要があるとの認識を新たにした。
	2	専攻会議の実施	原則隔週火曜日の13時より、1時間30分程度。 FD関連議題は随時行い、教員内の情報共有を図る。 ①授業の実施状況について各教員から報告、問題点の抽出を行う。 ②学生の受講姿勢についての確認及び情報交換、意欲の向上をはかるための検討を行う。 ③関連科目についての状況確認及び今後提供する内容について意見交換を行う。 ④学生の生活上の問題、所属クラスに関する課題について検討を行う。	学生の受講状況を把握し、意欲の向上、カリキュラム実施状況等の確認を行い、出来る限り教員全員が学生の状況を把握できるようにする。	今年度はは全20回実施した。 カリキュラム全体の流れや達成目標について検討を行った。特にソルフェージュや和声がとなど、基礎のカリキュラムは、専門領域に別れた後にも大きな影響があるため、内容について継続的に協議して行くこととした。
	3	他大学との交流	作曲コースを中心とした他大学との協定として、アメリカ、サンディエゴのUniversity California, San Diego（UCSD）との協定に基づき、交流活動を継続する。	海外の研究機関と交流することによって、最先端の研究に関する情報を得ることが出来る。	5月13日にUCSD音楽学部教授でピアニストのアレック・カリス氏によるリイサタルを、作曲コースとピアノコースとの共催により行った。プログラムには、同じくUCSD音楽学部教授で作曲家のレイ・リァン氏の作品も含まれた。アメリカで第一級の現代音楽ピアニストを招いて質の高いプログラムを学生や一般の方に提供できた。
	4	イベントの実施	「特別講座」および「作曲作品演奏会」を定例行事として行う。また機会があれば随時臨時イベントも開催する。	学生への啓発、学外や地域への貢献。	・作曲作品演奏会として、第49回作曲作品演奏会 「アンサンブル・コンテンポラリーαメンバーを迎えて」を開催した（2月12日）。 出品者： 波立裕矢（3年）：≪4月のある晴れた朝に100パーセントの女の子に出会うことについて≫～村上 春樹の同名小説による 後藤 成美（2年）：≪非時系列な分解≫ 谷川 みなみ（2年）：≪ガラクタトリオ～壊れちまったピエラッタ～≫ ・特別講座は、上記アレック・カリス氏のリサイタルを行った。 ・臨時イベントとして、・卒業生が主催するSeainx Projectとの共済により、「デュオ ミアコ・クライン&サヴァ・ストイアノフ リコーダー・トランペットレクチャー&コンサート」を開催した（9月27日）。リコーダー、トランペットソロ・デュオの作品をもとに、楽器の特徴、特殊奏法、またそれらを活かしたアンサンブルなどを紹介するレクチャー&コンサートであり、ヨーロッパの一線で活躍する優れた演奏家であるミアコ・クライン（リコーダー）サヴァ・ストイアノフ（トランペット）両氏をお招きした。
音楽学	1	授業評価アンケートの実施	「西洋音楽史概説B」と「楽書講読（英）AB」について実施した。	学生の意見を広く聞くため。	下記の独自の授業アンケートの結果とあわせて、授業の改善に役立てた。
	2	音楽学コース独自の授業アンケート実施	共通のフォーマットによる「授業評価アンケート」のほかに、個々の教員が担当する授業の性質に合わせて、独自のアンケートを行なっている。	共通フォーマットの授業評価アンケートでは捉えきれない学生の意見をすくいあげ、すぐにフィードバックするため。	「西洋音楽史概説」の授業では、毎回、授業の最後にコメントカード（出席カードを兼ねる）を配布し、授業の感想や、質問などを自由に書かせた。履修者のコメントや質問はできる限り次の授業の冒頭で紹介し、フィードバックに務めた。授業の進め方や板書の仕方に関して寄せられたコメントは授業の改善に役立てた。
	3	部会の実施	原則として、毎週水曜日（昼休みまたは放課後）に部会を行なっている。	学生や授業に関して情報交換を行ない、コース内のさまざまな問題を話し合うため。	学生の問題について教員間で情報を共有し、相談して指導方法を見直したり、授業のやり方を変えたりすることができた。
	4	音楽学総合ゼミの実施	この授業は「音楽学コロキアム」という名称の学生と教員が同じ立場で発表し、意見を交換するオープンな場をめざして開設された授業を母体として作られたもので、音楽学コースの学部生から大学院博士課程まで学生全員と教員全員が参加する授業である。内容は音楽学コースの教員による研究発表、学生による研究発表、ゲスト・スピーカーによる研究発表から成り、まさしくFDの理念に沿った授業である。	国内外の多彩なゲストスピーカーによる最新の研究発表に触れつつ、教員と学生とがお互いに切磋琢磨するため。	ゲストスピーカーとしては、フルートの村田四郎名誉教授、油画の小林英樹名誉教授、NHK名古屋放送局ディレクターの山田千佳子氏、神戸大学の寺内直子教授（雅楽研究）、西洋美術史の高梨光正准教授、愛知県立大学情報科学部の村上和人教授、デザインの森真弓准教授、アウトリーチ専門家の三木隆二郎氏、ミラノ大学からの短期留学生エレオノーラ・バーニさん、ロレーヌ大学のイヴ・フェラトン教授（音楽学）など。非常に充実した内容で、その多くは一般にも公開し、大学の地域貢献にも役立った。
	5	複数教員による論文指導	音楽学を専門とする学生にとって必修科目である卒業論文と修士論文の指導に関しては、複数の教員が担当し、集団的指導体制を組んでいる。	専門分野の異なる複数の教員の意見を聞くことにより、より柔軟で独創的な発想を持った学位論文を執筆させるため。	修士論文4本、卒業論文4本、いずれも力作が生まれた。たとえば、桑原賞を受けた新田めぐみさんの論文の内容は、柴田南雄奨励賞を受賞した。
声楽	1	授業評価アンケートの実施	期末に下記授業の受講者に授業評価に関するアンケートを実施。 前期「合唱Ⅰ A～ⅢA（男）・重唱」「特殊研究（複合領域3）」 後期「オペラ総合演習」「オペラ研究」「オペラ重唱B」「指揮法B」	受講学生の授業に対する意見や、問題点を明らかにし、望ましい形にしていくため。	オペラ総合演習： 奏楽堂の老朽化に伴う環境の悪化は、中期計画等で改善の方向を模索していただけるものと思います。通常の授業時間での不足分は、7月、9月の集中練習、10月以降の延長授業で対応している。 特別研究3（日本歌曲）： 日本人でありながら、世代的に日本古来の音楽に触れる機会が少ないだけでなく、日本歌曲の名曲の数々を演奏する機会も少ない。より多くの時間を費やして学生たちに経験、習得に尽力したいが、他の特別研究との関係、後期のオペラ授業の臨時練習時間の増加により、後期開講は厳しい状態である。
	2	創学50周年記念オペラ公演	記念公演としてプッチーニ作曲「ラ・ボエーム」取り上げ、愛知芸術劇場大ホールにおいて公演（末吉は制作責任者とメインキャストとして参加）。NHK名古屋文化センターとのコラボ企画として、G.P.の公開、レクチャーを行う。	大学オペラで20年間積み上げてきた愛芸にしかできない美術学部制作の舞台美術の集大成を全国に発信する。キャスト、オーケストラ、合唱（賛助：豊田市少年少女合唱団）を教員、卒業生、在校生で構成し愛芸の実力を世に問う。	創立50周年のメイン行事であったが、予想を上回る観客の動員数で演奏レベル、舞台美術などすべての点で大成功であった。内外からのコメントでは絶賛された。1回の公演を惜しむ声が多く聞かれた。愛芸の知名度と実力は確実に認知された。この公演後、学生の音楽への取り組み方は以前とは比べ物にならないほど積極的になり、教員に対する意識の明らかに変わった。
	3	専攻部会	月に1.2回、また必要に応じて臨時部会を開催している。	学内外の様々な行事への細かな対応とする。また学生の複雑な問題と情報を共有し学生にとっての最善の策を見出して解決する。	通常の行事、問題の解決に加え、創立50周年オペラ公演があったため専攻教員は8.9月の休み期間を返上して、オペラ稽古に張り付き、ホール入りからも楽屋周りの仕事をした（通常は人員を雇うのであるが）。
	4	実技試験	一年に1.2回行われる実技試験において、学年ごとに演奏時間を増やし、4年次後期には課題を変え、3年次からは学内公開としている。	試験というだけではなく、演奏家としての技量を習得させることも目的としている。	1年次は後期だけであるが、入学時からの成長が如実現れ、学年が上がるにつれ確実に課題時間に耐える演奏技術を身につけてくいる。特に3年次からの成長が顕著で、公開することは有効であると考えられる。
	5	複数教員による授業（学部）	3年のオペラ重唱、4年のオペラ研究の授業を演出家、指揮者、外部指導者、専任教員、非常勤に指導のもとで実施。	現場の演出家、指揮者と複数の声楽教員の指導のもと、オペラの基礎技術を段階的に身につけさせ、オペラ演奏家への道をつける。歌曲を含む表現者としての様々な技量も身につけさせる。	基礎的な演奏技術、演技法、表現者としての様々な要素を確実に身につけることができ、自己の新たな可能性をみつけだす学生が多くなり、オペラ、歌曲のみならず演劇、ミュージカル、声優の世界に目標を置く学生が現れている。大学オペラに直結する学生もいる。
	6	大学オペラ	大学院博士前期課程の学生にもよるオペラ公演を行っている。モーツァルト作曲「皇帝ティートの慈悲」を長久手市文化の家森のホールで公演。	本格的なオペラ公演を行うことで、プロの演奏家としての資質、技量を身につけさせる。	外部劇において、本格的なオペラ公演に出演することで、演奏家としての技量は格段に上がり、2年生と1年生の差が歴然とするのはその証拠と言える。また、この公演後外部からの出演オファーを受ける学生もでており、修了後にオペラ団体に所属し演奏を続ける者がそだっている。
	7	客員教授による特別講座	マルチェッラ・レアーレ氏による特別講座を開催。アメリン・オペレッタソングを取り上げた。	あまり触れることのないアメリカの作曲家作品を取り上げ、外国人客員教授によるきめ細かな、演技指導、表現法の成果を見ていただき、現代に近いアメリカンソングを知ってもらう。	馴染みの薄いアメリカンソングであったが、その軽やかさ、馴染みやすい旋律は聴衆に感動と親しみやすを与え、演奏者は新たなレパートリーを開拓した。現代の学生にはミュージカルと共通する点を見つけ出した。
	8	オープンキャンパス	声楽専攻の説明会と4年生の「オペラ研究」の授業を公開し、専任教員による受験生のワンポイントレッスンを実施している。	受験生、ご父兄に対し、声楽専攻のきめ細かなカリキラム内容の説明と具体的な指導方法、成果をつぶさに体験していただく。	学校案内パンフレットでは伝えきれない愛芸声楽専攻の魅力を直接的に伝えられていることを実感できている。主任によるオペラ合唱室でのワンポイントレッスンでは見学のみの受験生、ご父兄につぶさにその指導方法方法と成果をお見せできる。また、公開された授業を受けることを楽しみにしてくださることが実感できるアンケートの結果にも現れている。
	9	学内演奏	4年次に試験より長い時間を想定した学内演奏を実施している。	演奏家としての経験を積ませるため、試験ではなく自由な曲目設定で試験よりも長い演奏をさせる。	演奏会としてのプログラミングをかんがえるようになり聴衆を魅了する演奏法とは何かを学び取り、新たの可能性を発見している。
	10	専攻フェイスブック	平成26年度より大学案内、ホームページ以外に専攻としてのフェイスブックを開設。	学校案内、ホームページではカバー仕切れない、情報量とリアルタイムな情報を流すことにより、大学の認知度を上げ、受験生の増加につなげる。	フェイスブックの開設により、学外、受験生、一般人の方からのアクセスが直接的に増え、専攻の魅力を調節的に伝達できていることが実感され、受験生の確保が壊滅的な大学が多い中、その減少を抑えられている。

ピアノ	1	授業評価アンケート	専門実技レッスンである「ピアノ奏法の研究ⅠAB～ⅢAB」について昨年度同様の自由記述方式によるアンケートを実施した。	専門実技授業への取り組み方を学生自身がどのように捉え、どのような目標をもって臨んでいるか、何を反省し、何を目指して努力しているか、を調査し、長期的な視点から教育内容の改善に役立てる。	アンケート結果から学生各自が熱心に専門実技授業に取り組み、自分への反省・評価を行い、向上心を持って受講している様子が見て取れた。 指導方法等についての教員への要望や批判は特に見られなかった。
	2	創立50周年記念ピアノ教員によるコンサート	10月28日（金）、11月28日（月）18：00開演　室内楽ホールにて、本学創立50周年を記念したピアノコースによる企画として全専任教員と非常勤講師有志によるピアノソロ演奏会を2夜にわたり開催	教員の日頃の研究成果を発表するとともに、演奏家として自ら音楽表現を行う姿を通して、学生に対する授業での指導を補完する。	日頃学生が実習に使用している学内のホールを利用し、授業での指導とは異なる方法で音楽表現についての方法や解釈などを伝えることができ、音楽教育上大きな効果がみられた。また教員自らの研究活動を活性化することにもつながった。
	3	客員教授による特別授業	10月19日（水）18:00開催　室内楽ホールにてザラフィアンツ客員教授によるマスタークラスを開催。 ①ベートーヴェン　ソナタ op. 110　第1楽章 家田侑佳 ②ショパン　ノクターン　ハ短調　op. 48　吉田まつり ③スクリャービン　ファンタジー　酒井志野	ロシアで学び、独特の個性を持つピアニストの音楽的解釈や演奏法を実際のレッスンを見学することで学ぶ。	ザラフィアンツ教授の音楽観や演奏へのアプローチを自らの実演によって体験し学ぶことができる貴重な演奏会となった。旋律声部に求められる音の存在感をどのように作り出すか、それが表現の幅を広げる上でいかに重要であるかを再認識させられた。また、スクリャービン作曲幻想曲の解釈として同じ作曲家による交響曲での表現が参考になること、男性的な曲想に対する表現上の捉え方など、教員にとっても認識を新たにさせられる、実りの多いマスタークラスとなった。
	4	特別講座開講	11月16日（水）18:00開演　岡田博美先生リサイタル開催　室内楽ホールにてベートーヴェン作曲ソナタ、ドビュッシー作曲12の練習曲他を演奏。	専門実技授業への取り組み方を学生自身がどのように捉え、どのような目標をもって臨んでいるか、何を反省し、何を目指して努力しているか、を調査し、長期的な視点から教育内容の改善に役立てる。	長年海外で演奏活動を続けてきた日本を代表するピアニストの生演奏から音楽表現の奥義を感じ取ることができる演奏会となった。また、ドビュッシー作曲の12曲からなる練習曲集の全体を俯瞰することで、それぞれの曲のもつ個性がより詳細に感じ取られ、作品の理解を深めることのできる貴重な機会となった。
	5	コンサートへの出演	本学創立50周年記念ピアノコース教員による演奏会へ全専任教員がソリストとして出演した。宗次ホールでのチャリティーコンサートにピアノコースからは3名の教員（熊谷教授・北住教授・鈴木准教授）が出演し、他コース教員との共演を行なった。この他、各教員それぞれが主に以下のような研究活動を行った。 本学弦楽器コース主催のブラームス室内楽作品全曲演奏会にてヴィオラ・ソナタを共演、本学創立50周年記念オーケストラ演奏会にてソリストとして協奏曲を共演、その他国内外でソロリサイタル多数出演（ザラフィアンツ客員教授）。 ブラームス室内楽作品全曲演奏会でブラームスヴァイオリンソナタ第3番を共演、愛知卯県立芸術大学創立50周年記念シリーズの同窓会静岡支部コンサートにてバッハのフランス風序曲を演奏（松本教授）。 ブラームス室内楽作品全曲演奏会にてピアノトリオを弦楽器教員と共演、2台ピアノ演奏会出演、ソロリサイタル多数出演（熊谷教授）。 ピアノ・トリオ演奏会国内ツアー出演、中村文化小劇場にて本学創立50周年と中村文化小劇場開館25周年を記念したソロリサイタルに出演（北住教授）。 イタリア Ferraraにて「日伊国交150周年記念 ２４の日本のプレリュード」を企画、演奏を行う。同じくイタリア Venezia と Treviso にて初演作品を含む現代作品演奏会に出演、国内外で数々の現代作品初演を含む演奏会多数出演（内本准教授）。 NHKで放送された、名古屋大学での演奏会と名古屋フィルハーモニー管弦楽団のニューイヤーコンサートにてソリストとして出演、昭和文化小劇場完成記念ソロリサイタル他ソロ演奏会多数出演（鈴木准教授）。	研究・教育能力の向上。	音楽表現活動を継続することは各教員の研究を深めるとともに、学生への実技指導に直接還元され、教育の質の向上につながっている。今年度は中村文化小劇場開館25周年記念演奏会や昭和文化小劇場完成記念演奏会などへの出演があり、本学と地域社会との連携を推進できた。
弦楽器		弦楽器コースでは、実技及び室内楽試験、複数の教員で指導を行うアンサンブル授業、公開講座や特別授業、半期毎の授業アンケート、弦部会等、全てをFD活動としてとらえている。			
	1	授業評価アンケートの実施	前期に弦楽合奏授業についてアンケートを実施、報告書を作成した。	弦楽器コースが特に力を入れているアンサンブル教育が、学生にとって望ましい形で進められているかどうかを見る。	大多数の受講学生が「この授業は専門能力の向上に役立ったか」「総合的に評価するとよい授業だと思うか」等の問いに"強くそう思う"或いは"ややそう思う"と回答。自由記述に於いても、授業を高く評価するコメントが見られた。これからも引き続き教員間の連携を密にして、より充実した授業を目指していく。
	2	専攻会議	教員間の情報共有や授業計画・改善を目的に、前・後期合わせ約10回の部会を行った。この他にメールでも頻繁に連絡を取り合い、報告事項や授業を円滑且つ有効に進める為の意見交換等を常に行っている。	教員全員が全学生の状況を把握できるようにする。	担当以外の学生の受講状況、日常生活等の情報も出来る限り共有、クラス外の学生の相談にも適宜応じる等、弦教員が一丸となり、精神面も併せてケアをしながら全学生の指導に当たっている。
	3	実技試験 室内楽試験	実技（2年生以上公開）及び室内楽（全学年公開）の演奏試験は、弦楽器コース専任教員全員と大多数の非常勤講師が一緒に全学生の演奏を聴き、採点を行う。	演奏を聴けば、その学生が実技担当教員よりどのような指導を受けているかがある程度判り、又、他教員の採点評価と試験後の講評によって、異なる角度からの意見や指導法、解釈等を知る事にもなり、学生自身は勿論、担当教員にとっても大変役に立つ。	学生が前回の試験時と比べどれだけ成長しているかについて、入学時より学部卒業・博士課程修了時までコース内全教員で見守り、伸び悩む学生に対しては、担当外であっても指導を行っている。
	4	複数の教員で指導する授業科目	弦楽器コースでは、「弦楽合奏」及び「室内楽」を複数の教員で担当し、特に「弦楽合奏」では実際に指揮をする教員以外にも常に数名がその場に立ち会い、助言を行っている。 本年度は、管打楽器コース専任教員をソリストに迎えての協奏曲の研究も行い、その成果を定期演奏会で披露した。 「室内楽」では複数の教員が同時に指導する事はないが、1年次にはグループ毎に毎週異なる教員が入れ替わり授業を行う形を取っており、2年次以降も、試験での成績優秀グループが出演する『室内楽のタベ』演奏会前には、複数の教員がレッスンを行っている。更に、大学院「室内楽2」では、学生が全領域の中から教員を指名、指導を受けられるカリキュラムになっている。	複数の教員で授業を行う科目では、教員同士が互いの指導方法等を知る事も出来、自身の授業改善の参考になっている。	弦楽器コースではアンサンブル教育に非常に力を入れているが、学生のアンサンブル能力向上は、通年で学生を指導していく中で、毎年目を見張るものがあり、左記の指導方法が大変効果的である事が確認できた。
	5	公開講座 特別授業	・5月／今井信子、A. タメスティの両氏による公開レッスン（室内楽ホール） ・7月／F. アゴスティーニ客員教授による公開授業（演奏会／弦楽器・ピアノコース専任教員共演、室内楽ホール） ・7月／F. アゴスティーニ客員教授によるレッスン（室内楽ホール） ・8月／小林道夫客員教授によるバロック作品の特別授業 ・10月／W. シュトイデ氏による公開講座（演奏会・室内楽ホール） ・12月／ブラジャーク弦楽四重奏団による公開レッスン（室内楽ホール）	通常、指導を受けている教員以外の演奏家によるレッスン等を受講・聴講することで、別の視点から多くの事を学ぶことが出来る。	左記の他にも、ルドヴィート・カンタ非常勤講師によるチェロ公開レッスン等、今年度も多くの公開講座や特別授業を行った。その指導法や演奏を聴講し、質疑応答等により彼らの音楽に対する姿勢を知る事は、学生のみならず教員にとっても大変勉強になった。これらの講座・授業は全て録画記録している。
	6	愛・知・芸術のもり弦楽五重奏団 その他	2008年に弦専任教員5人で「愛・知・芸術のもり弦楽五重奏団」を結成以来、積極的に活動を行っている。客員教授F. アゴスティーニ氏との演奏会、ブラームス室内楽全曲演奏プロジェクト（宗次ホールでのチャリティ演奏会及び第2～4回本公演）等、大変積極的に活動を行い、いずれも大変好評であった。 その他、弦楽器コースでは教員と学生が共演する機会も度々設けている。	学生に、教員の音楽に取り組む姿勢を示す。綿密なリハーサルを行い、本番で演奏する姿を身近で見せる事によって、普段のレッスンだけでは伝えきれない音楽に対するプロ意識等を学生に示すことが出来る。更に、学生との共演も大変有効な指導手段の一つと考えており、来年度以降も積極的に続けていく予定である。	これらの演奏活動により、互いに非常に良い刺激を受け、教員自身が精進する事は、授業に於いての指導力向上にも繋がっている。

管打楽器	1	授業評価アンケートの実施	7月室内楽授業前にアンケートを実施。 その後、学生達だけで話し合う時間も設け、授業全体を通した意見を伺った。	学生が授業に対して、どう感じているのかを知り、情報交換を行ない、コース内のさまざまな問題を解決していくため。	アンケートからの意見を加味し、教員が学生目線になる事が大切である事を把握した。 その結果、授業方針を考えるきっかけとなり、授業遂行に対し大きな原動力となった。
	2	専攻会議	大学に於ける授業、各種委員会報告を含め、授業を円滑且つ有効に進める為の意見交換等を常に行っている。 この他にメールでも頻繁に連絡を取り合い、報告事項や学生に対する、問題対処及び解決に努めている。	試験、演奏会他、大学行事のあらゆる決定事項を速やかに議論することで、大学運営をより流動的の行っていく為。そして教員全員が全学生の状況を把握できるようにする。	担当以外の学生の受講状況、日常生活等の情報も出来る限り共有、クラス外の学生の相談にも適宜応じる等、弦教員が一丸となり、精神面も併せてケアをしながら全学生の指導に当たっている。
	3	実技試験 室内楽試験	管打楽器コースでは、実技試験を前期・後期と年間2回を実施（1年生は後期のみ）。専任教員及び非常勤講師と共に、全学生の演奏を聴き、採点を行っている。	1学年次は、基礎の徹底を図り、その成果を後期試験で発揮させる。多種楽器で構成されている管打コースの試験では、講師陣の人数も多いため、試験評価を多角的に受けられる。そもため学生だけでなく、教員同士の指導の方向性を話し合う事が出来る。	個々の学生が、審査員の評価と自己評価を確認し、次に繋げるステップへと目標立てが出来ている。 将来の仕事を見据えて、日々努力するきっかけになっていると改めて感じ得る事が出来た。
	4	合奏系授業	合奏系授業として管打楽器コースでは、楽器専門知識を学ぶ「管打楽合奏」、ウィンドアーケストラである「管楽合奏」、アンサンブルを学ぶ「室内楽」 弦楽器コースと合同で行う「オーケストラ」を行っている。	室内楽では、個々の役割を認識し、異なる楽器編成でのハーモニー感や、バランス感を養う。木管、金管、打楽器と大きく3つに分かれ、楽器の種類をまたいだ複合アンサンブルも実践し、音楽表現を深めていく。 管楽合奏では、吹奏楽やウィンドオーケストラの為のオリジナル作品から、管弦楽曲の編曲作品を取り上げ、オーケストレイションについて考察し演奏する。 おーけすとらにおいては、弦楽器との音楽表現、音色感、指揮者からの要求に対応出来る能力を養う。	徐々に編成が拡大していく室内楽、管楽合奏、オーケストラの授業経験によって、音楽に対する深い研究と、個々の技術向上への意識が高くなった。 更にコミュニケーション能力も身に付き、将来への目標に大きな手応えとなって成果が表れている。
	5	公開講座 特別授業	7月/外国人客員教授フォルスト教授によるよるファゴットリサイタルを開催 （本大学内　　奏楽堂） 10月/外国人客員教授コミシュケ教授によるトランペット協奏曲を本学定期演奏会にて本学ウィンドアンサンブルと共演。 12月/フルート奏者サラルヴィオン氏による「公開講座」を開催 （ドルチェ・アートホール名古屋） 3月/スローカートロンボーン4重奏団による「芸術講座」を開催 （ドルチェ・アートホール名古屋）	通常、指導を受けている教員以外の演奏家によるレッスン等を受講・聴講することで、別の視点から多くの事を学ぶことが出来る。	外国人客員教授以外にも、多くのオーケストラプレーヤーや、ピアノ（コレピティトゥーア）の方々による、レッスンも行われた。　今年度も客員教授として10月からお迎えし、実技系授業及びレッスンをして頂き、定期演奏会では演奏、作曲、編曲、指揮とマルチな才能を披露して頂く事になっている。

第２章　授業評価アンケート報告

平成２８年度 授業評価アンケート

１． はじめに

本学では、大学の教育・研究の充実を図るとともに、教員の授業内容、教育方法の組織的な改善を行い、教育の質的向上を図るため、全ての学部及び研究科において、ファカルティ・ディプロップメント（ＦＤ）を実施しています。その一環として、両学部の授業について、受講した学生の声を聞き、今後の授業づくりの参考とするため、「授業評価アンケート」（以下「アンケート」）を導入しました。今回のアンケート実施で平成１９年度から１０年目を向かえました。

平成２１年度から、ＦＤ専門委員会においてアンケートの設問内容を一新し、「講義系授業」と本学の特長である「実習系授業」の２種類のアンケートで実施しています。この２種類のアンケート以外にも教員が独自にアンケートを作成・実施し、学生の声を授業づくりの参考としています。

２．アンケートの実施

前期と後期の年２回実施をしました。

前期は、平成２８年７月８日（月）から７月２６日（金）の３週間。後期は、平成２９年１月１０日（火）から１月２７日（金）の３週間。この期間で担当教員の任意の日で実施しています。また、アンケート実施の留意点として、アンケートは匿名で行っており、教員は学生にアンケート用紙を配付した後、教室から出ます。学生がアンケートを回収し、大学事務局に提出することで、学生が自由に回答できるように配慮しています。

実施対象の授業は、平成２７年度と同様に、ＦＤ委員の協力のもと各専攻・コースで実施授業を選択しました（集中講義を除く）。これは、各専攻でアンケートを必要とする授業にしぼることを目的とするだけではなく、アンケート実施が困難な授業を事前に把握することが可能となりました。実施が困難な授業とは、個人指導の形態をとっている授業やクラス分けにより少人数で行っている授業などがあります。

このように実施方法は、ＦＤ専門委員会において毎回協議しています。さらに、学内の関係各位への周知活動を継続しています。

３．アンケートの報告

アンケートは実施後、学生が大学事務局に提出し、事務局において集計を行いました。集計は担当教員に配付し、本学専任教員は集計結果をもとに、アンケートの報告書を作成しています。

報告書では、教員自身による授業の振返りとアンケート結果についてのコメント、授業の改善点などを記述しています。

４．本書掲載にあたって

アンケート集計結果は、本学専任教員（専攻）の担当授業を掲載しています。

また、アンケートには、自由記述の設問が３つありますが、本書掲載にあたって、施設設備などに対する要望以外の自由記述の集計結果は、割愛しています。

アンケート自由記述（講義、実習共通設問）

「この授業で特によかった点があれば書いてください。」

「この授業で要望など改善してほしい点があれば書いてください。」

「授業に関して施設設備などに対する要望があれば書いてください。」

平成28年度　授業評価アンケート実施授業一覧

教養教育科目（アンケート前期実施）美術学部・音楽学部

授業科目	様式	担当	備考
哲学A	講義	中　敬夫	
日本文化史A	講義	二瓶　浩明	
外国文学A	講義	茨木　博史	
言語学A／異文化コミュニケーションA	講義	井上　彩	
日本史A	講義	勝亦　貴之	
日本国憲法	講義	築山　欣央	（美術）
心理学A	講義	三宮　敦生	
基礎物理学A	講義	馬宮　孝好	
社会学A	講義	中根　多恵	
数学A	講義	加納　成男	
自然科学史A	講義	吉山　青翔	
自由研究ゼミナールⅠ	講義	水野　留規	
西洋の古典文芸	講義	水野　留規	
日本文学	講義	二瓶　浩明	
日本演劇論	講義	二瓶　浩明	
西洋演劇論	講義	大塚　直	
基礎生物学A	講義	清道　正嗣	
身体運動演習ⅠA	実技	幸田　律	
身体運動演習ⅠA	実技	鶴原　香代子	
身体運動演習ⅠA	実技	山本　祐実	
身体運動演習ⅠA	実技	小野　昌子	
基本体育A	実技	石垣　享	
基本体育A	実技	石垣　享	
基本体育A	実技	石垣　享	
英語初級ⅠA	講義	ナイレー・アン・キーナン	
英語初級ⅠA	講義	ナイレー・アン・キーナン	
英語初級ⅠA	講義	松永　隆	
英語初級ⅡA	講義	トーマス・オーエン・コックス	
英語初級ⅡA	講義	井上　彩	
英語中級ⅠA	講義	井上　彩	
英語中級ⅠA	講義	井上　彩	
英語中級ⅡA	講義	トーマス・オーエン・コックス	
英語中級ⅡA	講義	トーマス・オーエン・コックス	
英語上級ⅠA	講義	松永　隆	
英語上級ⅡA	講義	井上　彩	
ドイツ語初級ⅠA	講義	大塚　直	
ドイツ語初級ⅠA	講義	白川　茜	
ドイツ語初級ⅡA	講義	大塚　直	
ドイツ語初級ⅡA	講義	山本　弘之	
ドイツ語中級ⅠA	講義	大塚　直	
ドイツ語中級ⅡA	講義	ジャクリーン・ポルスト	
ドイツ語上級ⅠA	講義	大塚　直	
ドイツ語上級ⅡA	講義	ジャクリーン・ポルスト	
フランス語初級ⅠA	講義	水野（角田）　延之	
フランス語初級ⅠA	講義	水野（角田）　延之	
フランス語初級ⅡA	講義	フロリアン・エルゴット	
フランス語初級ⅡA	講義	フロリアン・エルゴット	
フランス語中級ⅠA	講義	フロラン・ペリエ	
フランス語中級ⅡA	講義	水野（角田）　延之	
イタリア語初級ⅠA	講義	水野　留規	
イタリア語初級ⅠA	講義	ロムアルド・バローネ	
イタリア語初級ⅡA	講義	パペッテ・マシィミリアーノ	
イタリア語初級ⅡA	講義	パペッテ・マシィミリアーノ	
イタリア語中級ⅠA	講義	水野　留規	
イタリア語中級ⅡA	講義	パペッテ・マシィミリアーノ	

教養教育科目（アンケート後期実施）美術学部・音楽学部

授業科目	様式	担当	備考
哲学B	講義	中　敬夫	
日本文化史B	講義	二瓶　浩明	
外国文学B	講義	茨木　博史	
言語学B／異文化コミュニケーションB	講義	井上　彩	
日本史B	講義	勝亦　貴之	
日本国憲法	講義	築山　欣央	（音楽）
心理学B	講義	三宮　敦生	
基礎物理学B	講義	馬宮　孝好	
社会学B	講義	中根　多惠	
数学B	講義	加納　成男	
自然科学史B	講義	吉山　青翔	
自由研究ゼミナールⅡ	講義	水野　留規	
外国文化史	講義	水野　留規	
日本の古典文芸	講義	二瓶　浩明	
日本の近現代演劇	講義	二瓶　浩明	
芸術と諸科学	講義	大塚　直	（隔週）
基礎生物学B	講義	清道　正嗣	
自由研究ゼミナールⅡ	講義	石垣　享	
身体運動演習ⅠA～ⅡB	実技	幸田　律	
身体運動演習ⅠA～ⅡB	実技	鶴原　香代子	
身体運動演習ⅠA～ⅡB	実技	小野　昌子	
基本体育B	実技	石垣　享	
基本体育B	実技	石垣　享	
基本体育B	実技	石垣　享	
コンピューター基礎Ⅱa	講義	中島　啓之	
コンピューター基礎Ⅱa	講義	清道　正嗣	
コンピューター基礎Ⅱb	講義	中島　啓之	
コンピューター基礎Ⅱb	講義	中島　啓之	
コンピューター基礎Ⅰ	講義	渡邊	
コンピューター基礎Ⅰ	講義	渡邊	
コンピューター基礎Ⅱc	講義	清道　正嗣	
英語初級ⅠB	講義	ナイレー・アン・キーナン	
英語初級ⅠB	講義	ナイレー・アン・キーナン	
英語初級ⅠB	講義	松永　隆	
英語初級ⅡB	講義	トーマス・オーエン・コックス	
英語初級ⅡB	講義	井上　彩	
英語中級ⅠB	講義	井上　彩	
英語中級ⅠB	講義	井上　彩	
英語中級ⅡB	講義	トーマス・オーエン・コックス	
英語中級ⅡB	講義	トーマス・オーエン・コックス	
英語上級ⅠB	講義	松永　隆	
英語上級ⅡB	講義	井上　彩	
ドイツ語初級ⅠB	講義	大塚　直	
ドイツ語初級ⅠB	講義	村元　麻衣	
ドイツ語初級ⅡB	講義	大塚　直	
ドイツ語初級ⅡB	講義	山本　弘之	
ドイツ語中級ⅠB	講義	大塚　直	
ドイツ語中級ⅡB	講義	ジャクリーン・ポルスト	
ドイツ語上級ⅠB	講義	大塚　直	
フランス語初級ⅠB	講義	水野（角田）　延之	
フランス語初級ⅠB	講義	水野（角田）　延之	
フランス語初級ⅡB	講義	フロリアン・エルゴット	
フランス語初級ⅡB	講義	フロリアン・エルゴット	
フランス語中級ⅠB	講義	フロラン・ペリエ	
フランス語中級ⅡB	講義	水野（角田）　延之	
イタリア語初級ⅠB	講義	水野　留規	

イタリア語初級ⅠB	講義	ロムアルド・バローネ	
イタリア語初級ⅡB	講義	パペッテ・マシィミリアーノ	
イタリア語初級ⅡB	講義	パペッテ・マシィミリアーノ	
イタリア語中級ⅡB	講義	パペッテ・マシィミリアーノ	

基礎教育科目（アンケート前期実施）美術学部・音楽学部

授業科目	様式	担当	備考
西洋美術史特講Ⅱ	講義	高梨　光正	
日本美術史特講Ⅰ	講義	本田　光子	
日本美術史概説A	講義	本田　光子	
現代アート概説A	講義	小西　信之	

基礎教育科目（アンケート後期実施）美術学部・音楽学部

授業科目	様式	担当	備考
日本美術史概説B	講義	本田　光子	
現代アート概説B	講義	小西　信之	
西洋美術史概説B	講義	高梨　光正	

美術学部専門教育科目（アンケート前期実施）

授業科目	様式	担当	備考
油画専攻			
油画実技Ⅰ	実技	油画専攻教員	
油画実技Ⅱ	実技	油画専攻教員	
油画実技Ⅲ	実技	油画専攻教員	
油画実技Ⅳ	実技	油画専攻教員	
彫刻専攻			
彫刻実技Ⅰ	実習	彫刻専攻教員（村尾）	
彫刻実技Ⅱ	実習	彫刻専攻教員（森北）	
彫刻実技Ⅲ	実習	彫刻専攻教員（森北）	
芸術学専攻			
美学特講Ⅰ	講義	中　敬夫	
芸術学基礎実技ⅠA	実技	小西　信之	
芸術学基礎実技ⅡA	実技	小西　信之	
デザイン専攻			
デザイン・工芸論A	講義	デザイン専攻教員	
デザイン特講A	講義	デザイン専攻教員	

美術学部専門教育科目（アンケート後期実施）

授業科目	様式	担当	備考
日本画専攻			
日本画実技Ⅰ	実技	日本画専攻教員	
日本画実技Ⅱ	実技	日本画専攻教員	
油画専攻			
油画実技Ⅰ	実技	油画専攻教員	
油画実技Ⅱ	実技	油画専攻教員	
油画実技Ⅲ	実技	油画専攻教員	
油画実技Ⅳ（卒業制作を含む。）	実技	油画専攻教員	
彫刻専攻			
彫刻実技Ⅰ	実技	彫刻専攻教員	
彫刻実技Ⅱ	実技	彫刻専攻教員	
彫刻実技Ⅲ	実技	彫刻専攻教員	
芸術学専攻			
芸術学基礎実技ⅠB	実技	小西　信之	
芸術学基礎実技ⅡB	実技	小西　信之	
芸術学総合研究Ⅰ	実技	中　敬夫	
芸術学総合研究Ⅱ	実技	中　敬夫	

芸術学総合研究Ⅲ	実技	中　敬夫	
美学特講Ⅱ	実技	秋庭　史典	
現代アート論特講Ⅱ	実技	小西　信之	
デザイン専攻			
デザイン実技Ⅰ	実技	デザイン専攻教員	
デザイン実技Ⅱ	実技	デザイン専攻教員	
デザイン実技Ⅲ	実技	デザイン専攻教員	
デザイン特講B	講義	今尾　泰三	
デザイン文化史特講	講義	関口　敦仁	
デザイン特殊ゼミB	講義	本田　敬	（立体空間）
Webデザイン基礎	講義	森　真弓	（隔週）
陶磁専攻			
陶磁実技Ⅰ	実技	陶磁専攻教員	
陶磁実技Ⅱ	実技	陶磁専攻教員	

音楽学部専門教育科目（アンケート前期実施）

授業科目	様式	担当	備考
作曲専攻音楽学コース			
楽書講読（英）ⅠA～ⅡA	講義	安原　雅之	
西洋音楽史概説A	講義	深堀　彩香	
声楽専攻			
合唱ⅠA～ⅢA（男）・重唱	実技	矢澤　定明・石山　英明	
器楽専攻ピアノコース			
ピアノ合奏A	実技	内本　久美、鈴木　謙一郎	
伴奏法・歌曲A	実技	松川　儒	
伴奏法・器楽曲A	実技	中尾　純	
室内楽（ピアノ）ⅠA	実技	内本　久美・掛谷　勇三	
室内楽（ピアノ）ⅡA	実技	北住　淳	
ピアノ指導法A	実技	掛谷　勇三	
楽器研究（鍵盤楽器）ⅠA～ⅡA	実技	熊谷　恵美子、吉田　恵、安井　直子	
器楽専攻弦楽器コース			
弦楽合奏ⅠA ～ⅢA	実技	白石　禮子	

音楽学部専門教育科目（アンケート後期実施）

授業科目	様式	担当	備考
作曲専攻作曲コース			
楽曲研究B	講義	鈴木　宏司	
作曲専攻音楽学コース			
西洋音楽史概説B	講義	森本　頼子	
楽書講読（英）ⅠB～ⅡB	講義	森本　頼子	
声楽専攻			
オペラ重唱B	講義	初鹿野　剛	
オペラ研究B	実技	森川　栄子	
合唱ⅠB～ⅢB	講義	長谷　順二	
オペラ総合演習2	実習	末吉　利行	
指揮法B	講義	藤本　淳也	
器楽専攻ピアノコース			
ピアノ合奏B	講義	内本　久美	
伴奏法・器楽曲B	講義	中尾　純	
伴奏法・歌曲B	講義	松川　儒	
室内楽（ピアノ）ⅠB	講義	内本　久美	
ピアノ指導法B	講義	北住　淳	
楽器研究（鍵盤楽器）ⅠB・ⅡB	実技	熊谷　恵美子	
器楽専攻弦楽器コース			
弦楽合奏ⅠB～ⅣB	講義	福本　泰之	

音楽研究科（博士前期課程）授業科目（アンケート前期実施）

授業科目	様式	担当	備考
重唱	実技	矢澤　定明・石山　英明	

特殊研究（声楽領域3）	実技	末吉　利行	
特殊研究（複合領域1）	実技	中巻　寛子	

音楽研究科（博士前期課程）授業科目（アンケート後期実施）

授業科目	様式	担当	備考
特殊研究（複合領域3）	実技	森川　栄子	

教職に関する科目（アンケート前期実施）

授業科目	様式	担当	備考
美術科教育法B	講義	礒部　洋司	
音楽科教育法B	講義	柴田　篤志	
道徳教育指導論	講義	松野　修	（美術）
生徒・進路指導論	講義	内藤　春彦	（美術）
教育原理	講義	松野　修	（美術）
教育原理	講義	松野　修	（音楽）

教職に関する科目（アンケート後期実施）

授業科目	様式	担当	備考
教職入門	講義	不破　民由	（音楽）
教職入門	講義	不破　民由	（美術+ピアノ）
道徳教育指導論	講義	松野　修	（音楽）
生徒・進路指導論	講義	内藤　春彦	（音楽）
教育心理学	講義	三宮　敦生	（美術）
教育心理学	講義	三宮　敦生	（音楽）
美術科教育法A	講義	藤江　充	
工芸科教育法	講義	礒部　洋司	
音楽科教育法A	講義	柴田　篤志	

博物館に関する科目（アンケート前期実施）

授業科目	様式	担当	備考
博物館概論	講義	木本　文平	
博物館展示論	講義	北谷　正雄	（隔週）
博物館教育論	講義	藤江　充	
考古学	講義	長田　友也	

科目　　日本文化史A　　授業コード　31102

担当　　二瓶　浩明　　教室　　講義棟第６講義室

回答した学生　　24 名

受講登録者　　61 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	3
4	９０％くらい	9
3	８０％くらい	7
2	７０％くらい	4
1	６０％以下	1
	無回答	0
小計		24

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	5	8
4	ややそう思う	6	11
3	どちらともいえない	9	3
2	あまりそう思わない	4	1
1	まったくそう思わない	0	1
	無回答	0	0
小計		24	24

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	5
4	ややそう思う	7
3	どちらともいえない	5
2	あまりそう思わない	3
1	まったくそう思わない	4
	無回答	0
小計		24

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	18
4	延長することが多い	0
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	5
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		24

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	17	19	16	17	8	11	15
4	ややそう思う	5	2	3	4	4	10	7
3	どちらともいえない	2	2	5	3	9	3	2
2	あまりそう思わない	0	1	0	0	3	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		24	24	24	24	24	24	24

授業科目	日本文化史Ａ			担当者	二瓶 浩明		
開講時期	前期	曜日	金	時限	4	アンケート様式	□講義 □実習

１この授業における教育方法の特徴

本年度の授業テーマは「青春と挫折」。

悩み多く、将来を見通すことの困難な若い学生たちに、さまざまな生のあり方と多大な苦悩のうちに青春期を送った若者たちの手記等を提示し、激励することを試みた。さて、彼らはどんな考えをいだいたのであろうか、結構、興味があったのだが、案外に平凡な感想が多くて、ちょっと肩すかしを食わされた感がある。

教材は、高野悦子「二十歳の原点」、一之瀬泰三「地雷を踏んだらサヨウナラ」、永山則夫「無知の涙」、宮崎勤「夢のなか」、山田かまち「１６歳のノート」など。

２アンケート結果の所見

（1）受講した学生自身について

問３「この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味･関心が高まりましたか」については、回答者２４名中、「強くそう思う」が８名、「ややそう思う」が１１名、「どちらともいえない」が３名いて、こういう生な形の生を見るのは、今の時代の学生たちには少々苦手なのかもしれないと反省。

（2）授業について

問８「教員の説明はわかりやすかったですか」に対し、２４名中「強くそう思う」１６名、「ややそう思う」３名、「どちらともいえない」が５名いた。ここに学生たちの教材に対する違和感とか、当惑を見ることができようか。問９「教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか」については、２４名中、「強くそう思う」１７名、「ややそう思う」４名、「どちらともいえない」３名という結果であり、問１２「授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか」については、２４名中、「強くそう思う」１５名、「ややそう思う」が７名、「どちらともいえない」が２名であった。

それにしても、この日は、受講登録者６１名中、２４名しか出席していず、アンケートを実施する時期について、検討することも必要なのかもしれないと感ずる。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

これについては、例年とはまったく違って、１件の意見すらないのには驚き、かつ呆れたのだが、あるいは記述する時間が少なかったのかもしれない、と反省している次第だ。

（4）自由記述より学生からの要望について

意見はなかった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

今後とも努力工夫するつもり。

４その他、意見

なし。

科目　　外国文学A　　授業コード　31103

担当　　茨木　博史　　教室　　講義棟第６講義室

回答した学生　　29 名

受講登録者　　56 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	7
4	９０％くらい	6
3	８０％くらい	14
2	７０％くらい	2
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		29

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	11	17
4	ややそう思う	9	6
3	どちらともいえない	7	4
2	あまりそう思わない	2	1
1	まったくそう思わない	0	1
	無回答	0	0
小計		29	29

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	10
4	ややそう思う	11
3	どちらともいえない	6
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	2
	無回答	0
小計		29

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	20
4	延長することが多い	3
3	開始が遅いことが多い	1
2	早く終わることが多い	4
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		29

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	18	16	17	15	9	9	14
4	ややそう思う	8	9	7	9	10	7	10
3	どちらともいえない	2	4	5	4	7	8	5
2	あまりそう思わない	0	0	0	1	2	4	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	1	1	0
	無回答	1	0	0	0	0	0	0
小計		29	29	29	29	29	29	29

科目　　言語学A／異文化コミュニケーショ授業コード　31104

担当　　井上　彩　　教室　　図書館視覚室

回答した学生　　19 名

受講登録者　　30 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	4
4	９０％くらい	10
3	８０％くらい	5
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		19

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	12	13
4	ややそう思う	6	3
3	どちらともいえない	1	3
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		19	19

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	12
4	ややそう思う	3
3	どちらともいえない	1
2	あまりそう思わない	2
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		19

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	18
4	延長することが多い	0
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		19

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	18	16	17	19	17	9	16
4	ややそう思う	1	2	2	0	2	5	2
3	どちらともいえない	0	1	0	0	0	4	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	1	1
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		19	19	19	19	19	19	19

授業科目	言語学・異文化コミュニケーション A			担当者		井上　彩	
開講時期	前期	曜日	月	時限	5	アンケート様式	☒講義　☐実習

１この授業における教育方法の特徴

この授業の目的は講義だけでなく履修者によるディスカッション、グループワーク、発表といったアクティブ・ラーニングによる学習法を通じてグローバル化された現代社会に必要な「異文化コミュニケーション」の実践的な知識を学び、文化的背景の異なる人々に関する認識を深めることである。授業内容についての教員による講義の後でほぼ毎回履修者はグループごとのディスカッションを行い、話し合いの内容を代表者がクラス全体に報告する。または、ワークシートに基づいてトピックの理解を深めることにより実践的な知識を学ぶこともある。学期の最後には学生それぞれがレポートのトピックとして選んだ異文化コミュニケーションに関する現象とそれについてどのようにリサーチを行うかということについて一人ずつ発表を行った。学生による積極的な参加を前提とするアクティブ･ラーニングの手法を用いていることがこの授業の最大の特徴である。

２アンケート結果の所見

（1）受講した学生自身について

出席状況は 90%以上が 74%、80%以上を含めると 100%と良好であった。授業への意欲に関して、95%がこの授業に意欲的に取り組んだと回答している。また、84%が授業内容への興味・関心が高まったと答えている。意欲的な学生が多かったことがわかる。

（2）授業について

問 8「教員の説明の仕方はわかりやすかったですか」に対して、100%の学生がそう思うと答えている。また、問 9「教員はよく準備し、熱心に教えているか」に対しても 100%の学生が「強くそう思う」と答えている。また、95%の学生は「総合的によい授業だった」と答えている（問 12)。問 10「教員とコミュニケーションはとれていましたか」に関して、「そう思う」と答えた学生は 100%であった。全体的に授業についての学生による評価は非常に高かった。登録した履修者数は 30 名であったため、アクティブ・ラーニングを実践する授業の規模としては理想的な環境であったと言える。もし学生数が 50 名を超えると、ディスカッションの報告や学生一人一人による発表を行うことが時間的に難しくなるため、次年度からは念のために 50 名程度に履修者数の制限をすることを考えたい。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

「話を聞くだけのほかの授業と違い、生徒が積極的に参加する授業形態でとてもたのしかった」という記述が 4 名からあった。また同様にアクティブ・ラーニングに関する記述として「知らない人と議論を交わすことは社交性の向上に役立ったと思う」という記述が 2 名から寄せられた。その他によかったと判断している点は、「交流時間が長い」「知れることがほかの授業と全く異なるので面白かった」「グループワークがよかった」などである。

（4）自由記述より学生からの要望について

教室が狭いという記述が 4 名からあったが、これは今年度前期は耐震工事の影響で通常使っている講義棟の第 4 教室を使うことができず、図書館視覚室を使ったことが理由であると考えられるので次年度以降は解決される問題である。レポートの文字数が多いという記述が 2 名よりあった。これに関しては他の先生方にも課している文字数についてお聞きして次年度以降は文字数を減らすことも考慮していくつもりである。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

好評であったアクティブ・ラーニングの教育手法は維持しつつも、講義内容や配布資料も一層充実させて、学生が授業から得られる知識面の情報量にも十分なものであるように配慮したい。また、将来海外で研究・生活をする学生に役立つような実践的な事例や知識をさらに盛り込んでいくように心がけたい。

４その他、意見

特になし。

科目　　日本史A　　授業コード　31105

担当　　勝亦　貴之　　教室　　講義棟第６講義室

回答した学生　　35 名

受講登録者　　63 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	10
4	９０％くらい	10
3	８０％くらい	11
2	７０％くらい	4
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		35

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	10	13
4	ややそう思う	13	10
3	どちらともいえない	10	11
2	あまりそう思わない	2	1
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		35	35

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	15
4	ややそう思う	10
3	どちらともいえない	9
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		35

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	25
4	延長することが多い	8
3	開始が遅いことが多い	1
2	早く終わることが多い	1
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		35

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	15	15	15	21	11	16	16
4	ややそう思う	11	13	11	11	6	10	11
3	どちらともいえない	7	6	6	3	15	8	7
2	あまりそう思わない	1	1	2	0	3	1	0
1	まったくそう思わない	1	0	1	0	0	0	1
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		35	35	35	35	35	35	35

科目　　日本国憲法
（美術）

授業コード　31106

担当　　築山　欣央

教室　　新講義棟大講義室

回答した学生　　39 名

受講登録者　　51 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	14
4	９０％くらい	19
3	８０％くらい	5
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		39

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	7	8
4	ややそう思う	19	15
3	どちらともいえない	10	15
2	あまりそう思わない	2	0
1	まったくそう思わない	1	1
	無回答	0	0
小計		39	39

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	11
4	ややそう思う	17
3	どちらともいえない	10
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		39

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	29
4	延長することが多い	8
3	開始が遅いことが多い	1
2	早く終わることが多い	1
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		39

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	14	15	10	19	7	19	10
4	ややそう思う	17	16	16	14	13	11	18
3	どちらともいえない	6	7	10	5	14	8	10
2	あまりそう思わない	2	1	3	1	3	1	1
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	2	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		39	39	39	39	39	39	39

科目　　心理学A　　授業コード　31107

担当　　三宮　敦生　　教室　　講義棟第６講義室

回答した学生　　86 名

受講登録者　　116 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	20
4	９０％くらい	35
3	８０％くらい	22
2	７０％くらい	9
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		86

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	32	52
4	ややそう思う	33	19
3	どちらともいえない	19	14
2	あまりそう思わない	2	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	1
小計		86	86

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	25
4	ややそう思う	27
3	どちらともいえない	29
2	あまりそう思わない	2
1	まったくそう思わない	3
	無回答	0
小計		86

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	72
4	延長することが多い	6
3	開始が遅いことが多い	8
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		86

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	68	57	65	64	43	44	60
4	ややそう思う	12	21	15	16	22	20	19
3	どちらともいえない	6	8	6	6	20	18	7
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	1	2	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	2	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		86	86	86	86	86	86	86

授業科目	心理学 A				担当者	三宮敦生	
開講時期	前期	曜日	水	時限	5	アンケート様式	☒講義 ☐実習

１この授業における教育方法の特徴

本授業の目標は、メンタルヘルスをめぐる諸問題について理解し、その知見を日常生活に活かすことができることである。到達目標は以下の 5 点である。1)ビッグファイブ理論を利用して、性格とメンタルヘルスの関連を理解する。2)ストレスの概要について、心理学的観点から理解する。3)精神病理の概要を述べることができる。4)認知行動療法について述べることができる。5)いくつかの簡単な心理テストを通して、自分への理解が深まる。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について（回答者８６名）

・出席率 80%以上の受講者が 90%であった。全体的に出席率は良好であったと思われる。
・「あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか」に対して、「強くそう思う」が 37%、「ややそう思う」が 38%であった。両者を加えると 75%ということで、まずまず意欲的な受講態度であったと思われる。
・「この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか」に対して、「強くそう思う」が 60%、「ややそう思う」が 22%であった。この授業は受講者の興味・関心を高めるのに成功したと言えると思われる。

（２）授業について

・「シラバスは授業の選択に役立ちましたか」に対して、「強くそう思う」が 29%、「ややそう思う」が 31%、「どちらともいえない」が 34%であった。約三分の二弱の受講者にシラバスは役立っていたようである。
・「授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか」に対して、「ほぼ時間どおり」が 84%であった。
・「教員の話し方、話すスピードは適切でしたか」に対して、「強くそう思う」が 79%、「ややそう思う」が 14%であった。話し方やスピードは十分適切だったと思われる。
・「板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか」に対して、「強くそう思う」が 66%、「ややそう思う」が 24%であった。100 弱の大人数の授業の割には板書への不満は少なかった。
・「教員の説明の仕方は分かりやすかったですか」に対して、「強くそう思う」が 76%、「ややそう思う」が 17%であった。受講者はこの授業をよく理解していたといえる結果である。
・「教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか」に対して、「強くそう思う」が 74%、「ややそう思う」が 19%であった。教員の熱意が受講者に十分伝わっていたといえる結果である。
・「教員とコミュニケーションはとれていましたか」に対して、「強くそう思う」が 50%、「ややそう思う」が 26%、「どちらともいえない」が 23%であった。大人数の講義にしては、比較的健闘している結果だと思われる。
・「教室・設備については適切でしたか」に対して、「強くそう思う」が 51%、「ややそう思う」が 23%であった。耐震改修の影響は最小限であったと思われる結果である。
・「授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか」に対して、「強くそう思う」が 70%、「ややそう思う」が 22%であった。両者を併せて 92%ということでかなりよい結果だと思われる。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

・「精神病について詳しくなれるし、自分の思考を見直せた」、「心理テストが楽しかったです」、「毎回丁寧に教えてもらい、心理学に対してさらに興味が深まった」等の声が寄せられた。

（４）自由記述より学生からの要望について

・「後半席が少なかった。部屋が狭い。受けたい生徒が受けれない」との声があった。耐震改修の影響で、6 月より、第 1 講義室から第 6 講義室へ移動した結果であるが、来年度からはこの問題は解消される。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

・今年度の心理学 A はほぼ狙いどおりの授業ができたし、学生の評価もそれを反映していると思われる。毎年感じることではあるが、学生のメンタルヘルスについての興味・関心は並々ならぬものがある。今後も学生が芸術活動に没頭することの助けになるような授業を心がけていきたい。

４その他、意見

・特になし。

科目　　基礎物理学A　　授業コード　31108

担当　　馬宮　孝好　　教室　　コンピュータ室

回答した学生　　28 名

受講登録者　　41 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	2
4	９０％くらい	7
3	８０％くらい	13
2	７０％くらい	6
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		28

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	6	10
4	ややそう思う	8	6
3	どちらともいえない	7	6
2	あまりそう思わない	5	3
1	まったくそう思わない	2	3
	無回答	0	0
小計		28	28

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	6
4	ややそう思う	9
3	どちらともいえない	7
2	あまりそう思わない	4
1	まったくそう思わない	2
	無回答	0
小計		28

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	27
4	延長することが多い	1
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		28

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	9	6	5	8	6	10	8
4	ややそう思う	5	4	5	12	2	9	7
3	どちらともいえない	9	9	11	5	13	4	10
2	あまりそう思わない	3	7	5	2	4	4	2
1	まったくそう思わない	1	2	2	1	3	1	1
	無回答	1	0	0	0	0	0	0
小計		28	28	28	28	28	28	28

科目　　社会学A　　授業コード　31109

担当　　中根　多恵　　教室　　講義棟第６講義室

回答した学生　　58 名

受講登録者　　73 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	14
4	９０％くらい	21
3	８０％くらい	14
2	７０％くらい	9
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		58

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	14	19
4	ややそう思う	23	31
3	どちらともいえない	20	7
2	あまりそう思わない	1	1
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		58	58

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	27
4	ややそう思う	20
3	どちらともいえない	8
2	あまりそう思わない	3
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		58

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	49
4	延長することが多い	6
3	開始が遅いことが多い	3
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		58

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	45	46	47	49	24	32	42
4	ややそう思う	9	9	7	6	15	15	13
3	どちらともいえない	3	3	4	3	18	9	3
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	1	2	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	1	0	0	0	0	0	0
小計		58	58	58	58	58	58	58

科目　　数学A　　授業コード　31110

担当　　加納　成男　　教室　　芸術資料館演習室

回答した学生　　54 名

受講登録者　　89 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	15
4	９０％くらい	18
3	８０％くらい	12
2	７０％くらい	9
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		54

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	9	8
4	ややそう思う	7	8
3	どちらともいえない	20	18
2	あまりそう思わない	12	11
1	まったくそう思わない	6	9
	無回答	0	0
小計		54	54

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	11
4	ややそう思う	8
3	どちらともいえない	21
2	あまりそう思わない	9
1	まったくそう思わない	5
	無回答	0
小計		54

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	34
4	延長することが多い	4
3	開始が遅いことが多い	8
2	早く終わることが多い	7
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		54

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	20	16	14	17	10	15	13
4	ややそう思う	10	12	10	8	6	10	8
3	どちらともいえない	16	15	16	17	17	20	25
2	あまりそう思わない	5	6	9	7	8	6	2
1	まったくそう思わない	2	5	5	5	13	3	6
	無回答	1	0	0	0	0	0	0
小計		54	54	54	54	54	54	54

科目　　自然科学史A　　授業コード　31111

担当　　吉山　青翔　　教室　　奏楽堂第３教室

回答した学生　　9 名

受講登録者　　15 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	2
4	９０％くらい	4
3	８０％くらい	1
2	７０％くらい	2
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		9

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	3	2
4	ややそう思う	2	2
3	どちらともいえない	2	2
2	あまりそう思わない	2	2
1	まったくそう思わない	0	1
	無回答	0	0
小計		9	9

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	2
4	ややそう思う	4
3	どちらともいえない	2
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		9

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	9
4	延長することが多い	0
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		9

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	1	1	1	8	0	3	2
4	ややそう思う	3	1	3	0	3	4	1
3	どちらともいえない	1	4	4	1	2	1	5
2	あまりそう思わない	3	2	0	0	2	1	0
1	まったくそう思わない	1	1	1	0	2	0	1
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		9	9	9	9	9	9	9

科目　　自由研究ゼミナールⅠ　　授業コード　31112

担当　　水野　留規　　教室　　奏楽堂第３教室

回答した学生　　39 名

受講登録者　　65 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	15
4	９０％くらい	17
3	８０％くらい	7
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		39

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	19	23
4	ややそう思う	16	8
3	どちらともいえない	4	6
2	あまりそう思わない	0	2
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		39	39

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	14
4	ややそう思う	10
3	どちらともいえない	12
2	あまりそう思わない	3
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		39

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	21
4	延長することが多い	9
3	開始が遅いことが多い	3
2	早く終わることが多い	1
1	よくわからない	5
	無回答	0
小計		39

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	23	24	28	28	24	15	26
4	ややそう思う	9	9	6	8	7	12	8
3	どちらともいえない	4	5	4	3	6	11	5
2	あまりそう思わない	2	1	1	0	2	1	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	1	0	0	0	0	0	0
小計		39	39	39	39	39	39	39

授業科目	自由研究ゼミナールⅠ			担当者	ロムアルド・バローネ、水野留規		
開講時期	前期	曜日	月曜	時限	4	アンケート様式	☒講義 ☐実習

１この授業における教育方法の特徴

「西洋の古典文芸」の授業で文学作品の解説を行っているが、この授業では朗読や演奏やイラストによって文芸の世界を表現することを試みている。活動の成果は後期に発表する機会を設け、発表の際には劇なども実施する。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

各自が自分の課題をもっているので、同じグループに属する人と連携しながら作業をする。

（２）授業について

グループごとに集まって、授業外でも活動させた。演奏を担当する学生はバローネ先生が指導を行い、水野はおもに美術系の学生への指導にあたった。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

自分の専門を生かした活動ができること。
自分たちのペースで作業ができること。
講義で学んだ内容を踏まえて、表現を試みることができること。

（４）自由記述より学生からの要望について

「西洋の古典文芸」を履修していない学生にも作品の解説を丁寧にしてほしい（こうした声を受けて、5月に対象となる学生を集めて、水野が作品の解説を４回にわたってした。）

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

・グループごとに取り組みが異なるので、統一的な評価が難しく、その方法を考えていきたい。
・人数が集まらず、予定していた活動ができないことがあった。選択科目なので仕方がないが、対策を考えないといけない。
・１年生の履修が多かったので、劇のレベルは過去の年度ほど高くなるとは思えない。そうした場合に、成果発表を学外でやるほうがよいか、それとも学内でするべきか、迷った結果、後者にした。今後は劇をやるということは、授業外でリハーサルを重ねないといけないので、難しいと思う。

４その他、意見

科目　　西洋の古典文芸　　授業コード　31113

担当　　水野　留規　　教室　　芸術資料館演習室

回答した学生　　71 名

受講登録者　　80 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	24
4	９０％くらい	36
3	８０％くらい	7
2	７０％くらい	4
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		71

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	19	27
4	ややそう思う	27	27
3	どちらともいえない	19	13
2	あまりそう思わない	3	2
1	まったくそう思わない	3	2
	無回答	0	0
小計		71	71

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	23
4	ややそう思う	20
3	どちらともいえない	22
2	あまりそう思わない	3
1	まったくそう思わない	3
	無回答	0
小計		71

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	58
4	延長することが多い	9
3	開始が遅いことが多い	2
2	早く終わることが多い	2
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		71

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	34	32	28	37	23	25	32
4	ややそう思う	16	22	21	22	15	17	21
3	どちらともいえない	15	11	17	9	19	23	14
2	あまりそう思わない	5	6	4	2	10	4	2
1	まったくそう思わない	1	0	1	1	4	2	2
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		71	71	71	71	71	71	71

授業科目	西洋の古典文芸			担当者	水野留規		
開講時期	前期	曜日	火曜	時限	5	アンケート様式	☒講義 ☐実習

１この授業における教育方法の特徴
講義形式で芸術と関係が深い西洋の文芸作品を解説する。
教師が制作したオリジナル映像を含め、さまざまな映像や画像を見せている。
ときには朗読などを交え、単なる作品解説に終わらないようにしている。

２アンケート結果の所見
（１）受講した学生自身について
文芸に大きな関心を抱いている学生が何人かいた。その反面、履修はしているものの、単位さえ取得できればよいと考えている者もいた。

（２）授業について
授業を受けた後で関心が高まったと答えた者が半数以上いた。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて
映像が多く、理解に有用だった。

（４）自由記述より学生からの要望について
パワーポイントのスライドを早く進めすぎるという声があった。
配布資料が足りないことがあった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）
授業で扱う作品の幅を広げることを考えている。
分かりやすく話をする（あたりまえのことだが、つねに心掛けたい)。

４その他、意見

科目　　日本文学　　授業コード　31114

担当　　二瓶　浩明　　教室　　奏楽堂第１教室

回答した学生　　25 名

受講登録者　　59 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	9
4	９０％くらい	11
3	８０％くらい	5
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		25

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	7	12
4	ややそう思う	14	13
3	どちらともいえない	4	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		25	25

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	7
4	ややそう思う	13
3	どちらともいえない	4
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		25

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	21
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	1
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		25

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	16	13	13	15	9	8	14
4	ややそう思う	8	8	10	10	12	9	11
3	どちらともいえない	1	4	1	0	3	6	0
2	あまりそう思わない	0	0	1	0	1	1	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	1	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		25	25	25	25	25	25	25

授業科目	日本文学			担当者	二瓶 浩明		
開講時期	前期	曜日	月	時限	5	アンケート様式	□講義 □実習

１この授業における教育方法の特徴

本年度の授業テーマは「日本近代文学と旅」というもの。

近代文学を代表する名作として知られている諸作品を「旅」という観点から読み直し、再検討するというもので、森鴎外「舞姫」、夏目漱石「草枕」、泉鏡花「高野聖」、川端康成「雪国」、宮沢賢治「銀河鉄道の夜」、太宰治「津軽」、永井荷風「墨東綺譚」などを取りあげた。

新鮮な発想で、学生たちには結構好評であった。

２アンケート結果の所見

（1）受講した学生自身について

いつも通りのことであるが、例えば問３「この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味･関心が高まりましたか」については、回答者２５名中、「強くそう思う」が１２名、「ややそう思う」が１３名いて、教員の意図がよく理解されたことに喜んでいる。

（2）授業について

すべての質問項目について、「強くそう思う」「ややそう思う」が大体半数ずつという感じで、ホッとしているが、例示すれば、問１２「授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか」については、回答者２５名中、「強くそう思う」１４名、「ややそう思う」が１１名であって、これまた喜んでいる次第である。

耐震改修工事の最中で、教室の移動があり、問１１「教室･設備については適切でしたか」というのは、案の定、教員にとっても、学生たちにとっても、多少の不満がない訳でもなかったようだ。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

今回は、記述がなかったので、ちと驚いている。

（4）自由記述より学生からの要望について

「部屋がちょっと狭い。席が足りていない時があった」という不満があった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

今後とも努力工夫するつもり。

４その他、意見

なし。

科目　　日本演劇論　　授業コード　31115

担当　　二瓶　浩明　　教室　　講義棟第６講義室

回答した学生　　31 名

受講登録者　　65 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	8
4	９０％くらい	13
3	８０％くらい	5
2	７０％くらい	5
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		31

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	7	14
4	ややそう思う	10	11
3	どちらともいえない	11	6
2	あまりそう思わない	3	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		31	31

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	10
4	ややそう思う	11
3	どちらともいえない	8
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		31

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	16
4	延長することが多い	7
3	開始が遅いことが多い	1
2	早く終わることが多い	4
1	よくわからない	3
	無回答	0
小計		31

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	21	11	20	25	9	13	18
4	ややそう思う	9	10	8	6	10	8	10
3	どちらともいえない	1	9	3	0	9	7	3
2	あまりそう思わない	0	1	0	0	2	3	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	1	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		31	31	31	31	31	31	31

授業科目	日本演劇論			担当者	二瓶 浩明		
開講時期	前期	曜日	金	時限	5	アンケート様式	□講義 □実習

１この授業における教育方法の特徴

本年度の授業テーマは「日本演劇概論」。

日本演劇の特質について、広く考察を行なった。古典演劇としての能狂言、人形浄瑠璃、歌舞伎についてさまざまな観点から紹介、論ずることにより、学生たちの関心興味を喚起した。１回もこれらを実際に見たことのない学生たちも多く、映像を用いることによって、具体的にその特質について講義した。

バレエやダンス等についても考察の時間を設け、演劇とは何か、という根源的な問いかけを行なった。

２アンケート結果の所見

（1）受講した学生自身について

いつも通りのことであるが、例えば問３「この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味･関心が高まりましたか」については、回答者３１名中、「強くそう思う」が１４名、「ややそう思う」が１１名いて、教員の意図がよく理解されたことに喜んでいる。

（2）授業について

すべての質問項目について、「強くそう思う」「ややそう思う」が大体半数ずつという感じで、ホッとしているが、例示すれば、問９「教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか」については、３１名中、「強くそう思う」２５名、「ややそう思う」６名という結果であり、問１２「授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか」については、３１名中、「強くそう思う」１８名、「ややそう思う」が１０名、「どちらともいえない」が３名であった。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

以下が学生たちの意見。「SHIROH がとても良かったです」「じゃんじゃん映像を見せてくれるところ」「面白い説明が多かった」「現代演劇から能や歌舞伎などいろいろなジャンルの作品をみることができた貴重な時間でした」（２件）「ビデオが面白かった」「自分の知らない演劇をいくつか見ることができ、楽しかったです」（４件）「話し方が演劇的で聞きやすかった」「さまざまな演劇を知れて良かった」「先生がおもしろかった」

（4）自由記述より学生からの要望について

授業が教育実習とかぶって残念だったという者がいた。

教室が狭く、席に着けない時もあったという者もいた。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

今後とも努力工夫するつもり。

４その他、意見

なし。

科目　　西洋演劇論　　授業コード　31116

担当　　大塚　直　　教室　　芸術資料館演習室

回答した学生　　68 名

受講登録者　　103 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	19
4	９０％くらい	26
3	８０％くらい	17
2	７０％くらい	6
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		68

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	22	31
4	ややそう思う	24	27
3	どちらともいえない	19	9
2	あまりそう思わない	3	1
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		68	68

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	27
4	ややそう思う	20
3	どちらともいえない	16
2	あまりそう思わない	3
1	まったくそう思わない	2
	無回答	0
小計		68

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	56
4	延長することが多い	7
3	開始が遅いことが多い	4
2	早く終わることが多い	1
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		68

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	42	37	39	46	28	30	39
4	ややそう思う	16	16	17	15	18	17	20
3	どちらともいえない	8	9	9	6	20	16	8
2	あまりそう思わない	2	6	3	1	2	5	1
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		68	68	68	68	68	68	68

授業科目	西洋演劇論			担当者	大塚　直		
開講時期	前期	曜日	水	時限	4	アンケート様式	☒講義　☐実習

１この授業における教育方法の特徴

この授業では、芸術系大学に学ぶ学生の基礎知識として、西洋美術、西洋音楽と並ぶ芸術ジャンルである西洋演劇について、その魅力と歴史を半年間で集中的に概説する。特にドイツ語圏の主要な劇作家・戯曲作品とともに、いわゆる西洋史・西洋文化史の流れをおさえながら、各時代の矛盾を照らし出す鏡としての演劇というメディアの存在意義を学生たちに問いかけていった。

西欧近代の歩みとともに、絶えず演劇作品に照らし出されてきた各時代の美意識や政治感覚を概観しながら、今日なお上演され続ける古典作品の意義について、受講者各自が独自の見解を持てるようにした。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

受講登録者 103 名のうち、アンケートに回答してくれた学生は、わずか 68 名に過ぎなかった。出席状況を見ても学生によってまちまちだが、大体の約 67%の学生が意欲的に受講してくれたことが分かる。

しかしながら全体の約 86%の学生は、受講後に西洋演劇に対する強い興味・関心を持ってくれたようである。講義系の授業なので、とりあえず出てみたが、受講後は全体的に多くの学生が関心を抱いてくれたことが分かる。

（２）授業について

教員が熱心に教えていると感じられたか、の項目では、「強くそう思う」が 68%、「ややそう思う」が 22%という回答結果で、合計すると約９割の学生が教員の教え方を肯定的に評価してくれた。

その他、大半の学生が提示された資料の見やすさ、教員の話し方・説明の仕方を好意的に受け止めていることが分かった。さらに全体の約 86%の学生は、授業全般についても総合的に高く評価してくれている。

ただ、履修者数にしては中規模程度の狭い教室だったので、後ろに座った学生には、黒板が小さいので、板書しても見えにくかったと思う。また人の熱気で暑くなってくると教室がむんむんとし、冷房をつけてもらうと寒すぎるという意見が寄せられたので、設備環境には問題があったように思う。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

毎回見る映像を楽しみにしていました、先生が良い人そう、との意見が寄せられた。

映像に関しては、演劇の舞台や表象の部分を視覚的に見せるために補足的に提示しているものだが、このような授業でもないと一生目にしないであろう映像も多いので、今後も刺激的な映像資料を見せて学生の感性・視座を広めてあげたい。

（４）自由記述より学生からの要望について

配布資料をもう少し見やすいものにしてほしい、との意見が寄せられた。

これは授業で実際に使用する部分と、補足的にまとめている部分とあるので、補足的な箇所に関しては、授業後に図書館で関心のある部分を調べて補うなど、適宜利用してもらいたいと思っている。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

毎回の授業後に学んだことを出席カードの裏に書くようシラバスでも周知させているのだが、白紙だったり、実際には欠席しており代筆だったりする学生の姿が目立った（特に美術学部デザイン専攻の学生）。

今後は履修者数を制限するなどして、もう少し学生とのコミュニケーションを重視するような授業を行ってもよいかなと思う。

４その他、意見

特になし。

科目　　基礎生物学A　　授業コード　31117

担当　　清道　正嗣　　教室　　コンピュータ室

回答した学生　　13 名

受講登録者　　33 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	4
4	９０％くらい	7
3	８０％くらい	0
2	７０％くらい	2
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		13

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	3	4
4	ややそう思う	7	5
3	どちらともいえない	2	3
2	あまりそう思わない	1	1
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		13	13

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	6
4	ややそう思う	2
3	どちらともいえない	3
2	あまりそう思わない	2
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		13

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	13
4	延長することが多い	0
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		13

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	7	8	8	10	3	5	7
4	ややそう思う	5	4	2	2	5	3	4
3	どちらともいえない	0	0	2	1	2	3	1
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	2	2	1
1	まったくそう思わない	1	1	1	0	1	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		13	13	13	13	13	13	13

科目　　身体運動演習ＩＡ　　授業コード　31201

担当　　幸田　律　　教室　　体育館

回答した学生　　34 名

受講登録者　　40 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	17
4	９０％くらい	6
3	８０％くらい	10
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	1
	無回答	0
小計		34

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	28	27
4	ややそう思う	4	4
3	どちらともいえない	2	2
2	あまりそう思わない	0	1
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		34	34

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	18	30	27	26	23	14	21	24
4	ややそう思う	6	3	4	5	3	7	9	7
3	どちらともいえない	4	1	3	3	3	3	3	3
2	あまりそう思わない	1	0	0	0	5	4	1	0
1	まったくそう思わない	5	0	0	0	0	6	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		34	34	34	34	34	34	34	34

科目　　身体運動演習ＩＡ　　授業コード　31202

担当　　鶴原　香代子　　教室　　体育館

回答した学生　　29 名

受講登録者　　38 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	7
4	９０％くらい	11
3	８０％くらい	10
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		29

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	17	15
4	ややそう思う	8	8
3	どちらともいえない	4	5
2	あまりそう思わない	0	1
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		29	29

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	14	16	20	20	20	9	14	21
4	ややそう思う	6	6	4	3	4	5	6	4
3	どちらともいえない	7	6	4	5	4	6	8	3
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	3	0	0
1	まったくそう思わない	2	1	1	1	1	6	1	1
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		29	29	29	29	29	29	29	29

科目　　身体運動演習ＩＡ　　授業コード　31203

担当　　山本　祐実　　教室　　体育館

回答した学生　　40 名

受講登録者　　40 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	27
4	９０％くらい	11
3	８０％くらい	2
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		40

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	25	15
4	ややそう思う	11	14
3	どちらともいえない	3	7
2	あまりそう思わない	0	3
1	まったくそう思わない	1	1
	無回答	0	0
小計		40	40

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	11	26	33	26	23	17	17	23
4	ややそう思う	12	9	4	6	11	7	13	11
3	どちらともいえない	12	3	0	5	3	6	5	4
2	あまりそう思わない	0	1	3	2	3	7	5	2
1	まったくそう思わない	5	1	0	1	0	3	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		40	40	40	40	40	40	40	40

科目　　身体運動演習ＩＡ　　授業コード　31204

担当　　小野　昌子　　教室　　体育館

回答した学生　　26 名

受講登録者　　28 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	8
4	９０％くらい	14
3	８０％くらい	3
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		26

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	19	14
4	ややそう思う	4	8
3	どちらともいえない	2	4
2	あまりそう思わない	1	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		26	26

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	10	20	20	18	19	7	12	20
4	ややそう思う	7	5	4	5	5	3	10	3
3	どちらともいえない	6	1	2	3	2	6	2	2
2	あまりそう思わない	2	0	0	0	0	6	1	1
1	まったくそう思わない	1	0	0	0	0	4	1	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		26	26	26	26	26	26	26	26

科目　　基本体育A　　授業コード　31205

担当　　石垣　享　　教室　　体育館

回答した学生　　18 名

受講登録者　　17 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	9
4	９０％くらい	7
3	８０％くらい	1
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		18

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	12	9
4	ややそう思う	5	8
3	どちらともいえない	1	1
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		18	18

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	11	14	13	11	14	8	11	12
4	ややそう思う	5	4	4	6	4	3	4	6
3	どちらともいえない	0	0	1	1	0	3	3	0
2	あまりそう思わない	1	0	0	0	0	3	0	0
1	まったくそう思わない	1	0	0	0	0	1	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		18	18	18	18	18	18	18	18

科目　　基本体育A　　授業コード　31206

担当　　石垣　享　　教室　　体育館

回答した学生　　23 名

受講登録者　　24 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	14
4	９０％くらい	7
3	８０％くらい	2
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		23

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	19	17
4	ややそう思う	4	6
3	どちらともいえない	0	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		23	23

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	18	19	18	15	18	11	11	17
4	ややそう思う	4	2	3	7	4	7	7	5
3	どちらともいえない	1	1	1	1	1	3	4	1
2	あまりそう思わない	0	1	1	0	0	1	1	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	1	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		23	23	23	23	23	23	23	23

科目　　基本体育A　　授業コード　31207

担当　　石垣　享　　教室　　体育館

回答した学生　　37 名

受講登録者　　40 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	28
4	９０％くらい	8
3	８０％くらい	1
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		37

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	30	17
4	ややそう思う	7	16
3	どちらともいえない	0	2
2	あまりそう思わない	0	1
1	まったくそう思わない	0	1
	無回答	0	0
小計		37	37

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	18	23	20	15	17	9	9	15
4	ややそう思う	11	10	10	12	9	8	10	13
3	どちらともいえない	6	3	6	9	8	10	13	6
2	あまりそう思わない	1	1	1	1	2	5	3	2
1	まったくそう思わない	1	0	0	0	1	5	2	1
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		37	37	37	37	37	37	37	37

授業科目	基本体育 A			担当者	石垣　享		
開講時期	前期	曜日	火曜日	時限	3・4・5	アンケート様式	□講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴

本授業の受講生の殆どが教職免許を取得する目的で受講しているので、本授業は教職者として相応しい態度の育成に加えて、障がい者および緊急事態への対応に関する技術の習得、身体に関する計測とその評価、そしてレクリエーションを通じてルールを守る事で遵法意識の啓発、チームへの貢献による社会性の育成を目的としている。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

欠席は、特定の者に集中しており多くは皆勤であった。また、授業への取り組みの意欲は、両極端であり、3 および 5 時限目に関しては大変意欲であったことを保証するが、4 時限目の結果に関しては大いに疑問が残る。

（２）授業について

設問で重要な点は、3）授業で扱われた内容への興味・関心が高まり、7）教員とのコミュニケーション、8）力量に合った適切な指導、および 11）総合評価であるが、これらの強くまたはそう思われる評価結果（４・５）は、3 および 5 時限目に関しては 94～100%であるのに対して、4 時限目のそれらは 73～89%と低いものであった。この結果には学生相談等で「注意が個人的である」とのクレームが出され、さらに同時限の障がい者介助の授業内での態度不良による受講取り消しが大きく影響していると推察される。特に内容が実技の際には、ルールおよび用具等の使い方の説明を聞かずに会話をしている学生に対してのみ、これまでと同様に注意してきた。これは、説明を聞かないままで実技を実施すると自身または友人を傷つける可能性があるため厳しく注意をしないと事故が生じる可能性があるからである。また、障がい者介助では、車椅子の挙上および目隠しをした友人の介助方法の内容であり、ここでのふざけた態度は重大な事故に繋がることから授業を短縮し、該当学生の受講を取りやめた。低い評価をしている受講生は、各設問項目で 1～３名であるが、これらの背景を説明していてもこのような受け止められ方であるのは、今後の大きな課題と考えられた。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

測定評価以外はレクリエーションの授業展開であるので色々な内容を楽しみ息抜きができたことに関しては、目的以外の効果であると思われる。

（４）自由記述より学生からの要望について

「この授業は１年で履修する人が多いが、今回４年での履修となった。教職課程で必修であるのに、必修の授業が多い火曜日に、しかも履修を抽選で決められるは少し問題だと思う。」に関しては、本学のカリキュラムは、午前は美術の専門が入り、金曜日は美術の講評および音楽のアンサンブル、木曜日は会議日であるので教養教育等は月から水の３～５時限までしか開講できない。本学は約 20 年間もカリキュラムの改革を行っていない。また、体育館が狭く、用具利用の最大人数を受け入れている。よって、私の責任ではない。「成績が勝ち点で決まるのは平等ではない。」はシラバスにも明記し、ガイダンスで説明も行っている。よって、基本体育 B を履修すべき。「心臓マッサージの授業のやり方が下手。」は、本学赴任前の 5 年間、そして赴任後の 10 年間に加え、現在でも名城大学での救急救助法の授業を同様に行っているが、初めての意見である。よって、当方としては思い当たる箇所がない。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

平成 19 年から基本体育は、教職者の育成を最大目的に測定評価項目以外をレクリエーション（A）と座学（B）に分けて展開してきたが、この評価内容以外の学生相談からの意見も取り入れると、この展開の継続は不可能という結論に至った。PDCA サイクルの C に該当する本評価を受けて基本体育は、最大限考慮すべき学生の安全確保ために実技を取りやめ AB とも座学とし、同様の考えで障がい者介助も実施しない。さらに救急救助法では、これ以上の授業展開は、教員の能力を超え不可能であるため取りやめとする。これにより、体育関係全体の授業の在り方を再考し、本学の現在の学生にマッチするような授業展開を来年度は実施する。

４その他、意見

本結果を素直に受け止めて、来年度は教育者の育成には主眼を置かず、純粋に健康科学のリテラシーの向上を目的とした授業を展開する。

科目　英語初級ＩA　授業コード　32101

担当　ナイレー・アン・キーナン　教室　芸術学修士棟

回答した学生　24 名

受講登録者　33 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	10
4	９０％くらい	5
3	８０％くらい	6
2	７０％くらい	3
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		24

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	13	13
4	ややそう思う	10	7
3	どちらともいえない	1	4
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		24	24

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	16
4	ややそう思う	4
3	どちらともいえない	4
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		24

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	20
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	1
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		24

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	19	16	18	19	19	15	17
4	ややそう思う	4	7	5	4	4	6	6
3	どちらともいえない	1	1	1	1	1	3	1
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		24	24	24	24	24	24	24

科目　英語初級ＩA　授業コード　32102

担当　ナイレー・アン・キーナン　教室　芸術学修士棟

回答した学生　21 名

受講登録者　34 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	9
4	９０％くらい	9
3	８０％くらい	3
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		21

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	9	12
4	ややそう思う	12	8
3	どちらともいえない	0	0
2	あまりそう思わない	0	1
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		21	21

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	9
4	ややそう思う	9
3	どちらともいえない	3
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		21

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	17
4	延長することが多い	4
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		21

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	17	15	15	17	16	13	14
4	ややそう思う	4	6	6	4	5	7	7
3	どちらともいえない	0	0	0	0	0	0	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	1	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		21	21	21	21	21	21	21

科目　英語初級ＩA　授業コード　32103

担当　松永　隆　教室　合奏棟第２教室

回答した学生　19 名

受講登録者　20 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	14
4	９０％くらい	4
3	８０％くらい	1
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		19

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	9	8
4	ややそう思う	6	9
3	どちらともいえない	4	2
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		19	19

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	10
4	ややそう思う	8
3	どちらともいえない	1
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		19

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	17
4	延長することが多い	1
3	開始が遅いことが多い	1
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		19

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	14	12	9	15	9	6	12
4	ややそう思う	5	6	10	4	7	7	6
3	どちらともいえない	0	1	0	0	3	5	1
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	1	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		19	19	19	19	19	19	19

科目　　英語初級ⅡA　　授業コード　32104

担当　　トーマス・オーエン・コックス　教室　　新講義棟大講義室

回答した学生　　14 名

受講登録者　　18 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	5
4	９０％くらい	6
3	８０％くらい	3
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		14

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	10	9
4	ややそう思う	4	2
3	どちらともいえない	0	3
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		14	14

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	6
4	ややそう思う	3
3	どちらともいえない	2
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	2
	無回答	0
小計		14

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	13
4	延長することが多い	1
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		14

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	10	11	8	12	13	13	9
4	ややそう思う	2	3	3	2	1	1	3
3	どちらともいえない	2	0	3	0	0	0	2
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		14	14	14	14	14	14	14

科目　英語初級ⅡA　授業コード　32105

担当　井上　彩　教室　講義棟第６講義室

回答した学生　45 名

受講登録者　61 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	21
4	９０％くらい	18
3	８０％くらい	5
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		45

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	11	8
4	ややそう思う	16	16
3	どちらともいえない	14	14
2	あまりそう思わない	3	5
1	まったくそう思わない	1	2
	無回答	0	0
小計		45	45

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	14
4	ややそう思う	20
3	どちらともいえない	6
2	あまりそう思わない	3
1	まったくそう思わない	2
	無回答	0
小計		45

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	37
4	延長することが多い	5
3	開始が遅いことが多い	1
2	早く終わることが多い	1
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		45

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	26	24	18	24	13	25	18
4	ややそう思う	13	15	21	14	14	18	19
3	どちらともいえない	4	4	4	5	11	2	7
2	あまりそう思わない	1	2	2	2	5	0	1
1	まったくそう思わない	1	0	0	0	2	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		45	45	45	45	45	45	45

授業科目	英語初級 IIA			担当者		井上　彩	
開講時期	前期	曜日	水	時限	3	アンケート様式	☒講義　☐実習

１この授業における教育方法の特徴

文法事項を中心とした練習問題や読解問題を演習形式で学ぶことにより、英語の基礎文法を一から復習し、基礎的な読解力をつけることを目的とした授業である。定期的な小テストや課題によって適宜学習内容を復習することによって授業中に学んだ知識を定着させることができるように、重要事項を繰り返し学べるような授業の形式を特徴としている。具体的には、自宅で予習をしてきた内容を、授業で演習形式で学び、次回までに自宅で課題をやってくることにより復習し、次回の授業内の小テストと答え合わせで確認・再復習をする、というように同一項目を最低４回は繰り返して学修するような手順をとっている。これまで英語を苦手としていた学生にもこの授業をきっかけに英文法の理解を定着させ自信をつけてほしいという考えからこの方法をとることとした。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

出席状況は良好であった。授業への意欲に関して、回答者の 60%がこの授業に意欲的に取り組んだと回答している。

（２）授業について

問 8「教員の説明の仕方はわかりやすかったですか」に対して、87%の学生がそう思うと答えている。また、問 9「教員はよく準備し、熱心に教えているか」に対しても 84%の学生がそう思うと答えている。また、82%の学生は「総合的によい授業だった」と答えている（問 12)。授業内容に関してはとてもよい評価を受けることができた。しかし、問 10「教員とコミュニケーションはとれていましたか」に関して、「そう思う」と答えた学生は 60%しかいなかった。これは授業についての項目の中で最も低い数字であった。登録した履修者数は去年よりは少なかったがまだ 60 名を超えていたため、語学の授業の規模としては学生とコミュニケーションをとりながらの授業運営が難しい環境であった。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

「小テストでこまめに復習ができてよかった」という意見が 4 名からあった。また、予習、復習、宿題のプリントや小テストがあるのがよかった、習慣づいた」という意見や、「自分がどこを間違えたかわかるから宿題があるところがよかった。」という意見もあり、毎回課題を出し、小テストをして学習事項を繰り返し復習できる仕組みにしたところが学生の理解に役立ったようだ。文法事項の学習を重視したこともよかったようで、「文法事項を一つ一つかみ砕いての説明でとてもわかりやすかった。」「とてもわかりやすかった」との自由記述もあった。「熱心に教えてくださりました、やる気が出ました。」という記述もあり、60 名を超える規模の大きなクラスでも学習意欲の高い学生には教員の熱意が伝わったことにはとても励まされる思いである。

（４）自由記述より学生からの要望について

「板書が行ったり来たりで少しわかりにくかったです。」という記述があった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

今年度はテキストを使って基礎文法を中心に学ぶ内容に変えたことが、学生には好評であったようである。初級の学生にとっては中学・高校で学ぶ基礎的な文法が定着していないことが、読解力、聴解力を伸ばすにあたって足かせとなっている場合もあり、あらためて基礎文法学習の重要性を実感した。次年度以降も初級クラスにおいては基礎文法の復習を取り入れていきたい。

４その他、意見

今年度は TA をつけてもらうことができたので、優秀な TA の学生のおかげで授業時間を効率よく使うことができ、また TA に小テストを確認して間違った部分を添削してもらうことにより、学生はどの部分をなぜ間違えたのかということを確実に理解することができた。個々の学生のレベルに合わせたきめ細かい指導を実現することができ大変感謝している。

科目　英語中級ＩA　授業コード　32106

担当　井上　彩　教室　芸術資料館演習室

回答した学生　37 名

受講登録者　46 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	19
4	９０％くらい	14
3	８０％くらい	3
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		37

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	5	3
4	ややそう思う	16	9
3	どちらともいえない	9	19
2	あまりそう思わない	7	6
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		37	37

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	10
4	ややそう思う	10
3	どちらともいえない	12
2	あまりそう思わない	3
1	まったくそう思わない	1
	無回答	1
小計		37

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	31
4	延長することが多い	4
3	開始が遅いことが多い	2
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		37

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	24	20	17	22	10	8	13
4	ややそう思う	7	9	13	11	8	12	18
3	どちらともいえない	5	5	5	4	12	9	6
2	あまりそう思わない	1	3	2	0	5	7	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	2	1	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		37	37	37	37	37	37	37

科目　英語中級ＩA　授業コード　32107

担当　井上　彩　教室　講義棟第６講義室

回答した学生　66 名

受講登録者　91 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	29
4	９０％くらい	25
3	８０％くらい	9
2	７０％くらい	3
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		66

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	10	11
4	ややそう思う	25	19
3	どちらともいえない	23	20
2	あまりそう思わない	8	14
1	まったくそう思わない	0	2
	無回答	0	0
小計		66	66

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	14
4	ややそう思う	24
3	どちらともいえない	17
2	あまりそう思わない	6
1	まったくそう思わない	5
	無回答	0
小計		66

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	62
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	2
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		66

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	40	35	35	41	14	27	22
4	ややそう思う	20	22	21	20	19	20	32
3	どちらともいえない	5	9	8	4	19	12	8
2	あまりそう思わない	1	0	2	1	11	5	2
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	3	2	2
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		66	66	66	66	66	66	66

授業科目	英語中級 IA			担当者	井上　彩		
開講時期	前期	曜日	月	時限	3、4	アンケート様式	☒講義　☐実習

１この授業における教育方法の特徴

この授業では主に英文読解スキル・聴解スキルの向上を目的としている。講読用テキストを使って現代社会の諸相についての実践的な英文精読の力や文章理解に必要な構文や語法の知識をつける。また、TOEIC テストの形式に準拠した教材を使って限られた時間内に多くの英文を読み、文書の概要や必要な情報を読み取るスキルをつけるとともに適宜文法事項も復習する。さらにリスニングトレーニングによって一学期間で着実に聴解力を伸ばすことも目的としている。英語中級履修者は将来のキャリアのために英語の習得が重要であると考えている学生が多く、高度な読解力と同時に、資格試験の対策に不可欠な、英語による情報分析力を身に着けてほしいと願っている。そのために、少し難易度も、カバーする内容の分量も欲張った内容となっている。英語初級と同様中級でもほぼ毎回小テストを実施して、テキストに出てきた語彙やイディオム、文法知識を復習し、覚えてもらえるように配慮している。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

出席状況は 90%以上が 3 限は 89%、4 限は 82%と良好であった。授業への意欲に関して、3 限は 57%、4 限は 53%がこの授業に意欲的に取り組んだと回答している。

（２）授業について

問 8「教員の説明の仕方はわかりやすかったですか」に対して、3 限は 81%、4 限は 85%の学生がそう思うと答えている。また、問 9「教員はよく準備し、熱心に教えているか」に対しても 3 限は 89%、4 限は 92%の学生がそう思うと答えている。また、3 限は 84%、4 限は 82%の学生は「総合的によい授業だった」と答えている（問 12)。授業内容については高い評価をしてもらっていると思う。しかし、問 10「教員とコミュニケーションはとれていましたか」に関して、「そう思う」と答えた学生は 3 限は 49%、4 限は 50%しかいなかった。登録した履修者数は 4 限は 90 名を超えていたため、語学の授業の規模としては学生とコミュニケーションをとりながらの授業運営が難しい環境であった。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

特になし。

（４）自由記述より学生からの要望について

より規模の大きい 4 限のクラスでは「人数が多すぎる」「進むのがはやすぎる。」という記述が数名からあった。また、「英語で授業を行ってほしい」「時間内で長文を解く問題がしたい」という要望もあった

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

今年度は中級履修者の数が例年よりも多かったこともあり、特に 4 限は学生数が 90 名を超え、出欠をとる、プリントを配布する、小テストを回収したり、返却したりする、という作業にかなり授業時間をとられてしまった。学生側からすると、指名される頻度もあまり高くなく、なかなか教員とのコミュニケーションがとりにくい授業となってしまったのではないかと思う。このような学修環境の中で、難易度も高めでカバーする分量も多い欲張った授業に、学生たちはよく頑張ってついてきてくれたのではないかと思っている。次年度以降は、1 クラスあたりの学生数が多くても 40 名程度となるようにできるかぎりの対策をとりたい。また、進むのがはやかったという声もあったので、教材のレベルや分量を少し減らして、もう少しゆっくりと進行し、また解説を増やしていくことも考慮していきたいと思う。

４その他、意見

特になし。

科目　　英語中級ⅡA　　授業コード　32108

担当　　トーマス・オーエン・コックス　教室　　新講義棟大講義室

回答した学生　　71 名

受講登録者　　100 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	35
4	９０％くらい	23
3	８０％くらい	6
2	７０％くらい	7
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		71

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	16	14
4	ややそう思う	22	12
3	どちらともいえない	21	27
2	あまりそう思わない	9	12
1	まったくそう思わない	3	6
	無回答	0	0
小計		71	71

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	9
4	ややそう思う	8
3	どちらともいえない	30
2	あまりそう思わない	7
1	まったくそう思わない	17
	無回答	0
小計		71

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	62
4	延長することが多い	1
3	開始が遅いことが多い	4
2	早く終わることが多い	1
1	よくわからない	3
	無回答	0
小計		71

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	14	16	13	31	21	36	17
4	ややそう思う	19	16	16	17	13	15	22
3	どちらともいえない	24	18	22	14	18	16	21
2	あまりそう思わない	10	18	15	8	15	3	8
1	まったくそう思わない	4	3	5	1	3	1	3
	無回答	0	0	0	0	1	0	0
小計		71	71	71	71	71	71	71

科目　　英語中級ⅡA　　授業コード　32109

担当　　トーマス・オーエン・コックス　教室　　合奏棟第１教室

回答した学生　　11 名

受講登録者　　20 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	5
4	９０％くらい	5
3	８０％くらい	0
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		11

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	3	4
4	ややそう思う	6	3
3	どちらともいえない	2	4
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		11	11

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	0
4	ややそう思う	5
3	どちらともいえない	5
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		11

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	11
4	延長することが多い	0
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		11

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	3	4	2	7	4	8	3
4	ややそう思う	4	4	3	4	5	3	6
3	どちらともいえない	3	3	5	0	2	0	2
2	あまりそう思わない	1	0	1	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		11	11	11	11	11	11	11

科目　　英語上級ＩA　　授業コード　32110

担当　　松永　隆　　教室　　合奏棟第２教室

回答した学生　　9 名

受講登録者　　19 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	0
4	９０％くらい	5
3	８０％くらい	4
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		9

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	2	5
4	ややそう思う	5	2
3	どちらともいえない	2	2
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		9	9

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	2
4	ややそう思う	2
3	どちらともいえない	3
2	あまりそう思わない	2
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		9

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	7
4	延長することが多い	1
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	1
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		9

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	7	7	7	7	6	7	6
4	ややそう思う	1	1	2	1	2	2	2
3	どちらともいえない	0	1	0	1	1	0	1
2	あまりそう思わない	1	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		9	9	9	9	9	9	9

科目　　英語上級ⅡA　　授業コード　32111

担当　　井上　彩　　教室　　奏楽堂第３教室

回答した学生　　10 名

受講登録者　　15 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	1
4	９０％くらい	3
3	８０％くらい	4
2	７０％くらい	2
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		10

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	3	4
4	ややそう思う	5	5
3	どちらともいえない	2	1
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		10	10

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	5
4	ややそう思う	3
3	どちらともいえない	1
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		10

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	9
4	延長することが多い	1
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		10

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	10	10	9	10	7	5	9
4	ややそう思う	0	0	1	0	0	4	1
3	どちらともいえない	0	0	0	0	2	1	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	1	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		10	10	10	10	10	10	10

授業科目	英語上級 IIA			担当者		井上　彩	
開講時期	前期	曜日	水	時限	4	アンケート様式	☒講義　☐実習

１この授業における教育方法の特徴

この授業の目的は、英語の論説文の精読を通じて語彙・文法・構文の知識を強化し、専門的な文章の展開の仕方を学ぶとともに、TOEIC の出題形式に準拠したリスニング教材を使って実践的な聴解スキルを身に着けることである。またテキスト以外にも学生自身が選んだ本を一冊読んだ上で短いブックレビューを書くというライティング課題を通じて精読とは異なる多読・速読スキルや英文を書く基礎的な力をも養成する。ほぼ毎回、リスニング教材で学修した表現を復習する小テストを行い、さらに読解教材からも一学期間に 4 回語彙とイディオムに関する小テストを実施するため、小テストの多い授業でもある。総合的な英語力をさらに伸ばし、英語を用いた研究その他の活動に備えることを授業の到達目標としている。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

出席状況は 90%以上が 40%、80%以上を含めると 80%となり、教育実習のある 4 年生も数名いたことを考慮に入れると良好であったと言える。授業への意欲に関して、3 限は 80%がこの授業に意欲的に取り組んだと回答している。意欲的な学生が多かったことがわかる。また、90%が授業内容への興味・関心が高まったと答えており、教員としてはとてもうれしい結果であった。

（２）授業について

問 8「教員の説明の仕方はわかりやすかったですか」に対して、100%の学生がそう思うと答えている。また、問 9「教員はよく準備し、熱心に教えているか」に対しても 100%の学生が「強くそう思う」と答えている。また、100%の学生は「総合的によい授業だった」と答えている（問 12)。大変満足できる結果であった。また、問 10「教員とコミュニケーションはとれていましたか」に関して、「そう思う」と答えた学生は 70%であった。全体的に見て学生による授業についての評価はとても高かった。登録した履修者数は 15 名であったため、語学の授業の規模としては理想的な環境であったと思われる。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

特になし。

（４）自由記述より学生からの要望について

特になし。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

例年英語上級を履修する学生は授業参加態度がとてもよい学生が多いが、さらに今年度は特に英語の習熟度のレベルの高い学生が多かった。準備した教材では少し物足りないと感じた学生もいたかもしれない。レベルの高い学生が多く、学生同士が切磋琢磨してさらに高いレベルを目指していけるような学修環境であるため、一年生であっても英語のレベルの高い学生には積極的に上級レベルの受講をすすめていきたい。また、今後はもう少し専門性の高い教材を選ぶことも考えていきたいと思う。

４その他、意見

特になし。

科目　　ドイツ語初級ＩＡ　　授業コード　32112

担当　　大塚　直　　教室　　新講義棟大講義室

回答した学生　　64 名

受講登録者　　73 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	27
4	９０％くらい	24
3	８０％くらい	8
2	７０％くらい	4
1	６０％以下	1
	無回答	0
小計		64

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	21	22
4	ややそう思う	17	16
3	どちらともいえない	15	18
2	あまりそう思わない	9	6
1	まったくそう思わない	2	2
	無回答	0	0
小計		64	64

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	18
4	ややそう思う	14
3	どちらともいえない	19
2	あまりそう思わない	4
1	まったくそう思わない	9
	無回答	0
小計		64

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	50
4	延長することが多い	5
3	開始が遅いことが多い	6
2	早く終わることが多い	2
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		64

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	25	28	24	28	22	32	26
4	ややそう思う	13	15	16	20	10	17	17
3	どちらともいえない	13	11	14	8	18	8	14
2	あまりそう思わない	8	8	5	4	8	5	5
1	まったくそう思わない	5	2	5	4	6	2	2
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		64	64	64	64	64	64	64

授業科目	ドイツ語初級ＩＡ			担当者	大塚　直		
開講時期	前期	曜日	月	時限	3	アンケート様式	☒講義　☐実習

１この授業における教育方法の特徴

初めてドイツ語を学ぶ初学者を対象に、アルファベートの読み方やドイツ語の発音の仕方を分かりやすく指導し、基礎的な文法事項を一通り学び終える。ドイツ語という言葉に対する感受性を養ってもらうと同時に、言葉の背景にあるドイツ人のものの見方、考え方にも慣れ親しんでもらう。

毎回新しく登場する文法事項をＡ４一枚のプリントにまとめて配布した。

音楽学部の学生の受講者が多いので、ドイツの歌曲を紹介したり、ドイツの絵本を読ませたりして、ドイツ語の世界を親しみ深いものにする努力をした。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

受講登録者 73 名のうち、64 名の学生が回答してくれた。出席率 100%の学生が全体の 42%、90%程度の学生が 37%であり、ほぼ全体の８割が毎回授業に出席してくれた。また、意欲的に授業に取り組んだ学生は「強くそう思う」が回答者の 33%、「ややそう思う」が 27%であり、合わせると全体の約６割程度に過ぎなかった。これは、昨年度よりも一割程度低い数値であり、学生が積極性に欠けていたことを窺わせる。

同じように、授業後にドイツ語に対する興味・関心が高まったと回答した学生は、「強くそう思う」と「ややそう思う」を合わせてみても、全体の約６割程度に過ぎず、こちらも昨年度を下回っている。

以上のデータを考慮すると、約６割の学生はドイツ語を理解し、積極的に学び、興味を培っているが、よく分からないままに受講している学生も全体の４割程度いることが確認できる。これは教員の力不足にもよるが、やはり履修登録者数が語学の授業としては多すぎて、受講生たちの私語が多かったことなどにも起因する。またドイツ語にさしたる興味もやる気もないのに、なぜか履修してくる学生が多いことにもよる。

今年度前期は、大学内の校舎の耐震工事の関係で、新講義棟の大教室を使わざるを得なかったが、マイクを使っても「声が小さい」との意見が複数、寄せられた。また「黒板の字が小さい」との意見も見られた。明らかに使用した教室にも問題があったと考えざるを得ない。

少人数制が求められる語学教育で、73 名の履修者数はやはり多いと言わざるを得ない。音楽学部の学生の大半がドイツ語を履修することは分かっているので、各専攻・コース別にクラス分けをして、愛知芸大のカリキュラム編成を見直すなどして、少人数制による語学教育を導入すべきではないか。

（２）授業について

データを参照する限り、半数以上の学生は板書やプリント、教員の説明の仕方を「わかりやすい」、「熱心に教えている」と感じてくれたことが分かる。ただ教員とのコミュニケーションに関しては評価が下がっているので、語学教育としてはやはり少人数制が求められているのだと思う。また、一年間で初級文法を一通り学び終えるという制約があるので、授業を進めるペースが速くなってしまうのは致し方がない。当てたときに黙ってしまい、授業に参加していない学生が、結局は時間のロスを生んでいると言える。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

今年度前期に関しては、あまり好意的な意見は見られなかった。

（４）自由記述より学生からの要望について

「寝ているとおいてかれる」という意見が寄せられたが、最初から興味・やる気のない学生は、できれば受講しないでほしい。今年度前期の授業ではＴＡもいたので、学生のほうで適宜、質問してほしかった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

語学の授業としては大人数なので、個々の学生とのコミュニケーションにもう少し工夫をはかりたい。

また説明が聞き取りにくいという意見があったので、マイクの音量を上げて、ゆっくり話すなどの工夫をしたい。また、学生たちにスペースを空けて座らせ、私語をいっさい禁止するなどの改善案を示したい。

４その他、意見

特になし。

科目　　ドイツ語初級ＩＡ　　授業コード　32113

担当　　白川　茜　　教室　　芸術資料館演習室

回答した学生　　26 名

受講登録者　　32 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	16
4	９０％くらい	4
3	８０％くらい	3
2	７０％くらい	2
1	６０％以下	0
	無回答	1
小計		26

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	11	15
4	ややそう思う	10	7
3	どちらともいえない	4	4
2	あまりそう思わない	1	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		26	26

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	10
4	ややそう思う	6
3	どちらともいえない	6
2	あまりそう思わない	2
1	まったくそう思わない	2
	無回答	0
小計		26

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	23
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	1
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		26

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	17	17	16	18	13	15	17
4	ややそう思う	7	7	8	7	9	6	7
3	どちらともいえない	1	2	2	0	4	5	2
2	あまりそう思わない	1	0	0	1	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		26	26	26	26	26	26	26

科目　　ドイツ語初級ⅡA　　授業コード　32114

担当　　大塚　直　　教室　　芸術資料館演習室

回答した学生　　54 名

受講登録者　　76 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	22
4	９０％くらい	19
3	８０％くらい	8
2	７０％くらい	5
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		54

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	16	17
4	ややそう思う	22	22
3	どちらともいえない	13	15
2	あまりそう思わない	2	0
1	まったくそう思わない	1	0
	無回答	0	0
小計		54	54

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	15
4	ややそう思う	12
3	どちらともいえない	17
2	あまりそう思わない	6
1	まったくそう思わない	4
	無回答	0
小計		54

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	39
4	延長することが多い	8
3	開始が遅いことが多い	7
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		54

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	15	23	19	22	15	17	20
4	ややそう思う	18	13	15	21	12	13	20
3	どちらともいえない	15	14	16	10	23	22	13
2	あまりそう思わない	5	4	3	0	3	2	1
1	まったくそう思わない	1	0	1	1	1	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		54	54	54	54	54	54	54

授業科目	ドイツ語初級ⅡA			担当者	大塚　直		
開講時期	前期	曜日	水	時限	2	アンケート様式	☒講義　☐実習

１この授業における教育方法の特徴

初めてドイツ語を学ぶ初学者を対象に、アルファベートの読み方やドイツ語の発音の仕方を分かりやすく指導し、基礎的な文法事項を一通り学び終える。ドイツ語という言葉に対する感受性を養ってもらうと同時に、言葉の背景にあるドイツ人のものの見方、考え方にも慣れ親しんでもらう。

会話中心の教科書を使用して、DVD 教材を多用するなど、実践的で「使える」表現学習の習得に努めた。

毎回新しく登場する文法事項をＡ４一枚のプリントにまとめて配布した。

音楽学部の学生の受講者が多いので、ドイツの歌曲を紹介したり、ドイツの絵本を読ませたりして、ドイツ語の世界を親しみ深いものにする努力をした。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

受講登録者 76 名のうち、54 名が回答してくれた。昨年度に比べると、かなり履修者が増えている。

出席率 100%の学生が全体の 41%、90%の学生が 35%であった。意欲的に授業に取り組んでくれた学生も、アンケート結果から全体の約 70%であることが分かる。逆に考えるならば、受講者全体の約７割は、毎回積極的に授業に取り組んでくれたが、よく分からないまま出席の返事だけしていたであろう受講意欲の低い学生も、全体の２～３割程度はいたことが分かる。

同じように、履修後にドイツ語に対する興味・関心を高めてくれた学生は、「強くそう思う」と「ややそう思う」を合わせてみても、全体の約 72%であった。残りの学生は前期の試験結果を考えても、受講していたとは言えない。

（２）授業について

全体の約３～４割の学生が、教員の話し方・説明の仕方や、板書やプリントの見やすさなどを高く評価してくれている。それ以外にも、約３～４割の学生は、いちおう教養としてのドイツ語に接している。逆に残りの学生、教科書を持ってこなかったり、授業中に寝ていたり、私語ばかりして、いっさい授業に参加しようとしない学生の姿も一部見受けられたので、彼らは問題である。

大学から新たに始める語学の授業は、学習意欲がない限り習得は難しく、このような学生が毎年受講生の２～３割程度存在していることは、初級の授業を遂行していく上で頭の痛いところである。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

分かりやすいプリントをたくさん用意してくれるので、それがよかったとの意見が複数寄せられた。

また文化紹介としてドイツの歌曲をたくさん聞かせたので、それがよかったとする意見も見られた。

（４）自由記述より学生からの要望について

進度が速すぎる、板書の字が小さい、との意見も見られた。講義場所である芸術資料館地下演習室は、板書するためのホワイトボードが小さくて見づらいので、もっと大きなものを購入して、分かりやすく板書する必要があるだろう。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

上記の通り、学習意欲のある優秀な学生と、まったく外国語ができないし、実は興味・関心もないだろう学生が、大人数で同時に履修している状況自体がまず問題である。

昔行われていた履修者制限を復活するなどして、学習意欲のない学生は他言語に移ってもらいたい。

４その他、意見

出席率も低く、あまりに学習意欲の低い学生のアンケート結果は、ほとんど参考にならないのではないか。

アンケートの項目に関して、例えば語学教員にとっては、使用している教科書が使いやすかったか、メディア教材をもっと活用すべきかなど、具体的な質問事項を別に設けてもよいように思われる。

これらはやろうと思えばできるが、アンケートの実施時期が毎回、前期試験前の慌ただしい時期に行われるので、じっくり考慮・実施する時間的余裕が持てない。これらは今後の課題としたい。

科目　　ドイツ語初級ⅡA　　授業コード　32115

担当　　山本　弘之　　教室　　芸術資料館演習室

回答した学生　　17 名

受講登録者　　21 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	5
4	９０％くらい	9
3	８０％くらい	1
2	７０％くらい	2
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		17

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	7	13
4	ややそう思う	8	3
3	どちらともいえない	1	1
2	あまりそう思わない	1	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		17	17

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	8
4	ややそう思う	5
3	どちらともいえない	3
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		17

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	16
4	延長することが多い	1
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		17

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	14	13	14	15	13	11	14
4	ややそう思う	2	3	3	2	4	4	3
3	どちらともいえない	0	1	0	0	0	2	0
2	あまりそう思わない	1	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		17	17	17	17	17	17	17

科目　　ドイツ語中級ＩＡ　　授業コード　32116

担当　　大塚　直　　教室　　合奏棟第２教室

回答した学生　　20 名

受講登録者　　23 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	4
4	９０％くらい	11
3	８０％くらい	5
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		20

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	10	11
4	ややそう思う	8	5
3	どちらともいえない	0	3
2	あまりそう思わない	2	1
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		20	20

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	12
4	ややそう思う	2
3	どちらともいえない	5
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		20

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	19
4	延長することが多い	0
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	1
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		20

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	16	15	13	15	14	9	13
4	ややそう思う	4	4	7	4	4	3	7
3	どちらともいえない	0	1	0	1	2	5	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	2	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	1	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		20	20	20	20	20	20	20

授業科目	ドイツ語中級ＩＡ			担当者	大塚　直		
開講時期	前期	曜日	火	時限	4	アンケート様式	☒講義　☐実習

１この授業における教育方法の特徴

基礎的な文法事項を一通り学び終えた学生を対象に、やや高度な文章を受講者全員で輪読することにより、ドイツ語購読の楽しさに触れると同時に、初歩的な文法事項を反復練習しながら、中級レベルの実用的なドイツ語運用能力を培ってゆくことを目指した。

授業中に「ドイツ語圏の文化紹介」をする時間を設けて、毎回順番に各自興味を持ったテーマについて学生にペアになって発表してもらい、ドイツ語の言葉の背景にある西洋文化全般に関しても広く親しんでもらうことを心がけた。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

受講登録者が 23 名、回答者が 20 名だった。

中級・上級の授業は、本当に履修したい学生が履修するので、積極的で学習意欲の高い学生がほとんどである。火曜午後は忙しいのか、出席率は 90%程度という学生がもっとも多かったが、「強くそう思う」と「ややそう思う」を合わせると、全体の約 90%の学生がこの授業に対して意欲的に取り組んだと自己評価してくれた。具体的にはテクストの輪読のため、毎回一生懸命に予習してきてくれたということだろう。

受講後にドイツ語に対する興味・関心が高まったと回答した学生は「強くそう思う」と「ややそう思う」を合わせると、全体の約８割に達した。彼らの授業態度を思い返してみても、積極的に予習して、毎回ノートをとり、意欲的に授業に参加してくれていたように思う。

（２）授業について

全体のほぼすべての受講生が、板書・プリント、提示された資料は見やすく、教員の説明の仕方も分かりやすく、また熱心に教えていた、と好意的に評価してくれている。また「強くそう思う」と「ややそう思う」を合わせると、受講生の全員 100%が、授業全般について総合的に評価できる、と回答してくれたことが分かる。

昨年度の初級に引き続き、今年度からドイツ語中級を履修して、皆で楽しみながら熱心に学んでいる学生たちの様子が伺える結果となった。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

毎回の文化紹介が面白かった、という意見が複数寄せられた。

今年度はグリム童話を扱った教科書を選んだので、今後も学生に興味を持ってもらえるような教材を選びたい。

（４）自由記述より学生からの要望について

特に要望はなかった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

意欲的に受講してくれる学生が多かったので、今後も学生のことを気遣いながら、より良い授業となるように心がけていきたい。

４その他、意見

毎回、アンケート用紙が配布される時期が遅いように思われる。学期末は、試験範囲まで進むために授業時間の確保に努めねばならず、アンケートのためのまとまった時間が取りづらい。またアンケート結果が送られてきた時期も、今回は後期の授業開始の直前なので、新学期の準備のために時間を取られてしまう。

個々の授業のみならず、語学授業の全体や、教養教育全体の意義など、様々な視点から学生たちに具体的・建設的な意見が伺えると、ありがたい。個々のアンケート結果は、ほぼ予測できるように思う。

科目　　ドイツ語中級ⅡA　　授業コード　32117

担当　　ジャクリーン・ポルスト　　教室　　芸術資料館演習室

回答した学生　　19 名

受講登録者　　28 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	7
4	９０％くらい	6
3	８０％くらい	6
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		19

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	12	13
4	ややそう思う	7	6
3	どちらともいえない	0	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		19	19

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	11
4	ややそう思う	4
3	どちらともいえない	2
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		19

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	18
4	延長することが多い	1
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		19

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	16	15	15	17	16	14	16
4	ややそう思う	2	3	3	1	2	3	2
3	どちらともいえない	0	0	0	0	0	0	0
2	あまりそう思わない	1	0	0	1	0	2	1
1	まったくそう思わない	0	1	1	0	1	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		19	19	19	19	19	19	19

科目　　ドイツ語上級ＩＡ　　授業コード　32118

担当　　大塚　直　　教室　　芸術資料館演習室

回答した学生　　16 名

受講登録者　　17 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	7
4	９０％くらい	7
3	８０％くらい	1
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		16

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	9	13
4	ややそう思う	7	3
3	どちらともいえない	0	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		16	16

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	10
4	ややそう思う	3
3	どちらともいえない	3
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		16

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	14
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		16

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	11	11	13	12	11	8	13
4	ややそう思う	4	4	3	4	5	7	3
3	どちらともいえない	0	1	0	0	0	1	0
2	あまりそう思わない	1	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		16	16	16	16	16	16	16

授業科目	ドイツ語上級ＩＡ			担当者	大塚　直		
開講時期	前期	曜日	火	時限	3	アンケート様式	☒講義　☐実習

１この授業における教育方法の特徴

辞書さえあれば、ドイツ語の文献を難なく読み解いていける高度な読解力を養ってゆく。

日本語とドイツ語の言語構造の違いに留意しながら、複雑なドイツ語構文を平易で分かりやすい日本語に置き換えていく実践的な翻訳の技術を学ぶ。

不規則動詞の三基本形を毎回暗記させて小テストを行うなど、基本語彙の定着にも努めた。

ときにはドイツ映画を見せるなどして、ドイツ語圏の世界を親しみ深いものにする努力をした。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

受講登録者は 17 名だが、回答した学生は 16 名だった。

４年生が多いため、教育実習などで欠席者が多かった。しかしながら、毎回小テストを行い、使用テクストを輪読し、付属の問題を解いていく高度な授業内容だったにも関わらず、ほぼすべての学生が毎回予習をして、意欲的に授業に取り組んでくれたことが分かる。

また、履修後に授業で扱った内容に興味・関心を高めたと思う受講生は、「強くそう思う」と回答した学生が全体の 81%、「ややそう思う」が全体の 19%で、合わせると受講生の全員、100%に達した。

上級なので、卒業後の大学院進学や海外留学を想定して、本当にドイツ語を学びたい学生が積極的に受講している様子が、このアンケート結果から見てとれる。

（２）授業について

受講生全体の約８割が「強くそう思う」で、教員の話し方・説明の仕方などがとても分かりやすかったと評価してくれている。

板書の見やすさ、教員の熱心さ、コミュニケーションの取り方などでも、大半の学生が「強くそう思う」で、この授業を高く評価してくれた。

受講生全体の約８割が「強くそう思う」で、この授業全般について総合的に高く評価してくれたことが分かる。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

毎回単語テストを行ったので、予習や準備など学生の負担も大きいと思われたのだが、むしろ受講することで語彙数が増えたのでよかった、と答えてくれた学生がいた。

（４）自由記述より学生からの要望について

特に回答はなかった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

この授業はドイツ語上級ということで、本当にやる気のある学生だけを対象に、高度な授業を展開している。そのため、学生には予習などの準備に毎回負担が大きいと思われるのだが、多くの学生が履修内容を高く評価してくれた。今後も大学院進学や海外留学を考えている学生のために、継続してしっかりとした授業を行っていきたいと思う。

４その他、意見

特になし。

科目　　ドイツ語上級ⅡA　　授業コード　32119

担当　　ジャクリーン・ポルスト　　教室　　図書館視覚室

回答した学生　　6 名

受講登録者　　10 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	2
4	９０％くらい	0
3	８０％くらい	3
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		6

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	4	4
4	ややそう思う	2	2
3	どちらともいえない	0	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		6	6

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	4
4	ややそう思う	2
3	どちらともいえない	0
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		6

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	6
4	延長することが多い	0
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		6

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	5	5	5	6	6	4	5
4	ややそう思う	1	1	1	0	0	0	1
3	どちらともいえない	0	0	0	0	0	2	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		6	6	6	6	6	6	6

科目　　フランス語初級ＩＡ　　授業コード　32120

担当　　水野（角田）　延之　　教室　　奏楽堂第１教室

回答した学生　　13 名

受講登録者　　19 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	6
4	９０％くらい	5
3	８０％くらい	1
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		13

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	3	6
4	ややそう思う	8	6
3	どちらともいえない	2	0
2	あまりそう思わない	0	1
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		13	13

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	0
4	ややそう思う	3
3	どちらともいえない	7
2	あまりそう思わない	2
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		13

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	11
4	延長することが多い	0
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	2
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		13

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	8	4	4	5	7	3	6
4	ややそう思う	4	6	7	5	6	8	6
3	どちらともいえない	0	3	1	2	0	2	0
2	あまりそう思わない	1	0	1	0	0	0	1
1	まったくそう思わない	0	0	0	1	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		13	13	13	13	13	13	13

科目　　フランス語初級ＩＡ　　授業コード　32121

担当　　水野（角田）　延之　　教室　　奏楽堂第１教室

回答した学生　　26 名

受講登録者　　28 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	13
4	９０％くらい	5
3	８０％くらい	7
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		26

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	10	14
4	ややそう思う	9	7
3	どちらともいえない	6	5
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	1	0
	無回答	0	0
小計		26	26

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	7
4	ややそう思う	9
3	どちらともいえない	8
2	あまりそう思わない	2
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		26

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	24
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		26

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	21	16	16	17	18	10	20
4	ややそう思う	2	5	7	7	5	4	3
3	どちらともいえない	2	5	3	2	3	10	3
2	あまりそう思わない	1	0	0	0	0	2	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		26	26	26	26	26	26	26

科目　　フランス語初級ⅡA　　授業コード　32122

担当　　フロリアン・エルゴット　　教室　　奏楽堂第３教室

回答した学生　　14 名

受講登録者　　18 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	5
4	９０％くらい	7
3	８０％くらい	2
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		14

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	8	9
4	ややそう思う	5	5
3	どちらともいえない	1	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		14	14

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	2
4	ややそう思う	4
3	どちらともいえない	7
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		14

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	14
4	延長することが多い	0
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		14

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	13	10	14	14	14	10	12
4	ややそう思う	1	4	0	0	0	3	2
3	どちらともいえない	0	0	0	0	0	1	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		14	14	14	14	14	14	14

科目　　フランス語初級ⅡA　　授業コード　32123

担当　　フロリアン・エルゴット　　教室　　奏楽堂第３教室

回答した学生　　15 名

受講登録者　　24 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	9
4	９０％くらい	6
3	８０％くらい	0
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		15

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	7	8
4	ややそう思う	7	6
3	どちらともいえない	0	1
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	1	0
	無回答	0	0
小計		15	15

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	3
4	ややそう思う	7
3	どちらともいえない	5
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		15

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	15
4	延長することが多い	0
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		15

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	5	4	7	9	9	6	8
4	ややそう思う	8	6	6	6	6	8	6
3	どちらともいえない	2	5	2	0	0	1	1
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		15	15	15	15	15	15	15

科目　　フランス語中級ＩＡ　　授業コード　32124

担当　　フロラン・ペリエ　　教室　　合奏棟第１教室

回答した学生　　11 名

受講登録者　　16 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	3
4	９０％くらい	6
3	８０％くらい	1
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		11

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	1	1
4	ややそう思う	6	7
3	どちらともいえない	3	3
2	あまりそう思わない	1	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		11	11

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	0
4	ややそう思う	4
3	どちらともいえない	7
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		11

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	8
4	延長することが多い	1
3	開始が遅いことが多い	1
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		11

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	2	0	1	3	3	3	2
4	ややそう思う	1	5	1	5	5	3	7
3	どちらともいえない	6	6	7	2	2	5	1
2	あまりそう思わない	1	0	2	1	1	0	1
1	まったくそう思わない	1	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		11	11	11	11	11	11	11

科目　　フランス語中級ⅡA　　授業コード　32125

担当　　水野（角田）　延之　　教室　　図書館視覚室

回答した学生　　14 名

受講登録者　　16 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	2
4	９０％くらい	11
3	８０％くらい	0
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		14

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	3	7
4	ややそう思う	9	5
3	どちらともいえない	2	2
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		14	14

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	3
4	ややそう思う	3
3	どちらともいえない	5
2	あまりそう思わない	3
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		14

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	10
4	延長することが多い	3
3	開始が遅いことが多い	1
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		14

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	9	7	6	5	7	5	6
4	ややそう思う	5	6	6	8	7	5	8
3	どちらともいえない	0	1	2	1	0	3	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	1	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		14	14	14	14	14	14	14

科目　　イタリア語初級ＩＡ　　授業コード　32126

担当　　水野　留規　　教室　　中リハーサル室

回答した学生　　33 名

受講登録者　　29 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	17
4	９０％くらい	14
3	８０％くらい	2
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		33

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	9	13
4	ややそう思う	12	10
3	どちらともいえない	11	6
2	あまりそう思わない	1	4
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		33	33

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	7
4	ややそう思う	8
3	どちらともいえない	12
2	あまりそう思わない	3
1	まったくそう思わない	3
	無回答	0
小計		33

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	20
4	延長することが多い	7
3	開始が遅いことが多い	5
2	早く終わることが多い	1
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		33

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	3	7	3	4	4	13	4
4	ややそう思う	6	7	3	11	11	6	10
3	どちらともいえない	6	8	12	11	8	8	11
2	あまりそう思わない	11	8	8	2	4	4	4
1	まったくそう思わない	7	3	7	5	6	2	4
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		33	33	33	33	33	33	33

授業科目	イタリア語初級 Ia			担当者	水野、バローネ		
開講時期	前期	曜日	月	時限	3	アンケート様式	☒講義 ☐実習

１この授業における教育方法の特徴
基本的に文法の学習をしているが、実用的な表現を学んだり、対話を体験したりする活動も行っている。
学期末には試験をするが、試験についても筆記の部分と、表現の部分がある。

２アンケート結果の所見
（１）受講した学生自身について
１年生が多く、とくに声楽は大半の者が履修している。美術の学生にも履修する者が増えてきているが、中級に進む者はあまり多くない。

（２）授業について
解説や練習問題に充てられる時間が長いが、授業の最後には二人組または三人組の対話をさせている。教師は学生の対話を聞いて、感想を述べ、優れた発表には二重丸を与えている。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて
とくに記述がなかった。

（４）自由記述より学生からの要望について
明瞭に話すように心掛けたつもりだが、聞き取りにくいという指摘がある。マイクを使うべきか考える。
教材について一考してほしいと意見されたが、どの教材も似たり寄ったりで対応は難しい。
スピードがはやいとの指摘は論外、これ以上ゆっくり進むなどありえない。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）
同じように授業をしても、年度によって学生の反応が大きく異なり、すこし戸惑っている。
教室を小さくする、教員が二つのクラスを隔週で移動する、など検討したい。

４その他、意見

科目　　イタリア語初級ＩA　　授業コード　32127

担当　　ロムアルド・バローネ　　教室　　図書館視覚室

回答した学生　　16 名

受講登録者　　22 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	6
4	９０％くらい	7
3	８０％くらい	2
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		16

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	3	5
4	ややそう思う	8	6
3	どちらともいえない	3	5
2	あまりそう思わない	2	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		16	16

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	2
4	ややそう思う	4
3	どちらともいえない	6
2	あまりそう思わない	3
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		16

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	12
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	1
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		16

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	2	3	1	3	3	6	3
4	ややそう思う	4	6	7	8	6	5	9
3	どちらともいえない	6	5	4	3	4	4	2
2	あまりそう思わない	3	1	2	1	0	0	1
1	まったくそう思わない	1	1	2	1	3	1	1
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		16	16	16	16	16	16	16

科目　　イタリア語初級ⅡA　　授業コード　32128

担当　　パペッテ・マシィミリアーノ　　教室　　中リハーサル室

回答した学生　　29 名

受講登録者　　34 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	19
4	９０％くらい	6
3	８０％くらい	4
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		29

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	19	20
4	ややそう思う	9	8
3	どちらともいえない	1	1
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		29	29

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	7
4	ややそう思う	8
3	どちらともいえない	7
2	あまりそう思わない	3
1	まったくそう思わない	4
	無回答	0
小計		29

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	24
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	3
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		29

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	23	19	25	28	25	20	26
4	ややそう思う	5	7	4	1	4	2	3
3	どちらともいえない	1	2	0	0	0	2	0
2	あまりそう思わない	0	1	0	0	0	3	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	2	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		29	29	29	29	29	29	29

科目　　イタリア語中級ＩＡ　　授業コード　32130

担当　　水野　留規　　教室　　中リハーサル室

回答した学生　　19 名

受講登録者　　21 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	6
4	９０％くらい	10
3	８０％くらい	2
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		19

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	8	12
4	ややそう思う	8	4
3	どちらともいえない	3	3
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		19	19

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	8
4	ややそう思う	6
3	どちらともいえない	5
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		19

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	14
4	延長することが多い	4
3	開始が遅いことが多い	1
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		19

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	10	12	9	11	11	11	12
4	ややそう思う	2	2	4	2	2	3	3
3	どちらともいえない	3	3	3	4	3	4	2
2	あまりそう思わない	3	2	2	1	1	1	2
1	まったくそう思わない	1	0	1	1	2	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		19	19	19	19	19	19	19

授業科目	イタリア語中級 Ia			担当者	水野留規		
開講時期	前期	曜日	月	時限	5	アンケート様式	☒講義 ☐実習

１この授業における教育方法の特徴
初級で学んだ基礎文法の理解を確認しつつ、次のレベルに移行するために必要な知識をつける。授業は比較的大勢の学生を相手に実施したが、個々の学生と対面式で接する機会も設けた。

２アンケート結果の所見
（１）受講した学生自身について
出席状況はまずまず。おとなしい学生が多いように感じた。後期は同じ時間帯に教職の授業が入るので、多くの学生が前期のみの履修となる。

（２）授業について
耐震工事のため、普段使わない教室で行った。そのため設備などの点で授業がしにくかった。開始時間、終了時間は正しく守られていた。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて
５月にイタリアに居住する日本人の音楽家（３月のサレルノ大学での語学・文化研修で本学の派遣学生たちが世話になっている人）をゲストに招いて、いろいろな話を聞くことができた。学生たちに感想を聞いたところ、たいへん興味深かったと答えた学生が多かった。

（４）自由記述より学生からの要望について
少し難しく感じたところがあったようで、丁寧な説明を心掛けないといけないと思う。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）
この授業は文法学習が中心になる。文法が苦手な学生にはさらに分かりやすく解説するようにしたい。
会話の授業ではないので、とくに新奇な試みや目新しいことをする必要はないと思う。

４その他、意見

科目　　イタリア語中級ⅡA　　授業コード　32131

担当　　パペッテ・マシィミリアーノ　　教室　　講義棟第６講義室

回答した学生　　27 名

受講登録者　　27 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	19
4	９０％くらい	3
3	８０％くらい	4
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		27

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	20	21
4	ややそう思う	3	5
3	どちらともいえない	4	1
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		27	27

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	14
4	ややそう思う	7
3	どちらともいえない	6
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		27

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	26
4	延長することが多い	0
3	開始が遅いことが多い	1
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		27

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	25	25	24	25	25	25	26
4	ややそう思う	1	1	2	1	1	0	0
3	どちらともいえない	1	1	1	1	1	2	1
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		27	27	27	27	27	27	27

科目　　哲学B　　授業コード　31101

担当　　中　敬夫

教室　　講義棟第６講義室　　開講曜日・時間　　月曜日　　3

受講登録者　　121 名　　回答した学生　　33 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	5
4	９０％くらい	15
3	８０％くらい	9
2	７０％くらい	4
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		33

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	3	7
4	ややそう思う	14	13
3	どちらともいえない	12	9
2	あまりそう思わない	4	2
1	まったくそう思わない	0	2
	無回答	0	0
小計		33	33

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	13
4	ややそう思う	8
3	どちらともいえない	12
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		33

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	25
4	延長することが多い	4
3	開始が遅いことが多い	2
2	早く終わることが多い	2
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		33

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	12	13	11	17	6	12	9
4	ややそう思う	10	9	12	10	14	10	16
3	どちらともいえない	6	6	5	5	8	9	4
2	あまりそう思わない	4	5	5	1	2	2	3
1	まったくそう思わない	1	0	0	0	3	0	1
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		33	33	33	33	33	33	33

授業科目	哲学 B			担当者	中　敬夫		
開講時期	後期	曜日	月	時限	3	アンケート様式	☒講義　☐実習

1 この授業における教育方法の特徴

1）本授業のねらい

本年度後期「哲学B」のテーマは、「現代哲学における『他者』問題の動向」である。現代哲学における「他者」問題の動向を、近世哲学の始祖デカルトから始めて、現代現象学の他者論を中心に紹介、検討してゆく。

〈授業の目的〉

現代哲学における「他者」問題の動向を、デカルトから始めてフッサール、ハイデッガー、サルトル、レヴィナス等を中心に考察してゆくことによって、哲学的な考え方を身につける。そのさいマリオン、ヘルトなど、現役世代の諸々の解釈も併せて紹介し、検討してゆく。

〈到達目標〉

・哲学的な考え方を学ぶことができる。

・「他者」問題の意義と意味とを自ら考察する手掛かりを得ることができる。

・現代哲学の中心課題の一つを学ぶことができる。

2）本授業における教育方法の工夫点

毎回講義内容を要約したプリントと、扱う哲学者の文章の翻訳をコピーしたものとを配布し、授業の理解をより平易にするとともに、自己の関心に合わせて学生が自ら読書するきっかけを与えるように工夫してある。特に今年度の「哲学 B」に関しては、筆者（中）が今執筆中で、来年度中には出版する予定の他者論の著作の原稿のなかからのコピーも、ほとんど毎回にように配布して、現在進行中の思索の醍醐味を、可能な限り伝えようと努めた。

2 アンケート結果の所見

（1）受講した学生自身について

出席率に関しては 90%くらいが最も多く、次いで 80%くらい、100%、70%くらいの順だった。「意欲」と「興味・関心」に関する問いでは、両者とも「ややそう思う」が最も多く、次いで「どちらともいえない」の順であった。アンケート時の学生には熱心な者が多かったように思う。

（2）授業について

授業についての質問に関しては大体高評価が多かったが、「どちらともいえない」が最も多かったのは、「シラバス」が役に立ったか、という質問であった。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

「毎日くばられるプリントがくわしくて分かりやすい」が二件、他に「単に教養科目というだけでなく、先生が伝えたい事を熱心に伝えられており、専門性が高いように感じました」、「プリントが多くて良いと思った」といった意見があった。

（4）自由記述より学生からの要望について

「もう少しカンタンにしてほしい」、「参考文献とかおすすめ本とか教えてもらえるとよかった」、「足もとがとても寒い。暖房の効きがあまりよくない。さむい」という意見があった。

3 今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

・哲学の授業に一定のレヴェルを保とうとすると、どうしても多少は難しくなってしまうが、出来る限り「カンタン」にする努力は、今まで通り継続してゆきたい。

・今回のようにプリントが評価されたことは今まであまりなかったので、このような工夫は続けたい。

・参考文献は初回に挙げてあるのだが、忘れてしまう学生が多いのだろう。

・講義棟が寒いというのは、大学のほうで何とかして戴きたい。

4 その他、意見

・毎回思うことだが、受講生 121 名のなか、最後の講義に出席してアンケートに答えたのが 33 名だった。声なき声をどう捉えるのか――もともとそれほど熱心でないのにとりあえず受講届けを出すような学生が多かったのか、それとも最初は意欲に満ちていたのに次第に授業に幻滅していったのか――本当のところはアンケートだけではよく分からない。アンケート結果を参考にするとともに、アンケートには現れてこない面も、併せて考えてゆかなければならないと思う。

科目　　日本文化史B　　授業コード　31102

担当　　二瓶　浩明

教室　　講義棟第４講義室　　開講曜日・時間　　金曜日　　4

受講登録者　　83 名　　回答した学生　　27 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	4
4	９０％くらい	5
3	８０％くらい	10
2	７０％くらい	7
1	６０％以下	1
	無回答	0
小計		27

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	6	8
4	ややそう思う	6	12
3	どちらともいえない	12	6
2	あまりそう思わない	3	1
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		27	27

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	10
4	ややそう思う	8
3	どちらともいえない	8
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		27

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	16
4	延長することが多い	4
3	開始が遅いことが多い	5
2	早く終わることが多い	2
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		27

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	17	13	15	18	11	16	15
4	ややそう思う	4	8	6	4	5	3	7
3	どちらともいえない	5	5	5	4	8	5	4
2	あまりそう思わない	1	1	1	1	2	3	1
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	1	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		27	27	27	27	27	27	27

授業科目	日本文化史 B			担当者	二瓶 浩明		
開講時期	後期	曜日	金	時限	4	アンケート様式	☒講義 ☐実習

１この授業における教育方法の特徴

さまざまなジャンル、分野の芸術家たちの自叙伝を読んだ。大学で学んだことを基盤にこれから身を立ててゆく若い学生たちを励まし、先人たちがどうやって苦難を乗り越えてきたのかを伝えたつもりであるが、こうした目論見はほぼ成功したと言って良いだろう。

２アンケート結果の所見

（1） 受講した学生自身について

問３「この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味･関心が高まりましたか」に対して、「強くそう思う」が２７名中８名、「ややそう思う」が１２名いた。ちなみに「どちらともいえない」は６名、「あまりそう思わない」は１名。それにしても、この授業が登録者８３名なのに、回答した者が２７名ということは、この日の出席者が２７名しかいなかったということであり、本授業のみならず、出席、そして勉強の成果ということについて、すべての授業科目において、全般的に考え直すべき時期が到来しているといえようか？

（2） 授業について

問１２「授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか」については、「強くそう思う」が２７名中１５名、「ややそう思う」が７名、「どちらともいえない」が４名であった。問９「教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか」については、「強くそう思う」が２７名中１８名、「ややそう思う」が４名、「どちらともいえない」が４名いた。気になるのは、発問の全項目「あまりそう思わない」と答えた学生が１名いたことであり、まぁ、こんな者もいるということで、「まったくそう思わない」という者がいなかったことを喜ぶべきか。やれやれ。

（3） 自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

「色々な人の人生を少しずつ知れて良かった」「先生の話の端々に見えてくる価値観、好きでした」。
以上が学生たちの記載事項のすべて。
私は本年度に定年退官するので、こうした授業は２度とすることはないが、本学の学生たちはもっと色々なことを主張、発言すべきだと思うのだが、ダンマリを決め込む者が多くて、困ったもんだ。

（4） 自由記述より学生からの要望について

何もなし。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

今年が定年前の最後の授業になる訳だが、これからもあちこちで話すであろう授業や講演に役立てたいと思っている。

４その他、意見

なし

科目　　外国文学B　　授業コード　31103

担当　　茨木　博史

教室　　講義棟第５講義室　　開講曜日・時間　　木曜日　　4

受講登録者　　81 名　　回答した学生　　31 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	6
4	９０％くらい	9
3	８０％くらい	10
2	７０％くらい	5
1	６０％以下	1
	無回答	0
小計		31

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	8	12
4	ややそう思う	11	11
3	どちらともいえない	11	6
2	あまりそう思わない	1	2
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		31	31

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	9
4	ややそう思う	9
3	どちらともいえない	11
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		31

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	27
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	1
2	早く終わることが多い	1
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		31

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	19	15	17	19	14	15	18
4	ややそう思う	10	13	12	10	10	9	12
3	どちらともいえない	2	3	2	2	6	7	1
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	1	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		31	31	31	31	31	31	31

科目　　言語学B／異文化コミュニケーショ授業コード　31104

担当　　井上　彩

教室　　講義棟第３講義室　　開講曜日・時間　　月曜日　　5

受講登録者　　16 名　　回答した学生　　10 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	2
4	９０％くらい	4
3	８０％くらい	4
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		10

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	5	8
4	ややそう思う	5	2
3	どちらともいえない	0	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		10	10

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	6
4	ややそう思う	2
3	どちらともいえない	2
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		10

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	10
4	延長することが多い	0
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		10

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	10	10	10	10	9	9	10
4	ややそう思う	0	0	0	0	1	1	0
3	どちらともいえない	0	0	0	0	0	0	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		10	10	10	10	10	10	10

授業科目	言語学・異文化コミュニケーション B			担当者		井上　彩	
開講時期	後期	曜日	月	時限	5	アンケート様式	☒講義　☐実習

１この授業における教育方法の特徴

この授業の目的は講義だけでなく履修者によるディスカッション、グループワーク、発表といったアクティブ・ラーニングによる学習法を通じて社会における言葉によるコミュニケーションの諸相を学び、言語使用と社会の関係を探り、言葉をそれが使われるコンテキストや社会的要因とともに分析することである。分析のツールとして社会言語学の分野でよく議論される言語現象や分析の方法論を教員が紹介し、社会言語学の基礎概念や言語現象を分析する視点を学ぶ。教員による講義の後で履修者はグループごとのディスカッションを行い、話し合いの内容を代表者がクラス全体に報告する。または、各自がリフレクションシートを用いて学修した言語現象の例を自分の知っている言語・地域・方言に関する情報から見つけてそれをクラスに紹介してもらうこともある。学期の最後には学生それぞれがレポートのトピックとして選んだ社会言語学に関する言語現象とそれについてどのようにリサーチを行うかということについて一人ずつ発表を行う。学生による積極的な参加を前提とすることがこの授業の特徴である。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

出席状況は 90%以上が 60%、80%以上を含めると 100%と良好であった。授業への意欲に関して、100%がこの授業に意欲的に取り組んだと回答している。また、100%が授業内容への興味・関心が高まったと答えている。前期と比べると履修者数は減っているが、学生の授業への意欲や興味・関心はより高まっている。

（２）授業について

問６の話し方や話すスピードは適切か、問７の使った板書・プリントや提示資料は見やすかったか、について 100%の学生が「強くそう思う」と答えている。後期は耐震工事による教室変更が終わり、通常の教室に戻ったため、より教員の声が届きやすく、資料も見やすい環境になったためと考えられる。問８「教員の説明の仕方はわかりやすかったですか」に対して、100%の学生が「強くそう思う」と答えている。また、問９「教員はよく準備し、熱心に教えているか」に対しても 100%の学生が「強くそう思う」と答えている。また、問１２の「総合的によい授業だった」に対しても 100%の学生が「強くそう思う」と答えている。問10「教員とコミュニケーションはとれていましたか」に関して、「そう思う」と答えた学生は 100%であった。全体的に授業についての学生による評価は非常に高かった。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

「後期もグループディスカッションや発表があって、意見を共有できてよかったです！」という記述があった。また「色んな人の色んなエピソードがきけておもしろかったです。」という記述も寄せられた。その他によかったと判断している点として、「先生が楽しそうに講義するのが良かった。こちらも学びたいと思える講義でした。」という意見があった。教員が楽しそうに講義をしているかどうか、という点は自分ではこれまであまり考えたことがなかった点であるが、貴重な意見をもらったと思う。今後もより意識的に講義内容に関する教員の熱意や興味を「楽しそうに」学生に伝えることができるよう心掛けていきたい。

（４）自由記述より学生からの要望について

特になし。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

好評であったアクティブ・ラーニングの教育手法は維持しつつも、講義内容や配布資料も一層充実させて、学生が授業から得られる知識面の情報量にも十分なものであるように配慮したい。また、学生同志の学びあいを奨励するという点に関しては、一緒に授業を受けている学生同志だけでなく、違う年度に履修する学生にも広げられないかと考えている。具体的には、芸大の学生ならではの視点と経験に基づいて書かれたレポートの内容を（許可を得た学生のものに関してのみ）、次年度以降の授業中に手短に紹介するなどして、今後の学生の学びに役立てることを考えている。

４その他、意見

特になし。

科目　　日本史B　　授業コード　31105

担当　　勝亦　貴之

教室　　講義棟第６講義室　　開講曜日・時間　木曜日　4

受講登録者　33 名　　回答した学生　22 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	6
4	９０％くらい	4
3	８０％くらい	7
2	７０％くらい	5
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		22

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	8	10
4	ややそう思う	4	7
3	どちらともいえない	8	4
2	あまりそう思わない	2	1
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		22	22

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	10
4	ややそう思う	7
3	どちらともいえない	4
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		22

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	19
4	延長することが多い	3
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		22

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	16	16	15	16	9	15	12
4	ややそう思う	3	2	4	3	3	3	5
3	どちらともいえない	2	3	2	2	5	4	4
2	あまりそう思わない	1	1	1	1	4	0	1
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	1	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		22	22	22	22	22	22	22

科目　　日本国憲法
（音楽）

授業コード　31106

担当　　築山　欣央

教室　　新講義棟大講義室

開講曜日・時間　　木曜日　　3

受講登録者　　92 名

回答した学生　　69 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	27
4	９０％くらい	24
3	８０％くらい	15
2	７０％くらい	3
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		69

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	10	14
4	ややそう思う	20	13
3	どちらともいえない	24	20
2	あまりそう思わない	13	14
1	まったくそう思わない	2	8
	無回答	0	0
小計		69	69

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	18
4	ややそう思う	18
3	どちらともいえない	17
2	あまりそう思わない	10
1	まったくそう思わない	6
	無回答	0
小計		69

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	46
4	延長することが多い	13
3	開始が遅いことが多い	7
2	早く終わることが多い	3
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		69

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	24	22	18	28	14	33	23
4	ややそう思う	17	20	14	21	14	18	17
3	どちらともいえない	13	10	15	10	20	13	12
2	あまりそう思わない	8	10	10	5	10	4	11
1	まったくそう思わない	5	6	11	4	10	0	5
	無回答	2	1	1	1	1	1	1
小計		69	69	69	69	69	69	69

科目　　心理学B　　授業コード　31107

担当　　三宮　敦生

教室　　講義棟第１講義室　　開講曜日・時間　　水曜日　　5

受講登録者　　120 名　　回答した学生　　80 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	22
4	９０％くらい	32
3	８０％くらい	20
2	７０％くらい	5
1	６０％以下	0
	無回答	1
小計		80

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	39	52
4	ややそう思う	28	18
3	どちらともいえない	11	7
2	あまりそう思わない	1	2
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	1	1
小計		80	80

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	35
4	ややそう思う	20
3	どちらともいえない	19
2	あまりそう思わない	5
1	まったくそう思わない	0
	無回答	1
小計		80

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	65
4	延長することが多い	6
3	開始が遅いことが多い	6
2	早く終わることが多い	1
1	よくわからない	1
	無回答	1
小計		80

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	63	58	62	60	43	51	59
4	ややそう思う	11	12	10	15	16	16	14
3	どちらともいえない	4	8	6	3	17	9	4
2	あまりそう思わない	1	1	1	1	2	3	1
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	1	0	0
	無回答	1	1	1	1	1	1	2
小計		80	80	80	80	80	80	80

授業科目	心理学 B				担当者	三宮敦生	
開講時期	後期	曜日	水	時限	5	アンケート様式	☒講義 □実技・実習

１この授業における教育方法の特徴

この授業では、主として社会心理学における対人関係分野を扱った。その内容を具体的に述べると援助行動、攻撃行動、印象形成、自己、ノンバーバル・コミュニケーション、説得的コミュニケーション、対人魅力、青年期の人間関係などである。授業形態は典型的な講義形式であるが、毎時間簡単な心理テストを課して、自分自身を知る助けとした。また、理論的な内容は徹底的に図解して解説することにより、理解の促進と定着を図った。

２アンケート結果の所見（回答者 76 名）

（１）受講した学生自身について

・出席率 90%以上の受講者は 68%であった。後期の 5 限の授業としては、出席率はまずまずかと思われる。
・「あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか」に対して、「強くそう思う」が 49%、「ややそう思う」が 35%であった。まずは意欲的な受講態度であったと思われる。
・「この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか」に対して、「強くそう思う」が 65%、「ややそう思う」が 23%であった。受講者は授業内容に興味・関心を十分示してくれたと思われる。

（２）授業について

・「シラバスは授業の選択に役立ちましたか」に対して、「強くそう思う」が 44%、「ややそう思う」が 25%、「どちらともいえない」が 24%であった。昨年度も指摘したことであるが、この質問は、「シラバスどおりに授業は行われましたか」といったものに変更する方がよいと思われる。
・「授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか」に対して、「ほぼ時間どおり」が 81%であった。この授業は、前の時間の教育心理学と連続であるため、遅刻しないように十分気をつけたが、学生たちは一定の評価をしてくれたと思われる。
・「教員の話し方、話すスピードは適切でしたか」に対して、「強くそう思う」が 79%、「ややそう思う」が 14%であった。話し方とスピードは十分に適切であったと思われる。
・「板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか」に対して、「強くそう思う」が 73%、「ややそう思う」が 15%であった。本授業は板書中心の授業であるが、黒板の小ささが気になることが多かった。
・「教員の説明の仕方は分かりやすかったですか」に対して、「強くそう思う」が 78%、「ややそう思う」が 13%であった。この授業はまずまず分かりやすい授業であったといえる。
・「教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか」に対して、「強くそう思う」が 75%、「ややそう思う」が 19%であった。教員側の熱意は十分に伝わったと思われる。
・「教員とコミュニケーションはとれていましたか」に対して、「強くそう思う」が 54%、「ややそう思う」が 20%であった。授業冒頭で、前回の授業のコメントペーパーに対するレスポンスをするように心がけたことが一定の評価を得たものと思われる。講義形式の授業の限界を反映しているのも確かであるが。
・「教室・設備については適切でしたか」に対して、「強くそう思う」が 64%、「ややそう思う」が 20%であった。授業をする側としては、教室・設備が適切とは到底思えないが、「強くそう思う」が 64%もいることは驚きである。
・「授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか」に対して、「強くそう思う」が 74%、「ややそう思う」が 18%であった。この結果はまずまずであったと思われる。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

・「説明がとても分かりやすかった」、「心理テストが楽しかった」、「とてもおもしろい授業で楽しかった」といった感想が寄せられた。学生にとって身近なトピックスを扱うことを心がけたが、その狙いはある程度成功したようである。

（４）自由記述より学生からの要望について

・「人数に対して部屋が狭かった」との指摘があった。部屋の問題は如何ともしがたい。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

・授業内容の精選にさらに工夫を加えていきたい。来年度は行動経済学のトピックスを含めたい。

４その他、意見

・特になし

科目　　基礎物理学B　　授業コード　31108

担当　　馬宮　孝好

教室　　物理・化学実験室　　開講曜日・時間　　水曜日　　3

受講登録者　　27 名　　回答した学生　　7 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	3
4	９０％くらい	0
3	８０％くらい	4
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		7

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	4	5
4	ややそう思う	1	2
3	どちらともいえない	1	0
2	あまりそう思わない	1	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		7	7

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	4
4	ややそう思う	2
3	どちらともいえない	1
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		7

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	6
4	延長することが多い	1
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		7

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	3	3	3	3	4	3	3
4	ややそう思う	2	1	1	2	0	0	1
3	どちらともいえない	0	2	0	2	2	1	3
2	あまりそう思わない	1	1	2	0	1	3	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	1	0	1	0	0	0	0
小計		7	7	7	7	7	7	7

科目　　社会学B　　授業コード　31109

担当　　中根　多恵

教室　　講義棟第１講義室　　開講曜日・時間　　火曜日　　4

受講登録者　　77 名　　回答した学生　　53 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	10
4	９０％くらい	25
3	８０％くらい	15
2	７０％くらい	2
1	６０％以下	1
	無回答	0
小計		53

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	19	29
4	ややそう思う	23	18
3	どちらともいえない	11	5
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	1
小計		53	53

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	28
4	ややそう思う	14
3	どちらともいえない	10
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		53

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	47
4	延長することが多い	3
3	開始が遅いことが多い	3
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		53

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	44	39	41	43	24	34	42
4	ややそう思う	6	11	8	7	17	12	9
3	どちらともいえない	3	3	4	3	11	7	2
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	1	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		53	53	53	53	53	53	53

科目　　数学B　　授業コード　31110

担当　　加納　成男

教室　　芸術資料館演習室　　開講曜日・時間　　月曜日　　5

受講登録者　　81 名　　回答した学生　　43 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	5
4	９０％くらい	22
3	８０％くらい	15
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		43

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	6	7
4	ややそう思う	10	5
3	どちらともいえない	15	14
2	あまりそう思わない	7	10
1	まったくそう思わない	5	6
	無回答	0	1
小計		43	43

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	9
4	ややそう思う	11
3	どちらともいえない	14
2	あまりそう思わない	4
1	まったくそう思わない	5
	無回答	0
小計		43

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	24
4	延長することが多い	7
3	開始が遅いことが多い	11
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		43

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	17	17	12	16	11	17	13
4	ややそう思う	9	5	9	10	5	7	9
3	どちらともいえない	12	11	14	13	13	14	15
2	あまりそう思わない	4	5	4	1	6	3	3
1	まったくそう思わない	1	5	4	3	8	2	3
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		43	43	43	43	43	43	43

科目　　自然科学史B　　授業コード　31111

担当　　吉山　青翔

教室　　講義棟第３講義室　　開講曜日・時間　　木曜日　　4

受講登録者　　16 名　　回答した学生　　8 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	1
4	９０％くらい	3
3	８０％くらい	3
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		8

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	2	2
4	ややそう思う	5	5
3	どちらともいえない	1	1
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		8	8

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	1
4	ややそう思う	6
3	どちらともいえない	1
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		8

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	6
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		8

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	3	3	3	6	2	6	5
4	ややそう思う	5	4	5	2	5	2	2
3	どちらともいえない	0	0	0	0	1	0	1
2	あまりそう思わない	0	1	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		8	8	8	8	8	8	8

科目　　自由研究ゼミナールⅡ　　授業コード　31112

担当　　水野　留規

教室　　奏楽堂第３教室　　開講曜日・時間　　木曜日　　5

受講登録者　　65 名　　回答した学生　　43 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	15
4	９０％くらい	20
3	８０％くらい	8
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		43

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	22	22
4	ややそう思う	16	16
3	どちらともいえない	5	5
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		43	43

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	16
4	ややそう思う	11
3	どちらともいえない	14
2	あまりそう思わない	2
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		43

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	23
4	延長することが多い	10
3	開始が遅いことが多い	6
2	早く終わることが多い	3
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		43

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	22	23	25	25	25	21	26
4	ややそう思う	7	8	8	11	8	10	12
3	どちらともいえない	11	8	6	5	7	12	5
2	あまりそう思わない	1	3	2	1	2	0	0
1	まったくそう思わない	2	1	2	1	1	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		43	43	43	43	43	43	43

授業科目	自由研究ゼミナールII			担当者		水野留規	
開講時期	後期	曜日	月	時限	4	アンケート様式	☒講義 ☐実習

1この授業における教育方法の特徴

前期に開講している「西洋の古典文芸」との関連において、西洋の文学作品を音楽や美術で表現する。年度によっては外部のホールで発表しているが、今年度は学内の室内楽ホールで、国際交流に絡めて発表の機会を作った。

2アンケート結果の所見

（1）受講した学生自身について

学生たちは自分たちの実技面での能力を発揮することができ、そのことは意欲的な取り組みにつながっていると思う。しかし実技の授業であるかのような錯覚をしてしまう学生がいて、今回も（教師である私との意思疎通がおそらく十分でなかったことに起因して）授業の趣旨に添わない意見を述べる者がいた。そうした学生とは対話をいつも試みて、認識を改めてもらうようにしている。

（2）授業について

この授業はタイトルからも理解されるように、学生たちにもっぱら知識をつけさせようとするものではない。また教員もこの授業を持たないといけないわけではなく、かなり大きな負担を強いられるにもかかわらず、10 年近くにわたって毎年自発的に担当している。一般の講義科目や演習科目では実施することが困難な取り組みを、履修者たちといっしょになってやることの意義はあると思っている。履修者にはこの授業がもつ意味や目的をしっかりと理解させることが必要だと思う。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

専攻の異なる学生たちといっしょにプログラムを作り、発表すること。
物語を演劇化したり、音楽や美術で表現したりすること。
外国の音楽・演劇関係者と交流ができたこと。

（4）自由記述より学生からの要望について

3今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

発表にいたるまでには、一部の学生と意見の相違などもあったが、対話によって解決の糸口を探るようにした。発表が迫っているのに練習に人が集まらないなど危うい局面もあった。これは発表の中で演技があったからで、演技を入れることの難しさを改めて痛感した。他方において演技があったからこそ発表が素晴らしいものとなった面もあり、これは過去の企画においても直面した問題である。発表には学外からの来場者を含めて８８名の方が来てくださり、学生たちはかなり緊張したようである。海外の協定校からこの催しのためにはるばる来てもらった方々にも感謝したい。来年度は少し研究的な要素を含めた企画を組みたいと思う。

4その他、意見

科目　　外国文化史　　授業コード　31113

担当　　水野　留規

教室　　芸術資料館演習室　　開講曜日・時間　　火曜日　　5

受講登録者　　68 名　　回答した学生　　40 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	7
4	９０％くらい	18
3	８０％くらい	14
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		40

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	11	20
4	ややそう思う	22	16
3	どちらともいえない	7	4
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		40	40

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	12
4	ややそう思う	17
3	どちらともいえない	11
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		40

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	22
4	延長することが多い	10
3	開始が遅いことが多い	4
2	早く終わることが多い	4
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		40

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	23	16	24	26	18	12	25
4	ややそう思う	9	12	10	8	8	15	10
3	どちらともいえない	6	12	6	6	11	11	4
2	あまりそう思わない	2	0	0	0	2	1	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	1	1	1
小計		40	40	40	40	40	40	40

授業科目	外国文化史			担当者	水野留規		
開講時期	後期	曜日	火曜	時限	5	アンケート様式	☒講義 ☐実習

1この授業における教育方法の特徴

講義形式で西洋の歴史文化を学ぶ。年度によっては面接試験を実施して、履修者との対話の機会を設けている。今回は期末試験とレポートを課した。

2アンケート結果の所見

（1）受講した学生自身について

１年生が多いが、授業で扱う歴史や思想などに大きな興味を抱いてくれた。集中して講義を聞いてくれると教師としてはやりやすい。ときおり時事問題などをはさみ、現代との関連に気づかせるようにした。教師の話し方やスピードが適切と答えた者が多かったのは、前回がそうではなかったのでよかった。

（2）授業について

映像を見せることは関心を引くようで、アンケートの結果にも表れている。また最後の授業は協定校のサレルノ大学教員に話してもらい、たいへん好評であった。内容もそれまで私が話してきたものとは異なり、イタリアの現実が生き生きと紹介されたので、新鮮な感じがしたのであろう。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

ゲストスピーカーとしてサレルノ大学教員に話してもらったこと。
レポートの内容を学生自身に決めさせるようにしたこと。
テキストに沿って講義をしたこと。

（4）自由記述より学生からの要望について

映像機器の不具合がときどきあったので、前もってチェックするようにしたい。前の時間に授業があって難しいが、昼休みなどを利用してやるほうがいいと思う。

3今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

とくに悪い結果ではなかったので、来年度もこれまで通りやろうと思う。映像資料についてはつねに新しいもの、珍しいもの、興味を引きそうなものを渉猟し、授業用に編集するなどの作業もこれまで通りやりたい。

4その他、意見

科目　　日本の古典文芸　　授業コード　31114

担当　　二瓶　浩明

教室　　講義棟第４講義室　　開講曜日・時間　　月曜日　　5

受講登録者　　64 名　　回答した学生　　39 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	6
4	９０％くらい	17
3	８０％くらい	13
2	７０％くらい	2
1	６０％以下	1
	無回答	0
小計		39

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	8	13
4	ややそう思う	10	15
3	どちらともいえない	15	10
2	あまりそう思わない	6	1
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		39	39

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	9
4	ややそう思う	17
3	どちらともいえない	9
2	あまりそう思わない	3
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		39

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	32
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	3
2	早く終わることが多い	2
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		39

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	23	15	17	25	8	15	18
4	ややそう思う	7	14	10	11	13	16	14
3	どちらともいえない	6	7	9	2	16	6	7
2	あまりそう思わない	2	3	3	1	2	2	0
1	まったくそう思わない	1	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		39	39	39	39	39	39	39

授業科目	日本の古典文芸			担当者	二瓶 浩明		
開講時期	後期	曜日	月	時限	5	アンケート様式	☒講義 ☐実習

１この授業における教育方法の特徴

旅という観点から日本の文芸を読む。こうした視点でもって文学史を読み直し、広く日本の古典文芸に対して新たな興味をかき立てることを目的とする。

２アンケート結果の所見

（１） 受講した学生自身について

かなり多くの学生たちが強い興味と関心を示したが、今までおよそ古典文学に触れることもなく、今後ともほとんど体系だった学習をする機会もないであろう学生たちにとって、この授業が有益なものであったことが結果として示されている。

（２） 授業について

問１２「授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか」については、「強くそう思う」が３９名中１８名、「ややそう思う」が１４名、「どちらともいえない」が７名であった。問９「教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか」については、「強くそう思う」が３９名中２５名、「ややそう思う」が１１名、「どちらともいえない」が２名いた。イヤハヤと思ったのは「まったくそう思わない」と答えた学生が１名いたことであり、こういう学生はなにを考えているのだろうと悲しくなるのだが、まぁ、こんな者もいるということで、教育の難しさを痛感したと、とりあえずは言っておこうか。

（３） 自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

「普段名前はしっていても読んだことのない作品を知る事ができ良かったです。先生の身振り手振りでの授業は劇をみているようで楽しかったです」「授業に対する先生の熱意」「先生のユーモア」「先生は毎回熱心に作品を語っていました」「一つの授業を受けると落語を一つ聞いたようで、楽しかった。自分で読むだけより印象的に思い出せる。」「教員の語り口が面白くて物語に入りこめることができました」「古典はあまり好きではなかったけど、二瓶先生が面白いので楽しめた」。以上が学生たちの記載事項のすべて。

（４） 自由記述より学生からの要望について

ここには二件の記述があった。「板書がよくわからない感じになる」「映像があればみしてくださった方が分かりやすいです」。しっかり受け止めたいと思う。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

今年が定年前の最後の授業になる訳だが、これからもあちこちで話すであろう授業や講演に役立てたいと思う。

４その他、意見

なし

科目　　日本の近現代演劇　　授業コード　31115

担当　　二瓶　浩明

教室　　講義棟第４講義室　　開講曜日・時間　　金曜日　　5

受講登録者　　67 名　　回答した学生　　31 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	5
4	９０％くらい	8
3	８０％くらい	12
2	７０％くらい	5
1	６０％以下	1
	無回答	0
小計		31

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	11	22
4	ややそう思う	12	6
3	どちらともいえない	8	3
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		31	31

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	17
4	ややそう思う	11
3	どちらともいえない	3
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		31

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	18
4	延長することが多い	12
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		31

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	26	20	26	28	17	19	25
4	ややそう思う	5	8	4	3	7	6	6
3	どちらともいえない	0	3	1	0	5	3	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	2	2	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	1	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		31	31	31	31	31	31	31

授業科目	日本の近現代演劇			担当者			
開講時期	後期	曜日	金	時限	5	アンケート様式	☒講義 ☐実習

１この授業における教育方法の特徴

「さまざまな演劇観」というテーマで、演劇人たちのそれぞれ独特の考え方について考察した。
また、現代演劇の成果を１回おきに上演、上映してきた。
この授業は、多くの学生たちに毎年好評を得ているものであるが、今年も多大な成果を得たことを喜んでいる。

２アンケート結果の所見

（1） 受講した学生自身について

問３「この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味･関心が高まりましたか」に対して、「強くそう思う」が３１名中２２名、「ややそう思う」が６名いた。ちなみに「どちらともいえない」は３名。
それにしても、この授業は、時間的に１時間半の授業時間にはまらないことが多く、延長することが多いので、そのつもりでいるように言っているのだが、問５の開始時間と終了時間に対する答えとして、１２名が延長することが多い、としているのは、ただの事実を言っているにすぎないのか、それとも批判的な言説なのか、判断しかねている。

（2） 授業について

問１２「授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか」については、「強くそう思う」が３１名中２５名、「ややそう思う」が６名いた。他は０名。
問８「教員の説明の仕方はわかりやすかったですか」については、「強くそう思う」が３１名中２６名、「ややそう思う」が４名、他は０名。
問９「教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか」については、３１名中「強くそう思う」が２８名、「ややそう思う」が３名。他は０名。
これらの結果をみても、この授業が成功していることは疑いない。

（3） 自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

「演劇を最初から最後までみれてよかった」「充実した授業だった！演劇をやってみたくなった」。「演劇を観て、説明を受ける、分かりやすかったです」「興味深い作品をみれていい時間です。また、演劇論の話も面白かったです」「自分では選ばないような様々なジャンルの演劇を観ることができてよかったです」「自分のしゅみを増やすことができてよかったです。授業でしか見る機会がないものばかりでとてもたのしかった。あらたな視点がふえてよかった」「いつも色々な演劇を観れるので面白かった。とてもタメになった」
以上が学生たちの記載事項のすべて。こうした評価を得るというのは嬉しいものだ。

（4） 自由記述より学生からの要望について

何もなし。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

今年が定年前の最後の授業になる訳だが、これからもあちこちで話すであろう授業や講演に役立てたいと思っている。

４その他、意見
なし

科目　芸術と諸科学（隔週）　授業コード　31116

担当　大塚　直

教室　芸術資料館演習室　開講曜日・時間　水曜日　4

受講登録者　43 名　回答した学生　23 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	6
4	９０％くらい	10
3	８０％くらい	5
2	７０％くらい	2
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		23

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	9	12
4	ややそう思う	10	9
3	どちらともいえない	4	2
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		23	23

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	15
4	ややそう思う	5
3	どちらともいえない	1
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		23

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	15
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	2
2	早く終わることが多い	2
1	よくわからない	2
	無回答	0
小計		23

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	13	12	13	20	12	11	18
4	ややそう思う	6	5	5	2	4	5	4
3	どちらともいえない	2	4	4	1	3	3	0
2	あまりそう思わない	2	2	1	0	3	3	1
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	1	1	0
小計		23	23	23	23	23	23	23

授業科目	芸術と諸科学			担当者	大塚　直／他		
開講時期	後期	曜日	水曜	時限	４・５限	アンケート様式	☒講義　☐実習

１この授業における教育方法の特徴

美術・音楽・文学・演劇・映画など、芸術と関連する様々な分野において第一線で活躍されている先生方を７名、訪問講師としてお招きし、毎回順番に一回完結形式で講義をしていただくオムニバス形式の授業。芸術系学生にとって刺激となるテーマを提供し、実技の上でも役立つであろう幅広い見識を養ってもらう。

芸術とそれに関連する様々な領域との関係を知り、芸術とその意義について、より大きな視座から捉えるようにする。また、自らの芸術表現活動の裏づけとなるような、生きた専門的知識を獲得する。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

受講登録者 43 名のうち、23 名が回答してくれた。全７回の講義のうち、単位を取得するためには最低でも５回以上の出席が必要、とシラバスで謳っているため、逆に２回は休んでも構わない、と考えた学生がいたせいか、100%出席してくれたのは、全体の四分の一にあたる、わずか 26%程度の学生に過ぎなかった。もっとも全体の約９割以上の学生は、ほぼ毎回のように積極的に受講してくれている。

意欲的に授業に取り組んでくれた学生は全体の約８割強にも及び、授業後に履修内容について興味・関心が高まったと回答してくれた学生は、「強くそう思う」52%で、「ややそう思う」39%をも含めると、全体の約９割強にも達した。

今年度は、音楽学部と美術学部の学生がそれぞれバランスよく履修してくれた。受講態度も全体的にみな物静かで、熱心に講義内容と取り組んでくれた。授業後もまた、長くて中身のある感想文を書いてくれた。また各回の訪問講師と積極的に会話しようとする意欲的な学生の姿も見られた。

（２）授業について

今年度は「他者との邂逅」という統一テーマを設けて、７人のゲスト講師に講義していただいた。訪問講師、講義名、講義予定日については早めにユニパで周知させたので、授業の選択に役立ったと回答した学生が全体の約 87%にも達した。

毎回講師が変わるため、７名の先生方それぞれによって授業スタイルや講義方法は異なるわけだが、教員に対するアンケート結果では、全体の約 87%の学生が「強くそう思う」で、各教員がよく準備し、熱心に教えていると授業内容を高く評価してくれた。他の項目からも、授業から刺激を受けている様子が窺える。

また授業全般についても、「強くそう思う」78%で、「ややそう思う」18%を含めると、全体の約 96%の学生が今年度の授業内容を総合的に高く評価し、講義に満足してくれたことが分かる。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

毎回異なるテーマで、違う先生の授業を受けられるというスタイルが興味深かった、また統一テーマのもとに、様々な先生の視点を知ることができて良かった、という意見が多く寄せられた。

色んな分野の先生方の話を聞くことができて、とても良い経験になりました、毎回授業が楽しみだった、という「芸術と諸科学」の意義・醍醐味を、今年度の受講生たちの意見から再確認できた。

（４）自由記述より学生からの要望について

美術系を担当している訪問講師から映像装置の画質が悪い、との意見をいただいた。また使用機器に関しては、ときどき不具合が発生するので、定期的に点検するなどの対策が必要である。

また帰り道の階段にライトがなく、真っ暗闇で足を踏み外しそうで怖い、との意見も毎年のように聞かされる。これら施設の不備に対しては、早急に予算を取って改善していくことが望まれよう。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

来年度は「モダニズム」という共通テーマを設けて、20 世紀初頭における新しい思想・芸術上の潮流・運動について学ぶ講座を計画している。学生には様々な表現領域の専門家から刺激を受けてもらいたい。

４その他、意見

特になし。

科目　　基礎生物学Ｂ　　授業コード　31117

担当　　清道　正嗣

教室　　物理・化学実験室　　開講曜日・時間　　月曜日　　3

受講登録者　　12 名　　回答した学生　　7 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	1
4	９０％くらい	3
3	８０％くらい	2
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		7

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	2	5
4	ややそう思う	3	2
3	どちらともいえない	2	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		7	7

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	1
4	ややそう思う	3
3	どちらともいえない	3
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		7

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	7
4	延長することが多い	0
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		7

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	5	6	6	5	2	0	6
4	ややそう思う	2	1	1	2	2	2	1
3	どちらともいえない	0	0	0	0	3	1	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	3	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	1	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		7	7	7	7	7	7	7

授業科目	基礎生物学Ｂ			担当者	清道　正嗣		
開講時期	後期	曜日	月	時限	3	アンケート様式	☒講義　☐実習

１この授業における教育方法の特徴

生物科学の基礎を復習し、大学生にふさわしいレベルで理解させることを目指した。同時にカジュアルな妄言に惑わされない科学的な判断に必要な知識の伝授を試みた。このためになるべく多くの例示（ビデオ、画像）を用いた。

２アンケート結果の所見

以下文中の数字は、アンケート回答選択肢（1～5、1 側がネガティブ）を得点化したものの平均値である。ただアンケートに回答した受講生が７人しかいなかったので、数値はあまりあてにならない。

（1）受講した学生自身について

アンケート回答者のこの授業への出席率は 85.7%であった。設問２「意欲的な取り組み」が平均 4、設問３「事後の興味関心の上昇」が 4.7 であった。数値的には、授業によってこの分野への関心は高まったと言えるが、なにぶん受講生が少人数なので確かなことは言えない。

（2）授業について

設問 4-10 の平均が 4.5 ポイントであり、設問 12「全体評価」の 4.8 と併せて、かなりよい授業であったとの感想であろう。設問 10 の「教員とコミュニケーション…」が 3.9 と低いが、自由記述には何も書かれていないので、何が要求されているのか分からない。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

教材に写真・動画を多数引用したことが，好評であった（4 名）。

（4）自由記述より学生からの要望について

記述がなかった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

学生のアンケートからは、講義形式の授業としては十分であると言える。講義内容が古くならないように気を付けながら、今後もこのレベルを維持したい。

４その他、意見

設問 11「教室・設備」が 2.6 ポイントと中央に達していない。冬季の寒さ対策が不十分（その日初めて教室を使う場合、暖房が十分ではない）であるので、暖房の開始時間（方法）など事務局の対応を期待したい。

科目　　自由研究ゼミナールⅡ　　授業コード　31126

担当　　石垣　享

教室　　0　　開講曜日・時間　木曜日　　5

受講登録者　　7 名　　回答した学生　　5 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	4
4	９０％くらい	0
3	８０％くらい	1
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		5

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	5	5
4	ややそう思う	0	0
3	どちらともいえない	0	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		5	5

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	4
4	ややそう思う	0
3	どちらともいえない	1
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		5

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	2
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		5

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	5	4	5	5	5	5	5
4	ややそう思う	0	1	0	0	0	0	0
3	どちらともいえない	0	0	0	0	0	0	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		5	5	5	5	5	5	5

授業科目	自由研究ゼミナールⅡ			担当者	石垣　享		
開講時期	後期	曜日	木曜日	時限	5	アンケート様式	□講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴

本授業の目的は、受講生自身が着想している演劇的表現を、実際に専門分野で活躍している教員による「演劇的表現のワークショップ」を通じて体得することを目的とする。授業の最終目標は、受講者が企画したパフォーマンスを披露し、これを観賞した観客が受け止めた作品イメージを意味微分法によって客観的に分析することで、創作した作品がどのように受け止められたのかを科学的に理解することが可能となる。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

受講生の出席は別として、意欲的に授業に取り組んだ者の割合と授業への興味関心を抱いた者が 100%であることから、完璧な結果であるといえる。

（２）授業について

授業評価は、時間以外では全員が最高の評価をしていることから、最も効果的な授業であったと考えられる。授業時間に関しては、片付け等で時間の延長が生じることもあるが、それ以上に受講生自身の自主的な取り組みに要した時間も含まれていると想像される。少人数の受講生に対して教員が 2 名で教授し、授業の準備等に多くの時間をかけたことが、この結果に結びついたものと思われる。また、受講生自身も予習および復習等で多くの時間を本授業に費やしていることが伺え、彼らの専門および他の教養科目の時間に割り込んでいたのではないかと反対に危惧をしていた。この点は、今後の課題として考える必要がある。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

記述は皆無であった。

（４）自由記述より学生からの要望について

要望は皆無であった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

本授業で改善すべきことは、受講生がこの授業に過分にのめり込まないようにする必要を感じた。受講生が熱心に取り組む授業を展開できたことは、開講者として大変ありがたく思うが、あくまでも教養教育の授業であり、この内容が目的で入学してきたのでは無いことを理解させる努力を来年度は行う。また、授業時間の延長に関しては、強制しているのではなく雰囲気として残っている可能性も否定できないので、授業の終了と同時に解散することにする。

４その他、意見

本授業は、本来開講する必要は無い科目であるが、教養教育に属する教員が専門性を活かした形で展開する追加の授業である。私の場合は、科学の視点で作品のイメージを分析する内容を行っており、そのための題材として芸術活動に近く、本学の専門性も活かせる演劇作品の創作を行っている。受講生たちは、積極的に、熱心に、そして真摯に本授業に取り組み、授業時間以外であっても本授業に取り組んでいる結果も示されていることから教育のダイナミズムを大いに感じる授業であった。その反面として、教員が授業の準備等にかける負担も大きく、また受講者数を考えると経済的効率は低い授業とも考えられる。しかし、本授業は、教育の効果とその本質を考えると、受講生たちの自律的な学習態度を向上させ、受講生自身も十分に満足を得られる授業の在り方を示した典型的な展開であることに疑いは無い。いわゆる、本授業は、教育の質と経済性は同時に得られないものと考えて間違いはないことを証明した。その意味では、本学の専門課程で行われている個人レッスンや少人数教育は、この教育の質を保証する授業展開であることは明白である。現在本学では、音楽学部を中心に非常勤講師を削減させる取り組みがなされているが、本授業の結果を俯瞰すると教育の効果および質を保証する授業展開が終焉を迎えつつあるように感じる。

科目　　身体運動演習ＩA～ⅡＢ　　授業コード　31201

担当　　幸田　律　　教室　　体育館

回答した学生　　14 名

受講登録者　　20 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	5
4	９０％くらい	6
3	８０％くらい	3
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		14

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	13	13
4	ややそう思う	1	1
3	どちらともいえない	0	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		14	14

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	9	12	12	13	13	6	12	12
4	ややそう思う	2	1	1	1	1	0	2	2
3	どちらともいえない	3	1	1	0	0	6	0	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	1	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	1	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		14	14	14	14	14	14	14	14

科目　　身体運動演習ＩA～ⅡＢ　　授業コード　31202

担当　　鶴原　香代子　　教室　　体育館

回答した学生　　31 名

受講登録者　　40 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	7
4	９０％くらい	11
3	８０％くらい	12
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		31

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	15	16
4	ややそう思う	8	7
3	どちらともいえない	6	5
2	あまりそう思わない	0	1
1	まったくそう思わない	2	2
	無回答	0	0
小計		31	31

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	13	17	19	18	19	15	17	18
4	ややそう思う	6	8	7	6	7	6	5	7
3	どちらともいえない	8	4	3	5	3	4	6	4
2	あまりそう思わない	2	0	1	0	0	2	1	0
1	まったくそう思わない	2	2	1	2	2	4	2	2
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		31	31	31	31	31	31	31	31

科目　　基本体育Ｂ　　授業コード　31206

担当　　石垣　享　　教室　　体育館

回答した学生　　15 名

受講登録者　　17 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	12
4	９０％くらい	1
3	８０％くらい	2
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		15

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	6	9
4	ややそう思う	9	4
3	どちらともいえない	0	2
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		15	15

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	9	11	10	5	10	7	5	8
4	ややそう思う	5	3	5	6	2	5	4	7
3	どちらともいえない	1	1	0	4	3	2	6	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	1	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		15	15	15	15	15	15	15	15

科目　　基本体育Ｂ　　授業コード　31207

担当　　石垣　享　　教室　　体育館

回答した学生　　25 名

受講登録者　　25 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	11
4	９０％くらい	7
3	８０％くらい	7
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		25

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	15	10
4	ややそう思う	6	10
3	どちらともいえない	4	3
2	あまりそう思わない	0	2
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		25	25

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	11	14	11	7	10	11	6	9
4	ややそう思う	10	7	9	6	9	9	11	11
3	どちらともいえない	3	4	3	11	5	4	6	4
2	あまりそう思わない	1	0	2	0	0	0	1	1
1	まったくそう思わない	0	0	0	1	1	1	1	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		25	25	25	25	25	25	25	25

科目　　基本体育Ｂ　　授業コード　31205

担当　　石垣　享　　教室　　体育館

回答した学生　　27 名

受講登録者　　32 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	12
4	９０％くらい	11
3	８０％くらい	3
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		27

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	17	13
4	ややそう思う	6	9
3	どちらともいえない	4	4
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	1
	無回答	0	0
小計		27	27

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	16	19	17	15	16	15	12	14
4	ややそう思う	4	5	6	6	5	9	8	8
3	どちらともいえない	6	3	3	3	6	3	6	4
2	あまりそう思わない	1	0	1	2	0	0	1	1
1	まったくそう思わない	0	0	0	1	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		27	27	27	27	27	27	27	27

授業科目	基本体育 B			担当者		石垣　享	
開講時期	後期	曜日	火曜日	時限	3・4・5	アンケート様式	☐講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴

本授業は、自身の身体を多角的に分析し、これらに関連する知識を講義により習得することで自身を客観的に評価する能力を開発することが可能であり、さらに、今後の人生を健康で過ごせるような生活習慣と疾病構造に関しての基礎的な知識の習得を目指す。また、緊急事態への対処、障碍者への介助法の技能も習得することができる。

２アンケート結果の所見

（1）受講した学生自身について

受講生の出席は別として、意欲的に授業に取り組んだ者の割合が 84%から 100%であり、授業への興味関心を抱いた者が 80%から 87%であることから、高い評価を得ている。

（2）授業について

授業評価の中で最も低い評価（52%から 78%）は、教員とのコミュニケーションについてであるが、これは多人数を対象とした授業であり、コミュニケーションを取る必要がある内容であるとは考えられない。また、コミュニケーションを取ることを目的とした授業ではないことからこれを実行していないので、むしろこの評価値の信憑性が疑われる。受講生にとって適切な指導であったかに関しても、76%から 80%の者がそうであったと回答していることから、十分な結果であると考えられる。授業全体を良いと評価した者の割合が 80%から 100%であり、高い評価を得ていると考えられる。

評価項目で疑問があるのが、この授業が自身の専門に役立つのかという内容であるが、教養教育の意義は、幅広い教養を教授することを目的とするので専門からはかけ離れた内容を教授すべきである。そうでなければ、専門の授業の延長となる。よって、この項目は高い評価は得られないと考えていたが、60%から 74%の者がそうであると回答していることは大いに不思議である。ごく一部の内容に、音美に共通する機能解剖学的な内容と彼らの専門に反映させた展開を行った結果であるのかもしれない。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

記載した学生の多くが心肺蘇生法および障碍者への介助方法について、良かったと回答している。これは前期で同内容を行っているが、ごく一部では全く反対の評価であった。よって、結果の解釈に困惑している。また、身体を多角的に測定し、それらに関する健康科学の視点からの座学によって知識を教授する授業展開は、効果的であったと思われる記述も認められた。また、授業ガイダンスでの問診結果に基づいて受講生個々の身体的な問題を考慮して授業を展開したことへの好評価は、これまでも認められ続けている。

（4）自由記述より学生からの要望について

要望は皆無であった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

平成 19 年から基本体育は、教職者の育成を最大目的に測定評価項目以外をレクリエーション（A）と座学（B）に分けて展開してきたが、前期で指摘された問題を最大限考慮し、また学生の安全確保ために実技を取りやめ AB とも測定評価と座学とすることにした。後期の授業では、障碍者の介助法および心肺蘇生法は高評価を得ているものの、同一内容を前期の一部の学生が悪評価を下したならば、これらの授業展開を避けるべきだという結論に達した。よって、障碍者介助法および心肺蘇生は、来年度以降は実施しない。それに代わり、本結果でも比較的好評価であった専門に近い内容として、機能解剖学を１コマ、さらに心の健康についての内容を１コマ展開する。レクリエーションは、教職免許とは関係ないスポーツ健康科学 A・B を、新たに水曜日の４時限目に開講することで、純粋にレクリエーションを希望する学生への対応とすることに決定した。

４その他、意見

本授業、来年度は教育者の育成には主眼を置かず、純粋に健康科学のリテラシーの向上を目的とした授業を展開する。また、来年度は、シラバスへ評価方法の詳細を記載し、カリキュラムポリシーを遵守して評価を行う。よって、来年度の本授業の内容が測定評価と座学を中心とした展開となるために、学生の健康科学のリテラシー能力をレポートによって評価（80%）することとした。

科目　　コンピューター基礎Ⅱａ　　授業コード　31118

担当　　中島　啓之

教室　　コンピュータ室　　開講曜日・時間　　木曜日　　4

受講登録者　　75 名　　回答した学生　　60 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	22
4	９０％くらい	27
3	８０％くらい	8
2	７０％くらい	3
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		60

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	29	42
4	ややそう思う	23	13
3	どちらともいえない	5	4
2	あまりそう思わない	3	0
1	まったくそう思わない	0	1
	無回答	0	0
小計		60	60

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	25
4	ややそう思う	21
3	どちらともいえない	14
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		60

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	56
4	延長することが多い	3
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		60

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	46	46	49	57	32	30	45
4	ややそう思う	12	13	9	3	20	18	13
3	どちらともいえない	2	0	2	0	7	7	2
2	あまりそう思わない	0	1	0	0	1	4	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	1	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		60	60	60	60	60	60	60

科目　　コンピューター基礎Ⅱａ　　授業コード　31119

担当　　清道　正嗣

教室　　コンピュータ室　　開講曜日・時間　　金曜日　　4

受講登録者　　29 名　　回答した学生　　20 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	6
4	９０％くらい	9
3	８０％くらい	3
2	７０％くらい	2
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		20

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	10	12
4	ややそう思う	8	6
3	どちらともいえない	1	0
2	あまりそう思わない	1	1
1	まったくそう思わない	0	1
	無回答	0	0
小計		20	20

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	10
4	ややそう思う	5
3	どちらともいえない	3
2	あまりそう思わない	2
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		20

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	17
4	延長することが多い	1
3	開始が遅いことが多い	1
2	早く終わることが多い	1
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		20

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	10	11	11	11	8	13	11
4	ややそう思う	5	5	3	6	7	5	5
3	どちらともいえない	1	1	3	1	1	1	3
2	あまりそう思わない	4	2	2	2	4	1	1
1	まったくそう思わない	0	1	1	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		20	20	20	20	20	20	20

授業科目	コンピューター基礎Ⅱ a			担当者		清道　正嗣	
開講時期	後期	曜日	金	時限	4	アンケート様式	☒講義　☐実習

１この授業における教育方法の特徴

この授業の目標は、「Photoshop による初歩的なビットマップ系画像の作成・加工を身につける」であった。単なる Photoshop の Tips 紹介ではなく、「フォトレタッチ」「手書き線からのイラスト作成」「PC 内での手書き」と、Photoshop を使う３つの代表的なシチュエーションを教えることにより、学生の Photoshop に対する理解を広くし、今後の Photoshop 利用の下地を作ることを目指した。

２アンケート結果の所見

以下文中の数字は、アンケート回答選択肢（1～5、1 側がネガティブ）を得点化したものの平均値である。

（１）受講した学生自身について

アンケート回答者のこの授業への出席率は平均 89.5%、「意欲的な取り組み」が平均 4.4「事後の興味関心の上昇」が 4.4 であった。学生は興味を持った授業を受け、その興味を維持したと言える。

（２）授業について

設問 4-10 の平均が 4.2、設問 12 が 4.3 と平均的な授業であったといえる。またこの中で特に低得点なものはなく、全方位について普通であったと言える。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

Photoshop の基礎を学べたことを評価している学生が２人、平面繰り返し画像やアイコン画像作成について、楽しかったという意見が１人あった。

（４）自由記述より学生からの要望について

記述がなかった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

設問のポイントレベルでは、許せる範囲の授業ではないかと思う。今後もソフトのバージョンアップに対応した内容で、このレベルの授業を行う。

４その他、意見

サーバーが不安定で学生用 PC のデータ（移動プロファイル）がなくなってしまうことが例年より格段に多くあり、学生のモティベーションに悪影響があった。サーバーの調整をよろしくお願いしたい。

科目　　コンピューター基礎Ⅱｂ　　授業コード　31121

担当　　中島　啓之

教室　　コンピュータ室　　開講曜日・時間　　火曜日　　4

受講登録者　　30 名　　回答した学生　　27 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	6
4	９０％くらい	16
3	８０％くらい	4
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		27

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	12	14
4	ややそう思う	12	10
3	どちらともいえない	1	1
2	あまりそう思わない	2	2
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		27	27

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	12
4	ややそう思う	6
3	どちらともいえない	6
2	あまりそう思わない	2
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		27

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	26
4	延長することが多い	1
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		27

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	21	25	21	24	14	20	23
4	ややそう思う	5	2	6	3	10	6	4
3	どちらともいえない	1	0	0	0	3	1	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		27	27	27	27	27	27	27

科目　　コンピューター基礎Ⅱｂ　　授業コード　31122

担当　　中島　啓之

教室　　コンピュータ室　　開講曜日・時間　　木曜日　　3

受講登録者　　67 名　　回答した学生　　65 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	25
4	９０％くらい	28
3	８０％くらい	11
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		65

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	30	37
4	ややそう思う	28	20
3	どちらともいえない	7	7
2	あまりそう思わない	0	1
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		65	65

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	21
4	ややそう思う	26
3	どちらともいえない	15
2	あまりそう思わない	2
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		65

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	60
4	延長することが多い	5
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		65

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	39	39	42	49	29	28	44
4	ややそう思う	20	16	17	12	23	21	15
3	どちらともいえない	5	9	5	3	12	8	6
2	あまりそう思わない	1	1	1	0	1	5	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	3	0
	無回答	0	0	0	1	0	0	0
小計		65	65	65	65	65	65	65

科目　　コンピューター基礎Ｉ　　授業コード　31123

担当　　渡邊　裕司

教室　　コンピュータ室　　開講曜日・時間　木曜日　　4

受講登録者　　31 名　　回答した学生　　19 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	7
4	９０％くらい	7
3	８０％くらい	4
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		19

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	7	7
4	ややそう思う	7	5
3	どちらともいえない	3	6
2	あまりそう思わない	2	1
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		19	19

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	7
4	ややそう思う	5
3	どちらともいえない	6
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		19

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	11
4	延長することが多い	3
3	開始が遅いことが多い	4
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		19

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	8	7	9	6	6	7	6
4	ややそう思う	6	6	6	7	7	7	9
3	どちらともいえない	5	6	4	6	4	5	4
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	2	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		19	19	19	19	19	19	19

科目　　コンピューター基礎Ｉ　　授業コード　31124

担当　　渡邊　裕司

教室　　コンピュータ室　　開講曜日・時間　木曜日　5

受講登録者　27 名　　回答した学生　20 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	7
4	９０％くらい	11
3	８０％くらい	2
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		20

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	10	10
4	ややそう思う	9	7
3	どちらともいえない	0	1
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	1	2
	無回答	0	0
小計		20	20

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	8
4	ややそう思う	5
3	どちらともいえない	4
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	2
	無回答	0
小計		20

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	16
4	延長することが多い	4
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		20

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	17	16	16	12	13	13	14
4	ややそう思う	2	3	3	8	4	5	4
3	どちらともいえない	0	0	0	0	2	1	1
2	あまりそう思わない	1	1	1	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	1	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	1	1
小計		20	20	20	20	20	20	20

科目　　コンピューター基礎Ⅱc　　授業コード　31125

担当　　清道　正嗣

教室　　コンピュータ室　　開講曜日・時間　　金曜日　　3

受講登録者　　20 名　　回答した学生　　7 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	4
4	９０％くらい	3
3	８０％くらい	0
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		7

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	4	4
4	ややそう思う	3	1
3	どちらともいえない	0	2
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		7	7

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	2
4	ややそう思う	1
3	どちらともいえない	3
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		7

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	6
4	延長することが多い	1
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		7

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	1	1	2	4	3	5	3
4	ややそう思う	4	2	3	2	1	0	2
3	どちらともいえない	1	2	1	1	3	1	2
2	あまりそう思わない	1	2	1	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	1	0
小計		7	7	7	7	7	7	7

授業科目	コンピューター基礎Ⅱc			担当者		清道　正嗣	
開講時期	後期	曜日	金	時限	3	アンケート様式	☒講義　☐実習

１この授業における教育方法の特徴

授業の段階ごとに半完成教材を用意し、学生の宿題忘れによる足並みの乱れを最小限に抑えるように配慮している。また課題を 3D モデルアニメーション・ビデオ合成とすることによって、学生の授業参加・課題作成への意欲を高めることを目指している。

取り上げたソフトウエアの操作方法のうち、課題作成に直接関係ない部分の解説を、大幅に省略することにしている。その理由は、全く性質の異なるソフトウエアを複数扱うため、ともすれば課題作成が不可能と考えがちな学生にソフトウエアの操作が容易であると錯覚させることによって、課題作成が不可能ではないという印象を与えるためである。

２アンケート結果の所見

以下文中の数字は、アンケート回答選択肢（1～5、1 側がネガティブ）を得点化したものの平均値である。ただアンケートに回答した受講生が 7 人しかいなかったので、数値はあまりあてにならない。

（1）受講した学生自身について

アンケート回答者のこの授業への出席率は 95.7%であった。設問２「意欲的な取り組み」が平均 4.6、設問３「事後の興味関心の上昇」が 4.3 であった。

（2）授業について

設問 4-10 の平均が 4.0、設問 12 が 3.9 と平均的な授業であったといえる。またこの中で設問 7「板書やプリント」が 3.3 と目立って低得点であったが、例年と変わらない資料なので何が悪かったのか不明である。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

「今期一番おもしろかった」との記述があるが、授業の扱う範囲への評価なのか授業方法へのものなのか不明である。

（4）自由記述より学生からの要望について

記述がなかった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

毎年度思うのだが、やはり２D に比べて３D のソフトは操作方法が多岐にわたりすぎて、学生がすぐに以前の授業で教えたことを忘れてしまうことが、授業の満足度を低下させる原因であろうと思う。もっと授業範囲を薄くして、代わりに繰り返しを多くしてみたい。

４その他、意見

サーバーが不安定で学生用 PC のデータ（移動プロファイル）がなくなってしまうことが例年より格段に多くあり、学生のモティベーションに悪影響があった。サーバーの調整をよろしくお願いしたい。

科目　英語初級ＩＢ　授業コード　32101

担当　ナイレー・アン・キーナン

教室　講義棟第４講義室　開講曜日・時間　月曜日　3

受講登録者　30 名　回答した学生　21 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	3
4	９０％くらい	8
3	８０％くらい	9
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		21

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	9	8
4	ややそう思う	6	7
3	どちらともいえない	6	5
2	あまりそう思わない	0	1
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		21	21

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	15
4	ややそう思う	5
3	どちらともいえない	1
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		21

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	19
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		21

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	18	17	18	17	18	11	14
4	ややそう思う	3	4	3	4	3	8	7
3	どちらともいえない	0	0	0	0	0	2	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		21	21	21	21	21	21	21

科目　英語初級ＩＢ　授業コード　32102

担当　ナイレー・アン・キーナン

教室　講義棟第６講義室　開講曜日・時間　月曜日　4

受講登録者　39 名　回答した学生　33 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	9
4	９０％くらい	12
3	８０％くらい	9
2	７０％くらい	2
1	６０％以下	1
	無回答	0
小計		33

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	14	14
4	ややそう思う	11	11
3	どちらともいえない	6	3
2	あまりそう思わない	1	3
1	まったくそう思わない	1	2
	無回答	0	0
小計		33	33

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	21
4	ややそう思う	9
3	どちらともいえない	2
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		33

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	27
4	延長することが多い	6
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		33

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	23	24	25	26	27	22	25
4	ややそう思う	10	9	8	7	6	9	8
3	どちらともいえない	0	0	0	0	0	1	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	1	0
小計		33	33	33	33	33	33	33

科目　　英語初級ＩＢ　　授業コード　32103

担当　　松永　隆

教室　　講義棟第２講義室　　開講曜日・時間　　月曜日　　4

受講登録者　　20 名　　回答した学生　　19 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	4
4	９０％くらい	12
3	８０％くらい	3
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		19

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	5	5
4	ややそう思う	11	7
3	どちらともいえない	3	7
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		19	19

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	4
4	ややそう思う	10
3	どちらともいえない	5
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		19

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	14
4	延長することが多い	3
3	開始が遅いことが多い	1
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		19

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	12	9	9	10	10	9	10
4	ややそう思う	4	4	5	6	6	3	5
3	どちらともいえない	3	5	4	2	2	6	3
2	あまりそう思わない	0	1	1	1	1	1	1
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		19	19	19	19	19	19	19

科目　英語初級ⅡB　授業コード　32104

担当　トーマス・オーエン・コックス

教室　講義棟第１講義室　開講曜日・時間　水曜日　2

受講登録者　21 名　回答した学生　15 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	5
4	９０％くらい	4
3	８０％くらい	5
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		15

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	13	12
4	ややそう思う	1	1
3	どちらともいえない	1	1
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	1
	無回答	0	0
小計		15	15

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	8
4	ややそう思う	3
3	どちらともいえない	1
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	3
	無回答	0
小計		15

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	13
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		15

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	13	13	12	13	13	13	13
4	ややそう思う	2	2	3	2	2	2	2
3	どちらともいえない	0	0	0	0	0	0	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		15	15	15	15	15	15	15

科目　英語初級ⅡB　授業コード　32105

担当　井上　彩

教室　新講義棟大講義室　開講曜日・時間　水曜日　3

受講登録者　65 名　回答した学生　46 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	19
4	９０％くらい	12
3	８０％くらい	12
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	1
	無回答	1
小計		46

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	15	18
4	ややそう思う	12	9
3	どちらともいえない	13	14
2	あまりそう思わない	3	3
1	まったくそう思わない	2	1
	無回答	1	1
小計		46	46

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	15
4	ややそう思う	14
3	どちらともいえない	11
2	あまりそう思わない	2
1	まったくそう思わない	3
	無回答	1
小計		46

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	34
4	延長することが多い	4
3	開始が遅いことが多い	7
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	1
小計		46

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	23	22	22	26	16	18	20
4	ややそう思う	12	13	11	9	12	14	16
3	どちらともいえない	10	10	12	10	13	13	9
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	3	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	1	0	0
	無回答	1	1	1	1	1	1	1
小計		46	46	46	46	46	46	46

授業科目	英語初級 IIB			担当者	井上　彩		
開講時期	後期	曜日	水	時限	3	アンケート様式	☒講義　☐実習

１この授業における教育方法の特徴

文法事項を中心とした練習問題や読解問題を演習形式で学ぶことにより、英語の基礎文法を復習し、また基礎的な読解力をつけることを目的とした授業である。定期的な小テストや課題によって適宜学習内容を復習することによって授業中に学んだ知識を定着させることができるように、重要事項を繰り返し学べるような授業の形式を特徴としている。具体的には、自宅で予習をしてきた内容を、授業中に演習形式で学び、次回までに自宅で課題をやってくることにより復習し、次回の授業内の小テストと答え合わせで確認・再復習をする、というように同一項目を最低４回は繰り返して学修するような手順をとっている。これまで英語を苦手としていた学生にもこの授業をきっかけに英文法の理解を定着させ自信をつけてほしいという考えからこの方法をとることとした。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

出席状況は 94%の学生が 80%以上は出席しており概ね良好であった。授業への意欲に関して、回答者の 59%がこの授業に意欲的に取り組んだと回答している。授業内容への興味・関心が高まったと回答している学生も 59%であった。もう少し多くの学生に意欲的に取り組んでもらえるよう教員側もさらに努力したい。

（２）授業について

問 8「教員の説明の仕方はわかりやすかったですか」に対して、72%の学生がそう思うと答えている（前期は 87%であった)。また、問 9「教員はよく準備し、熱心に教えているか」に対しても 76%の学生がそう思うと答えている（前期は 84%であった)。また、78%の学生は「総合的によい授業だった」と答えている（前期は 82%であった）（問 12)。授業内容に関して、前期と比べて 4 ポイントから 8 ポイント程度下がっていることに関しては、後期に学修する内容の方が難易度は高くなっているが各文法項目に割り当てられた時間は同じぐらいであるために、学生の理解度が前期ほど高くないからではないかと推測している。問 10「教員とコミュニケーションはとれていましたか」に関して、「そう思う」と答えた学生は 61%で、前期の 60%とほぼ同様であった。これは前期同様授業についての項目の中で最も低い数字であった。登録した履修者数は去年よりは少なかったがまだ 60 名を超えていたため、語学の授業の規模としては学生とコミュニケーションをとりながらの授業運営が難しい環境であった。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

前期に引き続き文法事項を基礎から解説する教育方法が好評だったようで、「説明が丁寧でありがたいです。」「わかりやすかった」との自由記述があった。

（４）自由記述より学生からの要望について

特になし。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

今年度はテキストを使って基礎文法を中心に学ぶ内容に変えたことが、学生には好評であったようである。初級の学生にとっては中学・高校で学ぶ基礎的な文法が定着していないことが、読解力、聴解力を伸ばすにあたって足かせとなっている場合もあり、あらためて基礎文法学習の重要性を実感した。次年度以降も初級クラスにおいては基礎文法の復習をできるだけ取り入れていきたい。

４その他、意見

今年度は TA をつけてもらうことができたので、優秀な TA の学生のおかげで授業時間を効率よく使うことができた。また、TA が多くの学生が共通して間違えた項目を分析して教員に伝えてくれるため個々の学生のレベルに合わせたよりきめ細かい指導につなげることができ大変感謝している。

どうしても後期に学修する項目は、仮定法や話法の転換、関係代名詞など苦手とする学生の多い難度の高いものになるので、次年度以降は難しい項目にはより多くの時間をさけるような授業スケジュールを工夫したい。

科目　　英語中級ＩＢ　　授業コード　32106

担当　　井上　彩

教室　　講義棟第２講義室　　開講曜日・時間　　月曜日　　3

受講登録者　　31 名　　回答した学生　　28 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	7
4	９０％くらい	14
3	８０％くらい	7
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		28

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	5	5
4	ややそう思う	8	11
3	どちらともいえない	11	9
2	あまりそう思わない	4	3
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		28	28

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	12
4	ややそう思う	7
3	どちらともいえない	7
2	あまりそう思わない	2
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		28

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	24
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	2
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		28

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	19	19	14	19	9	10	17
4	ややそう思う	6	6	10	7	6	9	6
3	どちらともいえない	2	3	4	2	11	5	5
2	あまりそう思わない	1	0	0	0	1	3	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	1	1	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		28	28	28	28	28	28	28

科目　英語中級ＩＢ　授業コード　32107

担当　井上　彩

教室　講義棟第１講義室　開講曜日・時間　月曜日　4

受講登録者　82 名　回答した学生　62 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	18
4	９０％くらい	26
3	８０％くらい	14
2	７０％くらい	4
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		62

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	13	10
4	ややそう思う	26	26
3	どちらともいえない	14	19
2	あまりそう思わない	8	4
1	まったくそう思わない	1	3
	無回答	0	0
小計		62	62

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	20
4	ややそう思う	19
3	どちらともいえない	16
2	あまりそう思わない	5
1	まったくそう思わない	2
	無回答	0
小計		62

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	52
4	延長することが多い	7
3	開始が遅いことが多い	3
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		62

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	31	34	31	38	18	29	25
4	ややそう思う	22	21	22	18	24	22	26
3	どちらともいえない	8	5	6	5	14	10	8
2	あまりそう思わない	1	2	2	1	3	1	2
1	まったくそう思わない	0	0	1	0	3	0	1
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		62	62	62	62	62	62	62

授業科目	英語中級 IB			担当者	井上　彩		
開講時期	後期	曜日	月	時限	3、4	アンケート様式	☒講義　☐実習

１この授業における教育方法の特徴

この授業では主に英文読解スキル・聴解スキルの向上を目的としている。講読用テキストを使って現代社会の諸相についての実践的な英文精読の力や文章理解に必要な構文や語法の知識をつける。また、TOEIC テストの形式に準拠した教材を使って限られた時間内に多くの英文を読み、文書の概要や必要な情報を読み取るスキルをつけるとともに適宜文法事項も復習する。さらにリスニングトレーニングによって一学期間で着実に聴解力を伸ばすことも目的としている。英語中級履修者は将来のキャリアのために英語の習得が重要であると考えている学生が多く、高度な読解力と同時に、資格試験の対策に不可欠な、英語による情報分析力を身に着けてほしいと願っている。そのために、少し難易度も、カバーする内容の分量も欲張った内容となっている。英語初級と同様中級でもほぼ毎回小テストを実施して、テキストに出てきた語彙やイディオム、文法知識を復習し、覚えてもらえるように配慮している。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

出席状況は 90%以上が 3 限は 75%、4 限は 71%、80%以上と合わせるとそれぞれ 100%と 94%と良好であった。授業への意欲に関して、3 限は 47%、4 限は 63%がこの授業に意欲的に取り組んだと回答している。授業内容への興味・関心については 3 限は 57%、4 限は 58%が高いと答えている。

（２）授業について

問 8「教員の説明の仕方はわかりやすかったですか」に対して、3 限は 86%（前期は 81%、以下、()内は前期の数値)、4 限は 85%（同 85%）の学生がそう思うと答えている。また、問 9「教員はよく準備し、熱心に教えているか」に対しても 3 限は 93%（同 89%)、4 限は 90%（同 92%）の学生がそう思うと答えている。また、3 限は 82%（同 84%)、4 限は 82%（同 82%）の学生は「総合的によい授業だった」と答えている（問 12)。授業内容については前期と同様高い評価をしてもらっていると思う。しかし、問 10「教員とコミュニケーションはとれていましたか」に関して、「そう思う」と答えた学生は 3 限は 53%（同 49%)、4 限は 82%（50%）であった。登録した履修者数は 4 限は 90 名を超えていたため、語学の授業の規模としては学生とコミュニケーションをとりながらの授業運営が難しい環境であった。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

特になし。

（４）自由記述より学生からの要望について

特になし。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

今年度は中級履修者の数が例年よりも多かったこともあり、特に 4 限は学生数が 90 名を超え、出欠をとる、プリントを配布する、小テストを回収したり、返却したりする、という作業にかなり授業時間をとられてしまった。学生側からすると、指名される頻度もあまり高くなく、なかなか教員とのコミュニケーションがとりにくい授業となってしまったのではないかと思う。このような学修環境の中で、難易度も高めでカバーする分量も多い欲張った授業に、学生たちはよく頑張ってついてきてくれたのではないかと思っている。次年度以降は、1 クラスあたりの学生数が多くても 40 名程度となるようにできるかぎりの対策をとりたい。

４その他、意見

語学の授業では前期よりも後期の方が授業についての評価が下がりがちであることが多いが、今年度の中級クラスは前期と後期の授業についての評価がほぼ同様であり、少し緊張感の緩みがちな後期にも年間を通じて授業内容について一定の理解度・満足度を保ってくれたことを個人的にはとてもうれしく感じている。理由としては、前期に読解、後期に TOEIC 対策と異なる学習内容とするよりも、前期も後期も読解と TOEIC 対策の両方を半分ずつやるというスケジュールの方が一定の集中力や士気と理解度を保ちやすいのではないかと推測している。

科目　英語中級ⅡB　授業コード　32108

担当　トーマス・オーエン・コックス

教室　講義棟第１講義室　開講曜日・時間　水曜日　3

受講登録者　87 名　回答した学生　65 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	7
4	９０％くらい	35
3	８０％くらい	19
2	７０％くらい	4
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		65

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	12	11
4	ややそう思う	25	21
3	どちらともいえない	21	25
2	あまりそう思わない	4	5
1	まったくそう思わない	3	3
	無回答	0	0
小計		65	65

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	10
4	ややそう思う	15
3	どちらともいえない	24
2	あまりそう思わない	8
1	まったくそう思わない	8
	無回答	0
小計		65

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	56
4	延長することが多い	4
3	開始が遅いことが多い	5
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		65

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	17	14	16	27	19	29	20
4	ややそう思う	19	19	17	17	20	20	22
3	どちらともいえない	21	19	21	15	13	13	17
2	あまりそう思わない	7	9	7	2	7	2	4
1	まったくそう思わない	1	4	4	4	6	1	2
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		65	65	65	65	65	65	65

科目　英語中級ⅡB　授業コード　32109

担当　トーマス・オーエン・コックス

教室　講義棟第２講義室　開講曜日・時間　水曜日　4

受講登録者　21 名　回答した学生　17 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	6
4	９０％くらい	7
3	８０％くらい	2
2	７０％くらい	2
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		17

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	5	3
4	ややそう思う	8	8
3	どちらともいえない	2	3
2	あまりそう思わない	1	2
1	まったくそう思わない	1	1
	無回答	0	0
小計		17	17

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	2
4	ややそう思う	5
3	どちらともいえない	7
2	あまりそう思わない	2
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		17

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	17
4	延長することが多い	0
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		17

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	7	4	5	9	5	11	6
4	ややそう思う	5	8	5	4	9	2	6
3	どちらともいえない	3	2	3	2	2	3	4
2	あまりそう思わない	1	2	3	1	0	0	0
1	まったくそう思わない	1	1	1	1	1	1	1
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		17	17	17	17	17	17	17

科目　英語上級ＩＢ　授業コード　32110

担当　松永　隆

教室　講義棟第２講義室　開講曜日・時間　月曜日　5

受講登録者　11 名　回答した学生　7 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	1
4	９０％くらい	2
3	８０％くらい	1
2	７０％くらい	3
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		7

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	1	2
4	ややそう思う	4	3
3	どちらともいえない	1	1
2	あまりそう思わない	1	1
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		7	7

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	3
4	ややそう思う	1
3	どちらともいえない	1
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		7

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	5
4	延長することが多い	0
3	開始が遅いことが多い	1
2	早く終わることが多い	1
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		7

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	5	3	5	4	5	2	3
4	ややそう思う	0	1	0	1	0	3	2
3	どちらともいえない	1	2	1	1	1	1	1
2	あまりそう思わない	1	1	1	1	1	1	1
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		7	7	7	7	7	7	7

科目　英語上級ⅡB　授業コード　32111

担当　井上　彩

教室　講義棟第４講義室　開講曜日・時間　水曜日　4

受講登録者　11 名　回答した学生　7 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	2
4	９０％くらい	1
3	８０％くらい	2
2	７０％くらい	2
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		7

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	4	4
4	ややそう思う	1	1
3	どちらともいえない	2	2
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		7	7

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	4
4	ややそう思う	3
3	どちらともいえない	0
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		7

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	7
4	延長することが多い	0
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		7

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	6	6	6	6	6	5	6
4	ややそう思う	1	1	1	0	0	1	0
3	どちらともいえない	0	0	0	1	0	0	1
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	1	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	1	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		7	7	7	7	7	7	7

授業科目	英語上級 IIB			担当者	井上　彩		
開講時期	後期	曜日	水	時限	4	アンケート様式	☒講義　☐実習

１この授業における教育方法の特徴

この授業の目的は、英語の論説文の精読を通じて語彙・文法・構文の知識を強化し、専門的な文章の展開の仕方を学ぶとともに、TOEIC の出題形式に準拠したリスニング教材を使って実践的な聴解スキルを身に着けることである。またテキスト以外にも与えられたトピックについて 10 分間程度で短い英文を書くというライティング課題を通じて英文を書く力をも養成する。ほぼ毎回、リスニング教材で学修した表現を復習する小テストを行い、さらに読解教材からも一学期間に 4 回語彙とイディオムに関する小テストを実施するため、小テストの多い授業でもある。総合的な英語力をさらに伸ばし、英語を用いた研究その他の活動に備えることを授業の到達目標としている。今学期はさらに、英文の履歴書作成における一般的なルールと傾向について学び、希望者のみの任意の課題として英文の履歴書を作成することを第二のライティング課題とした。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

出席状況は 80%以上出席が 71%であった。授業への意欲に関して、71%がこの授業に意欲的に取り組んだと回答している。意欲的な学生が多かったことがわかる。また、71%が授業内容への興味・関心が高まったと答えている。前期よりは少し下がっているが他の級と比べて上級は意欲的な学生が多いという結果であった。

（２）授業について

問 6 の話し方や話すスピードは適切か、問 7 の使った板書・プリントや提示資料は見やすかったか、について 100%の学生が「強くそう思う」と答えている。後期は耐震工事による教室変更が終わり、通常の教室に戻ったため、より教員の声が届きやすく、資料も見やすい環境になったためと考えられる。問 8「教員の説明の仕方はわかりやすかったですか」に対して、100%の学生がそう思うと答えている。また、問 9「教員はよく準備し、熱心に教えているか」に対しては 86%の学生が「強くそう思う」と答えている。また、86%の学生は「総合的によい授業だった」と答えている（問 12)。大変満足できる結果であった。また、問 10「教員とコミュニケーションはとれていましたか」に関して、「そう思う」と答えた学生は 86%であった。全体的に見て学生による授業についての評価はおおむね高かった。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

「単語ソフトを作ってくださり、覚えやすかったです。(原文のまま)」という記述があったが、これは「単語リスト」のことであると思われる。テキスト本文に出てくる単語の中から特に英語論説文に頻出の語彙やフレーズをリストアップしたものを予め配布し、重点的に覚えるようにと指示し、適宜小テストや期末テストで確認しているが、リストを作ったことにより、どの単語が重要であるかがはっきりして覚えやすかったと好評だったようである。

（４）自由記述より学生からの要望について

特になし。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

例年英語上級を履修する学生は授業参加態度がとてもよい学生が多いが、さらに今年度は特に英語の習熟度のレベルの高い学生が多かった。準備した教材では少し物足りないと感じた学生もいたかもしれない。レベルの高い学生が多く、学生同士が切磋琢磨してさらに高いレベルを目指していけるような学修環境であるため、一年生であっても英語のレベルの高い学生には積極的に上級レベルの受講をすすめていきたい。また、今後はもう少し専門性の高い教材を選ぶことも考えていきたいと思う。

４その他、意見

特になし。

科目　　ドイツ語初級ＩＢ　　授業コード　32112

担当　　大塚　直

教室　　講義棟第１講義室　　開講曜日・時間　　月曜日　　3

受講登録者　　67 名　　回答した学生　　61 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	15
4	９０％くらい	28
3	８０％くらい	16
2	７０％くらい	2
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		61

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	18	23
4	ややそう思う	27	25
3	どちらともいえない	15	11
2	あまりそう思わない	1	1
1	まったくそう思わない	0	1
	無回答	0	0
小計		61	61

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	19
4	ややそう思う	18
3	どちらともいえない	19
2	あまりそう思わない	4
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		61

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	43
4	延長することが多い	10
3	開始が遅いことが多い	6
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	1
	無回答	1
小計		61

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	29	32	26	31	19	24	27
4	ややそう思う	19	17	23	21	26	25	23
3	どちらともいえない	8	9	10	8	12	11	10
2	あまりそう思わない	4	2	1	0	3	1	0
1	まったくそう思わない	1	1	1	1	1	0	1
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		61	61	61	61	61	61	61

授業科目	ドイツ語初級ＩＢ			担当者	大塚　直		
開講時期	後期	曜日	月曜	時限	３限	アンケート様式	☒講義　☐実習

１この授業における教育方法の特徴

初めてドイツ語を学ぶ初学者を対象に、アルファベートの読み方やドイツ語の発音の仕方、および基礎的な文法事項をひととおり学び終える。ドイツ語という言葉に対する感受性を養ってもらうと同時に、言葉の背景にあるドイツ人のものの見方、考え方にも慣れ親しんでもらう。

毎回新しく登場する文法事項をＡ４一枚のプリントにまとめて配布した。

音楽学部の学生の受講者が多いので、ドイツの歌曲を紹介したり、ドイツの絵本を読ませたりして、ドイツ語の世界を親しみ深いものにする努力をした。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

受講登録者 67 名のうち、61 名が回答してくれた。出席率 100%の学生が全体の 25%、90%程度の学生が 46%であり、履修者のうちほぼ７割の学生が毎回授業に出席してくれたことになる。また、意欲的に授業に取り組んだ学生は「強くそう思う」が回答者の 29%、「ややそう思う」が 44%であり、合わせると約７割程度に達した。当該授業が初級であることを考え合わせると、全体の約７割の学生は授業内容について理解できているが、残りの約３割はよく分からないままに受講しているのではないか、という気がする。

授業後にドイツ語に対する興味・関心が高まった学生は、「強くそう思う」と「ややそう思う」と回答した学生を合わせると、全体の約８割程度であった。これは初級の授業としては、いちおうの成果であろう。

以上の結果から、大部分の学生はドイツ語について理解を示し、授業内容から興味を培ってはいるが、興味を失ったまま受講している学生もある程度いることが分かる。これは教員の力不足のせいもあろうが、やはり少人数制が求められる語学の授業として、１クラスあたり 67 名の履修登録者数は多く、それによって受講生たちの私語が多くなったこと、また授業中に譜読みをするなど集中力の欠如にもつながったことに原因がある。音楽学部の学生の大半がドイツ語を履修することは分かっているので、各専攻・コース別に少人数のクラス編成をするなどして、愛知芸大における語学教育のカリキュラム編成を見直すべきではないか。

（２）授業について

多くの学生が板書やプリント、教員の話し方、説明の仕方を「分かりやすい」、「熱心に教えている」と感じてくれたことが分かる。ただ「教員とのコミュニケーション」に関してはやや評価が下がっているので、語学教育としてはやはり少人数制が求められているのだと思う。

授業全般について約８割の学生が高く評価してくれた。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

理解度に合わせてゆっくり進んだ点、説明が分かりやすかった点、などを学生たちは評価してくれた。

今年度からＴＡ（ティーチング・アシスタント）が付き、授業運営が進めやすかった。また学生の質問にも答えてくれたので、昨年度までよりは学生とのコミュニケーションに時間が取れるようになった。

その他、授業の文化紹介が良かったという意見が寄せられた。

（４）自由記述より学生からの要望について

講義棟第一教室は耐震工事とともに修繕・機能強化が行われたため、例年ほどの問題点は出なかった。ただ黒板の掃除がなされていない、チョークの粉が舞っているなど、衛生面での問題は残っている。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

語学の授業としては大人数なので、ＴＡを利用して、個々の学生とのコミュニケーションにもう少し工夫をはかりたい。しかし昨年度の授業アンケートと比べても、全体的に好意的に評価する学生数は増えていた。

４その他、意見

語学の初級という性格上、一年で教科書を読み終えるのは毎回大変である。そんな慌ただしいなか「授業アンケート」が行われるので、本当に学生の意見が集約・反映されているのか、いつも疑問が残る。

科目　　ドイツ語初級ＩＢ　　授業コード　32113

担当　　村元　麻衣

教室　　講義棟第５講義室　　開講曜日・時間　　月曜日　　4

受講登録者　　25 名　　回答した学生　　16 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	6
4	９０％くらい	7
3	８０％くらい	3
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		16

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	4	5
4	ややそう思う	7	5
3	どちらともいえない	5	2
2	あまりそう思わない	0	3
1	まったくそう思わない	0	1
	無回答	0	0
小計		16	16

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	3
4	ややそう思う	4
3	どちらともいえない	7
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		16

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	7
4	延長することが多い	8
3	開始が遅いことが多い	1
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		16

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	5	5	5	7	6	5	5
4	ややそう思う	6	4	2	4	4	4	2
3	どちらともいえない	4	4	6	3	2	5	6
2	あまりそう思わない	1	2	2	2	4	1	2
1	まったくそう思わない	0	1	1	0	0	1	1
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		16	16	16	16	16	16	16

授業科目	ドイツ語初級ⅡＢ			担当者	大塚　直		
開講時期	後期	曜日	水曜	時限	２限	アンケート様式	☒講義　☐実習

１この授業における教育方法の特徴

初めてドイツ語を学ぶ初学者を対象に、アルファベートの読み方やドイツ語の発音の仕方、および基礎的な文法事項をひととおり学び終える。ドイツ語という言葉に対する感受性を養ってもらうと同時に、言葉の背景にあるドイツ人のものの見方、考え方にも慣れ親しんでもらう。

会話中心の教科書を使用して、DVD 教材を多用するなど、実践的で「使える」表現学習の習得に努めた。

毎回新しく登場する文法事項をＡ４一枚のプリントにまとめて配布した。

音楽学部の学生の受講者が多いので、ドイツの歌曲を紹介したり、ドイツ映画の台本を読ませたりして、ドイツ語の世界を親しみ深いものにする努力をした。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

受講登録者 66 名のうち、43 名が回答してくれた。

出席率 100%の学生が全体の約３割、90%の学生が約４割であった。今回はアンケートの回答者が少なかったため、正確には反映されていない可能性もあるが、履修者はほぼ毎回出席していることが分かる。

意欲的に授業に取り組んだ学生は、「強くそう思う」と「ややそう思う」を合わせると、全体の約８割強にも達していた。またほぼ同数の約 86%の学生が、授業後にドイツ語に対する興味・関心を深めてくれたようである。初級を踏まえて中級以降の授業が行われるため、学生の関心が深まったのは、一定の成果である。

（２）授業について

教員の話し方・説明の仕方や、板書やプリントの見やすさなどを評価する学生は、「強くそう思う」が全体の約５～６割に達しており、「ややそう思う」をも合わせると、全体の約８～９割の学生が好意的に授業を評価してくれている。特に教え方の熱心さを、全体の約９割の学生が高く評価してくれた。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

使用した教科書の展開が面白く、進むのが楽しかった、との意見が寄せられた。またドイツ語は難しかったという率直な意見も見られた。例年に比べると、今年は履修者がよく授業と取り組んでくれたと思う。

（４）自由記述より学生からの要望について

施設整備に関しては、特に問題となるようなクレームは見られなかった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

ドイツ語の初級は毎年、履修者数が多いため、今年度からＴＡ（ティーチング・アシスタント）が導入された。それに伴って、分からないところを相談したり、質問したりする時間を多く取るようにしたが、それがアンケート結果を見ると、授業に対する好意的な評価へと反映されているように思う。来年度以降も、新しい文法事項が出てくるたびに、すぐに教員かＴＡに質問できる開かれた授業体制を目指したい。

４その他、意見

受講者数や使用する教科書によって、また年ごとに学生たちのカラーが異なるため、現在のアンケート結果が、そのまま来年度以降の学生たちに対しても有効であるか、参考になるかは、よく分からない。

またアンケートの質問事項が例年同じなので、アンケート結果もマンネリ化してきている。

例えば、語学教員にとっては、現在使用している教科書が使いやすかったか、メディア教材をもっと活用したほうがよいかなど、具体的な質問事項をアンケート内に設けてもよいように思われた。

試験の裏にも授業の感想を書いてもらうが、そこにはドイツ語に対するモチベーションとか、授業の枠内に収まらない建設的な意見も見られるので、そのような意見も集約できるようにしてほしい。

科目　　ドイツ語初級ⅡB　　授業コード　32115

担当　　山本　弘之

教室　　芸術資料館演習室　　開講曜日・時間　　水曜日　　3

受講登録者　　19 名　　回答した学生　　22 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	8
4	９０％くらい	6
3	８０％くらい	8
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		22

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	12	12
4	ややそう思う	4	10
3	どちらともいえない	4	0
2	あまりそう思わない	2	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		22	22

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	12
4	ややそう思う	8
3	どちらともいえない	2
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		22

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	20
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		22

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	16	14	14	18	18	16	18
4	ややそう思う	6	6	6	4	4	4	4
3	どちらともいえない	0	2	2	0	0	2	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		22	22	22	22	22	22	22

科目　　ドイツ語中級ＩＢ　　授業コード　32116

担当　　大塚　直

教室　　講義棟第３講義室　　開講曜日・時間　　火曜日　　4

受講登録者　　25 名　　回答した学生　　21 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	3
4	９０％くらい	10
3	８０％くらい	5
2	７０％くらい	2
1	６０％以下	1
	無回答	0
小計		21

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	10	12
4	ややそう思う	6	5
3	どちらともいえない	4	3
2	あまりそう思わない	1	0
1	まったくそう思わない	0	1
	無回答	0	0
小計		21	21

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	9
4	ややそう思う	6
3	どちらともいえない	6
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		21

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	14
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	3
2	早く終わることが多い	2
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		21

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	13	13	13	14	13	12	15
4	ややそう思う	6	6	7	5	7	4	4
3	どちらともいえない	2	2	1	2	1	4	2
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	1	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		21	21	21	21	21	21	21

授業科目	ドイツ語中級ＩＢ			担当者	大塚　直		
開講時期	後期	曜日	火曜	時限	４限	アンケート様式	☒講義　☐実習

１この授業における教育方法の特徴

基礎的な文法事項をひととおり学び終えた学生を対象に、やや高度な文章を受講者全員で輪読することで、ドイツ語購読の楽しさに触れると同時に、初歩的な文法事項を反復練習しながら、中級レベルの実用的なドイツ語運用能力を培ってゆくことを目指した。

授業中に「ドイツ語圏の文化紹介」をする時間を設けて、毎回順番に学生には各自興味を持ったテーマについて発表してもらい、ドイツ語の言葉の背景にある西洋文化にも広く親しんでもらうことを心がけた。

またドイツ映画を鑑賞することによって、語学運用能力のみならず、現代ドイツ文化への理解を深めた。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

受講登録者が 25 名、回答者が 21 名だった。

今年度はグリム童話を教科書に選び、輪読していった。全体の約６割強の学生が 90%以上の出席率で熱心に受講してくれた。ほぼ 76%の受講生が意欲的に授業に取り組んでくれたことも分かる。逆に初級から継続してドイツ語ができない学生も少し混じってはいたが、語学の中級なので、もっとドイツ語を勉強したいという、モチベーションの高い意欲的な学生が集まってきたと考えられる。

授業後にドイツ語に対する興味・関心が高まったと回答した学生は「強くそう思う」と「ややそう思う」を合わせると、全体の約 81%に達した。基礎ができていない一部の学生を除けば、積極的に予習してきて、毎回ノートをとり、全体的に見て意欲的に受講してくれたように思う。

火曜日の午後は学内演奏会が催されるのでその準備のためや、実技系の卒業試験・修了試験を見学するためにやむなく欠席したという受講生が少しいた。

（２）授業について

受講生の約６～７割が「強くそう思う」、約２～３割が「ややそう思う」で、全体の約９割の学生が教員の説明の仕方は分かりやすく、学生とのコミュニケーションも十分にとれていた、授業全般について総合的に高く評価できる、と回答してくれたことが分かる。語学の授業としては、履修者数がちょうど良かったように思う。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

みんなが発表するドイツの文化紹介が面白くて良かった、という意見が多く見られた。

重要な単語や熟語は板書して整理するようにしたし、毎回問題の解答も板書して説明したので、分かりやすく理解が深まったという意見が寄せられた。

今後もなるべく文法については板書して、受講生の理解を深めていきたいと思う。

（４）自由記述より学生からの要望について

講義棟第３教室を使用したが、人数からいっても特に問題は見られなかった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

意欲的に受講してくれる学生が多かったので、これからもモチベーションの高い学生を気遣いながら、より良い授業となるように心がけていきたい。

４その他、意見

特になし。

科目　　ドイツ語中級ⅡB　　授業コード　32117

担当　　ジャクリーン・ポルスト

教室　　講義棟第３講義室　　開講曜日・時間　　木曜日　　3

受講登録者　　18 名　　回答した学生　　15 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	0
4	９０％くらい	8
3	８０％くらい	5
2	７０％くらい	2
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		15

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	7	11
4	ややそう思う	8	4
3	どちらともいえない	0	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		15	15

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	10
4	ややそう思う	4
3	どちらともいえない	1
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		15

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	14
4	延長することが多い	1
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		15

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	11	12	11	14	14	11	13
4	ややそう思う	3	3	4	1	1	3	2
3	どちらともいえない	1	0	0	0	0	1	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		15	15	15	15	15	15	15

科目　　ドイツ語上級ＩＢ　　授業コード　32118

担当　　大塚　直

教室　　講義棟第５講義室　　開講曜日・時間　　火曜日　　3

受講登録者　　16 名　　回答した学生　　13 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	1
4	９０％くらい	7
3	８０％くらい	4
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		13

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	6	11
4	ややそう思う	7	2
3	どちらともいえない	0	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		13	13

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	7
4	ややそう思う	2
3	どちらともいえない	4
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		13

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	12
4	延長することが多い	0
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	1
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		13

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	12	11	11	12	13	5	11
4	ややそう思う	1	2	2	1	0	2	2
3	どちらともいえない	0	0	0	0	0	5	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	1	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		13	13	13	13	13	13	13

授業科目	ドイツ語上級ＩＢ			担当者	大塚　直		
開講時期	後期	曜日	火曜	時限	３限	アンケート様式	☒講義　☐実習

１この授業における教育方法の特徴

辞書さえあれば、ドイツ語の文献を難なく読み解いていける高度な読解力を養ってゆく。日本語とドイツ語の言語構造の違いに留意しながら、複雑なドイツ語構文を平易で分かりやすい日本語に翻訳できる翻訳の技術を学ぶ。

以上のねらいから、今年度は上級者向けの様々なテクストを受講者全員で輪読していった。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

受講登録者は 16 名、回答した学生は 13 名だった。

毎回順番にドイツ語の長文読解を行うという高度な授業内容だったが、受講生のほぼ全員が 80%以上の出席率を示して、授業内容と積極的に取り組んでくれた。

授業に意欲的に取り組んでくれた受講生は、「強くそう思う」の 46%と「ややそう思う」の 54%を合わせると、全体で 100%に達した。また同じように、履修後に授業で扱った内容に興味・関心を高めたと思う受講生は、「強くそう思う」の 85%と「ややそう思う」の 15%を合わせると、やはり 100%に達している。

語学の上級なので、大学院進学や海外留学を考えている意欲のある学生が履修してくれたことが分かる。

（２）授業について

説明の仕方・話すスピード、教える熱心さなどでは、全体の約 92%の受講生が「強くそう思う」で、教員の姿勢を高く評価してくれた。「ややそう思う」をも含めると、全体で 100%に達している。

板書や提示された資料の見やすさ、また授業後に内容への興味や関心が高まったかという質問事項では、全体の約 85%の受講生が「強くそう思う」で、「ややそう思う」をも含めると、受講生の 100%がこの授業を高く評価してくれたことが分かる。また教員とのコミュニケーションという点では、全員が「強くそう思う」で、自由に質疑応答できる授業の雰囲気を高く評価してくれた。

授業全般についても、受講生のほぼ全員が、この授業を総合的に高く評価してくれたことが分かる。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

文法の解説が細かくて分かりやすく、また面白かったという意見が寄せられた。

院試対策がしっかりできた、という意見も見られた。

（４）自由記述より学生からの要望について

暖房が効かなくて寒いことがあった、集中管理ではなく、各教室で自由に気温調節ができるようにしてほしい、との意見が寄せられた。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

ドイツ語の上級では、本当にやる気のある学生を対象に、かなり高度な授業内容を展開している。そのため、学生には予習の単語調べなど毎回の授業の下調べにかなり負担がかかると思われるのだが、多くの学生が履修内容を高く評価してくれているので、今後も継続してしっかりとした授業を行っていきたいと思う。

４その他、意見

特になし。

科目　　フランス語初級ＩＢ　　授業コード　32120

担当　　水野（角田）　延之

教室　　講義棟第３講義室　　開講曜日・時間　　月曜日　　3

受講登録者　　13 名　　回答した学生　　11 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	0
4	９０％くらい	6
3	８０％くらい	5
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		11

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	3	2
4	ややそう思う	4	6
3	どちらともいえない	4	3
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		11	11

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	0
4	ややそう思う	5
3	どちらともいえない	4
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		11

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	10
4	延長することが多い	0
3	開始が遅いことが多い	1
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		11

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	6	1	4	5	7	2	3
4	ややそう思う	1	6	5	4	3	4	7
3	どちらともいえない	4	4	2	2	1	4	1
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	1	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		11	11	11	11	11	11	11

科目　　フランス語初級ＩＢ　　授業コード　32121

担当　　水野（角田）　延之

教室　　講義棟第３講義室　　開講曜日・時間　　月曜日　　4

受講登録者　　28 名　　回答した学生　　18 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	6
4	９０％くらい	6
3	８０％くらい	4
2	７０％くらい	2
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		18

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	4	6
4	ややそう思う	7	9
3	どちらともいえない	6	3
2	あまりそう思わない	1	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		18	18

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	6
4	ややそう思う	5
3	どちらともいえない	5
2	あまりそう思わない	2
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		18

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	14
4	延長することが多い	4
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		18

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	12	9	7	9	11	9	9
4	ややそう思う	5	7	9	7	6	7	9
3	どちらともいえない	1	1	1	2	1	1	0
2	あまりそう思わない	0	1	1	0	0	1	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		18	18	18	18	18	18	18

科目　　フランス語初級ⅡB　　授業コード　32122

担当　　フロリアン・エルゴット

教室　　講義棟第３講義室　　開講曜日・時間　　水曜日　　2

受講登録者　　14 名　　回答した学生　　13 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	2
4	９０％くらい	9
3	８０％くらい	2
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		13

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	7	9
4	ややそう思う	6	4
3	どちらともいえない	0	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		13	13

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	4
4	ややそう思う	3
3	どちらともいえない	5
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		13

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	12
4	延長することが多い	1
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		13

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	13	9	13	13	12	9	12
4	ややそう思う	0	3	0	0	1	1	1
3	どちらともいえない	0	1	0	0	0	3	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		13	13	13	13	13	13	13

科目　　フランス語初級ⅡB　　授業コード　32123

担当　　フロリアン・エルゴット

教室　　講義棟第３講義室　　開講曜日・時間　　水曜日　　3

受講登録者　　14 名　　回答した学生　　12 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	4
4	９０％くらい	8
3	８０％くらい	0
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		12

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	8	7
4	ややそう思う	3	5
3	どちらともいえない	0	0
2	あまりそう思わない	1	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		12	12

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	3
4	ややそう思う	5
3	どちらともいえない	4
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		12

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	12
4	延長することが多い	0
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		12

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	8	5	6	9	9	8	9
4	ややそう思う	4	6	6	3	2	2	3
3	どちらともいえない	0	1	0	0	1	2	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		12	12	12	12	12	12	12

科目　　フランス語中級ＩＢ　　授業コード　32124

担当　　フロラン・ペリエ

教室　　合奏棟第１教室　　開講曜日・時間　　月曜日　　4

受講登録者　　13 名　　回答した学生　　7 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	0
4	９０％くらい	2
3	８０％くらい	4
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		7

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	2	3
4	ややそう思う	1	3
3	どちらともいえない	4	1
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		7	7

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	1
4	ややそう思う	2
3	どちらともいえない	3
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		7

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	6
4	延長することが多い	1
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		7

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	1	1	0	5	2	2	3
4	ややそう思う	4	3	5	2	3	3	3
3	どちらともいえない	2	3	1	0	2	2	1
2	あまりそう思わない	0	0	1	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		7	7	7	7	7	7	7

科目　　フランス語中級ⅡB　　授業コード　32125

担当　　水野（角田）　延之

教室　　講義棟第５講義室　　開講曜日・時間　　水曜日　　4

受講登録者　　16 名　　回答した学生　　12 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	0
4	９０％くらい	4
3	８０％くらい	6
2	７０％くらい	2
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		12

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	3	6
4	ややそう思う	6	4
3	どちらともいえない	2	2
2	あまりそう思わない	1	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		12	12

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	0
4	ややそう思う	5
3	どちらともいえない	7
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		12

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	8
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	2
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		12

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	6	7	6	6	8	7	8
4	ややそう思う	6	4	5	5	2	4	2
3	どちらともいえない	0	1	1	1	2	1	2
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		12	12	12	12	12	12	12

科目　　イタリア語初級ＩＢ　　授業コード　32126

担当　　水野　留規

教室　　新講義棟大講義室　　開講曜日・時間　　月曜日　　3

受講登録者　　31 名　　回答した学生　　28 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	8
4	９０％くらい	14
3	８０％くらい	4
2	７０％くらい	2
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		28

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	11	12
4	ややそう思う	12	12
3	どちらともいえない	3	3
2	あまりそう思わない	2	1
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		28	28

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	13
4	ややそう思う	6
3	どちらともいえない	6
2	あまりそう思わない	3
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		28

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	21
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	4
2	早く終わることが多い	1
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		28

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	15	15	14	15	16	16	16
4	ややそう思う	2	4	3	3	1	4	3
3	どちらともいえない	5	4	6	4	5	6	5
2	あまりそう思わない	4	4	4	5	4	2	4
1	まったくそう思わない	2	1	1	1	2	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		28	28	28	28	28	28	28

授業科目	イタリア語初級 IB			担当者	水野留規		
開講時期	後期	曜日	月	時限	3	アンケート様式	☒講義 ☐実習

１この授業における教育方法の特徴

基礎文法を習得し、その理解の上で実践活動を試みる

２アンケート結果の所見

（１） 受講した学生自身について

多くの学生は意欲的に取り組んだ。一部には語学を苦手とする学生がいて、かれらの存在はほかの学生にも影響を及ぼしたように感じる。クラス授業なので進度を遅らせなければならず、教師としてもやりにくかった。他の外国語授業の初級でも同じ問題が生じている。入試の段階で語学力をしっかりと問うようにしなければ解決は難しい。結果的に不合格者が数名出た。来年度再履修することで、学習目的をかれらがしっかりと持つことを願う。

（２）授業について

大きな教室でやることが学生の集中力を切らしているような気がする。説明は一般の大学に比べると優しく、丁寧にしているつもりであるが、もうすこし詳しく、早いスピードでやってほしいという声もある。身体に障害がある学生に対しては大きな字で書くなど配慮した。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

自分たちで演技を交えて対話をすることは楽しそうである。今回は協定校のサレルノ大学から教員が来たので、ネイティブの見地から客観的に審査をしてもらった。私は学生たちを応援する側にいて、かれらが作った文章をあらかじめチェックするなどした。

（４）自由記述より学生からの要望について

大きな教室なので教師は大きな声を出したつもりである。しかし後ろに座る学生には届かないことがあったようで、今後はマイクを使うなどしたい。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

卒業に必要だから仕方なく学ぶ学生がいる以上、かれらの意欲をいかに駆り立てるか、万策尽きた感もあるが、これからも手法を考えていきたい。専攻の教員からも語学の重要性を言ってもらっていると思う。学生本人が外国語を使っていこうという気持ちを起こすことが大切であろう。イタリア語に関しては短期のイタリア研修や、検定試験の案内などをしており、意欲のある者にはモティベーションを高める効果を上げている。また昨年度は県立大学の外国語関連施設（あいことば）で、非常勤講師やネイティブ教員らとイヴェントを実施した。こうした機会をできるだけ作ることも有効だと思う。

４その他、意見

科目　　イタリア語初級ＩＢ　　授業コード　32127

担当　　ロムアルド・バローネ

教室　　奏楽堂第３教室　　開講曜日・時間　　月曜日　　3

受講登録者　　19 名　　回答した学生　　18 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	7
4	９０％くらい	4
3	８０％くらい	6
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		18

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	5	10
4	ややそう思う	12	7
3	どちらともいえない	0	1
2	あまりそう思わない	1	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		18	18

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	4
4	ややそう思う	7
3	どちらともいえない	5
2	あまりそう思わない	2
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		18

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	15
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	1
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		18

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	6	7	8	11	10	9	10
4	ややそう思う	9	10	8	6	7	6	8
3	どちらともいえない	3	1	2	1	1	3	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		18	18	18	18	18	18	18

科目　　イタリア語初級ⅡB　　授業コード　32128

担当　　パペッテ・マシィミリアーノ

教室　　講義棟第６講義室　　開講曜日・時間　　水曜日　　2

受講登録者　　30 名　　回答した学生　　28 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	8
4	９０％くらい	12
3	８０％くらい	3
2	７０％くらい	4
1	６０％以下	1
	無回答	0
小計		28

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	16	14
4	ややそう思う	6	9
3	どちらともいえない	4	3
2	あまりそう思わない	1	2
1	まったくそう思わない	1	0
	無回答	0	0
小計		28	28

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	6
4	ややそう思う	7
3	どちらともいえない	8
2	あまりそう思わない	6
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		28

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	24
4	延長することが多い	0
3	開始が遅いことが多い	1
2	早く終わることが多い	3
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		28

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	20	19	21	22	21	18	21
4	ややそう思う	5	5	3	2	2	4	3
3	どちらともいえない	0	1	0	1	1	3	1
2	あまりそう思わない	3	3	4	3	4	3	3
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		28	28	28	28	28	28	28

科目　　イタリア語初級ⅡB　　授業コード　32129

担当　　パペッテ・マシィミリアーノ

教室　　新講義棟大講義室　　開講曜日・時間　　水曜日　　3

受講登録者　　24 名　　回答した学生　　19 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	5
4	９０％くらい	11
3	８０％くらい	3
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		19

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	6	11
4	ややそう思う	10	6
3	どちらともいえない	2	2
2	あまりそう思わない	1	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		19	19

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	2
4	ややそう思う	5
3	どちらともいえない	10
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		19

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	18
4	延長することが多い	0
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	1
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		19

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	15	13	14	18	15	9	16
4	ややそう思う	4	6	5	1	4	5	3
3	どちらともいえない	0	0	0	0	0	3	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	2	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		19	19	19	19	19	19	19

科目　　イタリア語中級ⅡB　　授業コード　32131

担当　　パペッテ・マシィミリアーノ

教室　　講義棟第６講義室　　開講曜日・時間　　木曜日　　3

受講登録者　　24 名　　回答した学生　　21 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	9
4	９０％くらい	7
3	８０％くらい	5
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		21

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	14	16
4	ややそう思う	6	4
3	どちらともいえない	1	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	1
小計		21	21

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	12
4	ややそう思う	7
3	どちらともいえない	2
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		21

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	18
4	延長することが多い	3
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		21

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	18	18	19	19	19	19	19
4	ややそう思う	3	3	2	2	2	2	2
3	どちらともいえない	0	0	0	0	0	0	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		21	21	21	21	21	21	21

科目　西洋美術史特講Ⅱ　授業コード　14102

担当　高梨　光正　教室　芸術資料館研究室

回答した学生　13 名

受講登録者　15 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	11
4	９０％くらい	2
3	８０％くらい	0
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		13

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	7	8
4	ややそう思う	6	4
3	どちらともいえない	0	1
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		13	13

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	5
4	ややそう思う	2
3	どちらともいえない	4
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		13

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	9
4	延長することが多い	4
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		13

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	8	7	8	11	9	9	9
4	ややそう思う	4	3	4	2	3	4	3
3	どちらともいえない	1	3	0	0	1	0	1
2	あまりそう思わない	0	0	1	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		13	13	13	13	13	13	13

授業科目	西洋美術史特講 II			担当者		高梨　光正	
開講時期	前期	曜日	火	時限	5	アンケート様式	☒講義　☐実習

１この授業における教育方法の特徴

西洋美術史特講として、講義形式ではあるが、専門知識の教授とともに、実物の作品を実見しながら、そこから情報を読み取り、そしてその情報を自分で分析するという、画期的なゼミ形式での教育方法を取り入れた。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

学生の出席率は非常によく、高度な内容にもかかわらず最後まで真面目に履修し、ゼミの発表に関しても芸術学専攻以外の学生の真摯な勉強態度が印象的であった。

（２）授業について

講義内容に関しては、履修学生に１年生も参加していたこともあり、基礎知識のない学生には高度な内容であったことが想定されるが、むしろ１年生の履修や専攻外の学生の履修を拒むのではなく、完全な理解が得られなくとも高度な専門的内容に触れることは履修学生にとって良い刺激になるはずである。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

教員の専門知識を駆使した実際の作品の調査手法を直接学生に理解してもらえたことは、教育方法としてよかったものと判断できる。

（４）自由記述より学生からの要望について

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

今後、一方的な講義ではなく、学生が主体的に考え、調査し、自分の考えをしっかりと他人の前で論理的に説明できる能力を鍛えられるような、双方向的な講義のあり方をより深く実践させていきたい。

４その他、意見

科目　　日本美術史特講Ｉ　　授業コード　14103

担当　　本田　光子　　教室　　芸術資料館研究室

回答した学生　　17 名

受講登録者　　26 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	5
4	９０％くらい	6
3	８０％くらい	4
2	７０％くらい	2
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		17

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	9	12
4	ややそう思う	5	5
3	どちらともいえない	3	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		17	17

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	7
4	ややそう思う	7
3	どちらともいえない	3
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		17

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	14
4	延長することが多い	3
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		17

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

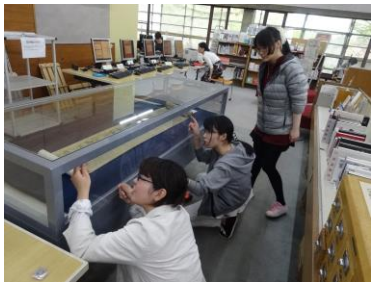
12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	14	10	12	14	13	8	12
4	ややそう思う	2	7	5	3	3	7	5
3	どちらともいえない	1	0	0	0	1	2	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		17	17	17	17	17	17	17

授業科目	日本美術史特講Ⅰ			担当者	本田 光子		
開講時期	前期	曜日	水	時限	3	アンケート様式	☒講義 ☐実習

１この授業における教育方法の特徴

「絵巻をひもとく」と題して、講義と実習を組み合わせるカリキュラムとした。教員による絵巻の歴史と特徴についての講義の後、学生がそれぞれ担当する絵巻を一つ選び、基本的な情報や論点、見どころを発表する。そして本学図書館で所蔵する絵巻の模本・複製を運び出し、実際に手に取って鑑賞をした。合わせて作品調書や写真撮影などを行っており、所蔵絵巻作品全てのデータをまとめて図書館へフィードバックする予定である。さらに希望者数名が、週変わりで図書館閲覧コーナーの展示ケースに絵巻を展示し、作品解説を執筆した。授業内容を発表し、学内に成果を還元することができた。教室は図書館に近い芸術資料館研究室を使用し、絵巻鑑賞のための机の養生など、博物館実習に準ずる手足を動かす内容となった。



２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

出席率は平均すると 8-9 割程度である。意欲的に取り組んだという自己評価が高い結果となった。全ての学生において授業内容への興味・感心が高まっている。

（２）授業について

終了時間は、絵巻の片付けに手間取る回は延長を余儀なくされた。教員がよく準備し、熱心に教えているとの項目が高評価となり、報われる思いである。事前に図書館で絵巻の状態を調べたり、各絵巻の情報を確認したり、展示に立ち会ったりと多くの時間をこの講義のために費やした。また、実際に絵巻を手に取りながら解説をしたので、他の講義と比べてコミュニケーションに関する評価が高い。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

・いろんな巻物が見れた。
- 絵巻物取扱いが知れて、絵巻物もたくさん見ることができたころ。ものによって表現が様々で楽しかったです。
- 絵巻物の取り扱い方を実践形式で学べたことがよかった。
- 自分で調べて発表することで絵巻に関して理解が深くなった。
- 堅苦しくなくて緊張せず受けれました。
- 一つ一つ課題があって発表するスタイルは、交流の場がつくられるのでとてもいいと思います。

（４）自由記述より学生からの要望について

記述なし。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

芸術大学における理論系授業として、実践を取り入れた意欲的な試みだったと思う。残念だったのは、はじめの講義で作品についての調べ方、文献の探し方を丁寧に解説し、プリント配布したにも関わらず、インターネットの情報をまとめるだけなど安易な発表があったことである。実技系専攻のみならず、芸術学専攻の学生にも手を抜く発表が散見され、失望した。より主体的に取り組んでもらえるにはどうしたらよいのか、改善方法を他の教員とも意見交換したい。

４その他、意見

台南芸術大学からの交換留学生が聴講生として参加し、中国の絵巻を詳しく解説し、書かれている文章を読み解くなど積極的に取り組んでくれたお陰で、他の学生達に大きな刺激を与えてくれた。

図書館・資料館の多大なるご協力のお陰で実現できたカリキュラムであり、深謝申し上げる。

科目　　日本美術史概説A　　授業コード　14104

担当　　本田　光子　　教室　　新講義棟大講義室

回答した学生　　81 名

受講登録者　　94 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	45
4	９０％くらい	24
3	８０％くらい	9
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	3
小計		81

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	32	40
4	ややそう思う	29	31
3	どちらともいえない	13	6
2	あまりそう思わない	3	1
1	まったくそう思わない	1	1
	無回答	3	2
小計		81	81

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	34
4	ややそう思う	28
3	どちらともいえない	13
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	1
	無回答	4
小計		81

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	74
4	延長することが多い	3
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	4
小計		81

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	60	60	67	69	39	44	59
4	ややそう思う	16	18	12	9	18	22	18
3	どちらともいえない	0	0	0	1	15	10	2
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	5	2	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	2	0	0
	無回答	5	3	2	2	2	3	2
小計		81	81	81	81	81	81	81

講義科目	日本美術史概説 A			担当者		本田　光子	
開講時期	前期	曜日	火	時限	4	アンケート様式	☒講義　☐実習

1この授業における教育方法の特徴

講義では画像や説明文をスクリーンに映写するとともに、適宜関連する映像を流して理解を促した。内容をまとめたプリントを配布し、重要語彙を穴埋め式とした。プリントは講義後に教員が作成した専用のウェブサイトにアップロードし、紛失/欠席した学生が各自ダウンロードできるようにした。毎回の講義で「よくわからなかった点、もう少し説明してほしい点、疑問に思ったこと、スピードや難易度に対する要望」などを書くように印刷した独自のコメントペーパーを配った。成績評価はレポートにより、期限より早く提出されたレポートは添削のうえ返却し、添削をもとに再提出した者は最終バージョンを採点対象とした。ボーナス点として出席回数８割以上で５点加点、任意の展覧会レポートは１件につき５点満点で採点して加点した。参考文献リストは毎年更新し、教科書巻末の文献リストの他、補遺リストを作成し、図書館所蔵図書には請求番号を記入して配布した。

2アンケート結果の所見

（1）受講した学生自身について

半分以上の学生が全ての講義に出席した。7 割 5 分の学生は意欲的に講義に取り組み、9 割近くが日本美術史への関心をより強めている。概説の講義として前回以上に理想的な結果となった。

（2）授業について

おおむね高評価であると受け止めた。着任以来、アンケート実施ごとに評価がじわりじわりと上がっているので、おそらく私自身が講義に慣れてきたのであろう。授業時間や話すスピード、説明の仕方について改善されている実感がある。配布資料やスライドも適宜加筆を続けており、学生からの手応えを感じる。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

たくさんの記述があるので、一部を掲載する（明らかな誤字は訂正した）。

- 皆が書いた質問に対して丁寧に答えてくださるのがうれしかったです。毎回楽しみにしていました。レポートを書くときの参考文献なども、プリントにまとめて配布してくださり、レポートの基本的な書き方まで説明していただいたので、初めてレポートが書きやすかったです。
- 先生の探究心がすごく感じられた。知るもんをペーパーに書くと時々読んでくれるのがうれしかった。レポートのチェックをお願いしたら的確なアドバイスが貰えた。レポートについての説明を早めにしてくれたこともありがたい。
- 授業の最初のＱ＆Ａの時間は復習にもなるし、予備知識もついて何よりおもしろかったです。自分以外の人たちの意見や観点を知るいい機会になりました。
- 出席表をもちいて一つの作品についてみんなからの見解や意見、絵によりイメージをよせてやる方法が良いと思いました。
- 前の授業で疑問に思ったこと等を、次の授業のはじめに取り扱っていたことがよかった。
- 授業の導入が毎回面白かったです。合間の小話の入れ方も適度でとても質のいい授業でした。
- 絵画の説明、時代背景などがよくわかった。大きいスクリーンで見て覚えられるので良い。
- ある物事についてとても細かく教えてくださるので、興味が持てる授業でした。
- 先生がとても親切で、説明もわかりやすく毎回感動しました。
- 丁寧な授業で一番安心して楽しく受けられる講義でした。

（4）自由記述より学生からの要望について

・スライドの文字が小さくて見えない時があったので、少し大きくしてもらえるとうれしい。→情報量を落として文字を大きくするよう善処したい。

・前説はすごく面白く話すのに、授業の話はまじめすぎて聞くのがつらい。授業中でもオンオフの切り替えがほしい。→１時間以上集中するのは確かに難しいので、合間に展覧会情報などを差し挟み気分転換を工夫したい。

- スライドがプリントのどこをやっているのかわからなくなるときがある。→スライド上で今どこをやっているのか分かるように文字で表示しているので、これ以上丁寧な対応は難しい。

3今後の講義の工夫・改善（ＦＤ）

今後もその時々の美術関連ニュースや展覧会紹介、新しい研究成果を織り込みながら、新鮮な授業を心がけて行きたい。

4その他、意見　特になし。

科目　　現代アート概説A　　授業コード　14106

担当　　小西　信之　　教室　　新講義棟大講義室

回答した学生　　69 名

受講登録者　　103 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	40
4	９０％くらい	19
3	８０％くらい	8
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	1
	無回答	0
小計		69

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	25	38
4	ややそう思う	26	25
3	どちらともいえない	17	6
2	あまりそう思わない	1	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		69	69

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	19
4	ややそう思う	24
3	どちらともいえない	23
2	あまりそう思わない	2
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		69

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	57
4	延長することが多い	6
3	開始が遅いことが多い	6
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		69

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	43	38	42	50	14	31	44
4	ややそう思う	20	19	21	16	18	22	23
3	どちらともいえない	5	11	5	3	25	13	2
2	あまりそう思わない	1	1	1	0	9	3	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	3	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		69	69	69	69	69	69	69

授業科目	現代アート概説 A			担当者		小西　信之	
開講時期	前期	曜日	水	時限	5	アンケート様式	☒講義　☐実習

１この授業における教育方法の特徴

美術の講義なので、作品を視覚的に見せることを重視しており、プロジェクターでパソコンから画像を投影しながら行っている。素材は Keynote に準備し、動画、静止画を問わず、視覚情報をふんだんに示しながら、解説を行っている。現代アートを深く感覚的に理解してもらうことを狙いとしている。概説 A では、19 世紀中葉から 20 世紀中葉までの主に欧米の美術を対象とする。

２アンケート結果の所見

（1）受講した学生自身について

出席も悪くなく（86%が、9 割の出席)、意欲的に取り組んだとする学生が 74%、関心が高まったと答えた学生が 91%であり、全体に良いかたちで受講していると思われる。

（2）授業について

全体に良い評価を得ていると思う。総合評価（「よい授業か」）では「強くそう思う」が 64%、「ややそう思う」が 33%で「よい」の評価がトータル 97%となっている。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

映像で見るとわかりやすくてよかったです。
難しいというイメージの現代アートでしたが、現代アートが少しだけわかった気がします。
絵だけでなく、映像としても見れたので楽しかった。
画像だけでなく映像資料があることでより理解が深まった。
自分たちの学習状況をよく理解した上での説明が多かったのでよかった。
今まで全く理解できず好みではなかった現代アートに対してこの授業を受けたことで関心がでた。
スクリーンを使ってわかりやすい解説をしてくださったのでとても楽しかったです。
やる気がでる！！
先生の話し方が、頭に内容が入りやすい。
制作意欲の湧く言葉がたくさん聞けてとても刺激になりました。
まとまりのある講義でわかりやすかった。
プロジェクターの使い方がうまい。
小西先生の話術がとてもいい。
自分がこれからどう制作していくかを考えるいい時間でした。

（4）自由記述より学生からの要望について

その回ごとに取り扱った作家や作品などをまとめたプリントがあると尚良い。
先生が早口で聞き取れない時があった。
授業で見せていただいたビデオを見る時間が別で設けられたらぜひ参加したいです。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

学生は今すぐ役立つ今の情報をより多く欲しているが、基本的な流れを教えることをベースにすることは変わらない。基本そのものをもっと深め、また講義の仕方そのものをもっと工夫し、学生が自力で美術について考え始めるように、美術の奥深さを伝えられるようにしたい。
「早口で聞き取れないときがあった」は気をつけたい。

４その他、意見

科目　　日本美術史概説B　　授業コード　14101

担当　　本田　光子

教室　　新講義棟大講義室　　開講曜日・時間　　火曜日　　4

受講登録者　　90 名　　回答した学生　　64 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	25
4	９０％くらい	32
3	８０％くらい	5
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	1
小計		64

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	28	37
4	ややそう思う	26	21
3	どちらともいえない	8	4
2	あまりそう思わない	1	1
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	1	1
小計		64	64

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	29
4	ややそう思う	20
3	どちらともいえない	14
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	1
小計		64

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	58
4	延長することが多い	4
3	開始が遅いことが多い	1
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	1
小計		64

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	47	41	45	51	33	30	45
4	ややそう思う	11	13	15	11	15	13	15
3	どちらともいえない	5	9	3	1	13	11	3
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	2	7	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	2	0
	無回答	1	1	1	1	1	1	1
小計		64	64	64	64	64	64	64

講義科目	日本美術史概説 B			担当者	本田　光子		
開講時期	後期	曜日	火	時限	4	アンケート様式	☒講義　☐実習

１この授業における教育方法の特徴

講義では画像や説明文をスクリーンに映写して理解を促した。内容をまとめたプリントを配布し、重要語彙を穴埋め式とし、教科書の参照頁を示した。プリントは講義後に教員が作成した専用のウェブサイトにアップロードし、紛失/欠席した学生が各自ダウンロードできるようにした。毎回の講義で「よくわからなかった点、もう少し説明してほしい点、疑問に思ったこと、スピードや難易度に対する要望」などを書くように印刷した独自のコメントペーパーを配り、次回の講義冒頭で紹介した。成績評価はレポートにより、期限より早く提出されたレポートは添削のうえ返却し、添削をもとに再提出した者は最終バージョンを採点対象とした。ボーナス点として出席回数８割以上で５点加点、任意の展覧会レポートは１件につき５点満点で採点して加点した。参考文献リストは毎年更新し、教科書巻末の文献リストの他、補遺リストを作成し、図書館所蔵図書には請求番号を記入して配布した。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

ほとんどの学生が熱心に出席していたが、芸祭準備のためか、前期と比べると 100%出席と回答した割合が 1 割以上落ちた。そのかわり 9 割が日本美術史への関心・興味をより強めており、「強くそう思う」が 1 割増えた。概説の講義として理想的な結果である。

（２）授業について

おおむね高評価だった。ただし前期と比べると、プリントやスライドの見やすさ、説明のわかりやすさがそれぞれ１割程度下がっている。説明に熱中して次回へ延長することがあったので、それが不評なのかもしれない。惰性に流されず、常に新しい気持ちで講義内容・資料・説明を更新していきたい。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

一部を掲載する（明らかな誤字は訂正した）。

- 外に出たり幅の広い授業だった。→希望者による展覧会見学を実施した。
- 毎回、しっかりコメントをみてくれたり、わかりやすくスクリーンで授業をしてくれて、とてもよかったです。
- 前期と同様にコメントペーパーの紹介があったのでよかったです！後期はイラストの紹介も多くて楽しかったです！
- 一年間の中で一番楽しい授業でした。ありがとうございました。
- 資料が充実していた。
- とても熱心に教えてくださって、且つわかりやすく、雑談もまじえながらですごく良い講義でした。
- 現在の最新の研究についても、先生から言及があったこと。

（４）自由記述より学生からの要望について

大変ショックなコメントが寄せられた。「スライドを気持ちよく見ようと階段の席につくと、大体後ろの人たちのおしゃべりがうるさくて仕方ないです。たまに注意するのですが、じゃあ前行けよと小声で言われる」居眠りする学生は多いが、私語はほとんどないと思っていたので意外だった。気づいていなかったことが学生に対して申し訳ない。今後はガイダンス時などに、私語が他の学生の勉強する環境を阻害していることを訴えたい。

今期はプロジェクターに関する要望が合計 34 寄せられた。「画質が悪いので見づらい」「色が違って見えたり、細部が見えづらくて残念です。美術大学なのできちんとしたものを見たいです」等。水墨画の地が黄色っぽく見えるなど、全体に黄色みが強く、緑が鮮やかに映らなかったと思う。着任３年目になるが、前任者からもプロジェクターの不調について聞いていた。そろそろ新調する機会ではないか。

「教室が寒かった」「教室が汚い」との意見も一つずつ寄せられている。

３今後の講義の工夫・改善（ＦＤ）

今後もその時々の美術関連ニュースや展覧会紹介、新しい研究成果を織り込みながら、新鮮な授業を心がけて行きたい。

４その他、意見　特になし。

科目　　現代アート概説B　　授業コード　14102

担当　　小西　信之

教室　　新講義棟大講義室　　開講曜日・時間　　水曜日　4・5

受講登録者　　104 名　　回答した学生　　57 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	16
4	９０％くらい	30
3	８０％くらい	8
2	７０％くらい	3
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		57

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	22	35
4	ややそう思う	26	19
3	どちらともいえない	8	3
2	あまりそう思わない	1	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		57	57

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	25
4	ややそう思う	15
3	どちらともいえない	14
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	2
	無回答	0
小計		57

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	38
4	延長することが多い	8
3	開始が遅いことが多い	11
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		57

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	36	32	33	39	19	26	36
4	ややそう思う	16	17	19	15	13	19	20
3	どちらともいえない	4	7	5	3	20	10	1
2	あまりそう思わない	0	1	0	0	3	2	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	2	0	0
	無回答	1	0	0	0	0	0	0
小計		57	57	57	57	57	57	57

「授業評価アンケート報告書」

授業科目	現代アート概説 B				担当者	小西信之	
開講時期	2016 年後期	曜日	水曜	時限	5	アンケート様式	☑講義 ☐実技・実習

１この授業における教育方法の特徴

美術の講義なので、作品を視覚的に見せることを重視しており、プロジェクターでパソコンから画像を投影しながら行っている。素材は Keynote に準備し、動画、静止画を問わず、視覚情報をふんだんに示しながら、解説を行っている。現代アートを深く感覚的に理解してもらうことを狙いとしている。概説 B では、20 世紀中葉から現在までの主に欧米、および日本の美術を対象とする。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

出席も悪くなく（81%が、9 割の出席)、意欲的に取り組んだとする学生が 84%、関心が高まったと答えた学生が 95%であり、全体に良いかたちで受講していると思われる。

（２）授業について

全体に良い評価を得ていると思う。総合評価（「よい授業か」）では「強くそう思う」が 63%、「ややそう思う」が 35%で「よい」の評価がトータル 98%となっている。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

わかりやすい説明でたんたんと進んでいくので退くつしませんでした。
様々な映像をみせてもらい、面白かった。
とてもえいぞうや画像で作品を見れて、楽しい授業でした。
自分の制作をみつめることもでき楽しい授業でした。
小西先生のお話がおもしろかったです。とても楽しそうに話す…。[2]
説明が分かりやすい。
体験を混じえながらの授業。
どの話も貴重で、おもしろかったです。特に先生の言葉がよく胸に響いてくる、とても良い授業でした。
映像や図判を本当にたくさん用意してくれて、とても印象に残りました。
先生の話をきいていると、なやみがなくなった。映ぞうの資料が多くて分かりやすかった。
ぜんぶ。
とても熱心に授業をしてくださっていたので、良かったです。

（４）自由記述より学生からの要望について

0 年代のことも知りたい(大まかなこと)。
作家名をあとで調べたいので、スライドに名前をぜんぶ入れてほしいです。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

学生は今すぐ役立つ今の情報をより多く欲しているが、基本的な流れを教えることをベースにすることは変わらない。基本そのものをもっと深め、また講義の仕方そのものをもっと工夫し、学生が自力で美術について考え始めるように、美術の奥深さを伝えられるようにしたい。
「作家名をあとで調べたいので、スライドに名前をぜんぶ入れてほしいです。」は気をつけたい。

４その他、意見

科目　西洋美術史概説Ｂ　授業コード　14103

担当　高梨　光正

教室　0　開講曜日・時間　水曜日　5

受講登録者　85 名　回答した学生　27 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	6
4	９０％くらい	15
3	８０％くらい	3
2	７０％くらい	2
1	６０％以下	1
	無回答	0
小計		27

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	8	14
4	ややそう思う	13	11
3	どちらともいえない	4	1
2	あまりそう思わない	1	0
1	まったくそう思わない	1	1
	無回答	0	0
小計		27	27

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	7
4	ややそう思う	6
3	どちらともいえない	11
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	2
	無回答	0
小計		27

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	24
4	延長することが多い	1
3	開始が遅いことが多い	1
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		27

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	13	10	13	17	9	9	16
4	ややそう思う	10	15	9	7	10	8	7
3	どちらともいえない	2	1	4	2	7	7	3
2	あまりそう思わない	1	0	0	0	1	2	0
1	まったくそう思わない	1	1	1	1	0	1	1
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		27	27	27	27	27	27	27

授業科目	西洋美術史概説 B			担当者		高梨　光正	
開講時期	後期	曜日	水	時限	4	アンケート様式	□講義　□実習

１この授業における教育方法の特徴

教科書通りの、言葉で覚える西洋美術史概説ではなく、できる限り作品細部に迫りながら、視覚的に様式の変化や技法の変化を覚えられるよう配慮している。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

前期の西洋美術史概説Ａと比べ、履修登録者数は変わらないものの、出席者数が半分程度になった。特に芸祭後さらに減少したことは、この数年の傾向と比べると変化が激しい。

（２）授業について

概ね好感を得ていると思われるが､教員側からの質問に対し積極的な反応が学生の側から乏しいところが残念。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

作品の細部写真などは、これまでの担当教員の調査研究の蓄積を、未発表の部分も含めそのまま教育の現場に提示しているという点で、その意義を理解してもらったことは嬉しい。

（４）自由記述より学生からの要望について

プロジェクターは早期に交換すべきものと判断される。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

ここ数年の傾向と比べ、後期の履修登録者数と出席者数の差が大きくなったことについて、講義内容や方法に起因するものか、学生の側の都合によるものはか判断されない。出席を厳しく管理することも視野に入れながら、来年度の講義方法を再検討したい。

４その他、意見

科目　　油画実技Ⅰ　　授業コード　12201

担当　　油画専攻教員　　教室　　0

回答した学生　　24 名

受講登録者　　25 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	11
4	９０％くらい	10
3	８０％くらい	3
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		24

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	13	15
4	ややそう思う	9	8
3	どちらともいえない	2	1
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		24	24

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	8	3	11	6	8	5	16	13
4	ややそう思う	7	7	6	9	10	8	5	7
3	どちらともいえない	7	8	6	6	5	5	2	4
2	あまりそう思わない	0	5	1	2	1	5	1	0
1	まったくそう思わない	2	1	0	1	0	1	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		24	24	24	24	24	24	24	24

授業科目	油画実技Ⅰ（後期）			担当者	油画専攻教員（全員）		
開講時期	通年	曜日	月～金	時限	1・2	アンケート様式	□講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴

絵画を起点に、講座授業を中心に油画表現・創作表現の基礎を学ぶ。講座内容は以下の通り、「課題制作–風景考」、「下地実習（白亜地など）、技法材料研究（絵画組成、テンペラ技法、自画像制作）」、「壁画研究（フレスコ実習）」、「課題制作–人物考」、「木工実習」。各講座ではレクチャー、討論会、個別講評、全体講評会などを適宜、実施している。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生についての質問

アンケートの質問 1～3 の出席率・学生自身の意欲・興味・関心についての回答は高評価であった。特にアンケート３の「強くそう思う」が 63%、「ややそう思う」が 33%の結果は、様々な課題、実習などに意欲的に挑み、その成果を実感できたといえよう。

（２）授業についての質問

アンケートの質問 4～10 については全体的にほぼ高評価であった。教室・設備に関して評価が分かれたのは、狭さが要因であると考えられる。質問 10、11 は約 8～9 割が評価している。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

「自分の興味あることについて制作できて良かった」「作品制作の参考になった」「自分の可能性を広げる機会になった」「いろいろな素材に触れられ盛りだくさんで楽しかった」「沢山の絵画技法が体験できた」などの回答があった。

（４）自由記述より学生からの要望について

「実技時間をもっと長くして欲しい」「時間が足りなかった」などの意見があった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

毎年の改善により学生の不満は少なくなっている。今後は各授業内容のさらなる向上のために、コミュニケーションの取り方、講評のタイミング、時間配分など、専攻で協議し、さらに工夫を重ねたい。施設の狭さや不具合は実技授業の場合、その成果に直結するので、早急に対策を講ずる必要がある。

４その他、意見

課題をとおして、新１年生それぞれの個性が感じられた。基礎授業の実習内容、課題制作の時期、時間配分など、今後も工夫を重ねたい。

科目　　油画実技Ⅱ　　授業コード　12202

担当　　油画専攻教員　　教室　　0

回答した学生　　26 名

受講登録者　　26 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	10
4	９０％くらい	7
3	８０％くらい	5
2	７０％くらい	4
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		26

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	13	15
4	ややそう思う	8	6
3	どちらともいえない	5	4
2	あまりそう思わない	0	1
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		26	26

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	7	11	13	10	12	10	14	14
4	ややそう思う	7	8	9	11	9	7	7	8
3	どちらともいえない	9	5	4	3	4	4	5	4
2	あまりそう思わない	1	2	0	1	1	5	0	0
1	まったくそう思わない	2	0	0	1	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		26	26	26	26	26	26	26	26

授業科目	油画実技Ⅱ（前期）			担当者	油画専攻教員（全員）		
開講時期	通年	曜日	月～金	時限	1・2	アンケート様式	☐講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴

現代の美術表現の多様化に則し、2 年次は、各教員の様々な価値観を、課題を通して横断的に学ぶ。3 週間ごとに 2 つの講座（教員ひとりひとりが担当する）が並び、学生はどちらかを選択する。前期は 10 講座が行われた。また、各講座後に、講座で学んだことをヒントに自主的に自己の表現を思考、作品を制作する期間を設けている。

２アンケート結果の所見

（1）受講した学生についての質問

アンケートの質問 1～3 の出席率、学生自身の意欲・興味・関心についての回答は高評価であった。質問 1 で、学生の出席率が高い（80%以上）のは、講座授業内容が多岐に渡っていることが関係していると考えられる。質問 2,3 では、8 割以上の学生が授業に興味を示し積極的に参加したことが伺える。

（2）授業について

アンケートの質問 4～10 についてはそれぞれ高評価であった。講座授業では各教員と対話することが多くなり、学生は、自作を摸索する上で、役に立っているものと思われる。教室・設備については不適切だと思う学生が 4 割近くあったのは、慢性的な教室の狭さと、設備（空調など）の悪さが原因だと分析する。シラバスの有効性について中程度の評価が多かった理由は、各講座授業の内容詳細決定が講座開催の 1～2 か月前となることが原因だと思われる。専攻では独自にシラバスとは別に、詳細な講座内容を追加で提示説明することで対応している。質問 11 では 85%以上が評価している。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

「自由に考え、制作できた」などの回答があった。

（4）自由記述より学生からの要望について

特に明記はなかった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

2 年次になり、それぞれの問題意識が高まる中、多様な講座授業が展開されたことは有意義であったと思われる。授業評価アンケートには現れていないが、ごく少数ながら欠席が目立つ学生もいる。アトリエの狭さ、機能改善は、早急に何らかの対策を講ずる必要がある。

４その他、意見

大きな問題はないが、全体の流れを考慮すべく講座の組み合わせを検討することも必要だと考える。

科目　　油画実技Ⅲ　　授業コード　12203

担当　　油画専攻教員　　教室　　0

回答した学生　　21 名

受講登録者　　23 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	4
4	９０％くらい	8
3	８０％くらい	5
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	4
	無回答	0
小計		21

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	10	14
4	ややそう思う	6	1
3	どちらともいえない	3	4
2	あまりそう思わない	0	1
1	まったくそう思わない	2	1
	無回答	0	0
小計		21	21

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	7	9	10	11	14	8	10	9
4	ややそう思う	3	5	6	7	4	0	5	6
3	どちらともいえない	8	6	4	2	2	8	5	5
2	あまりそう思わない	1	0	0	0	0	2	0	0
1	まったくそう思わない	2	1	1	1	1	3	1	1
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		21	21	21	21	21	21	21	21

授業科目	油画実技Ⅲ（前期）			担当者	油画専攻教員（全員）		
開講時期	通年	曜日	月～金	時限	1～5	アンケート様式	□講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴

前期は、学生の自主制作に、教員がマンツーマンで対話・講評するチュートリアル形式の授業が中心となる。チュートリアルⅠでは、約 11 週間に渡り学生が自主的に選択した教員の指導を受け、大作を制作（研究制作Ⅰ）、締めくくりとして前期末に展示形式の講評会を実施（研究制作発表展）した。その他に「全体講評」、自作を論理的に捉えるための「文章講座」なども実施した。

２アンケート結果の所見

（1）受講した学生についての質問

アンケートの質問 1～3 の出席率・学生自身の意欲・興味・関心についての回答は高評価であった。制作に対し各自の意識も高まってきている。

（2）授業について

アンケートの質問 4～10 については全体的に高評価であった。教室・設備に関しての回答はわかれた。教室・設備については不適切だと思う学生が 6 割以上あったのは、慢性的な教室の狭さと、設備（空調など）の悪さが原因だと分析する。自主性を重んずる継続研究制作授業が中心のため、作品は増加、大型化し、アトリエを手狭と感じる学生が多かった。質問 11 では 8 割が評価している。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

特に明記はなかった。

（4）自由記述より学生からの要望について

特に明記はなかった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

多様な表現に向かう学生に対し、チュートリアル方式の授業形態は非常に有効だと実感した。アトリエの狭さや設備に関しては、根本的な解決策を摸索するとともに、現状でもフレキシブルに対応できるよう対策を講じる必要がある。

４その他、意見

昨年度、チュートリアル期間が短いとの指摘が多かったため適切な期間に改善した。夏休み明けの 10 月、2 週目に古美術研究旅行が実施される。すでに教員・学生共に準備を始めている。

科目　　油画実技Ⅳ　　授業コード　12204
（卒業制作を含む。）

担当　　油画専攻教員　　教室　　0

回答した学生　　29 名

受講登録者　　30 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	4
4	９０％くらい	11
3	８０％くらい	6
2	７０％くらい	6
1	６０％以下	2
	無回答	0
小計		29

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	12	11
4	ややそう思う	8	9
3	どちらともいえない	5	7
2	あまりそう思わない	4	1
1	まったくそう思わない	0	1
	無回答	0	0
小計		29	29

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	5	12	9	11	12	3	13	12
4	ややそう思う	4	4	10	8	8	8	4	10
3	どちらともいえない	12	11	10	6	7	12	10	7
2	あまりそう思わない	4	1	0	4	2	2	2	0
1	まったくそう思わない	4	1	0	0	0	4	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		29	29	29	29	29	29	29	29

授業科目	油画実技Ⅳ（前期）			担当者	油画専攻教員（全員）		
開講時期	通年	曜日	月～金	時限	1～5	アンケート様式	☐講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴

4 年次は卒業制作に向けて講評会が定期的に行われる。卒業制作向けてのチュートリアル指導、巡回講評、卒業制作演習、7 月上旬には資料館で展示し油画専攻教員全員による講評会を実施した。卒業制作計画書も 7 月に配布された（提出は後期 10 月下旬)。

２アンケート結果の所見

（1）受講した学生自身について

アンケートの質問 1～3 の出席率・学生自身の意欲・興味・関心についての回答は高評価であった。チュートリアル指導によるサポートと、資料館展示などもあり、卒業制作に向けての意識の高まりが感じられる。

（2）授業について

アンケートの質問 4～10 については全体的に高評価であった。シラバスの有効性について中程度の評価が多かったのは、卒業制作内容について事前に具体的な説明ができないことが理由としてあげられる。また、学生が卒業制作に向け自主的に考えを展開し始めていることの表れとも考えられる。教室・設備については不適切だと思う学生が 6 割以上あったのは、慢性的な教室の狭さと、設備（空調など）の悪さが原因だと分析する。作品の大型化により、アトリエを手狭と感じる学生が多かった。質問 11 では約 9 割が評価している。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

「じっくり先生と話せて良かった」「適切なアドバイスをもらった」「資料館の講評会では、マイクが使用されていたため、しっかり聞き取れた」などの回答があった。

（4）自由記述より学生からの要望について

「資料館展示に関して、今年は学生数が多く、狭かった。事前に調整の話し合いをもっとしたかった」などの回答があった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

慢性的なアトリエの狭さは早急に改善する必要がある。しかしながら、すぐに改善することは難しいため、出来るところから改善を進めたい。

４その他、意見

昨年度、チュートリアル期間が短いとの指摘が多かったため適切な期間に改善した。後期では卒業制作も煮詰まってくるため、講評会の時期や具体的なサポートなどについて、教員全員でよく話し合って進めたい。

科目　　彫刻実技Ｉ　　授業コード　13201

担当　　彫刻専攻教員（村尾）　　教室　　0

回答した学生　　10 名

受講登録者　　10 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	8
4	９０％くらい	2
3	８０％くらい	0
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		10

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	9	9
4	ややそう思う	1	1
3	どちらともいえない	0	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		10	10

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	3	7	9	9	9	9	9	9
4	ややそう思う	2	1	1	1	0	0	1	1
3	どちらともいえない	4	0	0	0	1	1	0	0
2	あまりそう思わない	1	2	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		10	10	10	10	10	10	10	10

授業科目	彫刻実技Ⅰ（塑造Ⅰ・金属）			担当者	村尾里奈		
開講時期	前期	曜日	月～金	時限	1・2	アンケート様式	□講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴
学生は、機械や道具の扱い方を学び、彫刻実技の基礎を学ぶ。身につけた知識や技術を用いて、自力で作品制作を行うことができるようになることを、授業の到達目標とする。

２アンケート結果の所見
（１）受講した学生自身について
授業への出席率は非常に良く、設問２「あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか」および設問３「この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましか」については、「強くそう思う」が９人で、「ややそう思う」が１人であった。このことから、本授業の目的は十分に達せられたと考えられる。

（２）授業について
設問 6～11 については、9 人が「強くそう思う」と回答した。学生の授業についての満足度は大変高いものであったと考えられる。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて
「先生が全員に目を行き届けてくれたのでよかった」「どうすればいいか先生も一緒に考えてくれた」など、教員が学生一人一人に気を配っていることを、学生も理解していることが分かった。

（４）自由記述より学生からの要望について
「授業の課題期間の配分」とあった。これは金属の授業についてだと考えられる。今年は、昨年までになかった課題を新たに取り入れたことや、50 周年事業に関係して彫刻論などの講義がいくつか重なったことなどにより、スケジュールに余裕がなかったことは承知している。来年は今年のようなことはないが、課題に対する時間配分については、今後もよくよく検討していきたい。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）
昨年の反省を経て工夫したことでよかった点もあるが（TIG 溶接に特化した小さな課題を導入したことで、TIG 溶接の技術の習得により時間を充てられたこと）、新たに改善すべき点もあることが分かった。金属に関しては、学ぶことが大変多いため、授業内容を常に検討することが重要であると考えている。今年の反省を踏まえて、来年度は更に工夫していきたい。

４その他、意見
「授業に関して施設整備などに対する要望などがあれば書いてください」の設問で、回答が全くなかったことは、過去４年間で初めてのことだった。空調も整い、窓の開閉も自在になったことなどの、この数年にわたる施設整備の改善の努力が実を結んだように思われた。

科目　　彫刻実技Ⅱ　　授業コード　13202

担当　　彫刻専攻教員（森北）　　教室　　0

回答した学生　　11 名

受講登録者　　11 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	3
4	９０％くらい	3
3	８０％くらい	4
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		11

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	8	10
4	ややそう思う	2	0
3	どちらともいえない	1	1
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		11	11

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	5	6	8	8	10	9	9	9
4	ややそう思う	2	2	2	2	0	0	1	1
3	どちらともいえない	4	3	1	1	1	2	1	1
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		11	11	11	11	11	11	11	11

授業科目	彫刻実技Ⅱ			担当者		森北　伸	
開講時期	前期	曜日		時限		アンケート様式	□講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴

・一年生に引き続き基礎的な修練と彫刻素材（塑像・木彫・石）に対しての技術向上を目的に授業展開している。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

・アンケート結果を見る限り、おおむね良好と考えて良いと思う。

（２）授業について

・基礎技術の習得目的の授業なので、学生には技術・忍耐力が養われる反面、つまらなく感じてしまう危険性があり、それらのバランスを取るのが難しい。
今回は、おおむね成功と考えている。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

・少人数制で個人に合わせた指導方法。

（４）自由記述より学生からの要望について

・特になし。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

・ 基礎的な授業内容が多いので、受講生が飽きないような授業運営をすること。
・ 少人数制の利点を生かし、一人一人に合わせたディスカッションを大切にする。

４その他、意見

科目　　彫刻実技Ⅲ　　授業コード　13203

担当　　彫刻専攻教員（森北）　　教室　　0

回答した学生　　9 名

受講登録者　　10 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	5
4	９０％くらい	2
3	８０％くらい	1
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		9

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	8	8
4	ややそう思う	1	0
3	どちらともいえない	0	1
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		9	9

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	3	4	7	6	6	7	7	7
4	ややそう思う	1	4	1	2	2	0	1	1
3	どちらともいえない	4	0	1	0	0	2	0	0
2	あまりそう思わない	1	1	0	0	1	0	1	1
1	まったくそう思わない	0	0	0	1	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		9	9	9	9	9	9	9	9

授業科目	彫刻実技Ⅲ			担当者	森北伸		
開講時期	前期	曜日		時限	１・２	アンケート様式	□講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴

・常勤教員によるゼミ形式の実技授業。各学生がそれぞれ自身に合ったゼミを選択し、半期に渡り受講する。最終講評では全員の教員に個人の作品として講評してもらい評価を受ける。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

・アンケート結果からは、概ね好評を受けている。

（２）授業について

・特になし

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

・特になし

（４）自由記述より学生からの要望について

・特になし

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

・特になし

４その他、意見

・ 学生数が 10 人という少数のため、アンケートのような統計学は、重要ではないと考えている。
・ 少人数制の良さは、教員が現場で敏速に対応（一人一人の学生に対して）出来る点であって、アンケート結果から考える改善は、システマチックになりがちになります。
学生が訴える良い点も悪い点も、一人の意見が数字に直すと大きくなり、一概に信用できません。

科目　　美学特講Ｉ　　授業コード　14101

担当　　中　敬夫　　教室　　芸術学棟２階サロン

回答した学生　　6 名

受講登録者　　8 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	1
4	９０％くらい	3
3	８０％くらい	2
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		6

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	3	5
4	ややそう思う	3	1
3	どちらともいえない	0	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		6	6

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	5
4	ややそう思う	1
3	どちらともいえない	0
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		6

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	6
4	延長することが多い	0
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		6

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	6	6	6	6	5	6	6
4	ややそう思う	0	0	0	0	1	0	0
3	どちらともいえない	0	0	0	0	0	0	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		6	6	6	6	6	6	6

授業科目	美学特講Ⅰ			担当者	中　敬夫		
開講時期	前期	曜日	水	時限	4	アンケート様式	☒講義　☐実習

１この授業における教育方法の特徴

カント『判断力批判』の第１部「美感的判断力の批判」を学び、カント美学について考察することによって、美学的な考え方の基礎を身につける。

カントの『判断力批判』のなかから、「序文」、「序論」、「第二部　目的論的判断力の批判」は割愛して、カント美学の中心たる「第一部　美感的判断力の批判」を、可能なかぎり丁寧に――時には原典邦訳の講読を交えながら――紹介し、解明してゆく。

授業の工夫点として、毎回授業の内容を要約したプリントを配って、授業の効率化を図り、またそのプリントの裏には、関連するテクストからの抜粋をコピーして、学生が原典に関心の持てるようにしている。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

アンケートに答えた６名のうち、「出席」に関しては、100％が１名、90％くらいが３名、80％くらいが２名だった。「意欲的に取り組んだか」に関しては、「強くそう思う」と「ややそう思う」が３名ずつ、また「興味・関心が高まったか」に関しても、「強くそう思う」が５名で、「ややそう思う」が１名だった。カント美学という超難解な内容にもかかわらず、このクラスの学生たちは、とても熱心であったように思う。

（２）授業について

授業全般の評価に関しては、ほとんどが「強くそう思う」の類の最高評価で、「シラバス」と「コミュニケーション」に関してのみ、５名が「強くそう思う」の最高評価、１名のみ「ややそう思う」の次点評価だった。総合評価が全員最高評価だったということもあって、今回は学生たちの評価は、きわめて高かったと言える。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

「カント美学についてよくわかった」、「難しい哲学の話を分かりやすくしてくれた」という記述があった。じっさい少人数の授業なので、一人ひとりがよく理解できているか否かを確認しながら授業を進めることができたということもあって、難解な内容でも、学生たちには理解して貰えたと思う。

（４）自由記述より学生からの要望について

特になかった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

今回は、昨年度までに「美学特講Ⅰ」の単位をすでに取っていたにもかかわらず、カント美学ということで、また受講したいと言う学生が複数いたので、特別に「美学特講Ⅲ」という形で受講させ、単位を認めることにした。このように、特に熱心な学生がいて、難しい内容でも懸命についてこようとしてくれた。こちらも何とか理解させようと努力するし、教師と学生とのあいだで、このような好循環があったように思う。毎回このように上手くゆくとはかぎらないが、可能なかぎり、このような努力は継続してゆきたいと思う。

４その他、意見

アンケート当日に欠席した学生が１名いたが、総勢でも受講生７名の授業であった。授業の規模としては、学生の反応がよく分かって、好ましくはあるのだが、しかしわざわざアンケートを行うほどの人数かと言うと、若干疑問が残る。つまり、アンケート結果を見るまでもなく、学生たちの顔を見れば、満足しているか否かはすぐ分かってしまうことなので、このような少人数の授業においてまでアンケートを取る必要があるのか、今後も検討してゆく必要はあると思う。

科目　　芸術学基礎実技ＩA　　授業コード　14201

担当　　小西　信之　　教室　　0

回答した学生　　7 名

受講登録者　　7 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	4
4	９０％くらい	3
3	８０％くらい	0
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		7

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	2	3
4	ややそう思う	5	4
3	どちらともいえない	0	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		7	7

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	0	5	3	5	3	3	3	3
4	ややそう思う	1	1	3	2	4	4	4	4
3	どちらともいえない	5	1	1	0	0	0	0	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	1	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		7	7	7	7	7	7	7	7

授業科目	芸術学基礎実技 IA			担当者	小西信之、佐藤克久、田中元偉、森北伸		
開講時期	2016 年前期	曜日	月、火 木、金	時限	1～２限	アンケート様式	□講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴

基礎実技の授業。今年の前期は「現代アート実習 I」「現代アート実習 II」「素描 I」「彫塑 I」である。現代アート実習では、写真を撮影して小冊子を制作、素描では鉛筆デッサンと木炭デッサンを行い、彫塑では首像の塑像での模刻を行った。様々な技法、表現方法をオムニバス的に学ぶのが、この基礎実技の特徴である。

２アンケート結果の所見

（1） 受講した学生自身について

出席は全員が 90%以上出席、全員が意欲的に取り組んだとしており、また全員が関心が高まったと答えている（「ややそう思う」を含む)。

（2） 授業について

時間は全員が 86%が十分、教員の話しかた、スピードは 86%が適切、コミュニケーションは全員が取れていた、力量とのバランスは 5 人が適切だったとしている。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

様々な種類の実技を少人数で受けられることがよかった。後期も楽しみです。

（4）自由記述より学生からの要望について

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

長年「素描」をお願いしていた田中先生が今年度でやめるので、来年度に向けて新たな先生を迎える準備中。それにともなって、メニューの見直しを行いたい。

４その他、意見

科目　　芸術学基礎実技ⅡA　　授業コード　14202

担当　　小西　信之　　教室　　0

回答した学生　　5 名

受講登録者　　5 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	2
4	９０％くらい	2
3	８０％くらい	1
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		5

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	2	3
4	ややそう思う	2	0
3	どちらともいえない	1	2
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		5	5

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	2	5	3	3	2	2	3	3
4	ややそう思う	0	0	1	1	2	1	0	1
3	どちらともいえない	3	0	0	0	0	0	1	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	1	0	1
1	まったくそう思わない	0	0	1	1	1	1	1	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		5	5	5	5	5	5	5	5

授業科目	芸術学基礎実技 IIA			担当者	小西信之、山本高之、田中元偉、森北伸		
開講時期	2016 年前期	曜日	月、火 木、金	時限	1～２限	アンケート様式	□講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴

基礎実技の授業。今年の前期は「現代アート実習Ⅲ」「現代アート実習Ⅳ「素描Ⅱ」「彫塑Ⅱ」である。現代アート実習では、ビデオを撮影して映像作品を制作、素描では鉛筆デッサンと木炭デッサンを行い、彫塑では首の塑像を行った。様々な技法、表現方法をオムニバス的に学ぶのが、この基礎実技の特徴である。

２アンケート結果の所見

（１） 受講した学生自身について

出席は 5 人中 4 人が 90%以上出席、4 人が意欲的に取り組んだとしており、また全員が関心が高まったと答えている。

（２） 授業について

時間は全員が十分、教員の話しかた、スピードは 80%が適切、コミュニケーションは全員が取れていた、力量とのバランスは 80%が適切だったとしている。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

特になし

（4）自由記述より学生からの要望について

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

長年「素描」をお願いしていた田中先生が今年度でやめるので、来年度に向けて新たな先生を迎える準備中。それにともなってカリキュラムの一部見直しを行いたい。

４その他、意見

科目　　デザイン・工芸論Ａ　　授業コード　15101

担当　　デザイン専攻教員　　教室　　芸術資料館演習室

回答した学生　　38 名

受講登録者　　46 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	30
4	９０％くらい	8
3	８０％くらい	0
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		38

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	12	12
4	ややそう思う	17	22
3	どちらともいえない	7	3
2	あまりそう思わない	1	0
1	まったくそう思わない	1	1
	無回答	0	0
小計		38	38

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	9
4	ややそう思う	9
3	どちらともいえない	16
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	2
	無回答	1
小計		38

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	23
4	延長することが多い	11
3	開始が遅いことが多い	2
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	2
	無回答	0
小計		38

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	19	11	8	23	8	9	19
4	ややそう思う	16	23	26	14	20	13	13
3	どちらともいえない	2	3	4	1	8	7	6
2	あまりそう思わない	1	1	0	0	1	6	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	1	3	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		38	38	38	38	38	38	38

授業科目	デザイン・工芸論 A			担当者	デザイン専攻教員		
開講時期	前期	曜日	金	時限	3	アンケート様式	☒講義 ☐実習

１この授業における教育方法の特徴
デザイン・工芸学を含む総合的な講座であり、デザイン専攻、陶磁専攻の全員が分担して講義を行う。
幅広いデザイン･工芸分野におけるプロフェッショナルとしての見識を養うこと､その歴史を理解すること。
またデザイン・工芸科教員スタッフの制作活動や理念、教育方針などに触れることができる。

２アンケート結果の所見
（1）受講した学生自身について
出席率はかなり良く､意欲的に授業を受けており､内容についても高く興味を持ってもらえたと考えられる。

（2）授業について
授業全般については、総合的に高い評価を得られている。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて
教員によるオムニバス形式の授業であるため、それぞれの考え方、様々な分野について知ることができ、自分の視野も広がった、という意見があった。

（4）自由記述より学生からの要望について
レポート出題時期を早めて欲しい旨の要望があった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）
デザイン工芸分野の理念や概念を幅広く伝えるという､授業の目標は概ね達成できているようである。教員が入れ替わったりすることも多い授業なので､随時授業の流れを確認しながら､準備打合せを行っていきたい。

４その他、意見

科目　　デザイン特講Ａ　　授業コード　15102

担当　　デザイン専攻教員　　教室　　デザイン講義室1

回答した学生　　26 名

受講登録者　　35 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	4
4	９０％くらい	16
3	８０％くらい	5
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		26

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	7	7
4	ややそう思う	11	13
3	どちらともいえない	6	4
2	あまりそう思わない	2	1
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	1
小計		26	26

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	5
4	ややそう思う	5
3	どちらともいえない	10
2	あまりそう思わない	3
1	まったくそう思わない	2
	無回答	1
小計		26

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	17
4	延長することが多い	4
3	開始が遅いことが多い	4
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	1
小計		26

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	9	8	10	14	7	8	10
4	ややそう思う	9	12	10	7	6	6	12
3	どちらともいえない	4	4	4	3	9	8	0
2	あまりそう思わない	1	0	0	1	1	3	2
1	まったくそう思わない	1	1	1	0	2	0	1
	無回答	2	1	1	1	1	1	1
小計		26	26	26	26	26	26	26

授業科目	デザイン特講 A			担当者	デザイン専攻教員		
開講時期	前期	曜日	水	時限	3	アンケート様式	☒講義 ☐実習

１この授業における教育方法の特徴

年間 30 名のさまざまなデザイン領域、関連領域で活躍する専門家を招き、視覚伝達デザイン、プロダクトデザイン、環境デザイン、メディアデザインなどについてその現状、内容、問題点を論じ、将来の展望も交えて解説する。
デザイン作品を映像や実物で提示し、具体性を持ったデザインの理解ができるように工夫されているため、年間を通じて履修することで多様なデザインや創造活動の世界にふれることができる。各界のプロフェッショナルである講師陣の講義を毎週体験することができる。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

出席率は高く、全体にこの授業に意欲的に取り組んでいる。また、授業後には内容についての興味が高まったという結果が現れている。

（２）授業について

授業全般については、高い評価を得られている。ただし、シラバスについては、強くそう思う、ややそう思う、を合わせても 38%と低く、どちらとも言えないが 38%を占めた。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

様々なジャンルの非常勤講師をお呼びして行う授業であり、通常デザイン専攻で教育の軸としている 4 領域を超えて話を聞くことができるので、多角的に刺激を受けられたようである。

（４）自由記述より学生からの要望について

内容について、過去の事例紹介だけではなく、これからの新しいデザインに携わる人の話を聞きたいという意見があった。
また根本的に、このような座学形式の授業は意味がなく不要であるという声もあった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

今年度は内容を見直し、一部リニューアルした内容で授業を行い、より旬な現場の話を提供できるように工夫した。今後も、各領域の基本的な部分を体感させるという基本は守りつつ、より時代に即し、学生のニーズに応えられるような内容を提供できるよう、全体のバランスを図っていく。
また、先の意見にもあるように、授業内容の意図が伝わっていない現実も見られ、実際に出席率も少しずつ下がっているように思われる。こちらが必要とし提供するレベルの内容で、授業を続けるべきかどうか、今後も慎重に検討を行う。

４その他、意見

科目　　日本画実技Ｉ　　授業コード　11201

担当　　日本画専攻教員　　教室　　0

回答した学生　　4 名

受講登録者　　11 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	0
4	９０％くらい	2
3	８０％くらい	2
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		4

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	2	4
4	ややそう思う	2	0
3	どちらともいえない	0	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		4	4

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	0	0	2	2	3	1	4	3
4	ややそう思う	0	0	2	1	1	0	0	1
3	どちらともいえない	2	2	0	1	0	1	0	0
2	あまりそう思わない	1	2	0	0	0	2	0	0
1	まったくそう思わない	1	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		4	4	4	4	4	4	4	4

授業科目	日本画実技Ⅰ			担当者	阪野　智啓		
開講時期	通年	曜日	毎日	時限	1・2	アンケート様式	□講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴
日本画の基礎を習得するため、段階を丁寧に踏んだ実技と、日本画材や美術史などの基礎知識の講義も交えた指導を行っている。

２アンケート結果の所見
（１）受講した学生自身について
日本画実技の基礎習得に関しては、学生全員が興味をしめし、積極的に取り組んでいたと感じる。

（２）授業について
「この「授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか」の評価では全員が強くそう思うと答えており、充実した授業評価が得られた。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて
なし

（４）自由記述より学生からの要望について
長期休暇中のアトリエ開放については入試や管理者の問題があるので難しい。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）
授業についての質問 4「シラバス」については実技授業なのであまり参考にならないと思われる。

４その他、意見
「絵の具が 10 分も持たずに冷えて固まります。」の記述があるとおりで、早期の床暖房を希望したい。

科目　　日本画実技Ⅱ　　授業コード　11202

担当　　日本画専攻教員　　教室　　0

回答した学生　　2 名

受講登録者　　12 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	0
4	９０％くらい	0
3	８０％くらい	1
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	1
	無回答	0
小計		2

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	0	0
4	ややそう思う	1	1
3	どちらともいえない	0	1
2	あまりそう思わない	1	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		2	2

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	1	0	0	0	0	0	0	0
4	ややそう思う	0	0	0	1	0	1	2	0
3	どちらともいえない	1	1	2	1	2	1	0	2
2	あまりそう思わない	0	1	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		2	2	2	2	2	2	2	2

授業科目	日本画実技Ⅱ			担当者	岩永　てるみ		
開講時期	通年	曜日	毎日	時限	1・2	アンケート様式	□講義　☒実習

１この授業における教育方法の特徴
日本画制作に必要な技法や知識を身につけさせる。描写力・表現力を更に発展させ、古典作品の模写や材料研究を学ばせる。

２アンケート結果の所見
（１）受講した学生自身について
おおむね授業に関心・意欲を持って取り組んだようだ。

（２）授業について
設問３では全員が強くそう思うと回答しており、充実した授業となった。
（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて
なし

（４）自由記述より学生からの要望について
なし。床暖房により全員が教室の設備面に関して適切と回答が得られた。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）
基礎力を身につけながらも、さらに日本画に興味や関心が高まり実践的な技法の紹介を見せることにより、わかりやすい授業構成を検討したい。

４その他、意見
シラバスの評価が割れていた。実技授業では限界があると思われる。ほとんどの学生が総合的によい授業だと評価しているのは良かったと思われる。

科目　　油画実技Ⅰ　　授業コード　12201

担当　　油画専攻教員（寺内　曜子）　　教室　　0

回答した学生　　24 名

受講登録者　　25 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	1
4	９０％くらい	14
3	８０％くらい	4
2	７０％くらい	3
1	６０％以下	2
	無回答	0
小計		24

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	10	15
4	ややそう思う	9	4
3	どちらともいえない	3	2
2	あまりそう思わない	0	1
1	まったくそう思わない	2	2
	無回答	0	0
小計		24	24

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	7	6	10	7	8	3	12	11
4	ややそう思う	6	7	10	8	8	3	6	9
3	どちらともいえない	8	5	2	5	6	4	3	2
2	あまりそう思わない	2	4	0	2	0	8	1	0
1	まったくそう思わない	1	2	2	2	2	6	2	2
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		24	24	24	24	24	24	24	24

授業科目	油画実技Ⅰ（2016 年度　後期）			担当者	油画専攻教員（全員）		
開講時期	通年	曜日	月～金	時限	1・2	アンケート様式	□講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴

講座授業を中心に油画表現・創作表現の基礎を学ぶ。講座内容は以下の通り、「人物課題」、「立体、インスタレーション」、「版画研究」、「進級研究課題制作」。教員全員出席による全体講評会を「進級研究課題制作」後に実施した。各講座ではガイダンス、レクチャー、個別講評、講評会などを適宜、実施している。

２アンケート結果の所見

（1）受講した学生自身について

アンケート 1～3 の出席率・学生自身の意欲・興味・関心については高評価であった。特にアンケート３の「強くそう思う」が 63%、「ややそう思う」が 17%の結果は、様々な課題、実習などに意欲的に挑み、その成果を実感できたといえよう。

（2）授業について

アンケート 4～10 については全体的に高評価であった。アンケート 4、5 で 4 割程度が「どちらともいえない」、「あまりそうは思わない」との評価であった。アンケート 9 の教室・設備への評価では、約 6 割が不適切と答えている。アトリエの狭さ、空調に悪さが原因であると思われる。アンケート 11 では、高評価が 84%に達している。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

「自分の興味をもつきっかけとなった」「少人数生の授業は良かった」「様々な技法やモチーフが描けてよかった。」「丁寧な講評にテンションが上がった」「周りの人ががんばっていると、私もがんばろうと思った」「教員との距離が近い」などの回答があった。

（4）自由記述より学生からの要望について

「講評時、作品を置く場所がない、廊下になってしまう。非常に不便」「アトリエが狭い」「もう少し時間が欲しい（深く勉強したい)」「講評に対す精神的負荷が大きい」などの意見があった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

「もう少し時間が欲しい」との意見は、講座が連続してあるためだと思われる。課題を多く与えるだけではなく、その内容を充実させることで、時間的余裕も作れるよう改善したい。喫緊の問題は、施設の狭さの改善である。また、空調への不満も多く改善が必要である。エアコンの容量がアトリエの体積と合っていない。施設の狭さや空調の悪さも踏まえ授業内容を考えることは教員にとってもストレスとなっている。

４その他、意見

施設への不満は、油画専攻だけでは改善出来ない課題なので、大学全体で早急に取り組む必要があると考える。アトリエの狭さと空調への不満は、長年あるにも関わらず、大学は殆ど対処せず放置しているのは大きな問題である。また、油画専攻学生だけが長年、施設使用で不利益を被っていることも、非常に問題である。専攻教員は、学生からの施設への不満を抑えることに、長年のストレスを感じている。早急に解決すべきである。

科目　　油画実技Ⅱ　　授業コード　12202

担当　　油画専攻教員（設楽　知昭）　　教室　　0

回答した学生　　18 名

受講登録者　　26 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	6
4	９０％くらい	2
3	８０％くらい	8
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	1
	無回答	0
小計		18

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	8	10
4	ややそう思う	9	8
3	どちらともいえない	1	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		18	18

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	7	5	7	5	8	3	9	6
4	ややそう思う	4	7	9	7	8	8	8	12
3	どちらともいえない	4	3	1	3	2	1	1	0
2	あまりそう思わない	2	3	1	1	0	4	0	0
1	まったくそう思わない	1	0	0	2	0	2	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		18	18	18	18	18	18	18	18

授業科目	油画実技Ⅱ（2016 年度　後期）			担当者	油画専攻教員（全員）		
開講時期	通年	曜日	月～金	時限	1・2	アンケート様式	□講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴

現代の美術表現の多様化に則して、各教員の様々な価値観を、課題を通して横断的に学ぶ。3 週間ごとに 2 つの講座（教員ひとりひとりが担当する）が並び、学生はどちらかを選択する。後期は 4 講座が行われた。各講座後に、講座で学んだことをヒントに思考、制作する期間を設けている。後期末には「進級研究課題制作」を実施した。その他に、自己作品ファイルを作成するための「写真講座」。「自由制作課題」を実施した。教員全員出席による全体講評会なども実施した。

２アンケート結果の所見

（1）受講した学生自身について

アンケート 1～3 の出席率・学生自身の意欲・興味・関心についての回答は高評価であった。アンケート 1 の出席率の質問について、80%以上と回答する学生が多いことは、講座授業内容の多様性に要因があると考えられる。アンケート 3 において 100%の学生が興味・感心が高まったという結果は特筆すべき点である。

（2）授業について

アンケート 4～10 については全体的に高評価であった。アンケート 7、8 は 90%以上の高評価であった。アンケート 4、5 で 4 割程度が「どちらともいえない」、「あまりそうは思わない」との評価であった。アンケート 9 の教室・設備への評価では、半数近くが不適切と答えている。アトリエの狭さ、空調に悪さが原因であると思われる。アンケート 11 において、100%の高評価であったことは注目に値する。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

「毎回違ったことを意識して取り組めて良かった」「選択できるのが良かった」「各講座で楽しく授業ができた」「講評やレクチャーがわかりやすかった」などの回答があった。

（4）自由記述より学生からの要望について

「講評の度に制作場所を片付けないと行けないので、講評の場所を違うところにして欲しい」「出席を成績に反映させる場合、不正のないようにしてほしい」「課題の前に、モデル希望のシステムが欲しい」「期間が短く感じた講座があった」などの意見、要望があった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

2 年次になり、それぞれの問題意識が高まる中、多様な講座授業が展開されたことは有意義であったと思われる。授業評価アンケートには現れていないが、ごく少数ながら欠席が目立つ学生もいる。半数近くの学生が不満に思っている施設の問題（アトリエの狭さ、機能改善）は早急に何らかの対策を講ずる必要がある。

４その他、意見

環境が悪いにも関わらず、全般に非常に高い満足度となったのは教員の努力によるものと考えられる。今後も継続したい。施設への不満は、油画専攻だけでは改善出来ない問題なので、大学全体で早急に取り組む必要があると考える。アトリエの狭さと空調への不満は、長年あるにも関わらず、大学は殆ど対策を打ち出せていないのは問題である。

科目　　油画実技Ⅲ　　授業コード　12203

担当　　油画専攻教員　　教室　　0

回答した学生　　20 名

受講登録者　　23 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	3
4	９０％くらい	7
3	８０％くらい	4
2	７０％くらい	3
1	６０％以下	3
	無回答	0
小計		20

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	6	9
4	ややそう思う	7	4
3	どちらともいえない	5	6
2	あまりそう思わない	1	0
1	まったくそう思わない	1	1
	無回答	0	0
小計		20	20

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	3	3	3	4	5	4	5	5
4	ややそう思う	2	6	9	7	8	3	9	7
3	どちらともいえない	10	10	7	6	5	7	5	7
2	あまりそう思わない	2	0	0	2	1	4	0	0
1	まったくそう思わない	3	1	1	1	1	2	1	1
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		20	20	20	20	20	20	20	20

授業科目	油画実技Ⅲ（2016 年度　後期）			担当者	油画専攻教員（全員）		
開講時期	通年	曜日	月～金	時限	1～5	アンケート様式	□講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴

後期は、4 年次に向け、各自の研究と表現を深めるため「チュートリアル B」「研究制作」が中心となる。内容は以下の通り、「チュートリアル B」、「研究制作・大作 2」、「研究制作全体講評会」、「古美術研究」、自作を論理的に捉えるための「文章講座」。後期末の２週間は展示形式の「作品発表会と講評会」が実施された。

２アンケート結果の所見

（1）受講した学生自身について

1～3 の出席率・学生自身の意欲・興味・関心についての回答は高評価であった。制作に対し各自の意識も高まってきている。

（2）授業について

アンケート 4 のシラバスについて評価が低かった理由は、自由制作課題が多かったためと考えられる。アンケート 5～7 では大きな不満はなかったが改善する余地がある。アンケート 10 は高評価であった。アンケート 11 について「どちらとも言えない」という評価が多かった。アンケート 9 の教室・設備に対し不満がない者は 35%と非常に少ない。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

「自由度が高く、古美術研究旅行が楽しかった」「古美術研究が思いのほか良かった」「舞踏がまたやりたい」などの回答があった。

（4）自由記述より学生からの要望について

「作品を展示することができて良かった」「アトリエが寒い」「環境が悪い」「アトリエが狭い」「暖房設備」「厳しい講評を受けたい」などの意見、要望があった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

多様な表現に向かう学生に対し、チュートリアル授業は有効であった。授業期間、面談回数等については改善する余地があると思われる。古美術研究は有意義であった。アトリエの狭さや設備の悪さに関しては s 早急に対応する必要があると思われる。

４その他、意見

施設への不満は、油画専攻だけでは改善出来ない問題なので、大学全体で早急に取り組む必要があると考える。アトリエの狭さと空調への不満は、長年あるにも関わらず、大学は殆ど対策を打ち出せていないのは問題である。

科目　　油画実技Ⅳ（卒業制作を含む。）　授業コード　12204

担当　　油画専攻教員　　教室　　0

回答した学生　　28 名

受講登録者　　30 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	9
4	９０％くらい	10
3	８０％くらい	5
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	3
	無回答	0
小計		28

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	15	14
4	ややそう思う	9	10
3	どちらともいえない	3	4
2	あまりそう思わない	1	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		28	28

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	6	9	12	14	12	3	13	11
4	ややそう思う	8	10	11	5	12	7	10	13
3	どちらともいえない	9	6	4	6	3	6	2	3
2	あまりそう思わない	0	2	0	0	1	5	2	0
1	まったくそう思わない	5	1	1	3	0	7	1	1
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		28	28	28	28	28	28	28	28

授業科目	油画実技Ⅳ（2016 年度　後期）			担当者	油画専攻教員（全員）		
開講時期	通年	曜日	月～金	時限	1～5	アンケート様式	□講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴

後期は、卒業制作に具体的に取り組む時期となるため、教室巡回講評が中心となる。個別の巡回講評に加え、全教員による「卒業制作講評週間」を２度実施した。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

アンケートの質問 1～3 の出席率・学生自身の意欲・興味・関心についての回答は高評価であった。卒業制作に向けての意識の高まりが感じられる。

（２）授業について

アンケートの質問 4～10 については全体的に高評価であった。質問 9 の結果は、卒業制作に合わせ、作品の大型化により、アトリエが狭くなったことが理由としてあげられる。質問 11 では約 9 割が評価している。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

「先生と多く話す事が出来た」「すごく困っていたとき、先生が力をかしてくれた」などの回答があった。

（４）自由記述より学生からの要望について

「梱包材を置く場所が欲しい」「もっと先生に相談したり、話しを聞いたりすれば良かった」などの意見、要望があった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

約半数の学生が不満に思っている施設の問題（アトリエの狭さ、機能改善）は早急に何らかの対策を講ずる必要がある。

４その他、意見

施設への不満は、油画専攻だけでは改善出来ない問題なので、大学全体で早急に取り組む必要があると考える。アトリエの狭さと空調への不満は、長年あるにも関わらず、大学は殆ど対策を打ち出せていないのは問題である。

科目　　彫刻実技Ⅰ　　授業コード　13201

担当　　彫刻専攻教員

教室　　0　　開講曜日・時間　0　　0

受講登録者　10 名　　回答した学生　9 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	2
4	９０％くらい	4
3	８０％くらい	3
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		9

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	8	8
4	ややそう思う	1	1
3	どちらともいえない	0	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		9	9

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	4
4	ややそう思う	1
3	どちらともいえない	3
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		9

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	7
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		9

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	6	6	5	6	8	5	7
4	ややそう思う	1	0	4	3	1	2	2
3	どちらともいえない	2	3	0	0	0	2	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		9	9	9	9	9	9	9

授業科目	彫刻実技Ⅰ			担当者	彫刻専攻教員		
開講時期		曜日		時限	1・2時限	アンケート様式	□講義 ■実習

1この授業における教育方法の特徴

この授業は、立体造形に向かう際に必要となる、基礎的な考え方・知識・技術等について、実技を通して高く的に学ぶことを目的としている。特に、後期に実施される木彫・樹脂の授業では、モチーフを西洋・東洋の古典作品に定め、優れた造形性・技術について、歴史的背景なども含め、重層的に学ぶことが可能である。

2アンケート結果の所見

（1）受講した学生自身について

本年度の受講生は、大変に真面目に課題に取り組むことが出来る学年であり、目的の達成に時間は要したものの、充実した体験を通して着実な学数が出来た。病欠を除けば、全ての授業に高い出席率を残していることからも、継続的な努力の重要性が浮き彫りとなった。

（2）授業について

アンケート結果が示すように、シラバス・配布資料・話すスピード等について、充実の余地が残されており、授業構成・構造について再検討し、より、解りやすく、学習に集中しやすい授業の構築を目指す必要がある。また、木彫・樹脂の授業連携を、他の授業においても考えることで、より効率的な授業運営の達成が期待される。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

＊アンケート結果が無いために判断が不可能。

（4）自由記述より学生からの要望について

＊アンケート結果が無いために判断が不可能。

3今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

上記（2）に記した通り、授業目的の効率的な達成のためには、より丁寧な授業作りが必要である。丁寧な資料作りに代表されるこの取り組みは、結果的に、慎重な授業点検に結びつき、慎重な授業点検、慎重な授業構築を呼ぶことになる。

また、より詳しい授業評価を可能とするために、彫刻実技Ⅰを構成する個別の授業ごとに、アンケート等の実施を行う等の試みが必要であろうと考える。

4その他、意見

専攻内でのより積極的な授業連携の他に、専攻間の授業連携が重要になると考える。受講生は、年々多くのことを学ばなければならなくなっている。それは結果的に、各課題への取り組み時間の短縮を呼んでおり、十分な課題への理解が希薄になる傾向が見受けられる。取り上げる課題を悪戯に多くするのではなく、従来通りの各課題への取り組みに十分な時間を確保する努力と併せて、公開されるシラバスを参考にした、授業内容の重複などに対する検討による時間確保についても検討を開始することが必要である。但し、専攻をまたぐこの様な取り組みは、相互のカリキュラム構成に大きな変更を迫るものであるため、例えば、関連科目等の共通科目の授業内容等に対す検討を行うことで、新たな授業展開の可能性を模索することも重要になると考えられる。その意味において、教養教育科目の充実が、専門教育にとって需要な意味を持つことを再度確認する必要があると思われる

科目　　彫刻実技Ⅱ　　授業コード　13202

担当　　彫刻専攻教員

教室　　0　　開講曜日・時間　0　　0

受講登録者　11 名　　回答した学生　8 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	6
4	９０％くらい	1
3	８０％くらい	1
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		8

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	6	6
4	ややそう思う	1	1
3	どちらともいえない	1	1
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		8	8

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	6
4	ややそう思う	1
3	どちらともいえない	1
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		8

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	5
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	1
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		8

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	5	5	4	5	5	4	5
4	ややそう思う	2	2	3	1	1	2	1
3	どちらともいえない	1	1	1	2	2	1	2
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	1	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		8	8	8	8	8	8	8

授業科目	彫刻実技Ⅱ				担当者	土屋公雄・竹内孝和	
開講時期	後期	曜日		時限	1・2	アンケート様式	□講義 ☒実習

1この授業における教育方法の特徴

・1年生と2年前期に引き続き基礎的な技術力の習得と造形力を養い、また発想力を高める授業として造形・テラコッタの実技授業を行った。

2アンケート結果の所見

（1）受講した学生自身について

・アンケート結果を見る限り、良好と考えて良い。

（2）授業について

・すべての質問に対し三分の二以上の学生から「強くそう思う」「ややそう思う」との回答を得ることができた。多種多様な彫刻素材に対する習得意欲が学生に感じられる。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

・丸山先生、土屋先生、堀井先生が好き。

（4）自由記述より学生からの要望について

・回答なし

3今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

・ 基礎的な授業内容が多いので、受講生が飽きないような授業運営をすること。
・ 少人数制の利点を生かし、一人一人に合わせたデスカッションを大切にする。
・ 授業運営において課題が重なり、学生が負担にならないように改善して行く。

4その他、意見

科目　　彫刻実技Ⅲ　　授業コード　13203

担当　　彫刻専攻教員

教室　　0　　開講曜日・時間　0　　0

受講登録者　　9 名　　回答した学生　　7 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	3
4	９０％くらい	1
3	８０％くらい	3
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		7

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	5	5
4	ややそう思う	0	0
3	どちらともいえない	2	2
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		7	7

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	3
4	ややそう思う	0
3	どちらともいえない	3
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		7

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	4
4	延長することが多い	0
3	開始が遅いことが多い	3
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		7

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	4	3	4	3	4	2	4
4	ややそう思う	0	1	0	0	1	2	1
3	どちらともいえない	3	3	3	4	2	2	2
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	1	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		7	7	7	7	7	7	7

授業科目	彫刻実技Ⅲ			担当者	森北伸		
開講時期	前期･後期	曜日		時限	１・２	アンケート様式	□講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴

･常勤教員によるゼミ形式の実技授業。各学生がそれぞれ自身に合ったゼミを選択し、半期に渡り受講する。最終講評では全員の教員に個人の作品として講評してもらい評価を受ける。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

・アンケート結果からは、概ね好評を受けている。

（２）授業について

・一人の教員が担当して半期の授業を過ごすので、その教員の性質で大きく評価が変わる。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

・特になし

（４）自由記述より学生からの要望について

・特になし

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

・ゼミの性質上、一人の教員の面倒みの良さが学生の充実度に直結するため、多少なりとも他の教員が補完できるように教員同士のコミュニケーションをとる。

４その他、意見

・ 学生数が 10 人という少数のため、アンケートのような統計学は、重要ではないと考えている。
また学生が訴える良い点も悪い点も、一人の意見が数字に直すと大きくなり、一概に信用出来ない。

科目　　芸術学基礎実技ＩＢ　　授業コード　14201

担当　　小西　信之　　教室　　0

回答した学生　　7 名

受講登録者　　7 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	0
4	９０％くらい	2
3	８０％くらい	3
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	1
	無回答	0
小計		7

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	0	0
4	ややそう思う	4	7
3	どちらともいえない	3	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		7	7

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	0	3	2	3	1	0	0	1
4	ややそう思う	2	3	5	3	6	1	5	6
3	どちらともいえない	3	1	0	1	0	3	2	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	1	0	0
1	まったくそう思わない	2	0	0	0	0	2	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		7	7	7	7	7	7	7	7

授業科目	芸術学基礎実技 IB			担当者	小西信之、岩永てるみ、横川耕助、田島秀彦		
開講時期	2016 年後期	曜日	月、火 木、金	時限	1～２限	アンケート様式	□講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴

基礎実技の授業。後期は「日本画 I」「古典造形実習 I」「油彩 I」である。日本画実習では、白描模写、古典造形実習では木彫彩色、油彩では人物油彩を行った。様々な技法、表現方法をオムニバス的に学ぶのが、この基礎実技の特徴である。

２アンケート結果の所見

（1） 受講した学生自身について

出席は 72%が 80%出席、全員が意欲的に取り組んだとしており、また全員が関心が高まった（「ややそう思う」）と答えている。

（2） 授業について

時間は全員が 86%が十分、教員の話しかた、スピードは全員が適切、コミュニケーションは 86%が取れていた、力量とのバランスは全員が適切だった（「ややそう思う」含む）としている。良い授業だったかについては「ややそう思う」も含めて全員がそうだと答えている。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

特になし

（4）自由記述より学生からの要望について

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

芸術学の実技として、今後もこのペースで行っていきたい。

４その他、意見

科目　　芸術学基礎実技ⅡB　　授業コード　14202

担当　　小西　信之　　教室　　0

回答した学生　　5 名

受講登録者　　5 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	1
4	９０％くらい	1
3	８０％くらい	1
2	７０％くらい	2
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		5

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	3	3
4	ややそう思う	0	2
3	どちらともいえない	2	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		5	5

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	3	5	5	3	3	4	5	3
4	ややそう思う	0	0	0	0	2	0	0	2
3	どちらともいえない	1	0	0	2	0	0	0	0
2	あまりそう思わない	1	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	1	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		5	5	5	5	5	5	5	5

授業科目	芸術学基礎実技 IIB			担当者	小西信之、岩永てるみ、横川耕助、田島秀彦		
開講時期	2016 年後期	曜日	月、火 木、金	時限	1～２限	アンケート様式	☐講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴

基礎実技の授業。後期は「日本画 II」「古典造形実習 II」「油彩 II」である。日本画実習では、白描模写、古典造形実習では木彫彩色、油彩では人物油彩を行った。様々な技法、表現方法をオムニバス的に学ぶのが、この基礎実技の特徴である。

２アンケート結果の所見

（1） 受講した学生自身について

出席は 5 人中 3 人が 80%以上出席、3 人が強く意欲的に取り組んだとしており、また全員が関心が高まったと答えている。

（2） 授業について

時間は全員が十分、教員の話しかた、スピードは 100%が適切、コミュニケーションは全員が取れていた、力量とのバランスは「ややそう思う」を含めて 100%が適切だったとしている。総合評価は、60%が「強くそうおもう」40%が「そう思う」と答えている。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

最後の油画の授業が楽しかったです。キュレーター側と作家側に両方の視点の勉強になりました。
いろんな先生をみれておもしろかったです。

（4）自由記述より学生からの要望について

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

概ね好評であるので、このペースで続けていきたい。

４その他、意見

科目　　芸術学総合研究Ｉ　　授業コード　14205

担当　　中　敬夫　　教室　　0

回答した学生　　4 名

受講登録者　　7 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	3
4	９０％くらい	0
3	８０％くらい	0
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		4

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	2	2
4	ややそう思う	2	2
3	どちらともいえない	0	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		4	4

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	0	2	1	2	1	1	1	1
4	ややそう思う	1	1	2	2	3	1	2	2
3	どちらともいえない	2	0	1	0	0	2	1	1
2	あまりそう思わない	0	1	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	1	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		4	4	4	4	4	4	4	4

授業科目	芸術学総合研究Ⅰ			担当者	中　敬夫		
開講時期	通年	曜日	水	時限	6	アンケート様式	□講義　☒実習

1この授業における教育方法の特徴

1）本授業のねらい

〈授業の目的〉

・芸術学専攻の１年生を対象とし、前期は西洋美術史、日本美術史、美学、現代アート論、文化財学の学び方を指導するとともに、基礎文献のガイダンスを行う。

・後期は１～３年生共通の授業とし、美術史や美術理論等について、各自が関心のあるテーマを選び、レジュメを用意しながら、教員や他の学生たちの前で口頭発表し、質疑応答を行う。

〈到達目標〉

・美術史や美術理論についての初歩的全体像をつかむことができる。

・文献や学説の要約の仕方を学ぶことができる。

・大勢の前で論理的・客観的に発表し、また討論する能力を身につけることができる。

2）本授業における教育方法の工夫点

イ）学生の口頭発表に際しては、教室に「デジタル・プロジェクター&プレゼンター」や「ビデオモニター」等の設備を揃え、学生が具体的に画像を示しながら発表し、聴講者も視覚的に理解できるように工夫してある。

ロ）ガイダンスに関しては、各教員がフェイス・トゥ・フェイスというかたちで、懇切丁寧に説明を行っている。研究発表に際しては、当該学生が発表内容に関するレジュメを作成して配布し、聴講する教員や学生の理解が容易になるように工夫している。また学生が発表する前にも、教員が発表内容やそのレジュメに関して事前に相談を受け、具体的なアドヴァイスを行っている。

ハ）研究発表自体、学生が自主的に選択したテーマに沿って行われている。また発表後にも、教員や学生が活発な質疑応答を行い、発表者のみならず学生全員が美術に対する関心を深め、さらには理路整然と自らの意見を述べる訓練ともなるように工夫している。

2アンケート結果の所見

（1）受講した学生自身について

出席率に関しては４名中 100%が３名、70%くらいが１名だった。「意欲」と「興味・関心」に関する問いでは、二問とも「強くそう思う」と「ややそう思う」が２名ずつだった。今年度の１年生は、発表に関しては、全員よく頑張っていたので、大いに期待している。

（2）授業について

「強くそう思う」、「ややそう思う」の回答が集中するなか、「シラバス」に関する問いだけが「どちらともいえない」が２名、「まったくそう思わない」が１名と、やや心配の残る結果となった。例年には見られない回答だったので、機会があれば、学生たちに真意を尋ねておくことにしたい。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

自由記述欄には回答がなかった。

（4）自由記述より学生からの要望について

要望に関しても自由記述欄には回答がなかった。

3今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

来年度の「シラバス」はすでに提出済みなのだが、もし問題があるなら、再来年度からの改善をめざして、来年度中に問題点をあぶり出しておきたい。

4その他、意見

・大学から一度は「芸術学総合研究」のアンケートは行わないという連絡を受けたのだが、その後、最終授業が終わったあとになって、やはりアンケートは行うという通知が来て、仕方なく今回はユニパを用いたアンケート調査となった。われわれ教師サイドとしては、大学側のこのような方針のぶれには、釈然としないところが残る。授業が終わってから相等の期間をおいてのアンケートなので、どれほどの信憑性があるのか、多少とも疑問が残ろう。

・もともと一学年の定員が五名の授業なので、アンケートの価値が、最初からあまりないのではないかとも思う。ましてや今回は、７名中４名の回答だった。平均値によるだいたいの傾向を探るというより、一人ひとりの個性が突出してしまうことの多いアンケートなので、その点は留意しておかなければならないと思う。

科目　　芸術学総合研究Ⅱ　　授業コード　14206

担当　　中　敬夫　　教室　　0

回答した学生　　3 名

受講登録者　　5 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	1
4	９０％くらい	2
3	８０％くらい	0
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		3

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	3	2
4	ややそう思う	0	1
3	どちらともいえない	0	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		3	3

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	2	2	2	2	2	2	1	2
4	ややそう思う	0	0	0	0	1	0	2	1
3	どちらともいえない	1	1	1	1	0	0	0	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	1	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		3	3	3	3	3	3	3	3

授業科目	芸術学総合研究Ⅱ			担当者	中　敬夫		
開講時期	通年	曜日	水	時限	6	アンケート様式	☐講義 ☒実習

1この授業における教育方法の特徴

1）本授業のねらい

〈授業の目的〉

・芸術学専攻２年生を対象とし、前期は後期の発表のための、指導教員による個人指導が中心となる。指導教員は「美学」「現代アート論」「西洋美術史」「日本美術史」の専門分野に分かれて、学生の関心に沿った指導を行う。

・後期は１～３年生共通の授業とし、美術史や美術理論等について、各自が関心のあるテーマを選び、レジュメを用意しながら、教員や他の学生たちの前で口頭発表し、質疑応答を行う。

〈到達目標〉

・美術史や美術理論等に関する専門的な知識を学び、学問的方法を体得することができる。

・文献や学説の要約の仕方を学ぶことができる。

・大勢の前で論理的・客観的に発表し、また討論する能力を身につけることができる。

2）本授業における教育方法の工夫点

イ）学生の口頭発表に際しては、教室に「デジタル・プロジェクター&プレゼンター」や「ビデオモニター」等の設備を揃え、学生が具体的に画像を示しながら発表し、聴講者も視覚的に理解できるように工夫してある。

ロ）研究発表に際しては、当該学生が発表内容に関するレジュメを作成して配布し、聴講する教員や学生の理解が容易になるように工夫している。また学生が発表する前にも、教員が発表内容やそのレジュメに関して事前に相談を受け、具体的なアドヴァイスを行っている。

ハ）研究発表自体、学生が自主的に選択したテーマに沿って行われている。発表後にも、教員や学生が活発な質疑応答を行い、発表者のみならず学生全員が美術に対する関心を深め、さらには理路整然と自らの意見を述べる訓練ともなるように工夫している。

2アンケート結果の所見

（1）受講した学生自身について

出席率に関しては３名中 100%が１名、90%くらいが２名だった。「意欲」に関する問いには全員が「強くそう思う」と答え、「興味・関心」に関する問いでは「強くそう思う」が２名、「ややそう思う」が１名だった。発表の出来不出来の差はあれ、全体としてこの学年には、よく頑張っている者が多かったように思う。

（2）授業について

全体的に「強くそう思う」が多かった。「教室・設備」の適切さに関し、「まったくそう思わない」に１名あったが、他の２名は「強くそう思う」だった。印象にはかなり個人差があるように思われる。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

自由記述欄には回答がなかった。

（4）自由記述より学生からの要望について

要望に関しても自由記述欄には回答がなかった。

3今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

３名の回答では何とも言えない。今後とも学生とのコミュニケーションを大切にしながら、全般的な向上を図ってゆきたい。

4その他、意見

・大学から一度は「芸術学総合研究」のアンケートは行わないという連絡を受けたのだが、その後、最終授業が終わったあとになって、やはりアンケートは行うという通知が来て、仕方なく今回はユニパを用いたアンケート調査となった。われわれ教師サイドとしては、大学側のこのような方針のぶれには、釈然としないところが残る。授業が終わってから相等の期間をおいてのアンケートなので、どれほどの信憑性があるのか、多少とも疑問が残ろう。

・もともと一学年の定員が五名の授業なので、アンケートの価値が、最初からあまりないのではないかとも思う。ましてや今回は、５名中３名の回答だった。平均値によるだいたいの傾向を探るというより、一人ひとりの個性が突出してしまうことの多いアンケートなので、その点は留意しておかなければならないと思う。

科目　　芸術学総合研究Ⅲ　　授業コード　14207

担当　　中　敬夫　　教室　　0

回答した学生　　2 名

受講登録者　　4 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	1
4	９０％くらい	1
3	８０％くらい	0
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		2

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	1	1
4	ややそう思う	1	0
3	どちらともいえない	0	1
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		2	2

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	1	0	1	1	1	2	1	1
4	ややそう思う	1	1	1	1	0	0	1	1
3	どちらともいえない	0	1	0	0	1	0	0	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		2	2	2	2	2	2	2	2

授業科目	芸術学総合研究Ⅲ			担当者	中　敬夫		
開講時期	通年	曜日	水	時限	6	アンケート様式	☐講義 ☒実習

1この授業における教育方法の特徴

1）本授業のねらい

〈授業の目的〉

・芸術学専攻３年生を対象とし、前期は後期の発表のための、指導教員による個人指導が中心となる。指導教員は「美学」「現代アート論」「西洋美術史」「日本美術史」の専門分野に分かれて、学生の関心に沿った指導を行う。

・後期は１～３年次共通の授業とし、美術史や美術理論等について、各自が関心のあるテーマを選び、レジュメを用意しながら、教員や他の学生たちの前で口頭発表し、質疑応答を行う。

〈到達目標〉

・美術史や美術理論等に関する専門的な知識を学び、学問的方法を体得することができる。

・文献や学説の要約の仕方を学ぶことができる。

・大勢の前で論理的・客観的に発表し、また討論する能力を身につけることができる。

2）本授業における教育方法の工夫点

イ）学生の口頭発表に際しては、教室に「デジタル・プロジェクター&プレゼンター」や「ビデオモニター」等の設備を揃え、学生が具体的に画像を示しながら発表し、聴講者も視覚的に理解できるように工夫してある。

ロ）研究発表に際しては、当該学生が発表内容に関するレジュメを作成して配布し、聴講する教員や学生の理解が容易になるように工夫している。また学生が発表する前にも、指導教員が発表内容やそのレジュメに関して事前に相談を受け、具体的なアドヴァイスを行っている。

ハ）研究発表自体、学生が自主的に選択したテーマに沿って行われている。発表後にも、教員や学生が活発な質疑応答を行い、発表者のみならず学生全員が美術に対する関心を深め、さらには理路整然と自らの意見を述べる訓練ともなるように工夫している。

2アンケート結果の所見

（1）受講した学生自身について

出席率に関しては、2名中、100%と90%くらいが1名ずつだった。「意欲」に関しては「強くそう思う」と「ややそう思う」、「興味・関心」に関しては「強くそう思う」と「どちらともいえない」という回答が各1名ずつであった。今年度の3年生のなかには、発表に関して準備が十分とは言えない者が何人か見られ、その点は残念だった。

（2）授業について

全体として評価が低かったのが、「授業時間」は十分であったか、という問いだが、それでも「ややそう思う」と「どちらともいえない」が各1名で、特に不満が多かったというほどのことではない。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

自由記述欄には回答がなかった。

（4）自由記述より学生からの要望について

要望に関しても自由記述欄には回答がなかった。

3今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

2名の回答では何とも言えない。今後とも学生とのコミュニケーションを大切にしながら、全般的な向上を図ってゆきたい。

4その他、意見

・大学から一度は「芸術学総合研究」のアンケートは行わないという連絡を受けたのだが、その後、最終授業が終わったあとになって、やはりアンケートは行うという通知が来て、仕方なく今回はユニパを用いたアンケート調査となった。われわれ教師サイドとしては、大学側のこのような方針のぶれには、釈然としないところが残る。授業が終わってから相等の期間をおいてのアンケートなので、どれほどの信憑性があるのか、多少とも疑問が残ろう。

・もともと一学年の定員が五名の授業なので、アンケートの価値が、最初からあまりないのではないかとも思う。ましてや今回は、4名中2名の回答だった。平均値によるだいたいの傾向を探るというより、一人ひとりの個性が突出してしまうことの多いアンケートなので、その点は留意しておかなければならないと思う。

科目　　美学特講Ⅱ　　授業コード　14204

担当　　秋庭　史典　　教室　　講義棟第３講義室

回答した学生　　7 名

受講登録者　　13 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	1
4	９０％くらい	2
3	８０％くらい	3
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		7

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	1	2
4	ややそう思う	4	4
3	どちらともいえない	2	1
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		7	7

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	3	4	4	3	1	1	1	4
4	ややそう思う	2	3	3	4	3	5	5	3
3	どちらともいえない	2	0	0	0	3	1	1	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		7	7	7	7	7	7	7	7

科目　　現代アート論特講Ⅱ　　授業コード　14203

担当　　小西　信之　　教室　　芸術資料館演習室

回答した学生　　11 名

受講登録者　　32 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	2
4	９０％くらい	1
3	８０％くらい	8
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		11

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	5	6
4	ややそう思う	2	4
3	どちらともいえない	4	1
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		11	11

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	5	5	7	6	6	6	7	8
4	ややそう思う	1	4	3	3	3	3	3	3
3	どちらともいえない	5	2	1	2	2	1	1	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	1	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		11	11	11	11	11	11	11	11

「授業評価アンケート報告書」

授業科目	現代アート論特講Ⅰ				担当者	小西信之	
開講時期	2016 年後期	曜日	火曜	時限	4	アンケート様式	☑講義 □実技・実習

１この授業における教育方法の特徴

美術の講義なので、作品を視覚的に見せることを重視しており、プロジェクターでパソコンから画像を投影しながら行っている。素材はキーノート（Mac 版パワーポイント）に準備し、動画、静止画を問わず、視覚情報をふんだんに示しながら、解説を行っている。今年度は日本の近現代美術の歴史について講義を行った。一部学生の発表も行わせた。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

出席も悪くなく（回答者全員が、8 割以上の出席）、意欲的に取り組んだとする学生が 64%、関心が高まったと答えた学生が 91%であり、比較的良いかたちで受講していると思われる。

（２）授業について

総合評価（「よい授業か」）では全員が「よい」以上の評価となっていて悪くはないと思う。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

先生の話が面白い　知識も多いし、主観もしっかりしてる
関連書籍の紹介が多くあるのが良かったです。
昨年は海外の動向が主だったので、今年は日本のころについてより知れたのがよかった。その流れの先に自分がいるのが、立ち位置について理解できた。

（４）自由記述より学生からの要望について

・特になし

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

特講の授業は専門的な内容に絞って行っているが、あまりにスポット的にするのは、受講学生が多領域にまたがりすぎている。今年からやや概説的要素も加え、流れの中で詳しく説明するという方法を取ってみたが、比較的うまくいったと思う。概説的内容と突っ込んだ専門的内容を今後もうまくミックスして、「特講」らしい授業を組み立てていきたい。

４その他、意見

科目　　デザイン実技Ｉ　　授業コード　15201

担当　　デザイン専攻教員　　教室　　0

回答した学生　　5 名

受講登録者　　35 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	2
4	９０％くらい	2
3	８０％くらい	0
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		5

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	3	2
4	ややそう思う	2	3
3	どちらともいえない	0	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		5	5

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	0	1	1	1	1	1	1	1
4	ややそう思う	1	1	4	3	3	3	3	4
3	どちらともいえない	3	2	0	1	1	0	1	0
2	あまりそう思わない	0	1	0	0	0	1	0	0
1	まったくそう思わない	1	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		5	5	5	5	5	5	5	5

授業科目	デザイン実技ＩＢ			担当者		デザイン専攻教員	
開講時期	後期	曜日		時限		アンケート様式	□講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴

１年次と２年次前期までを、一連の基礎課程と捉え、専門領域の区別なくデザインを学ぶ学生が共通して身につけておくべき内容が学習出来るようになっている。
基礎課程は大きく３つのステージ「基礎造形」、「デザイン基礎１」、「デザイン基礎２」となっており、デザイン実技ＩＢは、この内の「デザイン基礎１」に相当する。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

概ね出席率は良く、意欲的に授業を受けている。制作に対して積極的に取り組むことができたと考えられる。

（２）授業について

「強くそう思う」「ややそう思う」を合わせて過半数を超えた設問が多かった。過半数に届かなかったものの中で、『４　「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか』は、現行のシステム上の制限もあり、シラバスに概要しか載せられていないのが原因だと考えられる。また、『５　授業時間は十分だと感じましたか』については若干足りないと感じているようである。しかし、総合的な内容については概ね評価されたと考えられる。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

グループで取り組む課題、短いスパンで行った課題について、良い経験が出来たという回答があった。

（４）自由記述より学生からの要望について

記述なし。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

シラバスがユニパ上で詳細に提示できない点については、学生には個別に詳細カリキュラムを提示することで対応済みである。
授業内容については、今年度から新しいカリキュラムを採用したが、概ね問題なく受け入れられ、学生の能力向上に役立ったのではないかと思われる。引き続き内容を精査し、カリキュラムの充実を図っていきたい。

４その他、意見

科目　　デザイン実技Ⅱ　　授業コード　15202

担当　　デザイン専攻教員　　教室　　0

回答した学生　　4 名

受講登録者　　36 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	1
4	９０％くらい	2
3	８０％くらい	0
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		4

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	2	3
4	ややそう思う	1	0
3	どちらともいえない	1	1
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		4	4

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	1	0	1	1	0	1	0	2
4	ややそう思う	0	2	1	1	2	0	2	2
3	どちらともいえない	3	1	2	0	1	1	2	0
2	あまりそう思わない	0	1	0	2	1	2	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		4	4	4	4	4	4	4	4

授業科目	デザイン実技ⅡB			担当者		デザイン専攻教員	
開講時期	後期	曜日		時限		アンケート様式	□講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴
２年次前期までの基礎課程デザイン実技ⅡA を終え、後期のデザイン実技ⅡB では学生各自が所属する専門領域を決めた上で、各領域から提示される課題を自主的に選択し、様々な専門的学習が出来るようになっている。

２アンケート結果の所見
（１）受講した学生自身について
概ね出席率は良く、意欲的に授業を受けている。制作に対して積極的に取り組むことができたと考えられる。

（２）授業について
「強くそう思う」「ややそう思う」を合わせて過半数を超えた設問が多かった。過半数に届かなかったものの中で、『４　「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか』は、現行のシステム上の制限もあり、シラバスに概要しか載せられていないのが原因だと考えられる。また、『９　教室・設備については適切でしたか』についても不十分だという評価になった。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて
今年度から新しいカリキュラムを採用し、専門領域を意識しやすい内容となったことで興味をもつことができ、内容について一定の評価が得られた。

（４）自由記述より学生からの要望について
指導に関して、もっと厳しさを望む声があった。また、施設や設備に関しては、貸出機材について最低限のものを揃えてほしいという要望があった。また、土日のアトリエ使用を望む声もあった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）
シラバスがユニパ上で詳細に提示できない点については、学生には個別に詳細カリキュラムを提示することで対応済みである。
今年度から新しいカリキュラムを採用したが、その内容については概ねの評価を得られているので、引き続き内容を検証しながら、新しい取り組みを行っていきたい。
設備などについては、いろいろと対応を行ってはいるものの、現在の状況では限界も感じられる。学内全体の運用と合わせて、対応できることは出来る限り行っていきたい。

４その他、意見

科目　　デザイン実技Ⅲ　　授業コード　15203

担当　　デザイン専攻教員　　教室　　0

回答した学生　　3 名

受講登録者　　32 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	2
4	９０％くらい	0
3	８０％くらい	1
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		3

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	1	1
4	ややそう思う	2	2
3	どちらともいえない	0	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		3	3

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	1	0	0	0	1	0	1	1
4	ややそう思う	0	0	2	3	1	1	2	2
3	どちらともいえない	0	0	1	0	1	1	0	0
2	あまりそう思わない	2	3	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	1	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		3	3	3	3	3	3	3	3

授業科目	デザイン実技ⅢB			担当者		デザイン専攻教員	
開講時期	後期	曜日		時限		アンケート様式	□講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴

視覚伝達、プロダクト、環境、メディアの４つの領域から各課題群に課題が出される。学生はいずれかの領域に所属し、各領域教員からのアドバイスを受けながら、本人の将来目標に基づいて課題を自由に選択することができる。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

概ね出席率は良く、意欲的に授業を受けている。制作に対して積極的に取り組むことができたと考えられる。

（２）授業について

「強くそう思う」「ややそう思う」を合わせて過半数を超えた設問が多かった。過半数に届かなかったものの中で、『４　「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか』は、現行のシステム上の制限もあり、シラバスに概要しか載せられていないのが原因だと考えられる。また、『５　授業時間は十分だと感じましたか』及び『９　教室・設備については適切でしたか』についても不十分だという評価になった。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

作品について教員と詳細に相談ができる機会が持てたということについて評価があった。

（４）自由記述より学生からの要望について

デザイン実技の時間外に予定が入らないようにしてほしいという要望があった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

シラバスがユニパ上で詳細に提示できない点については、学生には個別に詳細カリキュラムを提示することで対応済みである。特に、3 年生以上のカリキュラムは、各領域からの詳細な説明を行っており、混乱はないと考える。専攻のホームページなどもより活用して、詳しい内容が学生に伝えられるように更に工夫していきたい。

授業時間に関しては当然実技時間内で収めているが、非常勤講師の都合などにより稀にイレギュラーなスケジュールが発生する場合がある。出来る限り学生の履修状況を踏まえて、適切に対応していきたい。

４その他、意見

科目　　デザイン特講Ｂ　　授業コード　15101

担当　　今尾　泰三

教室　　デザイン講義室1　　開講曜日・時間　　水曜日　　3

受講登録者　　45 名　　回答した学生　　25 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	2
4	９０％くらい	11
3	８０％くらい	9
2	７０％くらい	3
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		25

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	5	11
4	ややそう思う	11	8
3	どちらともいえない	7	4
2	あまりそう思わない	2	2
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		25	25

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	7
4	ややそう思う	5
3	どちらともいえない	5
2	あまりそう思わない	5
1	まったくそう思わない	3
	無回答	0
小計		25

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	16
4	延長することが多い	6
3	開始が遅いことが多い	2
2	早く終わることが多い	1
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		25

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	14	10	11	16	4	7	12
4	ややそう思う	4	7	7	4	11	8	10
3	どちらともいえない	6	8	6	5	6	9	2
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	2	0	1
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	2	1	0
	無回答	1	0	1	0	0	0	0
小計		25	25	25	25	25	25	25

授業科目	デザイン特講 B			担当者	デザイン専攻非常勤講師		
開講時期	後期	曜日	水	時限	3	アンケート様式	☒講義 ☐実習

１この授業における教育方法の特徴

様々なデザイン領域、関連領域で活躍する専門家、プロフェッショナルを招き、デザインやそれを取り巻く環境について論じ、将来の展望を交えて解説する授業である。各界のデザインの専門家である講師陣を通じて多様なデザインや創作活動の世界に触れる事が出来る。

２アンケート結果の所見

（１） 受講した学生自身について
回答した学生の過半数が 80%以上の出席をしており、意欲的に取り組んだ姿勢も 90%を超えており、充実した授業である事が伺える。

（２） 授業について
授業においてデザイン領域における興味や関心が高まったとする回答が 70%を超えているが、シラバスが役に立ったと答えている回答が 50%以下になっており、より明快に授業内容を伝える工夫が必要であると言える。授業の時間、教員の話すスピードなども高い評価があり、各講師陣がわかりやすく丁寧かつ時間に正確に授業を行った事がわかる。

（３） 自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて
多くの講師が行うそれぞれの授業において興味深く、充実した授業を行えた事がわかり様々なデザイン分野への興味や意欲が高まった事がわかる。

（４） 自由記述より学生からの要望について
座学の授業の必要性がまだ理解されていない事が伺える。学生は手を動かすデザイン実技の学習を重視しがちだが、デザインが様々な深い思考や概念から成立している事を学生に理解させる必要がある。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）
受講学生のアンケートからは授業に対し積極的かつ意欲的な姿勢で臨み、充実した授業であった事が伺えるが、その一方で途中退室するなどの好ましくない態度で授業を受けている学生も見受けられたとの教員からの指摘もあった。今後より一層、学生が授業に集中出来るよう、受講の心得などを作り改善して行く。

４その他、意見

科目　　デザイン文化史特講　　授業コード　15102

担当　　関口　敦仁

教室　　デザイン講義室1　　開講曜日・時間　　水曜日　　2

受講登録者　　43 名　　回答した学生　　28 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	4
4	９０％くらい	13
3	８０％くらい	8
2	７０％くらい	2
1	６０％以下	1
	無回答	0
小計		28

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	3	6
4	ややそう思う	9	11
3	どちらともいえない	14	10
2	あまりそう思わない	2	1
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		28	28

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	4
4	ややそう思う	6
3	どちらともいえない	11
2	あまりそう思わない	3
1	まったくそう思わない	4
	無回答	0
小計		28

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	19
4	延長することが多い	5
3	開始が遅いことが多い	2
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	2
	無回答	0
小計		28

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	16	10	9	12	6	7	8
4	ややそう思う	5	4	9	10	9	7	11
3	どちらともいえない	4	8	7	4	12	10	7
2	あまりそう思わない	1	2	2	2	0	4	2
1	まったくそう思わない	2	4	1	0	1	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		28	28	28	28	28	28	28

授業科目	デザイン文化史特講			担当者	関口敦仁		
開講時期	後期	曜日	隔週水曜	時限	1,2	アンケート様式	☒講義 ☐実習

１この授業における教育方法の特徴

画像資料を提示しながらの講義。ターゲットとなるデザイン史を国際的な民族史や文化的特徴に拡張して、講義を行う。外部講師の方には、それぞれの様々な分野のデザインを紹介。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

講義をなんとなく聞き流している印象もあるので、もう少し興味を持つように工夫したい。

（２）授業について

資料をもっと分かり易くしたり、学生への質問等、会話を重視する必要性を感じた。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

対象が幅広いので、興味を持たれている点は良かった。

（４）自由記述より学生からの要望について

エアコンの容量が小さいので、授業の終わりになって暖かくなる。
講義開始前の運転開始予約の実施など変えられるものなら、改善してほしい、
毎週だと、実技とバッティングになり、その問題から、隔週に変更した。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

より、分かりやすく興味が持てるように、資料にも工夫を加え、学生への質問などを増やして、コミュニケーションを図っていくことを心がける。

４その他、意見

一年の授業のデザイン史とかぶる内容もあり、視点を変えて、授業を行っているが、他の授業との差別化は心がけたい。

科目　　デザイン特殊ゼミＢ　　授業コード　15103
（立体空間）

担当　　本田　敬

教室　　0　　開講曜日・時間　　金曜日　4・5

受講登録者　　25 名　　回答した学生　　9 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	2
4	９０％くらい	6
3	８０％くらい	1
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		9

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	4	6
4	ややそう思う	5	3
3	どちらともいえない	0	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		9	9

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	3
4	ややそう思う	2
3	どちらともいえない	2
2	あまりそう思わない	2
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		9

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	6
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		9

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	5	6	5	5	6	3	5
4	ややそう思う	2	2	3	3	2	3	3
3	どちらともいえない	2	1	1	1	1	3	1
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		9	9	9	9	9	9	9

授業科目	デザイン特殊ゼミＢ（立体空間）			担当者	本田敬、夏目知道		
開講時期	後期	曜日	金	時限	4.5 限	アンケート様式	☐講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴

立体空間ゼミでは、主にプロダクトデザイン、建築、インテリアデザイン分野でで必要とされる基礎的なスキルを身につける。Rhinoseros(3D キャド)を使い、プロダクト（工業製品）と建築、両方の基礎的な 2 次元図面の作成と３次元のモデリング表現をする。また、空間スケッチおよび模型制作など、手作業のスキルも身につけることを目的としている。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

実際に履修した学生数はそれほど多くなかったものの、出席率も悪くなく、受講に対しても意欲的に取組んだ姿勢が感じられた。

（２）授業について

全体的にはまずまずの評価になっていると思われる。質問 11 の「教室、設備」に関して不満の回答が多いようだが、教員側の理解では、設備（コンピュータ）のハード、ソフト両面で問題は無かったと捉えているが、冬季だということで暖房の温度等への不満があったのかも知れない。また今年度は初年であったことから、授業時間が延長する事が数回あったので、来年度以降その点については改善していきたい。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

（４）自由記述より学生からの要望について

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

特にコンピュータの実習では、学生の習熟度に差がでるため、指導補助として、TA、SA の学生を今後は積極的に活用していきたい。

４その他、意見

科目　Webデザイン基礎（隔週）　授業コード　15104

担当　森　真弓

教室　デザイン講義室2　開講曜日・時間　金曜日　4

受講登録者　28 名　回答した学生　15 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	0
4	９０％くらい	6
3	８０％くらい	5
2	７０％くらい	4
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		15

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	1	3
4	ややそう思う	5	4
3	どちらともいえない	7	5
2	あまりそう思わない	2	3
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		15	15

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	3
4	ややそう思う	4
3	どちらともいえない	5
2	あまりそう思わない	2
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		15

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	10
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	2
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		15

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	4	6	3	4	4	5	4
4	ややそう思う	7	3	7	7	3	4	7
3	どちらともいえない	3	2	0	0	4	3	0
2	あまりそう思わない	1	2	4	3	2	2	4
1	まったくそう思わない	0	2	1	1	2	1	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		15	15	15	15	15	15	15

授業科目	Web デザイン基礎			担当者		森　真弓	
開講時期	後期	曜日	金曜日	時限	4、5 限	アンケート様式	☒講義　☐実習

１この授業における教育方法の特徴
この授業は、デザイン制作に必要な知識と技術を学ぶために、ゼミ形式で開講されているものである。ここでは、Web 上にホームページを公開するための正しい知識を身につけ、実際にホームページを設計、制作するための基礎技術を習得することができる。

２アンケート結果の所見
（１）受講した学生自身について
概ね出席率は良く、意欲的に授業を受けたと考えられる。

（２）授業について
殆どの設問に対して、「強くそう思う」「ややそう思う」が過半数を超えたが、『４　「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか』は 47%、『１０　教員とコミュニケーションは取れていましたか』 については 47%にとどまった。しかし、総合的な内容について 73%となり、概ね評価されたと考えられる。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて
記述なし。

（４）自由記述より学生からの要望について
記述なし。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）
シラバスについては、授業の特性として、隔週で学生の進行に合わせて技術的な指導を行うため、その都度学生には詳細カリキュラムを提示する方法を取っている。
変化のスピードが早い技術系講義なので、適宜内容を精査し、より時代に即した内容を提供できるようにしていきたい。

４その他、意見

科目　　陶磁実技Ⅰ　　授業コード　16201

担当　　陶磁専攻教員　　教室　　0

回答した学生　　3 名

受講登録者　　10 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	1
4	９０％くらい	2
3	８０％くらい	0
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		3

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	1	1
4	ややそう思う	2	2
3	どちらともいえない	0	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		3	3

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	0	0	1	0	1	1	2	1
4	ややそう思う	1	3	2	3	2	2	1	2
3	どちらともいえない	2	0	0	0	0	0	0	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		3	3	3	3	3	3	3	3

授業科目	彫刻実技Ⅰ			担当者	彫刻専攻教員		
開講時期		曜日		時限	1・2時限	アンケート様式	☐講義 ☒実習

1この授業における教育方法の特徴

この授業は、立体造形に向かう際に必要となる、基礎的な考え方・知識・技術等について、実技を通して高く的に学ぶことを目的としている。特に、後期に実施される木彫・樹脂の授業では、モチーフを西洋・東洋の古典作品に定め、優れた造形性・技術について、歴史的背景なども含め、重層的に学ぶことが可能である。

2アンケート結果の所見

（1）受講した学生自身について

本年度の受講生は、大変に真面目に課題に取り組むことが出来る学年であり、目的の達成に時間は要したものの、充実した体験を通して着実な学数が出来た。病欠を除けば、全ての授業に高い出席率を残していることからも、継続的な努力の重要性が浮き彫りとなった。

（2）授業について

アンケート結果が示すように、シラバス・配布資料・話すスピード等について、充実の余地が残されており、授業構成・構造について再検討し、より、解りやすく、学習に集中しやすい授業の構築を目指す必要がある。また、木彫・樹脂の授業連携を、他の授業においても考えることで、より効率的な授業運営の達成が期待される。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

＊アンケート結果が無いために判断が不可能。

（4）自由記述より学生からの要望について

＊アンケート結果が無いために判断が不可能。

3今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

上記（2）に記した通り、授業目的の効率的な達成のためには、より丁寧な授業作りが必要である。丁寧な資料作りに代表されるこの取り組みは、結果的に、慎重な授業点検に結びつき、慎重な授業点検、慎重な授業構築を呼ぶことになる。

また、より詳しい授業評価を可能とするために、彫刻実技Ⅰを構成する個別の授業ごとに、アンケート等の実施を行う等の試みが必要であろうと考える。

4その他、意見

専攻内でのより積極的な授業連携の他に、専攻間の授業連携が重要になると考える。受講生は、年々多くのことを学ばなければならなくなっている。それは結果的に、各課題への取り組み時間の短縮を呼んでおり、十分な課題への理解が希薄になる傾向が見受けられる。取り上げる課題を悪戯に多くするのではなく、従来通りの各課題への取り組みに十分な時間を確保する努力と併せて、公開されるシラバスを参考にした、授業内容の重複などに対する検討による時間確保についても検討を開始することが必要である。但し、専攻をまたぐこの様な取り組みは、相互のカリキュラム構成に大きな変更を迫るものであるため、例えば、関連科目等の共通科目の授業内容等に対す検討を行うことで、新たな授業展開の可能性を模索することも重要になると考えられる。その意味において、教養教育科目の充実が、専門教育にとって需要な意味を持つことを再度確認する必要があると思われる

科目　　陶磁実技Ⅱ　　授業コード　16202

担当　　陶磁専攻教員　　教室　　0

回答した学生　　3 名

受講登録者　　11 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	1
4	９０％くらい	2
3	８０％くらい	0
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		3

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	1	3
4	ややそう思う	2	0
3	どちらともいえない	0	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		3	3

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	0	0	2	2	3	3	3	1
4	ややそう思う	1	0	0	1	0	0	0	2
3	どちらともいえない	1	1	1	0	0	0	0	0
2	あまりそう思わない	0	2	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	1	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		3	3	3	3	3	3	3	3

授業科目	陶磁実技　I			担当者		陶磁教員全員	
開講時期	前期･後期	曜日	月～金	時限	1・2限	アンケート様式	□講義　✓実習

１この授業における教育方法の特徴

陶磁器制作の基礎実技・技法の習得と陶磁原料を使った創作思考の訓練を個人指導中心におこなっている。課題は年間を通じ様々なアプローチの８課題で構成されている。

２アンケート結果の所見

（１） 受講した学生自身について

ほとんどの学生は課題に真剣に取り組み各授業課題の目標を達成している。

（２）授業について

最近の学生の実技レベルがさまざまであることで、課題に対する必要時間が違っている。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

（４）自由記述より学生からの要望について

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

高校の延長としての授業を望み教えられること望む学生と、大学生として自主的に授業に取り組もうとする学生の差があり各課題に対する解釈の違いが気になる。

４その他、意見

科目　　楽書講読（英）ＩA～ⅡA　　授業コード　22101

担当　　安原　雅之　　教室　　合奏棟第２教室

回答した学生　　14 名

受講登録者　　20 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	3
4	９０％くらい	8
3	８０％くらい	2
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		14

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	8	8
4	ややそう思う	4	3
3	どちらともいえない	1	2
2	あまりそう思わない	1	1
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		14	14

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	7
4	ややそう思う	2
3	どちらともいえない	4
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		14

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	11
4	延長することが多い	1
3	開始が遅いことが多い	1
2	早く終わることが多い	1
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		14

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	5	6	6	7	7	10	7
4	ややそう思う	4	1	5	2	4	2	5
3	どちらともいえない	3	5	0	5	3	1	2
2	あまりそう思わない	0	1	3	0	0	1	0
1	まったくそう思わない	1	1	0	0	0	0	0
	無回答	1	0	0	0	0	0	0
小計		14	14	14	14	14	14	14

授業科目	楽書購読（英）１A~ⅡA			担当者		安原雅之	
開講時期	前期	曜日	水	時限	1	アンケート様式	☒講義 ☐実習

１この授業における教育方法の特徴

英語圏の大学で、音楽史の教科書としてつかわれているテキストを使用することによって、受講生も、欧米の学生の学習内容を意識することができる。

語学習得のための授業であるが、CD 付きの楽譜集の解説を読んでいるので、楽譜をみて内容を確認したり、曲がおわるたびに、実際に曲を鑑賞するなど、自然に音楽史の勉強ができるような内容となっている。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

アンケートの結果にみられる通り、履修を続けた学生たちは、授業にまじめに取り組んでいた。

（２）授業について

音楽学以外の学生でも、最後まで残った人たちはよくがんばった。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

該当なし

（４）自由記述より学生からの要望について

該当なし

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

この授業で使うテキストが、西洋音楽史概説でも教科書として使われているので、本授業と連携するような内容にしていきたいとお考えている。

４その他、意見

科目　　西洋音楽史概説A　　授業コード　22102

担当　　深堀　彩香　　教室　　新講義棟大講義室

回答した学生　　90 名

受講登録者　　102 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	58
4	９０％くらい	26
3	８０％くらい	6
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		90

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	35	46
4	ややそう思う	28	20
3	どちらともいえない	21	18
2	あまりそう思わない	4	3
1	まったくそう思わない	2	3
	無回答	0	0
小計		90	90

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	39
4	ややそう思う	19
3	どちらともいえない	17
2	あまりそう思わない	6
1	まったくそう思わない	9
	無回答	0
小計		90

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	78
4	延長することが多い	7
3	開始が遅いことが多い	2
2	早く終わることが多い	3
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		90

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	60	62	56	56	38	54	50
4	ややそう思う	19	21	25	26	18	22	31
3	どちらともいえない	8	6	6	7	22	12	7
2	あまりそう思わない	1	1	1	1	11	1	2
1	まったくそう思わない	2	0	2	0	1	1	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		90	90	90	90	90	90	90

科目　　合唱ＩA～ⅢA（男）・重唱　　授業コード　23206

担当　　矢澤　定明・石山　英明　　教室　　0

回答した学生　　47 名

受講登録者　　47 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	33
4	９０％くらい	9
3	８０％くらい	5
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		47

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	36	37
4	ややそう思う	11	10
3	どちらともいえない	0	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		47	47

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	29	37	39	36	38	40	40	43
4	ややそう思う	10	7	7	7	8	6	7	4
3	どちらともいえない	6	3	1	4	1	1	0	0
2	あまりそう思わない	1	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	1	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		47	47	47	47	47	47	47	47

科目　　ピアノ合奏A　　授業コード　24201

担当　　内本　久美、鈴木　謙一郎　　教室　　0

回答した学生　　22 名

受講登録者　　25 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	16
4	９０％くらい	2
3	８０％くらい	3
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	1
	無回答	0
小計		22

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	16	18
4	ややそう思う	3	3
3	どちらともいえない	3	1
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		22	22

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	11	13	19	18	19	20	20	20
4	ややそう思う	2	4	2	2	1	1	1	1
3	どちらともいえない	5	4	1	2	2	1	1	1
2	あまりそう思わない	2	1	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	2	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		22	22	22	22	22	22	22	22

科目　　伴奏法・歌曲A　　授業コード　24202

担当　　松川　儒　　教室　　0

回答した学生　　21 名

受講登録者　　25 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	9
4	９０％くらい	9
3	８０％くらい	3
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		21

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	12	17
4	ややそう思う	8	4
3	どちらともいえない	1	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		21	21

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	7	10	16	11	16	20	19	18
4	ややそう思う	7	3	5	7	5	1	2	3
3	どちらともいえない	3	7	0	3	0	0	0	0
2	あまりそう思わない	3	1	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	1	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		21	21	21	21	21	21	21	21

科目　　伴奏法・器楽曲A　　授業コード　24203

担当　　中尾　純　　教室　　0

回答した学生　　21 名

受講登録者　　25 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	3
4	９０％くらい	9
3	８０％くらい	9
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		21

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	10	12
4	ややそう思う	3	5
3	どちらともいえない	6	2
2	あまりそう思わない	1	0
1	まったくそう思わない	1	2
	無回答	0	0
小計		21	21

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	12	12	12	11	15	16	15	12
4	ややそう思う	3	2	3	3	2	1	2	3
3	どちらともいえない	3	6	5	4	3	4	3	4
2	あまりそう思わない	2	1	1	3	1	0	1	1
1	まったくそう思わない	1	0	0	0	0	0	0	1
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		21	21	21	21	21	21	21	21

授業科目	伴奏法器楽曲 A			担当者	中尾　純		
開講時期	前期	曜日	水	時限	1	アンケート様式	☒講義 ☐実習

１この授業における教育方法の特徴

本来個別指導を中心に行うべき授業を講義形式で行うにあたり、可能な限り聴講者の興味が高まるよう、レパートリーを敢えて制限した。教員が実演を交えて説明するよう心がけた。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

例年通り、多くの学生は想像以上に熱心である。興味を持てない若干の学生については、総合的な勉強の進展を温かく見守ることが肝要。

（２）授業について

夏季は冷房が適切に稼動したため設備の満足度が高かった。　楽器の状態は調律頻度の改善が求められる。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

非常に限られた時間で、重要なポイントを踏まえて指導したことの一端は伝わったようである。レパートリーの制限も一定の効果をあげたと考えられる。

（４）自由記述より学生からの要望について

「延長」の趣旨が分からないが、一人当たりの時間を増やすことは現行のカリキュラムでは不可能である。面倒くさいとの記述は一見言語道断であるが、ほとんどの回は聴講となる（出番がない）ため、真っ当な意見でもある。今後とも学生からの積極的な感想、改善提案を期待したい。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

室内楽ホールをはじめ、他のホールでの授業が可能かどうか、ぜひ検討したい。
後期は例年、空調が脆弱なため、大演奏室 AB に送風機数台の導入をお願いしたい。

４その他、意見

科目　　室内楽（ピアノ）ＩＡ　　授業コード　24204

担当　　内本　久美・掛谷　勇三　　教室　　小演奏室A

回答した学生　　24 名

受講登録者　　25 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	14
4	９０％くらい	5
3	８０％くらい	4
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	1
	無回答	0
小計		24

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	17	20
4	ややそう思う	6	3
3	どちらともいえない	1	1
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		24	24

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	13	15	19	19	18	21	22	19
4	ややそう思う	9	5	5	4	6	3	2	4
3	どちらともいえない	2	2	0	1	0	0	0	1
2	あまりそう思わない	0	1	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	1	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		24	24	24	24	24	24	24	24

授業科目	室内楽 IA			担当者		掛谷勇三、内本久美	
開講時期	前期	曜日	木	時限	Ⅱ	アンケート様式	☐講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴

他の楽器奏者とのアンサンブルを通じて、ソロの演奏とは異なる音の聞き方、音楽の流れに気付かせる。自分の演奏のみに集中するのではなく、他楽器とのバランス、旋律の関係性などに常に留意しつつ、共により高め合うような演奏ができるような気付きを促す。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

各々非常に真面目に取り組み、事前の読譜、共演者との合わせを済ませた後にレッスンへやってくる者が殆どであった。

（２）授業について

授業時間が他専攻の室内楽の授業と同じ設定であるため、共演者の参加が困難な場合がある。レッスン時間を昼休み時間にずらしたり、他の曜日に数日分のレッスンを設定、又は学生からの直接の要望を受け、参加者全員が集まれるレッスン時間を別に設定する等の対応をし、より多くの学生がレッスンを受講できるよう心がけた。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

特になし。

（４）自由記述より学生からの要望について

レッスンをもっと受けたいという希望があったが、　上述（２）の対応をすることにより、多少の便宜は図れているものと思われる。　その他の効果的な対処法も併せて検討していく所存である。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

（４）に同じ

４その他、意見

科目　　ピアノ指導法A　　授業コード　24206

担当　　掛谷　勇三　　教室　　大演奏室A

回答した学生　　26 名

受講登録者　　33 名

● 授業内容への興味・関心についての質問
授業で取り扱った以下のそれぞれの内容に対しての、興味・関心の度合いを５段階評価で表してください。

1 コーチング

2 原典版楽譜

3 アーティキュレーション・音符から読み取る要素

4 装飾音

設問		1	2	3	4
5	非常に興味あり	18	12	16	10
4	やや興味あり	5	13	9	11
3	どちらとも言えない	3	1	1	5
2	あまり興味なし	0	0	0	0
1	全く興味なし	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0
小計		26	26	26	26

● 授業についての質問

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	20	18	16	18	21	21	19
4	ややそう思う	3	6	8	5	3	3	5
3	どちらともいえない	1	1	1	1	1	1	0
2	あまりそう思わない	1	0	0	1	0	0	1
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	1	1	1	1	1	1	1
小計		26	26	26	26	26	26	26

授業科目	ピアノ指導法 A			担当者	掛谷勇三		
開講時期	前期	曜日	火	時限	２限	アンケート様式	□講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴

・スポーツ心理学の研究について知り、ピアノ指導と結びつけて理解する。
・原典版楽譜についての基礎知識を得る。
・「内包された強弱（Innere　Dynamik)」を理解し楽譜から読み取る。
・古典派楽曲のアーティキュレーション記号や装飾音符解釈の基礎を理解する。
・演奏中の筋活動についての基礎を知る。
ピアノ演奏にかかわるこれらの項目を扱うことで、ピアノ実技指導の基盤となる思考力を養う。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

この項目は質問内容を変更しました。
変更した質問内容から「装飾音」についての興味が他の項目より少ないことがわかる。
全体に出席率は高く授業態度も熱心であった。

（２）授業について

学生の発表の時間を増やしたいので、受け入れ人数に制限を設けたい。
授業で扱う項目数について再検討する。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

ピアノコース以外の学生からピアノを専門にしている者が取り組んでいる内容について理解が深まった。

（４）自由記述より学生からの要望について

なし

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

・装飾音についての内容を整理し理解しやすく工夫する必要がある。
・プロジェクターを利用して譜例の提示を増やすことで、原点版、装飾音、アーティキュレーションについて理解と興味が深まるように工夫する。
・一方的に教員が説明する時間を減らし学生が体験や実践をしながら学べるよう授業を改善する。
・グループ発表をおこなってソナチネアルバム中の作品から指導するポイントを考えさせる取り組みでは課題内容に対する理解を深めるためにより詳しい説明が必要。
・「教える立場に立ったら何を大切にしたいか？」「コンクールの利点と弊害は何か？」についての発表のための時間を増やす必要があり、受講者数の制限を検討する。

４その他、意見

受講者数の予測のために毎年度、予備登録をおこなっているが、声楽専攻学生の予備登録数が非常に多いのに比較して実際の履修者数が大幅に少ないため参考にならない。今後予備登録実施について再検討したい。

科目　　楽器研究（鍵盤楽器）ＩA～ⅡA　授業コード　24207

担当　　熊谷　恵美子、吉田　恵、安井　i教室　　0

回答した学生　　22 名

受講登録者　　27 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	11
4	９０％くらい	9
3	８０％くらい	1
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		22

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	15	19
4	ややそう思う	6	2
3	どちらともいえない	1	1
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		22	22

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	13	16	18	20	18	18	20	20
4	ややそう思う	6	4	3	1	3	3	1	1
3	どちらともいえない	3	0	1	1	1	1	1	1
2	あまりそう思わない	0	2	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		22	22	22	22	22	22	22	22

授業科目	楽器研究（鍵盤楽器）ＩA～ⅡA			担当者	熊谷　恵美子		
開講時期	前期	曜日	月	時限	２～３	アンケート様式	☒講義　☐実習

１この授業における教育方法の特徴

鍵盤楽器の古楽器の基本であるオルガン、チェンバロの構造、歴史を勉強し、実際に楽器の奏法を実技を交えた形で学習、体験することができる。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

受講者の多さからどうしてもクラス授業にしなければならないが、実際楽器を弾く人のみ（順番に弾かせているのだが）が、興味を示し、聴講するべき学生が集中しない傾向がみられ、意欲のある学生と学習意欲の低い学生との差がみられた。

（２）授業について

希望学生が多いにも拘わらず、短い時間（１コマずつ）の中に講義と実技を交えているため、楽器を演奏する時間が短めになってしまうのが学生、教員両方の立場からも残念で不満に感じる点である。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

全専攻の学生を対象に学部でオルガン、チェンバロを実際に演奏しながら学べる大学はほとんどない。この貴重な体験は専門の楽器の演奏や研究に大きく役立つことと確信している。

（４）自由記述より学生からの要望について

記述はなかったが、前年度までは授業時間を増やして欲しいという希望が多かった。しかし今年度よりⅡＡという授業が始まり授業数に関する希望はなくなった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

ピアノコースの中の非常勤の時間をやりくりして、２２年度より、オルガン、チェンバロの非常勤の時間数を増やすことにより、授業時間を増やすこととなった。また、練習用のオルガンの購入が実現化され、学生の練習場所が増え授業は充実してきた。今年度からはより専門的に学べるⅡＡにすすめるようになったが、まだ希望者が少ない。鍵盤楽器の学生にもっと学んでほしいという希望もありより個人指導の時間を増やせるように工夫したい。

４その他、意見

現在、ＩＡは希望者多数のため、審査と抽選で授業受講者を選抜する状況を余儀なくされているが、より多くの学生のためにも、あと１コマ分の非常勤（専門的な技術を要するため）の時間が欲しい。

科目　　弦楽合奏ＩA ～ⅢA　　授業コード　25201

担当　　白石　禮子　　教室　　0

回答した学生　　39 名

受講登録者　　47 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	37
4	９０％くらい	2
3	８０％くらい	0
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		39

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	32	34
4	ややそう思う	6	5
3	どちらともいえない	1	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		39	39

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	16	35	35	27	29	33	36	35
4	ややそう思う	3	3	3	8	10	4	3	3
3	どちらともいえない	13	1	1	4	0	1	0	0
2	あまりそう思わない	1	0	0	0	0	1	0	0
1	まったくそう思わない	6	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	1
小計		39	39	39	39	39	39	39	39

授業科目	弦楽合奏ＩA～ⅢA			担当者		白石禮子	
開講時期	通年	曜日	水	時限	4・5	アンケート様式	☐講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴

〈授業の目的〉
緻密なアンサンブル能力を習得し、豊かな表現力をも併せ持つ奏者を育成する。
〈到達目標〉
全てのアンサンブル演奏の根幹となる室内楽を拡大した様な緻密且つ音楽的な演奏を目指す。
・全てのアンサンブル演奏に不可欠な音程感覚、和声感、調性感を養う。
・自身のパートは勿論、その他のパートの音もよく聴き、音色、音楽表現等、様々な面で
　バランスの取れた演奏が出来るようになる。
・楽曲それぞれの時代背景等によるスタイルの相違を踏まえた上で、表情豊かな音楽作りが出来るようになる。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

受講登録学生 47 名のうち、39 名より回答があった。授業出席率についての問いに、39 名中 37 名が「100%」、2 名が「90%くらい」と回答。又、「この授業に意欲的に取り組んだか」「授業を受けた後、授業で扱われた内容への興味・関心が高まったか」の 2 つの質問には、それぞれ 38 名・39 名とほぼ全員が「強くそう思う」「ややそう思う」と回答し、この授業に対する学生の積極性、及び、アンサンブル教育に力を入れている本学に於いてのこの授業の重要性が伺えた。

（２）授業について

「この授業はあなたの専門能力の向上に役立ったか」の質問には、100%の学生が「強くそう思う」「ややそう思う」と回答した。又、「授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思うか」「あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができたか」「授業時間は十分と感じたか」「教員の話し方、話すスピードは適切か」の質問にも、98～100%の学生が「強くそう思う」「ややそう思う」と回答している。「教員とコミュニケーションはとれていたか」の問いに対して、「強くそう思う」「ややそう思う」が 90%に止まった点については、大人数で行うアンサンブル授業の場合、どうしても学生のレベルによって授業の理解度に差が生じる為、毎年他の質問と比較すると若干数値が低い傾向にあるが、総合的には、学生にとって非常に充実した良い形で進められていると見ることが出来る。
尚、「シラバスは授業の選択に役立ったか」の質問には「どちらとも言えない」～「全くそう思わない」という回答が含まれていたが、この点については、例年同様、授業担当教員が具体的な研究内容を前年度末に発表、新年度以降もミーティングや掲示で授業スケジュール等を細かく周知する為、シラバスそのものの必要性が低いと感じている学生がいるものと思われる。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

自由記述は特になし。

（４）自由記述より学生からの要望について

自由記述は特になし。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

この授業のアンケートは毎年行っており、常に非常に良い結果を得ているが、今年度は特に 100%の学生が「強くそう思う」「ややそう思う」と回答した項目が多く、例年以上にこの授業をとても有意義であると感じ、高く評価している事が伺える嬉しい結果となった。今後も、学生のアンサンブル能力向上に向けて更に有効な授業を行っていく為、より一層の教員間の連携を高めていきたい。

４その他、意見

特になし

科目　　楽曲研究B　　授業コード　21101

担当　　鈴木　宏司

教室　　管打レッスン室　　開講曜日・時間　　火曜日　　3

受講登録者　　12 名　　回答した学生　　9 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	2
4	９０％くらい	4
3	８０％くらい	3
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		9

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	3	4
4	ややそう思う	2	4
3	どちらともいえない	4	1
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		9	9

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	2
4	ややそう思う	4
3	どちらともいえない	1
2	あまりそう思わない	2
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		9

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	2
4	延長することが多い	4
3	開始が遅いことが多い	3
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		9

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	2	2	0	3	3	0	4
4	ややそう思う	6	6	7	6	6	5	3
3	どちらともいえない	1	1	2	0	0	3	2
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	1	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		9	9	9	9	9	9	9

科目　　西洋音楽史概説B　　授業コード　22101

担当　　安原　雅之、森本　頼子

教室　　新講義棟　　開講曜日・時間　　火曜日　　3

受講登録者　　108 名　　回答した学生　　89 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	40
4	９０％くらい	37
3	８０％くらい	11
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		89

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	32	34
4	ややそう思う	34	39
3	どちらともいえない	19	11
2	あまりそう思わない	3	4
1	まったくそう思わない	1	1
	無回答	0	0
小計		89	89

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	27
4	ややそう思う	26
3	どちらともいえない	24
2	あまりそう思わない	7
1	まったくそう思わない	5
	無回答	0
小計		89

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	59
4	延長することが多い	21
3	開始が遅いことが多い	5
2	早く終わることが多い	2
1	よくわからない	2
	無回答	0
小計		89

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	46	42	41	45	29	44	37
4	ややそう思う	27	27	24	23	22	27	30
3	どちらともいえない	11	13	17	14	17	12	16
2	あまりそう思わない	2	4	3	5	10	6	4
1	まったくそう思わない	3	1	4	2	11	0	2
	無回答	0	2	0	0	0	0	0
小計		89	89	89	89	89	89	89

科目　　楽書講読（英）ＩB～ⅡＢ　　授業コード　22102

担当　　安原　雅之、森本　頼子

教室　　合奏棟第２教室　　開講曜日・時間　　水曜日　　1

受講登録者　　14 名　　回答した学生　　13 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	2
4	９０％くらい	3
3	８０％くらい	7
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	1
	無回答	0
小計		13

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	6	9
4	ややそう思う	4	2
3	どちらともいえない	2	1
2	あまりそう思わない	1	1
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		13	13

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	5
4	ややそう思う	3
3	どちらともいえない	4
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		13

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	13
4	延長することが多い	0
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		13

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	12	9	11	10	8	4	9
4	ややそう思う	1	1	2	3	3	4	4
3	どちらともいえない	0	3	0	0	2	2	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	2	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	1	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		13	13	13	13	13	13	13

科目　　オペラ重唱B　　授業コード　23101

担当　　初鹿野　剛

教室　　オペラ・合唱室　　開講曜日・時間　　火曜日　　3

受講登録者　　29 名　　回答した学生　　19 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	13
4	９０％くらい	5
3	８０％くらい	0
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		19

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	15	15
4	ややそう思う	4	3
3	どちらともいえない	0	1
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		19	19

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	16
4	ややそう思う	3
3	どちらともいえない	0
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		19

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	18
4	延長することが多い	1
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		19

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	17	17	17	17	17	17	17
4	ややそう思う	2	2	2	1	2	2	2
3	どちらともいえない	0	0	0	1	0	0	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		19	19	19	19	19	19	19

授業科目	オペラ重唱Ａ・Ｂ			担当教員	初 鹿 野　　剛		
開講時期	通　　年	曜　　日	木　　曜	時　　限	2	アンケート様式	実　　習

1. この授業における教育方法の特徴

これまで独唱を中心に学習してきた当該履修生が、実習を通じて歌劇作品の重唱アンサンブル・複数の登場人物によるレチタティーヴォ歌唱について取り組むにあたり、現役歌手である担当教員の立場からアドヴァイスを踏まえ、試演会で成果発表を行う。

2. アンケート結果の所見

① 受講した学生自身について

今般の履修生については、個々の発声技術等にバラつきはあるものの、それぞれの課題に対し熱心に取り組み、協調性に富んでいた。

② 授業について

学生インスペクターが毎時間歌うべきグループを事前に編成し発表、事前練習の成果を教員や他の履修生の前で披露、担当教員のアドヴァイスを受け、さらに練習を行い、試演会で披露する、という形式だったが、いずれのグループの履修生も、毎回提示する担当教員のアドヴァイスにより問題意識をもって練習し、実習に望むことが出来たと思う。

③ 自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

本授業のねらいである、前期と後期に同様の課題を取り扱いながら、前期は日本語に訳した歌詞を、後期は原語で歌唱することにより、課題として取り上げた重唱ならびにそれが含まれる歌劇作品の内容を深く理解することに繋がったようで有難い。学部四年次における「オペラ研究」や「声楽研究」において、これまでの学習成果を活かしてくれることを望む。

④ 自由記述より学生からの要望について

特になし

3. 今後の授業の工夫・改善（FD）

- 次年度はドイツ語歌詞をもつ《魔笛》も教材に取り上げることとする。
- 履修生各自で目的意識をもち、前期は長い作品、後期は短い作品等、メリハリをつけた課題の選択をするよう、学期始めに改めて注意喚起する。また、教員が学生インスペクターとともに、より効率的な実習編成をするよう、心がける。
- 限られた時間ではあるが、担当教員が音楽面のみならず、演技をする上で作品の内容や登場人物に即したテクストの読み方等を提示出来るよう、心がけたい。

4. その他、意見

科目　　オペラ研究B　　授業コード　23102

担当　　森川　栄子　　教室　　オペラ・合唱室、大演奏室A、小演奏室A

回答した学生　　27 名

受講登録者　　29 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	13
4	９０％くらい	13
3	８０％くらい	1
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		27

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	20	21
4	ややそう思う	6	4
3	どちらともいえない	1	1
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	1
小計		27	27

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	14	15	20	21	20	18	19	20
4	ややそう思う	4	10	6	5	7	4	7	6
3	どちらともいえない	8	1	1	1	0	4	1	1
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	1	0	0
1	まったくそう思わない	1	1	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		27	27	27	27	27	27	27	27

授業科目	オペラ研究 B			担当者	森川　栄子		
開講時期	後期（A・B 通年履修）	曜日	木	時限	３・４	アンケート様式	□講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴

歌い手としてのオペラへの取り組み方の基礎を、オペラを実際に体験することを通して身につけさせる。また、オペラを作り上げるために、出演者としての役割だけではなく様々な役割が必要だということを、学生自身がそういった役割を体験することを通して学ばせる。
授業は音楽稽古と演技指導を複数の部屋を使って並行して行う。オペラの内容を深く理解し、歌い手としてのオペラへの取り組み方の基礎を作るために、歌唱は日本語訳によって行う。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

ほぼ全ての受講生が積極的に取り組んでいた。

（２）授業について

内容や教育方法についてはほぼ全ての学生がポジティヴに捉え、専門性の向上に役立ったと回答している。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

「複数の教員から多角的にレッスンを受けられたことが良かった」との記述があった。
それまでの３年間の授業・レッスンにおいては単独の教員による指導のものがほとんどであったことから、学修の発展としてそのような指導形態の授業を学部の最終学年で経験させることの意義を確認できたと考える。

（４）自由記述より学生からの要望について

＊「もっと細かく止めて稽古ができたらよかった」との記述があった。
毎回の授業の進行についてのプランニングも、教員の指導の下学生に担当させ経験を積ませている。与えられた授業時間の中で最大限細かく指導していくようにしているが、やはり時間的な制約があり、教員側としても同じように感じている。

＊「キャストとスタッフ両方するのは大変、歌に専念できるように美術とのコラボができたら…」との記述があった。
この授業では、オペラを作り上げるために、出演者としての役割だけではなく様々な役割が必要だということを学生自身が体験することにより学ぶことをも目標としているので、その意識を徹底できなかったということを、指導側としての反省点として挙げたい。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

＊上記の「オペラを作り上げるために、出演者としての役割だけではなく様々な役割が必要だということを学生自身が体験することにより学ぶ」ということの意識を、受講学生に徹底させたい。

＊H28 年度は 50 周年事業の影響を受け例年とは異なるスケジュールでの進行となったが、試演会までの期間が延びたことによる技術面・表現面における進化は例年と比べてみられなかった。むしろその分、中だるみが生じたように見受けられた。その結果により、H29 年度以降は、H27 年度までのスケジュールに戻して行うことと決定した。

４その他、意見

科目　　合唱ＩB～ⅢB　（女）　　授業コード　23103

担当　　長谷　順二

教室　　中リハーサル室　　開講曜日・時間　　金曜日　　5

受講登録者　　69 名　　回答した学生　　58 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	20
4	９０％くらい	23
3	８０％くらい	11
2	７０％くらい	4
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		58

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	33	30
4	ややそう思う	13	13
3	どちらともいえない	10	12
2	あまりそう思わない	2	2
1	まったくそう思わない	0	1
	無回答	0	0
小計		58	58

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	29
4	ややそう思う	8
3	どちらともいえない	18
2	あまりそう思わない	2
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		58

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	44
4	延長することが多い	4
3	開始が遅いことが多い	9
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		58

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	31	39	32	37	32	32	32
4	ややそう思う	7	6	3	5	6	10	7
3	どちらともいえない	9	9	12	15	15	11	12
2	あまりそう思わない	5	3	4	0	3	3	3
1	まったくそう思わない	6	1	6	1	2	1	3
	無回答	0	0	1	0	0	1	1
小計		58	58	58	58	58	58	58

科目　　オペラ総合演習２　　授業コード　23105

担当　　末吉　利行　　教室　　大演奏室B、奏楽堂ステージ（パイプオルガン）、小演

回答した学生　　16 名

受講登録者　　17 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	10
4	９０％くらい	6
3	８０％くらい	0
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		16

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	16	16
4	ややそう思う	0	0
3	どちらともいえない	0	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		16	16

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	5	8	10	10	12	8	14	12
4	ややそう思う	1	3	3	4	3	5	1	3
3	どちらともいえない	7	4	3	2	1	1	0	1
2	あまりそう思わない	1	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	2	1	0	0	0	2	1	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		16	16	16	16	16	16	16	16

授業科目	オペラ総合演習２			担当者	末吉利行		
開講時期	後期	曜日	木曜/金曜	時限	3,4,5 限 /3,4 限	アンケート様式	☒講義 ☐実習

１この授業における教育方法の特徴

12 月のオペラ公演に向け、指揮者、演出家、コルペティトール、声楽教員がそれぞれ声楽的指導、音楽的指導、演劇的指導を担い、学生にプロの演奏家としての技量を習得させている。また、美術学部作成の舞台美術の中で演奏させることにより、オペラ歌手、舞台表現者としての資質と技量を習得させている。

２アンケート結果の所見

（１） 受講した学生自身について

全学生が指導者の指導のもと真剣に自分と向き合い真剣に学んでくれた。

（２） 授業について

この授業は、芸大の最も重要なものであり、内外からの注目度も高く、これからを存続させていかなければならない。創立 50 周年記念オペラ公演でも明らかになったように、このオペラ公演につながった授業は、学生、大学にとって最重要と位置付けできる。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

授業内容に強い興味を持ち意欲的に取り組んでくれたことは､教員側の意図することを理解してくれたと考える。

（４）自由記述より学生からの要望について

学生にとってクラス担当教員だけでなく､全ての声楽専任教員と接することができ､指導を受け意見交換できることは最大の利点であろう。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

設備における改善点が一番大きいと感じている。
奏楽堂の老朽化した設備状況が最大の課題である。冷暖房、照明、舞台床材等の補修、改善は急務を要するものである。
健康上の問題、事故に発展する懸念がある。
授業時間に関しては、カリキュラム上の制限の中で最大限実施している。

４その他、意見

設備改善には財政上の問題が一番のネックになっていると考える。

科目　　指揮法　　授業コード　23106

担当　　藤本　淳也

教室　　0　　開講曜日・時間　　木曜日　　3

受講登録者　　85 名　　回答した学生　　55 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	14
4	９０％くらい	18
3	８０％くらい	21
2	７０％くらい	2
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		55

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	29	29
4	ややそう思う	15	20
3	どちらともいえない	10	5
2	あまりそう思わない	1	1
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		55	55

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	19
4	ややそう思う	13
3	どちらともいえない	21
2	あまりそう思わない	2
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		55

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	40
4	延長することが多い	7
3	開始が遅いことが多い	7
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		55

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	28	25	25	32	21	23	26
4	ややそう思う	12	18	13	12	11	16	15
3	どちらともいえない	9	10	12	8	17	12	12
2	あまりそう思わない	3	2	4	3	5	4	2
1	まったくそう思わない	1	0	1	0	1	0	0
	無回答	2	0	0	0	0	0	0
小計		55	55	55	55	55	55	55

科目　　ピアノ合奏B　　授業コード　24101

担当　　内本　久美

教室　　0　　開講曜日・時間　0　　0

受講登録者　25 名　　回答した学生　23 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	13
4	９０％くらい	5
3	８０％くらい	5
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		23

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	14	17
4	ややそう思う	8	4
3	どちらともいえない	1	2
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		23	23

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	9
4	ややそう思う	8
3	どちらともいえない	4
2	あまりそう思わない	2
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		23

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	16
4	延長することが多い	4
3	開始が遅いことが多い	2
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		23

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	17	15	17	19	17	19	19
4	ややそう思う	4	5	4	3	5	2	3
3	どちらともいえない	2	3	2	1	1	2	1
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		23	23	23	23	23	23	23

授業科目	ピアノ合奏			担当者		松本総一郎、鈴木謙一郎、内本久美	
開講時期	後期	曜日		時限		アンケート様式	□講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴
同一楽器でのアンサンブルを行うことにより、共演者との音質の違い、打鍵について、息遣い、
表現その他についてより深く考え、気づきを促す。

２アンケート結果の所見
（１）受講した学生自身について
非常に真剣に課題に取り組み、準備を整えて授業に臨んだ。

（２）授業について
実技レッスン形態をとった。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて
特になし

（４）自由記述より学生からの要望について
特になし

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）
学生に合奏やアンサンブルでの経験をソロの演奏に生かせるよう指導していきたい。

４その他、意見
特になし

科目　　伴奏法・器楽曲B　　授業コード　24102

担当　　中尾　純

教室　　大演奏室A・B　　開講曜日・時間　　水曜日　　1

受講登録者　　25 名　　回答した学生　　28 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	7
4	９０％くらい	9
3	８０％くらい	10
2	７０％くらい	2
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		28

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	17	20
4	ややそう思う	8	6
3	どちらともいえない	3	2
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		28	28

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	15
4	ややそう思う	6
3	どちらともいえない	6
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		28

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	10
4	延長することが多い	8
3	開始が遅いことが多い	10
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		28

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	17	19	19	20	19	19	19
4	ややそう思う	6	5	5	5	5	6	5
3	どちらともいえない	4	4	4	2	3	3	4
2	あまりそう思わない	0	0	0	1	1	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	1	0	0	0	0	0	0
小計		28	28	28	28	28	28	28

授業科目	伴奏法・器楽曲 B			担当者	中尾　純		
開講時期	後期	曜日	水	時限	I	アンケート様式	☒講義

１この授業における教育方法の特徴

非常に限られた時間ではあるが、学生一人ひとりに演奏させ、各自の演奏の問題点を明らかにする。他者を聴講することにより、独善的な演奏を回避し、基本的な様式感を身につけさせる。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

1/3 位の驚くほど熱心な学生と、多くの標準的な学生、さらには数名の非常に専門意識に乏しい学生が存在した。回答数が受講者数を上回っているため、結果の信憑性には疑問符がつく。

（２）授業について

授業時の感触よりは好意的な評価が多いように感じる。芸術観の多様性を鑑みれば、趣旨を理解してくれた学生がこれほど存在したことは、大変ありがたい結果とも言える。
しかし、必修の授業で履修しないという選択が出来ない中で強い不満を述べる者が一人でもいる以上、（人間関係が壊れたと言う点において）この授業を担当してよかったとは思えない。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

レパートリーのガイドラインが、幾ばくかの学生にとって興味を高める効果をもたらしたと考えられる。

（４）自由記述より学生からの要望について

開始時刻に関しての学生への指示が正しく認識されていなかった。周知徹底をはかりたい。
とりわけ期末の時期に準備の遅い学生が駆け込みで殺到し、延長せざるを得なくなることが多くなった。この点は３年前から学生に何度注意喚起しても、改善が見られない。（今後も期待できない。）共演者の都合もあり、どの学生も演奏を準備できない回があるなど、授業の枠を十分に使えなかった。そもそも現状では一組あたりの時間が非常に短く、時間の伸縮調整が難しいし、芸術上重要な事柄を省略し次の奏者に時間通り切り替えると、表面的な公平性は保てても内容は乏しくなってしまう。

当該分野の専門家でない教員が予算などの都合やむを得ず授業を行っている期間が半期ならまだしも、通期となると人間関係にも影響してくる。適任者を配置できるような予算措置を望むとともに、そもそも当該授業が本当に必要なのか、他にもっと必要な科目がないのか、今後とも検討・改善が必要であると考える。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

次年度は前期・後期で担当教員を変え、担当教員数もそれぞれ倍増することになった。（学生にとっての）時間的な余裕が学習成果を多少なりとも向上させるのか、それとも教員の授業担当時間が増加し、業務負担が増すだけなのか、この点を精査したい。

４その他、意見

科目　　伴奏法・歌曲B　　授業コード　24103

担当　　松川　儒

教室　　室内楽ホール　　開講曜日・時間　　金曜日　　3

受講登録者　　25 名　　回答した学生　　25 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	7
4	９０％くらい	13
3	８０％くらい	5
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		25

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	13	18
4	ややそう思う	12	7
3	どちらともいえない	0	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		25	25

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	11
4	ややそう思う	10
3	どちらともいえない	3
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		25

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	12
4	延長することが多い	12
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		25

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	18	18	21	22	20	20	22
4	ややそう思う	7	6	4	3	5	5	3
3	どちらともいえない	0	1	0	0	0	0	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		25	25	25	25	25	25	25

科目　　室内楽（ピアノ）ＩＢ　　授業コード　24104

担当　　内本　久美

教室　　小演奏室A　　開講曜日・時間　　木曜日　　2

受講登録者　　21 名　　回答した学生　　12 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	7
4	９０％くらい	1
3	８０％くらい	1
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	3
	無回答	0
小計		12

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	8	6
4	ややそう思う	0	3
3	どちらともいえない	3	3
2	あまりそう思わない	1	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		12	12

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	3
4	ややそう思う	5
3	どちらともいえない	4
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		12

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	9
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	1
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		12

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	10	8	11	10	9	10	8
4	ややそう思う	1	0	0	1	2	1	3
3	どちらともいえない	1	3	1	1	1	1	1
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	1	0	0	0	0	0
小計		12	12	12	12	12	12	12

授業科目	室内楽 IB			担当者		掛谷勇三、内本久美	
開講時期	後期	曜日	木	時限	2	アンケート様式	□講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴
楽器の異なる共演者と演奏することにより、音出しのタイミング、音楽の作り方、息遣い、その他について考え、共演者と共によ自然な音楽を演奏できるよう考えていく。

２アンケート結果の所見
（１）受講した学生自身について
各自準備と共演者との事前のリハーサルを行い、準備を整えた後に授業に臨む者が多かった。

（２）授業について
共演者との演奏に関する実技レッスンの形をとる。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて
なし

（４）自由記述より学生からの要望について
なし

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）
授業時間が他専攻の授業と重なるため、一部昼休み時間を使うなどの工夫を必要とする。

４その他、意見

なし

科目　　ピアノ指導法B　　授業コード　24106

担当　　北住　淳

教室　　大演奏室A　　開講曜日・時間　　火曜日　　2

受講登録者　　30 名　　回答した学生　　18 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	2
4	９０％くらい	2
3	８０％くらい	6
2	７０％くらい	3
1	６０％以下	5
	無回答	0
小計		18

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	7	9
4	ややそう思う	4	6
3	どちらともいえない	6	2
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	1	1
	無回答	0	0
小計		18	18

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	11
4	ややそう思う	3
3	どちらともいえない	3
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		18

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	10
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	1
2	早く終わることが多い	4
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		18

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	11	10	12	12	13	14	12
4	ややそう思う	5	4	5	4	4	3	5
3	どちらともいえない	1	3	0	1	0	0	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	1	1	1	1	1	1	1
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		18	18	18	18	18	18	18

科目　　楽器研究（鍵盤楽器）ＩＢ・ＩＩＢ　授業コード　24201

担当　　熊谷　恵美子　　教室　　小演奏室C、奏楽堂大４教室
奏楽堂ステージ（パイプオルガン）

回答した学生　　19 名

受講登録者　　25 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	5
4	９０％くらい	11
3	８０％くらい	2
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		19

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	11	14
4	ややそう思う	7	4
3	どちらともいえない	0	1
2	あまりそう思わない	1	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		19	19

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	9	12	13	15	17	12	13	16
4	ややそう思う	7	4	6	4	2	6	6	3
3	どちらともいえない	2	1	0	0	0	0	0	0
2	あまりそう思わない	1	2	0	0	0	1	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		19	19	19	19	19	19	19	19

授業科目	楽器研究（鍵盤楽器）ＩB～ⅡB			担当者		熊谷　恵美子	
開講時期	後期	曜日	月	時限	２～３	アンケート様式	☒講義　☐実習

１この授業における教育方法の特徴

鍵盤楽器の古楽器の基本であるオルガン、チェンバロの構造、歴史を勉強し、実際に楽器の奏法を実技を交えた形で学習、体験することができる。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

受講者の多さからどうしてもクラス授業にしなければならないが、実際楽器を弾く人のみ（順番に弾かせているのだが）が、興味を示し、聴講するべき学生が集中しない傾向がみられ、意欲のある学生と学習意欲の低い学生との差がみられた。ただ今年度より楽器研究ＩＡＢを修得した学生は引き続き楽器研究Ⅱを履修できるように授業数を増やしたことにより、意欲のある学生はより専門的な学習に取り組めるようになったと感じる。

（２）授業について

（1）にも記述した通り授業数が増え、意欲のある学生にとってはより高度な技術修得が可能になり個人レッスンの時間も増え内容がより充実したものになっていると考える。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

自由記述がなかったので詳しいことはわからないが、全専攻の学生を対象に学部でオルガン、チェンバロを実際に演奏しながら学べる大学はほとんどない。この貴重な体験は専門の楽器の演奏や研究に大きく役立つことと確信している。

（４）自由記述より学生からの要望について

記述はなかった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

ピアノコースの中の非常勤の時間をやりくりして、２２年度より、オルガン、チェンバロの非常勤の時間数を増やすことにより、授業時間を増やすこととなった。また、練習用のオルガンの購入が実現化され、学生の練習場所が増え授業は充実してきた。作年度からはより専門的に学べるⅡＡにすすめるようになったが、まだ希望者が少ない。鍵盤楽器の学生にもっと学んでほしいという希望もあり今年度は鍵盤楽器Ⅱの受講学生には個人レッスンの態勢をとるようにし、試演会などで発表する機会を増やすことで、研究意欲を高められたと確信している。今後も演奏できる機会を増やしていきたい

４その他、意見

現在、ＩＡは希望者多数のため、審査と抽選で授業受講者を選抜する状況を余儀なくされているが、より多くの学生のためにも、あと１コマ分の非常勤（専門的な技術を要するため）の時間が欲しい。

科目　弦楽合奏ＩＢ～ⅣＢ　授業コード　25101

担当　福本　泰之

教室　大演奏室A・B、小演奏室A・B、室内楽ホール　開講曜日・時間　水曜日　4・5

受講登録者　47 名　回答した学生　42 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	35
4	９０％くらい	7
3	８０％くらい	0
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		42

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	33	32
4	ややそう思う	9	9
3	どちらともいえない	0	1
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		42	42

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	21
4	ややそう思う	3
3	どちらともいえない	11
2	あまりそう思わない	3
1	まったくそう思わない	4
	無回答	0
小計		42

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	38
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	2
	無回答	0
小計		42

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	38	35	36	40	32	36	37
4	ややそう思う	4	5	6	2	7	6	4
3	どちらともいえない	0	2	0	0	2	0	1
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	1	0	0
小計		42	42	42	42	42	42	42

授業科目	弦楽合奏ＩB～ⅣB			担当者	福本泰之、桐山建志		
開講時期	前・後期	曜日	水	時限	Ⅳ、Ⅴ	アンケート様式	☐講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴

40 名強の弦楽器のみの合奏が基本であるが、適宜、少人数での分奏やパート練習を授業時間内外で行い、緻密な音楽作りをする。後期の最後の定期演奏会において完成度および音楽性の高い演奏を行うことによって聴衆へのアピールはもとより、演奏者の達成感と音楽づくりのプロセスを味合う。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

おおむね非常によい状態であると感じる。

（２）授業について

おおむね非常によい状態であると感じる。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

（４）自由記述より学生からの要望について

授業で取り上げる作品の選曲について偏りがあるとの指摘があり反省材料となった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

基本的に、今まで通りのやり方でよいと思われるが、定期演奏会で取り上げる以外の作品の選曲をバランスよくやっていきたい。

４その他、意見

科目　　特殊研究（声楽領域３）　　授業コード　23202

担当　　末吉　利行　　教室　　0

回答した学生　　16 名

受講登録者　　17 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	6
4	９０％くらい	10
3	８０％くらい	0
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		16

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	14	14
4	ややそう思う	2	2
3	どちらともいえない	0	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		16	16

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	11	15	15	15	15	15	15	15
4	ややそう思う	3	1	1	1	1	1	1	1
3	どちらともいえない	2	0	0	0	0	0	0	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		16	16	16	16	16	16	16	16

授業科目	特殊研究（声楽領域３）			担当者	末吉　利行		
開講時期	前期	曜日	水曜	時限	２限	アンケート様式	☒講義　☐実習

１この授業における教育方法の特徴

日本歌曲の演奏法を主目的とする。(日本古来の演奏法)
楽譜（記号）から、作曲家の意図を読み取る力をつける。

２アンケート結果の所見

（1） 受講した学生自身について

大変熱心に勉強し、実践してくれました。
楽譜からの読み取りからもかなり上達したと思う。

（2） 授業について

・課題曲を決めた方がいいかもしれない。
・前期、後期に曲講がベストかもしれない。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

特になし。

（4）自由記述より学生からの要望について

特になし。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）
・できることなら前後期に開講したい。
・時間が足りないと感じている。

４その他、意見

科目　　重唱　　授業コード　23204

担当　　矢澤　定明・石山　英明　　教室　　0

回答した学生　　13 名

受講登録者　　17 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	12
4	９０％くらい	1
3	８０％くらい	0
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		13

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	13	13
4	ややそう思う	0	0
3	どちらともいえない	0	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		13	13

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	7	13	9	13	13	9	13	13
4	ややそう思う	2	0	4	0	0	3	0	0
3	どちらともいえない	4	0	0	0	0	1	0	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		13	13	13	13	13	13	13	13

科目　　特殊研究（複合領域１）　　授業コード　23205

担当　　中巻　寛子　　教室　　0

回答した学生　　15 名

受講登録者　　21 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	6
4	９０％くらい	6
3	８０％くらい	3
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		15

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	9	10
4	ややそう思う	5	3
3	どちらともいえない	0	1
2	あまりそう思わない	1	1
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		15	15

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	6	10	12	12	10	11	11	10
4	ややそう思う	5	3	2	2	4	4	4	5
3	どちらともいえない	2	1	1	1	0	0	0	0
2	あまりそう思わない	2	1	0	0	1	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		15	15	15	15	15	15	15	15

授業科目	特殊研究（複合領域１）			担当者	中巻寛子		
開講時期	前期	曜日	火	時限	3	アンケート様式	□講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴

〈授業の目的〉G.F.ヘンデル作曲《メサイア》を実践的に研究することによって、その演奏法を身に付ける。

本授業は複数領域の教員と学生が集まって、単独の領域だけでは演奏できない編成の作品を採り上げ、より実践的に研究、演奏するものである。演奏に際して、学生は他領域の教員からも指導を受けることで、自分が専門とする楽器以外のパートに関する知識と、アンサンブルに必要な演奏力を身につけて行く。

本年度は G.F.ヘンデル作曲《メサイア》を研究対象としたが、これは我が国でも演奏される機会の非常に多い作品であり、学生が実社会に出たときの有用性を考慮しての選択である。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

実際に演奏される機会の多い作品とあって、声楽を中心に受講者は多めであった。設問に対しては、多くの学生が授業に意欲的に取り組み、授業で扱われた内容に興味・関心を持ったと回答しており、その点では良かったのではないかと思われる。しかしながら、教員の目から見ると、授業前の準備としての譜読みが不十分であったり、授業中に音の間違いや歌詞の発音の間違いを指摘されても、注意不足から間違ったまま繰り返すといった、大学院の授業とは思えぬような状況もしばしば見られ、学生たちの授業あるいは演奏に対する取り組みに甘さを感じざるを得ない部分も目立った。

（２）授業について

どの設問に対しても、ほぼ高評価であった。例外として、シラバスの有効性についてはやや評価が低いが、これについては、実技科目ということがあって、履修者の人数や専門の楽器が分からないままでは授業計画が立てにくいこと、あるいは履修者の実力に応じた授業をするため、事前にはすべてを決定できないことなどが影響している。シラバスの問題は、実技科目全般の抱える悩みであると言えよう。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

自由記述なし。

（４）自由記述より学生からの要望について

同上。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

声楽の受講者が多かったことは嬉しいことではあったが、独唱曲が多いために１回の授業で指導できる学生の数が限られることが難点であった。この点については、個々の学生のレッスンをして、その問題点を解消するだけではなく、全員に共通するであろう問題へと話題を広げて、毎回の授業が全員にとってより有意義なものとなるような工夫をしたいと思う。また、教員から自分とは専門を異にする学生たちへの指導も、今以上に活発に行うようにしたい。

４その他、意見

２（１）でも述べたが、授業である（本番ではない）との意識からか、学生たちの自己の演奏に対する甘さが今年はやや目立った。今後は、演奏技術のみならず、この経験が演奏家としての将来に直につながって行くのだという自覚を育て、さらに積極的かつ真剣に取り組むように指導して行きたい。

科目　　特殊研究（複合領域３）　　授業コード　23201

担当　　森川　栄子　　教室　　オペラ・合唱室

回答した学生　　15 名

受講登録者　　18 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	1
4	９０％くらい	9
3	８０％くらい	4
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		15

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	11	12
4	ややそう思う	3	2
3	どちらともいえない	0	0
2	あまりそう思わない	1	0
1	まったくそう思わない	0	1
	無回答	0	0
小計		15	15

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

5 授業時間は十分だと感じましたか。

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

8 あなたの現在の力量に合った、適切な指導を受けることができましたか。

9 教室・設備については適切でしたか。

10 この授業はあなたの専門能力の向上に役立ちましたか。

11 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		4	5	6	7	8	9	10	11
5	強くそう思う	7	11	13	14	13	11	13	13
4	ややそう思う	3	3	2	1	1	2	1	1
3	どちらともいえない	5	1	0	0	1	1	0	1
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	0	1	1	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		15	15	15	15	15	15	15	15

授業科目	特殊研究（複合領域３）			担当者		森川　栄子	
開講時期	後期	曜日	水	時限	4	アンケート様式	☐講義 ☒実習

１この授業における教育方法の特徴

歌手とピアニストのための、現代声楽作品の実践的演奏研究。
作曲者の国籍や言語を問わず、20 世紀以降、私たちの同時代までの声楽作品を採り上げる。
歌手とピアニストを組み合わせ、それぞれの声楽領域受講生の声質にふさわしい作品を選定し、声楽およびピアノの３名の教員がアドヴァイスする。他の受講生もそれを全員で聴き学ぶ。

２アンケート結果の所見

（１）受講した学生自身について

ほぼ全ての受講生が、意欲と関心を持って取り組んでいた。

（２）授業について

ほぼ全ての受講生が、この授業をポジティヴに捉え、専門性の向上に役立ったと回答している。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

自由記述はなかった。

（４）自由記述より学生からの要望について

自由記述はなかった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

開講当初は隔年での開講を予定していたが、学生の要望が多くここまで毎年の開講となっている。
今後も毎年の開講を続けていきたい。
これまで採り上げてきたような作品に加え、更にプログレッシヴな作品をも採り上げていきたい。

４その他、意見

科目　　美術科教育法Ｂ　　授業コード　33101

担当　　礒部　洋司　　教室　　奏楽堂第３教室

回答した学生　　22 名

受講登録者　　28 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	4
4	９０％くらい	8
3	８０％くらい	8
2	７０％くらい	2
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		22

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	1	1
4	ややそう思う	7	6
3	どちらともいえない	13	11
2	あまりそう思わない	0	2
1	まったくそう思わない	1	2
	無回答	0	0
小計		22	22

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	0
4	ややそう思う	5
3	どちらともいえない	11
2	あまりそう思わない	3
1	まったくそう思わない	3
	無回答	0
小計		22

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	5
4	延長することが多い	0
3	開始が遅いことが多い	5
2	早く終わることが多い	9
1	よくわからない	3
	無回答	0
小計		22

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	5	3	3	4	2	4	2
4	ややそう思う	6	7	6	4	3	6	4
3	どちらともいえない	7	7	5	9	11	7	9
2	あまりそう思わない	2	1	4	3	3	2	5
1	まったくそう思わない	2	4	4	2	3	3	2
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		22	22	22	22	22	22	22

科目　　音楽科教育法Ｂ　　授業コード　33102

担当　　柴田　篤志　　教室　　新講義棟大講義室

回答した学生　　39 名

受講登録者　　59 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	10
4	９０％くらい	17
3	８０％くらい	9
2	７０％くらい	3
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		39

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	7	9
4	ややそう思う	10	17
3	どちらともいえない	18	7
2	あまりそう思わない	4	4
1	まったくそう思わない	0	2
	無回答	0	0
小計		39	39

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	9
4	ややそう思う	13
3	どちらともいえない	13
2	あまりそう思わない	3
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		39

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	20
4	延長することが多い	6
3	開始が遅いことが多い	12
2	早く終わることが多い	1
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		39

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	15	16	16	20	11	18	11
4	ややそう思う	11	14	11	13	13	14	20
3	どちらともいえない	6	6	9	5	8	4	3
2	あまりそう思わない	4	2	1	1	4	2	3
1	まったくそう思わない	1	1	2	0	3	1	2
	無回答	2	0	0	0	0	0	0
小計		39	39	39	39	39	39	39

科目　　道徳教育指導論（美術）　　授業コード　33103

担当　　松野　修　　教室　　奏楽堂第３教室

回答した学生　　43 名

受講登録者　　49 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	9
4	９０％くらい	19
3	８０％くらい	14
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		43

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	14	19
4	ややそう思う	19	15
3	どちらともいえない	9	8
2	あまりそう思わない	1	1
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		43	43

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	15
4	ややそう思う	7
3	どちらともいえない	18
2	あまりそう思わない	3
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		43

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	26
4	延長することが多い	6
3	開始が遅いことが多い	6
2	早く終わることが多い	5
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		43

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	27	25	28	29	28	15	25
4	ややそう思う	11	11	8	8	6	10	11
3	どちらともいえない	4	5	6	6	7	13	7
2	あまりそう思わない	1	2	1	0	1	2	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	1	3	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		43	43	43	43	43	43	43

授業科目	道徳教育指導論（美術,音楽学部対象）				担当者		松野　修
開講時期	前期	曜日	月	時限	3	アンケート様式	講義

1.　学生アンケートの感想から
最終回の講義で，受講生に「特に印象に残ったら授業を中心に，半年間の感想を書いてください」と依頼した。それらの中からこの講義の狙いを適確に記述している感想を紹介して報告に代える。

●道徳を超えた全ての活動にも適用できます
　わたしにとって最も印象に残った授業は〈お札〉を作った授業でした。最初に先生が「お札を作ろう」と言い出したときは，ばかばかしいとすら思っていました。しかしある種，厳格な手順でお札を作ると，「このお札は本当に効くのではないか」という気持ちが沸き起こってきました。そのお札を財布に入れて持ち歩いていると，そのお願いに関することで，くじけそうになったり，怠けたくなったりした時には，「いや，お札があるから大丈夫。だからそれを実現せさせるために頑張ろう」という思いに不思議になることができます。
　お札をつくる。こんな簡単で遊びみたいなことで，「強い意志を持つ気力」が自然と沸いてくることには本当に驚きました。これを何かお話などで，「強い意志を持ち続けるのは本当に大事なことなんだよ」と教えたとしても，生徒にはあまりピンとこないだろうと思います。いくら言いたいことがあっても，伝え方が工夫されていなければ，思うように伝わらない―――これは道徳の時にかかわらず，音楽，理科，社会，国語の授業にもあてはまることだし，日常の何気ない１シーンにもあてはまることだと思います。
　先生の授業は道徳を超えた全ての活動に適用できます。「道徳」の時間そのものも，そういう性質を持つのだと知ることができました。
（松野註：先日，学内を歩いていらたらある学生に声をかけられた。その学生が言うには，「以前，松野先生の授業で〈お札〉を作りましたよね。ぼくはあのとき〈教員採用試験に余裕で受かる〉って書いたんです。で，おかげで願いが叶いました。ありがとうございました」と）。

●沖縄戦についてちゃんと説明してくれた
　この半年間の講義を通じて一番印象に残ったのは，靖国神社について取りあげたことです。その授業の中で，戦争についての勉強をしました。その際に先生は，「沖縄は，日本で唯一地上戦が起きた場所だ」とおっしゃっていました。わたしは自らが沖縄出身ということもあり，沖縄戦についてのことは幼い頃から色んな方々から聞いていました。そしてそのことについてたくさん勉強しました。しかし，いざ自分が沖縄から出てみると，本土では沖縄戦のことがあまり知られていないことが，この授業を受けて改めてわかりました。
　今は，沖縄でも戦争体験者の数が減り，戦争について多く語れる人が減っているのが現状です。戦争を風化させないためにも，こ授業で沖縄戦についての知識をわずかならでも説明していただけたのが，わたしには嬉しかったです。
　それ以外でも，毎回，新しい発見や「なるほど！」と思うことが多く，とても為になる授業だと思いました。

●改めて道徳を学ぶことができました
　教師になって何が一番大切か，音楽の先生になって音楽を教えることではないと思います。「どの授業でも道徳が基礎の基礎にあって，その次に各教科の授業があるのだ」とこの授業を通して思いました。小，中と道徳の授業があったけど，わたしはいまいち覚えていません。でも大学でこの授業を通して，改めてちゃんと道徳を学べたように思います。半年間，ありがとうございました。（この試験に合格すれば，ですが……）。いい先生になるために頑張ります。

●意見を言いたくない子の気持ちを受け止める
　「道徳の授業では，生徒をあてて意見を聞いてはいけない」という先生の言葉が印象に残っています。自分の思ったことをノートに書いたりするのも嫌だった小学生時代，その頃から道徳の授業は好きになれなくて，「発言なんで絶対いやだ，うしろで影うすく乗り切ろう」とその頃からしていました。でも，この授業でいろんな話しを通じて，道徳をもういちど受けたようで，「自分の中でちゃんと思っていればいいんばだな」と思った。まだ教育実習で教えるのは怖いけど，道徳への意識が変わりました。お札をつくったり，〈見方を変える〉とか，楽しいこともあって，楽しい中で道徳ができるって，すごいなと思いました。

科目　　生徒・進路指導論（美術）　　授業コード　33104

担当　　内藤　春彦　　教室　　デザイン棟講義室１

回答した学生　　38 名

受講登録者　　44 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	15
4	９０％くらい	11
3	８０％くらい	9
2	７０％くらい	2
1	６０％以下	1
	無回答	0
小計		38

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	11	10
4	ややそう思う	10	15
3	どちらともいえない	11	6
2	あまりそう思わない	4	3
1	まったくそう思わない	2	4
	無回答	0	0
小計		38	38

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	12
4	ややそう思う	8
3	どちらともいえない	13
2	あまりそう思わない	4
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		38

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	16
4	延長することが多い	17
3	開始が遅いことが多い	3
2	早く終わることが多い	2
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		38

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	20	16	17	26	10	14	15
4	ややそう思う	6	8	11	7	10	10	11
3	どちらともいえない	7	9	6	4	16	10	8
2	あまりそう思わない	3	3	4	1	2	4	3
1	まったくそう思わない	1	2	0	0	0	0	1
	無回答	1	0	0	0	0	0	0
小計		38	38	38	38	38	38	38

科目　教育原理（美術）　　授業コード　33105

担当　松野　修　　教室　講義棟第６講義室

回答した学生　44 名

受講登録者　46 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	12
4	９０％くらい	21
3	８０％くらい	11
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		44

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	24	26
4	ややそう思う	14	13
3	どちらともいえない	3	2
2	あまりそう思わない	3	1
1	まったくそう思わない	0	2
	無回答	0	0
小計		44	44

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	14
4	ややそう思う	16
3	どちらともいえない	13
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		44

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	36
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	1
2	早く終わることが多い	5
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		44

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	35	32	33	35	24	23	32
4	ややそう思う	5	9	7	6	13	14	8
3	どちらともいえない	2	0	2	2	6	6	2
2	あまりそう思わない	1	2	1	0	1	0	2
1	まったくそう思わない	1	1	1	1	0	1	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		44	44	44	44	44	44	44

授業科目	教育原理（美術学部対象）				担当者	松野　修	
開講時期	前期	曜日	火	時限	5	アンケート様式	講義

1　学生アンケートの結果

講義ではFD委員会で定めた様式とは別に，講義の最後で以下の点について学生からの評価を採っている。

・たの度＝授業は楽しかったですか？　(5) とても楽しかった　(4)楽しかった　(3)どちらでもない　(2)つまらなかった　(1)とてもつまらなかった

・ため度＝授業はためになりましたか　(5) とてもためになった　(4)ためになった　(3)少しはためになった　(2)ためにならない　(1)時間のムダだった

学生による評価は例年同様に高かった。

	2012年		2013年		2016年	
	たの度	たの度	たの度	ため度	たの度	ため度
	実数	実数	実数	実数	実数	実数
5	41	37	37	49	36	30
4	18	12	12	14	7	12
3	3	2	2	2	0	1
2	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0
計	62	53	53	65	43	43

最後の時間に書いてもらった学生の感想を紹介して報告に代える。

●最初に叱られた本当の理由

入学当初の教職の説明会のとき，松野先生が「キミたち，まさか先生になるためにこの大学に来たんじゃないだろうな？！」と，とんでもなく怒っていらして，その時の印象が強すぎて，初めの講義に行くときに，友だちと「あ〜，どんな授業かなぁ。あの時すごかったから，きっと授業も厳しくてだるいぞー」とか言ってました。ですが，教室に入って来た先生は，あの時とは全く違い，とても優しい先生でした。「あれ，全然大丈夫や〜ん」とすごく安心して，さらにあの説明会でのことを先生自ら話しだして，「あの時，とんでもなく怒っていたのは，軽い気持ちで教職を採ろうとしている人に活を入れた」的なことをおっしゃっていて，「うわぁ，なるほど！」と思いました。実際，わたしがそうでした。あの時の説明を聞くまでは，「教職，まあ取っとこーか」って思っていたけれど，あの説明を聞いて本気で悩みました。教職と取るか迷って，取らないでおこうかと最初は思っていたけれど，やっぱり取ることにして，松野先生の講義を受けて，〈先生としてどうあるべきか〉，〈人としてどうあるべきか〉を学ぶことができて本当によかったです。楽しい講義をしてくださり，ありがとうございました。

●先生になる気がないのに，こんな講義を受けていていいのだろうか

半年間の教育原理を受講している中で，ずっとわたしの中に「先生になる気がないのに，こんな講義を受けていていいのだろうか，この授業をうけて楽しんで良いのだろうか」という思いがありました。わたしの両親は美大出身で教員免許を持っていて，父親は今も美術の教員を続けて私たちを養ってくれています。しかしわたしは生まれてこのかた，一度も教師になりたいだとか，とりあえず教師になって食っていく助けをするとかは考えたことがありません。大学に行く，行かせてもらうことの条件として「教員免許をとる」ことがあり，教職の授業を受講しているまでです。自分からとりたくてとっている授業ではないので，最初の方の講義は，はっきり言ってゆううつでしかありませんでした。しかし回を重ねていくと同時に講義をうけることが楽しくなりました。そして同時に最初に述べた思いが沸いてきました。

〈おしゃべりなガリレオ〉を読んで，肩に重くのしかかっていた荷がぽろっと落ちたように感じました。今まで，楽しんでいる自分を否定しつづけていたけれど，そういう自分を肯定することができて，とても嬉しく感じられました。

人と共有することの大切さや，共感できることの尊さを，この講義で学ぶことができてよかったです。

科目　教育原理（音楽）　　授業コード　33106

担当　松野　修　　教室　芸術資料館演習室

回答した学生　71 名

受講登録者　77 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	32
4	９０％くらい	28
3	８０％くらい	10
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		71

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	43	46
4	ややそう思う	16	15
3	どちらともいえない	11	9
2	あまりそう思わない	1	1
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		71	71

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	27
4	ややそう思う	17
3	どちらともいえない	19
2	あまりそう思わない	4
1	まったくそう思わない	4
	無回答	0
小計		71

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	60
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	7
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	2
	無回答	0
小計		71

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	51	48	50	57	47	31	52
4	ややそう思う	10	11	12	7	14	16	10
3	どちらともいえない	9	11	9	7	9	19	9
2	あまりそう思わない	1	1	0	0	1	5	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		71	71	71	71	71	71	71

授業科目	教育原理（音楽学部対象）				担当者	松野　修	
開講時期	前期	曜日	火	時限	4	アンケート様式	講義

1　学生アンケートの結果１　学生アンケートの結果

講義では授業評価アンケートとは別に，講義の最後に以下の点について学生からの評価を採っている。

・たの度＝授業は楽しかったですか？　(5) とても楽しかった　(4)楽しかった　(3)どちらでもない(2)　つまらなかった　(1)とてもつまらなかった

・ため度＝授業はためになりましたか　(5) とてもためになった　(4)ためになった　(3)少しはためになった　(2)ためにならない　(1)時間のムダだった

学生からの評価は例年と同様に高かった。

	2012 年		2013 年		2016 年	
	たの度	たの度	たの度	ため度	たの度	ため度
	実数	実数	実数	実数	実数	実数
5	59	54	54	70	62	56
4	9	20	20	19	9	12
3	0	0	0	2	0	0
2	0	0	0	0	0	0
1	1	0	0	0	0	0
計	69	74	74	91	71	71

最後の時間に書いてもらった学生の感想を紹介して報告に代える。

●初めて言葉にできた

長くやり続けたことは習慣となって体に染みつく。行動はパターン化し，言葉は文章化する。中学生の頃，ある数学の先生の授業を受けて感じたことです。中学校の先生はそれぞれに専門の教科を持っています。３学年あるわけですから，毎年同じ時期に行う授業の内容はパターン化し，特にイレギュラーもなければ，進行度もたいして変わらず，自分のペースができあがっている。

ぼくは心底，この先生が嫌いでした。その先生の前にいるのは，ぼくら生徒ではなく，〈その先生の，今までにできあがったシナリオ〉であるような気がしてなりませんでした。わかりやすい授業だったかもしれません。指導に迷いがないというのはとても良いことでしょう。

しかし，何より大好きな数学の楽しさが，「分かる」，「解ける」という楽しさが，ルーチンをただひたすらにこなす，楽しくなさそうなその先生の授業で台なしにされた感じがして，自分がこれまで感じていた数学の楽しさを否定されている気分になったのです。

実は上の３行は，松野先生の授業を受けて，初めてしっかりと言葉にできました。それまでは，ただただ「習慣化した授業がいけないのだろう」と漠然と考えていただけでした。でも違いました。松野先生の〈しっかりと積み重ねて形になったうえで楽しい〉，この授業を受けて，「いけないのは，楽しさを伝えることを忘れることだ」と気づいたのです。半年間，ありがとうございました。

●やっと覚悟ができました

最後の授業で〈非常識〉について教えてもらい，心が軽くなりました。というのも，この大学はわたしの第二志望校で……。第一志望校に落ちたのではなく，第一志望校に受かる自信がなくて，あきらめて，「この大学なら楽に合格できる」と思い，推薦で合格してしまいました。そのため，ずーっと第一志望校を受けなかったことを後悔してすごしていました。何度も大学を受け直そうと思いましたが，自分の内に「大学を辞めてはならない」，「教職をとらなくてななならない」などと自分で自分が決めた常識にずっと苦しめられてきました。しかし先生の〈非常識の話〉や，〈先生の半生の話〉を授業で聞いて，やっと大学を受け直す覚悟ができました。後半は半年休学して，東京芸大を受けます！　後押ししてくださり，ありがとうございました。（先生はわたしのことを後押ししたつもりは，全くないと思いますが）。東京芸大に受かって，この大学やめます！　自分の生きたいように人生をすごします！　本当にありがとうございました。

科目　　教職入門
（音楽）

授業コード　33101

担当　　不破　民由

教室　　講義棟第６講義室

開講曜日・時間　　火曜日　　4

受講登録者　　73 名

回答した学生　　56 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	21
4	９０％くらい	28
3	８０％くらい	6
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		56

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	23	24
4	ややそう思う	20	23
3	どちらともいえない	10	7
2	あまりそう思わない	3	1
1	まったくそう思わない	0	1
	無回答	0	0
小計		56	56

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	24
4	ややそう思う	18
3	どちらともいえない	9
2	あまりそう思わない	5
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		56

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	44
4	延長することが多い	6
3	開始が遅いことが多い	3
2	早く終わることが多い	3
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		56

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	38	28	34	37	32	35	35
4	ややそう思う	11	14	11	11	14	13	13
3	どちらともいえない	6	9	9	7	8	7	7
2	あまりそう思わない	1	4	1	1	2	1	1
1	まったくそう思わない	0	1	1	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		56	56	56	56	56	56	56

科目　　教職入門
（美術+ピアノ）　　授業コード　33102

担当　　不破　民由

教室　　講義棟第６講義室　　開講曜日・時間　　火曜日　　5

受講登録者　　51 名　　回答した学生　　37 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	17
4	９０％くらい	13
3	８０％くらい	7
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		37

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	12	13
4	ややそう思う	14	14
3	どちらともいえない	10	9
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	1	1
	無回答	0	0
小計		37	37

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	16
4	ややそう思う	10
3	どちらともいえない	10
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		37

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	28
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	4
2	早く終わることが多い	3
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		37

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	18	12	11	15	10	16	13
4	ややそう思う	14	13	13	13	14	14	14
3	どちらともいえない	5	10	12	8	11	6	9
2	あまりそう思わない	0	2	1	1	2	1	1
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		37	37	37	37	37	37	37

科目　　道徳教育指導論（音楽）　　授業コード　33103

担当　　松野　修

教室　　講義棟第６講義室　　開講曜日・時間　　月曜日　　3

受講登録者　　36 名　　回答した学生　　31 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	4
4	９０％くらい	14
3	８０％くらい	9
2	７０％くらい	4
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		31

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	12	16
4	ややそう思う	12	10
3	どちらともいえない	6	5
2	あまりそう思わない	1	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		31	31

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	8
4	ややそう思う	13
3	どちらともいえない	9
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		31

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	17
4	延長することが多い	4
3	開始が遅いことが多い	5
2	早く終わることが多い	5
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		31

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	19	20	21	24	22	18	21
4	ややそう思う	8	8	7	6	7	11	9
3	どちらともいえない	3	3	3	1	1	2	1
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	1	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	1	0	0	0	0	0	0
小計		31	31	31	31	31	31	31

授業科目	道徳教育指導論			担当者	松野　修		
開講時期	後期	曜日	火曜	時限	3限	アンケート様式	☒講義　☐実習

1　この授業における教育方法の特徴

（1）現代日本の道徳教育に関する教育政策上の位置づけ，現代的課題を教育審議会報告などの資料に基づいて解説する。

（2）実際に教育現場で行われている「道徳の時間」の内容を紹介しながら，道徳教育に期待されている理念や，それを実現するための方法，手段について理解させる。

2　アンケート結果の所見

（1）受講した学生自身について

この講義は中学の教員資格取得に必要な単位であること，この講義の習得（試験の合格）が中学校での教育実習にとって必須の条件であることを最初の講義で周知徹底させている。実際，学生にとって教育実習期間中に「道徳の時間」の指導を任されるのは明かなので，受講態度は基本的には悪くない。

しかし音楽学部の学生は多人数で授業を受ける機会が少ないためか，数少ない全員集合の時間になっている（「あらお久しぶり，どうしてた？」とか）。授業中の私語を制するのは難しくないとはいうものの，特にここ2年ほど授業がやりにくく感じる。学生の「質」は，年によって変動する。だから理由は不明であるということにしておく。

（2）授業について

「これは今度の試験の問題に出す」，「教育実習では，こういうことが期待される」という言葉には非常に敏感に反応する。しかし，そういった些細でテクニカルな次元を超え，今日求められている道徳教育にはどういう社会的な背景があるのかなどといった，基本的な話については，「自分たちとは関係がない」と言う反応を示す学生が，どういうわけだか増えてきたように感じる。

毎回，授業が終わったあと，全員に感想を書いてもらっている。これまでは授業中に私語が多かった学生ても，しっかりとした，つかり毎回授業で扱った内容について自分の経験や価値観を基礎にして論理的に論述できている学生が半数以上いたのだが，そういう学生が徐々に少なくなってきている。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

〈1〉でも述べたように，実際に教育現場で行われている，優れた「道徳の時間」の内容を紹介している。だから受講する学生から「たのしかった」，「驚いた」，「初めて知ることが多かった」という感想が出るのは当然のことだと思っている。

（4）自由記述より学生からの要望について

自由記述がないのでコメントは控える。

3　今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

学生からの評価は全体的に悪くないのだから，今後もこれまでと同じ授業をするほかない。

4　その他、意見

「学生の側に余裕がなくなってきているのではないか？」とか，「学生の側に，社会的な事象についての基礎的な関心が希薄になっているのでは？」という気がしてならない。この点については，本学の教育教育のありかたについて議論しているところである。

科目　　生徒・進路指導論（音楽）　　授業コード　33104

担当　　内藤　春彦

教室　　講義棟第１講義室　　開講曜日・時間　　月曜日　　5

受講登録者　　82 名　　回答した学生　　68 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	19
4	９０％くらい	26
3	８０％くらい	20
2	７０％くらい	3
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		68

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	17	20
4	ややそう思う	24	22
3	どちらともいえない	22	19
2	あまりそう思わない	2	5
1	まったくそう思わない	3	2
	無回答	0	0
小計		68	68

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	21
4	ややそう思う	16
3	どちらともいえない	22
2	あまりそう思わない	5
1	まったくそう思わない	4
	無回答	0
小計		68

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	51
4	延長することが多い	8
3	開始が遅いことが多い	8
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		68

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	32	22	25	34	24	32	24
4	ややそう思う	19	21	22	17	13	20	20
3	どちらともいえない	13	18	15	15	24	15	21
2	あまりそう思わない	2	5	4	1	5	0	1
1	まったくそう思わない	1	2	2	1	2	1	2
	無回答	1	0	0	0	0	0	0
小計		68	68	68	68	68	68	68

科目　　教育心理学
（美術）

授業コード　33105

担当　　三宮　敦生

教室　　講義棟第１講義室

開講曜日・時間　　水曜日　　4

受講登録者　　53 名

回答した学生　　45 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	3
4	９０％くらい	27
3	８０％くらい	12
2	７０％くらい	3
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		45

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	13	20
4	ややそう思う	21	21
3	どちらともいえない	10	4
2	あまりそう思わない	1	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		45	45

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	20
4	ややそう思う	13
3	どちらともいえない	11
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		45

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	34
4	延長することが多い	8
3	開始が遅いことが多い	3
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		45

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	29	28	32	32	16	20	28
4	ややそう思う	13	11	8	8	18	14	11
3	どちらともいえない	3	6	5	5	9	11	6
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	1	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	1	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		45	45	45	45	45	45	45

科目　　教育心理学（音楽）　　授業コード　33106

担当　　三宮　敦生

教室　　講義棟第１講義室　　開講曜日・時間　　火曜日　　3

受講登録者　　88 名　　回答した学生　　73 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	23
4	９０％くらい	33
3	８０％くらい	16
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		73

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	39	48
4	ややそう思う	19	14
3	どちらともいえない	13	9
2	あまりそう思わない	1	1
1	まったくそう思わない	1	1
	無回答	0	0
小計		73	73

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	37
4	ややそう思う	21
3	どちらともいえない	13
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		73

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	64
4	延長することが多い	3
3	開始が遅いことが多い	6
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		73

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	54	53	54	56	44	48	53
4	ややそう思う	11	10	11	5	11	12	8
3	どちらともいえない	8	9	8	12	15	12	12
2	あまりそう思わない	0	1	0	0	3	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	1	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		73	73	73	73	73	73	73

●受講した学生についての質問（１～３）

授業科目	教育心理学				担当者	三宮敦生	
開講時期	通年	曜日	火・水	時限	3・4	アンケート様式	☒講義 □実技・実習

１この授業における教育方法の特徴

本授業の目標は、教育心理学の基礎である学習と発達を理解し、教育現場への応用について学ぶことである。到達目標は以下の 3 点である。 1）学習分野については、記憶・学習・動機づけについて詳細に説明できる。 2）発達分野については、発達の研究法、知能と人格の発達理論について説明できる。 3）教員採用試験レベルの問題が解けるようになる。

授業形態は、オーソドックスな講義形式である。教育心理学の代表的な理論を中心に、日常的な例を多用しながら理解させることに主眼を置いている。

２アンケート結果の所見(回答者 118 名：これは音楽学部と美術学部を合わせた数値である)

（１）受講した学生自身について

・出席率 80%以上の学生は 97%であった。何人かの学生から、この授業は欠席するとわからなくなるからできるだけ出席するようにしていると聞いた。本年度の学生も熱心な受講態度であったと思われる。
・「あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか」に対して、「強くそう思う」が 44%、「ややそう思う」が 34%であった。意欲的な学生が十分多かったと思われる。
・「この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか」に対して、「強くそう思う」が 58%、「ややそう思う」が 30%であった。受講者の 88%が興味・関心の高まりを示した。

（２）授業について

・「シラバスは授業の選択に役立ちましたか」に対して、「強くそう思う」が 48%、「ややそう思う」が 29%、「どちらともいえない」が 20%であった。教育心理学は教職必修の授業なので学生は必ずしもシラバスを見て選択しているわけではないと思われる。
・「授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか」に対して、「ほぼ時間どおり」が 83%であった。
・「教員の話し方、話すスピードは適切でしたか」に対して、「強くそう思う」が 70%、「ややそう思う」が 20%であった。話し方についての評価は高かったように思われる。
・「板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか」に対して、「強くそう思う」が 69%、「ややそう思う」が 18%であった。黒板の狭さは気になるところだが、まずまずの評価だったと思われる。
・「教員の説明の仕方はわかりやすかったですか」に対して、「強くそう思う」が 73%、「ややそう思う」が 16%であった。この結果から、まずはわかりやすい授業といえるのではないだろうか。
・「教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか」に対して、「強くそう思う」が 75%、「ややそう思う」が 11%であった。受講者に対し教員の熱意は十分に伝わっていたものと思われる。
・「教員とコミュニケーションはとれていましたか」に対して、「強くそう思う」が 51%、「ややそう思う」が 25%、「どちらともいえない」が 20%であった。大人数の講義形式の授業としてはこの程度の数字が限界である。授業の冒頭に前週のコメントペーパーに対してレスポンスをしているが、継続していきたい。
・「教室・設備については適切でしたか」に対して、「強くそう思う」が 58%、「ややそう思う」が 22%、「どちらともいえない」が 19%であった。
・「授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか」に対して、「強くそう思う」が 69%、「ややそう思う」が 16%であった。「強くそう思う」が 50%を超したことには満足している。

（３）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

・例え話を多用した具体的な説明が分かりやすかったという声が多かった。
・内容が興味深いという声も多かった。

（４）自由記述より学生からの要望について

・遅刻して入ってくる人が多いのでもっと厳しくしてもいいと思うという意見があった。

３今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

・授業内容は、教科書にほぼ沿って進めるので、ほぼ完成されている。後はどれだけ、新鮮なトピックを加えることができるかである。今年度は最後の方で体調を崩したことが大きな反省点である。
・前半の記憶と学習のところに、最新の学習科学の話題を盛り込んでいきたい。

４その他、意見

・特になし

科目　　音楽科教育法A　　授業コード　33109

担当　　柴田　篤志

教室　　新講義棟大講義室　　開講曜日・時間　　月曜日　　5

受講登録者　　76 名　　回答した学生　　47 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	16
4	９０％くらい	27
3	８０％くらい	4
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		47

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	22	18
4	ややそう思う	16	19
3	どちらともいえない	9	8
2	あまりそう思わない	0	1
1	まったくそう思わない	0	1
	無回答	0	0
小計		47	47

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	16
4	ややそう思う	12
3	どちらともいえない	14
2	あまりそう思わない	2
1	まったくそう思わない	3
	無回答	0
小計		47

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	31
4	延長することが多い	10
3	開始が遅いことが多い	3
2	早く終わることが多い	2
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		47

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	18	16	20	27	14	19	19
4	ややそう思う	21	21	17	14	18	22	18
3	どちらともいえない	7	7	7	4	11	6	7
2	あまりそう思わない	1	1	0	0	2	0	1
1	まったくそう思わない	0	2	3	2	2	0	2
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		47	47	47	47	47	47	47

科目　　音楽科教育法A　　授業コード　33109

担当　　柴田　篤志

教室　　新講義棟大講義室　　開講曜日・時間　　月曜日　　5

受講登録者　　76 名　　回答した学生　　47 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	16
4	９０％くらい	27
3	８０％くらい	4
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		47

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	22	18
4	ややそう思う	16	19
3	どちらともいえない	9	8
2	あまりそう思わない	0	1
1	まったくそう思わない	0	1
	無回答	0	0
小計		47	47

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	16
4	ややそう思う	12
3	どちらともいえない	14
2	あまりそう思わない	2
1	まったくそう思わない	3
	無回答	0
小計		47

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	31
4	延長することが多い	10
3	開始が遅いことが多い	3
2	早く終わることが多い	2
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		47

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	18	16	20	27	14	19	19
4	ややそう思う	21	21	17	14	18	22	18
3	どちらともいえない	7	7	7	4	11	6	7
2	あまりそう思わない	1	1	0	0	2	0	1
1	まったくそう思わない	0	2	3	2	2	0	2
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		47	47	47	47	47	47	47

科目　　博物館概論　　授業コード　33107

担当　　木本　文平　　教室　　管理棟大会議室

回答した学生　　37 名

受講登録者　　38 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	25
4	９０％くらい	10
3	８０％くらい	0
2	７０％くらい	2
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		37

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	8	11
4	ややそう思う	14	17
3	どちらともいえない	9	7
2	あまりそう思わない	5	1
1	まったくそう思わない	1	1
	無回答	0	0
小計		37	37

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	6
4	ややそう思う	13
3	どちらともいえない	13
2	あまりそう思わない	3
1	まったくそう思わない	2
	無回答	0
小計		37

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	33
4	延長することが多い	3
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	1
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		37

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	15	11	14	23	11	12	13
4	ややそう思う	15	13	10	11	13	16	18
3	どちらともいえない	4	11	11	1	10	8	5
2	あまりそう思わない	3	1	2	2	3	0	1
1	まったくそう思わない	0	1	0	0	0	1	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		37	37	37	37	37	37	37

科目　博物館展示論（隔週）　授業コード　33108

担当　北谷　正雄　教室　芸術資料館演習室

回答した学生　42 名

受講登録者　51 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	27
4	９０％くらい	13
3	８０％くらい	1
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		42

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	10	19
4	ややそう思う	18	14
3	どちらともいえない	12	9
2	あまりそう思わない	2	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		42	42

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	14
4	ややそう思う	10
3	どちらともいえない	16
2	あまりそう思わない	2
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		42

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	18
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	6
2	早く終わることが多い	11
1	よくわからない	5
	無回答	0
小計		42

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	26	23	22	21	12	15	19
4	ややそう思う	12	12	12	13	11	11	16
3	どちらともいえない	3	4	7	8	15	10	7
2	あまりそう思わない	1	3	1	0	3	5	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	1	1	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		42	42	42	42	42	42	42

科目　博物館教育論　授業コード　33109

担当　藤江　充　教室　芸術学修士棟

回答した学生　15 名

受講登録者　20 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	3
4	９０％くらい	9
3	８０％くらい	3
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		15

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	7	11
4	ややそう思う	7	4
3	どちらともいえない	1	0
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		15	15

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	9
4	ややそう思う	5
3	どちらともいえない	1
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		15

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	12
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	1
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		15

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	12	9	10	11	8	8	11
4	ややそう思う	3	4	3	3	6	4	4
3	どちらともいえない	0	2	2	1	0	2	0
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	1	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	1	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		15	15	15	15	15	15	15

科目　　考古学　　授業コード　33110

担当　　長田　友也　　教室　　芸術学修士棟

回答した学生　　20 名

受講登録者　　43 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	6
4	９０％くらい	7
3	８０％くらい	6
2	７０％くらい	1
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		20

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	2	3
4	ややそう思う	11	14
3	どちらともいえない	6	3
2	あまりそう思わない	1	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		20	20

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	2
4	ややそう思う	6
3	どちらともいえない	8
2	あまりそう思わない	3
1	まったくそう思わない	1
	無回答	0
小計		20

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	18
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		20

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	9	10	8	13	2	5	6
4	ややそう思う	8	9	10	5	7	9	12
3	どちらともいえない	3	1	2	2	8	6	2
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	3	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		20	20	20	20	20	20	20

科目　　生涯学習概論　　授業コード　34101

担当　　松野　修

教室　　講義棟第５講義室　　開講曜日・時間　　月曜日　　3

受講登録者　　43 名　　回答した学生　　36 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	15
4	９０％くらい	10
3	８０％くらい	7
2	７０％くらい	4
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		36

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	10	14
4	ややそう思う	17	14
3	どちらともいえない	4	6
2	あまりそう思わない	3	1
1	まったくそう思わない	2	1
	無回答	0	0
小計		36	36

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	12
4	ややそう思う	8
3	どちらともいえない	13
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	2
	無回答	0
小計		36

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	23
4	延長することが多い	3
3	開始が遅いことが多い	3
2	早く終わることが多い	6
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		36

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	21	19	18	23	19	18	20
4	ややそう思う	12	14	13	11	11	9	9
3	どちらともいえない	2	3	4	2	5	8	5
2	あまりそう思わない	0	0	1	0	0	0	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	1	1	2
	無回答	1	0	0	0	0	0	0
小計		36	36	36	36	36	36	36

授業科目	生涯学習概論			担当者	松野　修		
開講時期	後期	曜日	月曜	時限	3限	アンケート様式	☒講義　☐実習

1　この授業における教育方法の特徴

（1）現代日本の生涯学習に関する教育政策上の位置づけ，財政規模，現代的課題を教育審議会報告などの資料に基づいて解説する。

（2）生涯学習の歴史とその理念，生涯学習と学校教育の関係について理解を深めさせるために，1600年代から1700年代にかけての科学研究をとりあげ，当時の人びとにとっての〈生涯学習の魅力〉を自ら体験させる。

2　アンケート結果の所見

（1）受講した学生自身について

昨年度までは，この講義の履修者は10人前後であって，毎週，ゼミのような親密な雰囲気の中で議論したり，実験をしたりすることができた。ところが今年は40人近くの学生が履修していて，これまでと雰囲気が一変してしまった。教室に全員が座るのが精一杯で，ちょっとした実演や実験をやろうとしても，余裕がない。学生はたいへんまじめで，事柄の背景となる体験や知識がなければ，理解がしづらいだろうと思われる項目についてもまじめにとりくんでいた。

（2）授業について

受講する学生の数がある数を超えると，教員と学生の相互で〈あるべき授業のありかた〉について共有するイメージが一変する。この授業は本来は，生涯学習の歴史とその理念を教育史を通して学ぶ機会である。ところが，履修者が急激に増えたことによって，この授業は学芸員資格を取得するための博物館課程の一環であって，資格試験に合格するための受験講座でなくてはならないなどという，（おかしな）期待が教室を支配していたように感じた。

（3）自由記述より学生が特によかったと判断しているところについて

〈1〉でも述べたように，〈学校教育が支配的になる以前の時代の人びとにとっての生涯学習の魅力を自ら体験させる〉ということを授業で取りあげているので，受講する学生から「たのしかった」，「驚いた」，「初めて知ることが多かった」という感想が出るのは当然のことだと思っている。ていうか，そういう感想が出てこなければ，そもそも「生涯学習」という事実は成立しえないのでは。

（4）自由記述より学生からの要望について

学生の個々の感想を重ね合わせていくと，問題は授業の中で（1）現代日本の生涯学習に関する教育政策上の位置づけと（2）生涯学習の歴史とその理念についての解説がうまく噛み合っていない点にある。この「問題」は，授業の改善・工夫によって克服すべきだ，とつい最近まで考えていたが，実はそうではないのかもしれない。現代日本の生涯学習に関する教育政策は，生涯学習の長い歴史を通じて培われてきた理念を正しく反映しているのか――という次元にまでたちかえって考えなおすべきだろう。

3　今後の授業の工夫・改善（ＦＤ）

今後，受講者数を制限しないでいくなら，余裕がスペースのある教室に変更し，学生同士でのコミュニケーションがとれる作業の時間増やす必要がある。

4　その他、意見

今後も博物館課程の履修者が今増え続けるのであれば，この授業に限らず，博物館課程全体の充実を保証するための措置が，全学的な同意のもとで整備されるべきと考える。一部の専攻や教員にだけ負担が集中するのでは，質の向上につながらない。

科目　　博物館経営論　　授業コード　34102

担当　　木本　文平

教室　　講義棟第４講義室　　開講曜日・時間　　水曜日　　3

受講登録者　　19 名　　回答した学生　　16 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	5
4	９０％くらい	9
3	８０％くらい	2
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		16

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	3	6
4	ややそう思う	9	6
3	どちらともいえない	4	4
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		16	16

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	5
4	ややそう思う	6
3	どちらともいえない	5
2	あまりそう思わない	0
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		16

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	11
4	延長することが多い	2
3	開始が遅いことが多い	3
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		16

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	6	9	4	8	5	3	6
4	ややそう思う	7	4	7	4	5	4	5
3	どちらともいえない	2	2	3	4	6	8	5
2	あまりそう思わない	1	1	1	0	0	1	0
1	まったくそう思わない	0	0	1	0	0	0	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		16	16	16	16	16	16	16

科目　博物館資料論（隔週）　授業コード　34103

担当　井上　瞳

教室　講義棟第１講義室　開講曜日・時間　木曜日　3、4

受講登録者　21 名　回答した学生　18 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	8
4	９０％くらい	9
3	８０％くらい	1
2	７０％くらい	0
1	６０％以下	0
	無回答	0
小計		18

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	5	7
4	ややそう思う	8	8
3	どちらともいえない	5	3
2	あまりそう思わない	0	0
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		18	18

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	5
4	ややそう思う	7
3	どちらともいえない	5
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		18

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	16
4	延長することが多い	1
3	開始が遅いことが多い	1
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	0
	無回答	0
小計		18

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	12	6	9	13	6	7	11
4	ややそう思う	2	6	7	3	4	5	5
3	どちらともいえない	4	4	1	2	8	4	2
2	あまりそう思わない	0	1	1	0	0	1	0
1	まったくそう思わない	0	1	0	0	0	1	0
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		18	18	18	18	18	18	18

科目　博物館情報・メディア論（隔週）　授業コード　34104

担当　西崎　紀衣

教室　講義棟第６講義室　開講曜日・時間　金曜日　4、5

受講登録者　36 名　回答した学生　25 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	14
4	９０％くらい	5
3	８０％くらい	2
2	７０％くらい	3
1	６０％以下	1
	無回答	0
小計		25

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	4	6
4	ややそう思う	10	9
3	どちらともいえない	8	8
2	あまりそう思わない	3	2
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		25	25

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	3
4	ややそう思う	8
3	どちらともいえない	13
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		25

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	19
4	延長することが多い	3
3	開始が遅いことが多い	2
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		25

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	10	10	9	14	2	6	5
4	ややそう思う	7	9	9	9	6	10	13
3	どちらともいえない	8	6	6	2	11	8	6
2	あまりそう思わない	0	0	0	0	6	1	0
1	まったくそう思わない	0	0	1	0	0	0	1
	無回答	0	0	0	0	0	0	0
小計		25	25	25	25	25	25	25

科目　博物館資料保存論（隔週）　授業コード　34105

担当　高嶋　美穂

教室　0　開講曜日・時間　金曜日　3.4

受講登録者　39 名　回答した学生　34 名

● 受講した学生についての質問

1 あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

設問		1
5	１００％	16
4	９０％くらい	12
3	８０％くらい	3
2	７０％くらい	2
1	６０％以下	1
	無回答	0
小計		34

2 あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

3 この授業を受けた後で、授業で扱われた内容への興味・関心が高まりましたか。

設問		2	3
5	強くそう思う	8	17
4	ややそう思う	17	14
3	どちらともいえない	7	2
2	あまりそう思わない	2	1
1	まったくそう思わない	0	0
	無回答	0	0
小計		34	34

● 授業についての質問

4 「シラバス」は授業の選択に役立ちましたか。

設問		4
5	強くそう思う	7
4	ややそう思う	15
3	どちらともいえない	11
2	あまりそう思わない	1
1	まったくそう思わない	0
	無回答	0
小計		34

5 授業の開始時間や終了時間は正しく守られていましたか。

設問		5
5	ほぼ時間どおり	28
4	延長することが多い	5
3	開始が遅いことが多い	0
2	早く終わることが多い	0
1	よくわからない	1
	無回答	0
小計		34

6 教員の話し方、話すスピードは適切でしたか。

7 板書やプリント、提示された資料等は見やすかったですか。

8 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。

9 教員は授業をよく準備し、熱心に教えていると感じられましたか。

10 教員とコミュニケーションはとれていましたか。

11 教室・設備については適切でしたか。

12 授業全般について総合的に評価するとよい授業だと思いますか。

設問		6	7	8	9	10	11	12
5	強くそう思う	13	21	20	24	5	12	17
4	ややそう思う	13	11	8	9	11	10	14
3	どちらともいえない	4	2	6	1	16	8	3
2	あまりそう思わない	3	0	0	0	2	2	0
1	まったくそう思わない	0	0	0	0	0	2	0
	無回答	1	0	0	0	0	0	0
小計		34	34	34	34	34	34	34

平成 28 年度授業評価アンケート施設関係

【体育館】

『身体運動演習ＩＡ』木・5 限　体育館
・エアコンやウォータークーラー、または扇風機などをつけてほしい。風の出入り口が少ないので夏場は熱中症が出る可能性があり危険。（15 人）

『身体運動演習ＩＡ』火・5 限　体育館
・体育館が暑すぎる。（9 人）
・時計が壊れて止まっているのを直してほしい。

『身体運動ＩＡ』木・4 限　体育館
・暑い（6 人）
・クーラーか扇風機を設置してほしい（6 人）

『身体運動演習ＩＡ』木・3 限　体育館
・体育館が暑い（3 人）
・クーラーがほしい

『基本体育 A』火・3 限　体育館
・暑い（2 人）

『基本体育 A』火・4 限　体育館
・更衣室や体育館の床がとても汚い。寝転がったりするのに抵抗がある。
・体育館が狭い。天井が低い。
・扇風機が欲しい。
・暑すぎる。

【図書館】

『イタリア語初級ＩＡ』　月・３限　図書館視覚室
・机がそろっていない

『言語学A/異文化コミュニケーションA』月・5 限　図書館視覚室
・やや画面が見づらい席がある。

・暑い

【管理棟】

『博物館概論』　月・5 限　管理棟大会議室
・冷房が効きすぎている
・エアコンのフィルター掃除を行ってほしい
【芸術資料館】

『ドイツ語初級ⅡＡ』水・3 限　芸術資料館演習室
・空調をつけてほしい
・空調つけるためにわざわざ電話するのはめんどくさい。

『西洋の古典文芸』火・5 限　芸術資料館演習室
・床が汚いのできれいにしてほしい。
・冷房が効きすぎていて寒いことが多かったので改善してほしい。

『数学Ａ』月・５限　芸術資料館演習室
・荷物を置く場所がない。

『英語中級ＩＡ』月・3 限　芸術資料館演習室
・クーラーが寒い

『西洋演劇論』水・4 限　芸術資料館演習室
・冷房がきつすぎる（２人）
・ホワイトボードが見づらい

『デザイン・工芸論Ａ』金・3 限　芸術資料館演習室
・ジメジメしていて不快。
・飲食禁止はつらい。のどが渇く

『博物館展示論』金・4 限　芸術資料館演習室
・演習室の空調が寒すぎる
・床が汚いので掃除してほしいです

『教育原理』火・4 限　芸術資料館演習室
・部屋全体が不潔
・空調をつけてほしい
・エアコンをつけるのにわざわざ電話するのが手間

『ドイツ語初級ＩＡ』　月・4 限　芸術資料館演習室
・ホワイトボードのインクが薄い

『ドイツ語初級ＩＡ』　芸術資料館演習室
・冷房が強すぎる
・虫が多い。
・マイクを設置してほしい

『ドイツ語上級ＩA』火・3 限　芸術資料館演習室
・エアコンがききすぎる
・ホワイトボードが見づらい

『日本美術史特講Ｉ』水・3 限　芸術資料館研究室
・スリッパの数が足りない

【講義棟】

『基礎生物学A』月・３限　コンピューター室
・教室からコンピューターの画面が見にくい。

『心理学A』水・5 限　講義棟第６講義室
・冷房が寒い（4 人）
・はじめの方の授業で工事の音がうるさかった。

『外国文学A』木・4 限　講義棟第６講義室
・プロジェクターで映像を見るために電気を切るとエアコンも一緒に止まるのをなんとかしてほしい
・最初の頃何回か映像機械の不備がありました。
・エアコンがつかない。途中で切れる。
・冷房が効きすぎて寒い

・クーラーをつける時期を早めてください。
・いつもクーラーをつけてほしい。少し暑い。

『日本史Ａ』木・4 限　講義棟第６講義室
・エアコンの調子が悪い（2 人）

『日本演劇論』金・5 限　講義棟第６講義室
・部屋が暑い。冷房を効くようにしてほしい。
・テレビを大きくしてほしい。大きいスクリーンを設置してほしい。（2 人）

『英語中級ＩＡ』　月・4 限　講義棟第６講義室
・部屋が汚い
・一番前の席にいると冷房が寒い

【新講義棟大講義室】
『日本美術史概説Ａ』火・4 限　新講義棟大講義室
・冷房が効きすぎて寒い。（4 人）
・床が汚いので掃除してほしい。

『英語中級ⅡＡ』　水・3 限　新講義棟大講義室
・教室をきれいにしてほしい
・冷房が効きすぎて寒い

『西洋音楽史概説Ａ』火・3 限　新講義棟大講義室
・荷物を置く場所がない
・冷房が少し寒い

『日本国憲法（美術)』木・3 限　新講義棟大講義室
・冷房がやや効きすぎ

『現代アート概説Ａ』木・5 限　新講義棟大講義室
・冷房が効きすぎて寒い
教室が汚い

『音楽科教育法Ｂ』　月・4 限　新講義棟大講義室
・クーラーが直接当たると寒い。

【音楽研究科修士棟】

『イタリア語初級ⅡＡ』水・3限　中リハーサル室
・湿気が多い。
・たまにプロジェクターの角度が微妙に傾いているときがあり、非常に気にしてしまう。

『イタリア語初級ⅡＡ』水・2限　中リハーサル室
・机、いすの数が足りない
・ホワイトボードが小さい。反射して見づらい。

『イタリア語初級ＩＡ』月・３限　中リハーサル室
・荷物を置く場所がない。棚があると助かる。

【奏楽堂】

『フランス語初級ⅡＡ』水・2限　奏楽堂第３教室
・教室が汚い

『フランス語初級ⅡＡ』水・３限　奏楽堂第３教室
・エアコンが直にあたるので変えてほしい。具合が悪くなってしまう。

『フランス語初級ＩＡ』月・４限　奏楽堂第１教室
・空調の調子が悪い日がある。
・椅子に簡易机がついているタイプの椅子が使いづらい。

『日本文学』　月・5限　奏楽堂第１教室
・湿気がすごいので早くクーラーをつけてほしい。

【合奏棟】

『英語初級ＩＡ』月・4限　合奏棟第２教室
・機材の不具合があった。

『英語中級ⅡＡ』水・4限　合奏棟第１教室
・少し寒かった

『英語上級ＩＡ』　月・5限　合奏棟第２教室
・冷房がつくまでが暑い

【デザイン棟】
『生徒・進路指導論（美術)』月・5限　デザイン棟講義室１
・クーラーをちゃんとつけてほしい。
・教室がいるも変なにおいがして不快だった。

『デザイン特講Ａ』水・3限　デザイン棟講義室１
・部屋が暑い

【芸術学修士棟】

『英語初級ＩＡ』月・4限　芸術学修士棟
・冷房が弱く、暑い。

『芸術学基礎実技ⅡA』　プロジェクト研究室（アトリエ）
・エアコンの水漏れ（２人）
・プレハブの温度管理をちゃんとできるようにしてほしい。

『重唱』金・３限４限
・音響が悪い

『彫刻実技Ⅱ』
・彫刻棟のウォータークーラーが汚い
・クレーンを作ってください。

『油画実技Ｉ』
・虫がアトリエに入ってくる。

『油画実技Ⅱ』
・アトリエに机と椅子が欲しい。
・制作スペースがもう少し欲しい。

『油画実技Ⅲ』
・アトリエの壁が落ちてくる。
・雨がしみてきて、室内なのに濡れる。
『油画実技Ⅳ』
・アトリエスペースがもっと広く欲しい。
・夕方以降も冷房を使えるようにしてほしい。
・夏休みもアトリエのエアコンが付けられるようにしてほしい。
・アトリエに虫がよく出る。

第３章　新任教員研修

新　任　教　員　説　明　会

日時　平成２８年４月１日（金）
１６時～
場所　管理棟大会議室

１　ハラスメントについて

２　教員の自己点検・自己評価について

３　ユニパについて

４　図書館利用について